

Annual Report of
Center for Integrated Research and Education of
Natural Hazards, Shizuoka University

2022

No. 7

第 7 号

防災総合
センター
年報

静岡大学防災総合センター

防災総合センター年報

第7号

Annual Report of
Center for Integrated Research and Education of
Natural Hazards, Shizuoka University

No. 7, September 2022

2022年9月

静岡大学防災総合センター

巻 頭 言

本「年報」第7号は、2020(令和2)年4月から2022(令和4)年3月の2年間における防災総合センターの教育研究活動の成果等についてまとめたものです。

主な内容は、当センターに所属する本学教員及び客員教員の教育活動、研究成果・業績及び社会的活動等のほか、自治体と連携したプロジェクト事業や防災関連行事などとなっております。

今やウィズコロナが定常化しておりますが、2020(令和2)年度初めから、世界は新型コロナウイルス感染症のパンデミックに襲われ、大学における教育研究活動も、大きな制約の中で行わざるを得ない状況が続きました。

当センターの諸活動においても、社会人を対象とした防災実務者養成講座(ふじのくに防災フェロー養成講座)や行政職員防災講座をオンライン形式としたほか、毎年本学教員と客員教員の議論、情報交換の場となっていた研究会も開催中止を余儀なくされました。また、行動制限により、調査・研究のための出張もままならず、研究活動にも大きな制約が伴いました。

このような状況下においても、試行錯誤しながら教育研究や社会的活動に取り組み、その成果や実績を本年報にまとめることができたことは、当センターの基本的な役割を果たすことができたものと安堵しております。

本年報をご一読いただき、今後の当センターの教育研究活動について、忌憚のないご意見・ご提案をお寄せいただければ幸いです。

他方、この2年間で自然災害の視点で顧みますと、2021(令和3)年3月に東日本大震災から10年の節目を迎えたほか、残念ながら、2020(令和2)年7月の熊本県などでの大雨をはじめ、集中豪雨や地震など、大きな災害に見舞われました。

特に、静岡県においては、2021(令和3)年7月3日に発生した熱海市伊豆山地区の大規模な土砂災害により、死者27名、行方不明1名の人的被害や住家被害をもたらしました。私を含め、当センター専任・副担当教員及び客員教員は、それぞれの専門分野の立場で現地調査・考察を行い、テレビ等でのコメントや関係機関に情報提供してまいりました。また、被災者支援として、「災害後のこころのケアハンドブック(当センター教員等作成)」を熱海市に届けました。

当センターは、防災教育・防災科学研究を総合的に展開するとともに、地域と連携して地域の防災体制の向上に資することを目的としております。今後も、防災関係各機関との連携を図り、教育研究活動を一層推進し、「地域志向大学」として、地域社会への貢献を目指します。

皆様にはさらなるご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

最後に、2022年8月に当センター副担当教員の古橋裕子教授がご逝去されました。心から哀悼の意を表します。

目 次

巻頭言

1 センターの概要	1
1.1 設立趣旨と沿革	1
1.2 組織及びメンバー	2
2 研究成果	6
2.1 個人研究成果	6
-専任教員・副担当教員・特任教員-	7
-客員教員-	29
2.2 研究業績リスト	59
2.2.1 著書	59
2.2.2 学術論文	61
2.2.3 学会口頭発表	81
2.2.4 その他の著作物	103
2.2.5 受賞	111
2.2.6 特許等	112
3 学内教育活動	113
3.1 新入生セミナー	113
3.2 全学教育科目「地震防災」	114
3.3 全学教育科目「地域社会と災害」	115
3.4 全学教育科目「地球科学」	116
3.5 全学教育科目「社会資本マネジメント論」	117
3.6 全学教育科目「公共施設デザイン論」	118
3.7 全学教育科目「リスクコミュニケーション」	119
3.8 大学院総合科学技術研究科共通科目「津波工学特論」	120
3.9 大学院総合科学技術研究科共通科目「災害情報学特論」	121
3.10 静岡大学防災マイスター称号制度(静岡キャンパス)	122
3.11 静岡大学防災マイスター称号制度(浜松キャンパス)	125
4 プロジェクト・関連行事	127
4.1 「ふじのくに防災フェロー養成事業」	127
4.1.1 事業の概要	127

4.1.2	シンポジウム	132
4.1.3	受講生の活動報告	134
4.1.4	受講生の研究成果・社会的活動	144
4.2	静岡県行政職員防災講座	151
4.2.1	静岡県行政職員防災講座	151
4.2.2	フォローアップ研修	153
4.3	自然災害科学中部地区研究集会	154
4.4	しずおか防災コンソーシアム・ふじのくに防災学講座	155
4.5	しずおか防災コンソーシアム・勉強会	157
4.6	東海圏減災研究コンソーシアム	158
4.7	防災・減災ワークショップ	159
5	社会的活動	160
5.1	外部・公開講演会等	160
5.2	マスメディア・新聞等への掲載	183
5.3	公的な委員会等	220
5.4	学会活動	227

1 センターの概要

1.1 設立趣旨と沿革

静岡大学防災総合センターは、全学組織のひとつとして2008年7月に設置され、学内共同教育研究施設のひとつとして位置づけられている。防災総合センター設置の目的は、静岡大学における防災教育及び防災科学研究を総合的に展開するとともに、地域と連携して地域の防災体制の向上に資することである。

東海地震の発生可能性が指摘されて以来、静岡大学は防災体制構築への先進的な取り組みを続けてきた。1980年代に大学内の建物の耐震診断をおこなって耐震工事を実施するとともに、全学防災対策委員会の下に地震対策検討部会を設置し、地震発生時の詳細な対応策を決定した。

さらに、防災教育の充実を目指して、2004年度から学外講師も含めた十数名の教員が担当する講義「地震防災」を開講するとともに、1年生全員の必修科目である「新入生セミナー」の中で防災の基礎知識と心得に関する講演を行うようになった。この背景には、静岡大学内の各部局に防災と密接に関係する研究テーマをもつ教員が徐々に増えてきたことがある。もともと地震防災は理学だけにとどまらず、工学、情報科学、人文・社会科学、医学などの幅広い分野にわたる総合科学の側面をもっていたからである。こうした教員たちは、各自の分野における防災研究・教育を推進するだけでなく、防災施策の検討を目的とした国や自治体の委員を委嘱されることによって、防災行政にも深く関わるようになった。また、地域社会からの講師派遣要請にも、個別的にはあるが積極的に貢献してきた。

このような防災研究・教育・地域連携の活動実績を背景として、静岡大学は、静岡県防災局（現・静岡県危機管理部）との協力の下に、文部科学省の特別教育研究経費（初年度は特殊要因経費）に「防災教育の地域連携を通じた多面的展開と拡充」を申請した結果、2008年度から4年間にわたる交付が認められることになった。そして、この経費を最大限活用しつつ、これまで各学部・各教員が個別におこなってきた防災研究・教育・地域連携活動を有機的・組織的に結びつけ、より高次かつ困難な地域防災課題の解決に取り組むために設立されたのが、静岡大学防災総合センターである。

本センターでは、2008年11月に1名、2009年に1名の計2名の専任教員を迎えるとともに、学内併任教員、学外客員教員を拡充し、防災研究・教育・地域連携に取り組んでいる。2010年には文部科学省の科学技術振興調整費による地域再生人材創出拠点の形成事業「災害科学的基礎を持った防災実務者の養成」に採択され、静岡県と協働し「ふじのくに防災フェロー養成講座」を開講した。2011年4月には大学会館内に研究室、事務室、セミナー室を集約し活動拠点も整備された。2015年4月からは、浜松地区における防災教育の拡充および東海圏国立大学の防災関係センター等の連携強化を目的として、総合科学技術研究科工学専攻が主担当の特任教員1名を採用した。また同月からは地域創造学環を主担当で当センターの専任となる教員1名を採用している。

1.2 組織及びメンバー

2022年4月現在の当センターメンバーは下記の通りである。

センター長

北村晃寿 (理学領域教授、津波・土石流堆積物・古地震の研究)

副センター長

村越 真 (教育部門長：教育学領域教授、統計法、リスク認知、防災教育)

牛山素行 (専任教員、研究部門長：融合・グローバル領域防災総合センター教授、自然災害科学、災害情報学、豪雨災害)

小山真人 (地域連携部門長：教育学領域地域創造学環教授、未来社会デザイン機構副機構長、火山学、地質学、地震・火山防災他)

前田恭伸 (浜松キャンパス担当：工学領域教授、リスクアナリシス)

専任教員

原田賢治 (専任教員、融合・グローバル領域防災総合センター准教授、津波工学、津波防災、海岸工学、水工学)

副担当教員 (静岡大学内他組織所属で当センターの運営に協力している教員)

川瀬憲子 (人文社会科学領域教授、地域研究)

水谷洋一 (人文社会科学領域教授、財政・公共政策)

池田恵子 (教育学領域教授、社会地理学)

小林朋子 (教育学領域教授、学校心理学、被災者の心のケア)

佐治 斉 (情報学領域教授、画像処理、交通情報解析)

木村浩之 (理学領域教授、地球微生物学、分散型インフラ生産システム開発)

今泉文寿 (農学領域教授、砂防工学)

古橋裕子 (融合・グローバル領域保健センター教授、精神科医)

山本裕之 (融合・グローバル領域保健センター教授、代謝学、内分泌学、公衆衛生学、健康科学)

藤井基貴 (教育学領域准教授、教育哲学、道德教育)

生田領野 (理学領域准教授、測地学、地震学)

石橋秀巳 (理学領域准教授、火山岩石学、実験マグマ学)

田阪美樹 (理学領域准教授、岩石鉱物物理、実験岩石学)

三井雄太 (理学領域准教授、地震学、測地学)

小杉素子 (工学領域准教授、社会心理学)

橋本 岳 (工学領域准教授、画像計測工学、災害予兆検知)

二川雅登 (工学領域准教授、電子デバイス・電子機器)
小林研治 (農学領域准教授、木質科学、建築構造・材料)
石川宏之 (融合・グローバル領域地域創造学環准教授、都市計画・建築計画)
秋元菜摘 (情報学領域講師、地理学)
望月美希 (情報学領域助教、社会科学)

特任教員

岩田孝仁 (防災総合センター特任教授、防災学、地方行政学 (防災))

客員教員 (他大学等所属で当センターの運営に協力いただいている教員)

○客員教授

石井輝秋 (元東京大学海洋研究所助教授、海洋底地質、火山学)
石川有三 (元(独)産業技術総合研究所活断層・地震調査研究センター招聘研究員、固体地球内部物理学、地震学)
石田瑞穂 (元(独)防災科学技術研究所研究主幹、地震学)
伊藤 潔 (元京都大学防災研究所教授、地震学、固体地球物理学)
伊藤谷生 (地震予知総合研究振興会地震防災調査研究部・副首席主任研究員、構造地質学、変動地形学、地震探査学)
岩崎一孝 (静岡大学名誉教授、気候学、自然地理学、地理情報システム)
鶴川元雄 (日本大学文理学部 特任教授、火山学、地球物理学、地震学)
大谷栄治 (東北大学大学院 理学研究科 客員研究者・名誉教授、高圧地球科学、鉍物物理学)
笠原順三 (東京大学名誉教授、地震学、地震探査、地球物理学、物理探査学他)
風間 聡 (東北大学大学院 工学研究科 教授、水文学、河川工学、水資源学)
片田敏孝 (東京大学大学院 情報学環 特任教授、災害社会工学)
狩野謙一 (静岡大学名誉教授、地質学、地質図学、地質調査法)
唐戸俊一郎 (米国イェール大学 教授、地球科学、地球内部構造)
吉川肇子 (慶應義塾大学 商学部 教授、組織心理学、社会心理学)
木村圭司 (奈良大学 文学部 教授、気候学、地理学)
栗田 敬 (東京大学名誉教授、固体地球物理学)
小林 淳 (静岡県富士山世界遺産センター 教授、火山地質学)
近藤昭彦 (千葉大学 環境リモートセンシング研究センター 教授、地理学、水文学、環境学)
佐藤興平 (気象大学校 非常勤講師、固体地球科学)
佐藤 健 (東北大学 災害科学国際研究所 教授、建築構造工学、地震工学、自然災害科学、安全教育学)

佐藤比呂志 (東京大学名誉教授、地質学)

鈴木清史 (元日本赤十字九州国際看護大学教授、文化人類学)

武村雅之 (名古屋大学 減災連携研究センター 特任教授、地震学)

千木良雅弘 ((公社)深田地質研究所 理事長、地すべり)

土屋 智 (静岡大学名誉教授、土砂移動学、山地水文学)

中川和之 ((株)時事通信社 解説委員、災害報道、市民防災、災害救援)

林 拙郎 (三重大学名誉教授、ライフサイエンス、森林科学、砂防学)

林 能成 (関西大学 社会安全学部 教授、地震学、地震防災)

廣井 悠 (東京大学大学院 工学系研究科 教授、都市防災、都市工学)

藤井直之 (名古屋大学名誉教授、固体地球惑星物理学、火山物理学)

藤岡換太郎 (神奈川大学 非常勤講師、地質学)

増澤武弘 (静岡大学名誉教授、植物生態学、植生学、環境科学)

増田俊明 (静岡大学名誉教授、構造岩石学、地球進化学)

森下祐一 (元静岡大学教授、岩石・鉱物・鉱床学)

山崎 登 (国士舘大学 防災・救急救助総合研究所 教授、災害情報)

山田和芳 (早稲田大学 人間科学学術院 教授、湖沼堆積学)

矢守克也 (京都大学防災研究所 巨大災害研究センター 教授、防災心理学、社会心理学、災害社会学、防災教育学)

吉田明夫 (元神奈川県温泉地学研究所 所長、地球科学)

吉野篤人 (浜松医科大学 医学部 教授、救急医学、災害医療)

渡辺俊樹 (名古屋大学大学院 環境学研究科 附属地震火山研究センター 教授、物理探査学、地震学)

○客員准教授

井ノ口宗成 (富山大学 都市デザイン学部 准教授、社会・安全システム科学)

菅原大助 (東北大学 災害科学国際研究所 災害評価・低減研究部門 准教授、地質学、堆積学、津波工学)

関谷直也 (東京大学大学院 情報学環総合防災情報研究センター 准教授、社会心理学)

中西利典 (ふじのくに地球環境史ミュージアム 准教授、地質学)

楠城一嘉 (静岡県立大学 グローバル地域センター 特任准教授、地球科学、地震学、リスク共生学)

秦 康範 (山梨大学大学院 総合研究部 工学域土木環境工学系 准教授、災害軽減工学)

紅谷昇平 (兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 准教授、自治体・企業の危機管理)

本間基寛 ((一財)日本気象協会 担当部長、災害情報学)

松井 務 (浜松医科大学 医学部 地域医療学講座 客員准教授、地域医療学)

[事務室]

再雇用職員

西山卓男

派遣職員

五条寿久

パート事務職員

池ヶ谷英代

注：所属機関等については、複数機関に所属されている場合もあります。

なお、元職や名誉教授の記載としている場合もあります。／専門分野については主要分野を優先して記載しています。

2 研究成果

2.1 個人研究成果

防災総合センターには2022年4月時点で2名の専任教員が所属しているが、広範な課題に対応する防災の分野を2名でカバーすることは極めて困難である。このため当センターでは、多数の学内外研究者を特任教員、副担当教員、客員教員というメンバーとして迎え入れ、研究・教育活動のいっそうの充実を図っている。2022年4月現在で、特任教員、副担当教員、客員教員の総数は77名を数え、学内の全領域に少なくとも1名の副担当教員が所在するほか、東北地方～九州地方に渡る全国の大学・研究機関から客員教員として当センターの活動に加わっていただいている。

本節では、これら当センター関係教員による最近の研究活動のトピックスを紹介する。いずれも日本の防災関係研究分野の第一人者であり、さまざまなユニークな取り組みが行われているところである。なお、論文等の研究業績は、2.2節を参照されたい。

教員名：北村晃寿

所 属：防災総合センター長・学術院理学領域教授

2020~2021 年度

(1) 焼津平野・浜当目低地で津波堆積物を調査し、5 千年間の地層から 4 層の津波堆積物(砂層 1~4)を発見した。砂層 1 は紀元前 805~405 年の間に堆積し、紀元前 3090 年~西暦 1096 年永長東海地震までの 4 千年間で、同低地にあった潟に堆積した唯一の津波堆積物である。津波浸水の頻度の低さから、この津波は通常の巨大地震による津波よりも大きかった可能性がある。砂層 2~4 はそれぞれ永長東海地震、1361 年正平康安地震、1498 年明応東海地震に伴う津波に対応し、また、潟を外洋から遮っていた砂嘴が永長東海地震による海底地すべりで壊されたことが分かった。本論のデータと歴史資料から、1096 年と 1498 年の海溝型地震で調査地域とその隣接地域で海底地すべりが起き、沿岸が海没し、津波の被害を増大させたと考えられる。この研究成果は、Kitamura⁺, 2020 に掲載された。

(2) 2021 年 7 月 3 日に、静岡県熱海市逢初川の源頭部(標高 390 m、海岸から 2 km 上流)にあった盛土の崩壊による土石流で、人的被害が出た。この災害に関して、静岡県は関連学会や大学には調査依頼せず、独自で報告書案を作り、県の依頼で関連学会から選出された委員の検証を経て、報告書を完成させるという。なお、県は研究者等が、県の公開データ等を解析し、発生メカニズム等を検討することを期待するという。この状況下で、北村は防災総合センターの経費で、盛土と土石流堆積物の学術調査を行い、以下の知見を公表した。

・源頭部から約 1 km 下流と 2 km 下流(伊豆山港)の土石流堆積物の含水率を測定し、31.0%と 36.2%の値を得た(北村・池田, 2021)。通常の土石流の含水率は約 10~25%で、38%を超えると泥流になるので、今回の土石流は泥流に近い。含水率は、土石流の挙動復元に必須の数値だが、その値の公表は北村・池田(2021)だけである。

・源頭部の盛土の黒色土砂と中流部の土石流堆積物から海生二枚貝の貝殻を採取した。それらの種類と ¹⁴C 年代値から、黒色土砂の採集地には、海底浚渫土あるいは海浜堆積物、7,000 年前の海成層があることが分かった。後者は、小田原市東部の中村川下流域に分布する完新統海成層の下原層の可能性が高い(北村, 2022)。

主な公表論文

Kitamura et al., 2020. Tsunamis and submarine landslides in Suruga Bay, Central Japan, caused by Nankai–Suruga trough megathrust earthquakes during the last 5000 years. *Quaternary Science Reviews*, 245, 106527.

北村晃寿・池田昌之, 2021, 2021 年 7 月 3 日に静岡県熱海市伊豆山地区で発生した土石流の速報. 静岡大学地球科学研究報告, 48, 63-71.

北村晃寿, 2022, 静岡県熱海市伊豆山地区の土砂災害現場の盛土の崩壊斜面と土石流堆積物から見つかった海生二枚貝の貝殻. 第四紀研究, 61.

教員名：村越 真

所 属：副センター長・副担当・学術院教育学領域教授

ハードな防災の限界が、東日本大震災以来指摘されています。学校教育の中でも臨機応変に行動でき、安全文化の構築に寄与できる次世代の育成が期待されていますが、自ら考え、判断する力を養う防災教育の展開はこれからです。こうした力の育成は、「主体的で対話的な深い学び」を目指す新学習指導要領の方向性とも合致しています。防災教育を付加的な教育内容とみなすのではなく、主体的で（自らの命に関わる）、対話的な（リスクに対する異なる考え方があり得る）場面を通しての深い学び（本質的な理解に基づく実践場面に応用が利く）が可能な領域例として積極的に活用する姿勢が必要だと考えられます。そのためには、個人がどのようにリスクを捉え、対応しているかという基礎研究も欠かせません。

上記の問題意識の元に、認知心理学的をベースとして、実践に活用できる科学的な根拠を持った「主体的で対話的な深い学び」を可能にする安全教育やリスクマネジメントの授業や教材開発を行い、防災マイスターの授業である「災害のリスク危機マネジメント」や「学校のリスク管理」といった授業を通して社会への浸透を図っています。

他方、自然体験活動や登山の中でのリスク認知およびそこでのリスクマネジメントも継続しています。リスク社会と言われながら、個人が遭遇するリスクに対するマネジメントの方法は十分に確立されているとは言えません。しかし、自然災害の激甚化やそれにもとない自分の命を守る行動の重要性が指摘されたり、本来安全であった空間が倫理観の低下等によってリスクが高まっていることが感じられる現代、個人のリスクマネジメント方略の確立は、日常生活においても人々が安全に生活することに貢献します。高所クライマーおよび南極観測の安全管理隊員を対象とした質的研究（村越・中村・河合、2014；村越・満下、2020）で、リスクと業績達成のジレンマのある活動におけるリスクマネジメントの方略を明らかにしました。また、三相因子分析という特殊な因子分析手法により、自然の中にリスクに関する認知次元として「急襲性」「遍在性」があることを明らかにしました（満下・村越、2019）。第59次南極観測隊に同行（平成29年）後、南極観測隊員を対象とした研究を、2020～2021年度にかけて、科学研究費補助金（基盤B）および国立極地研究所の萌芽研究観測として継続しました。

同様にリスクと活動意義のジレンマのある領域として幼稚園での遊び活動があります。新規なリスクを持った遊具を教員および園児がどのように捉え、活動を適応させていくのかを、附属幼稚園を対象に研究しており（科学研究費補助金挑戦的萌芽）、その成果の一部は大学の公開講座として一般にも還元しています。

教員名：牛山素行

所 属：副センター長・専任教授

自然災害科学および災害情報学を専門としています。豪雨・津波を中心に各地の災害時の現地調査に取り組み、災害情報の伝達や避難行動などの調査研究を行っています。

●風水害等による人的被害の研究

風水害などによる犠牲者が、どのような状況で亡くなられたのかを分類する研究を進めています。一般的なイメージと実態が異なっていることを明らかにしつつあります。

【主な成果】

牛山素行：豪雨による人的被害発生場所と災害リスク情報の関係について，自然災害科学，Vol.38, No.4, pp.487-502, 2020.

牛山素行・本間基寛・横幕早季・杉村晃一：2019年台風19号による人的被害の特徴，自然災害科学，Vol.40, No.1, pp.81-102, 2021

本間基寛・牛山素行：豪雨災害における犠牲者数の推定方法に関する研究，自然災害科学，Vol.40, 特別号, pp.157-174, 2021

●災害情報の利活用に関する基礎的調査

災害情報と実際の被害の関係、災害情報の防災面への活用手法などに関する基礎的調査を進めています。

【主な成果】

安本真也・横田崇・牛山素行・石黒聡士・関谷直也：平成30年7月豪雨における西予市での住民の避難行動と避難の意思決定構造，自然災害科学，Vol.39, 特別号, pp.71-86, 2020.

牛山素行：特集 災害時の「避難」を考える ―プロローグ 避難勧告等ガイドラインの変遷―，災害情報，No.18, pp.115-130, 2020.

杉村晃一・牛山素行：沿岸部住民における津波・洪水の危険度認知と避難行動意向 ～東日本大震災から10年を迎えて，日本災害情報学会第23回研究発表大会予稿集，pp.52-53, 2021年11月27日.

●防災実務者の人材育成への取り組み

ふじのくに防災フェロー養成講座運営主幹として、静岡県危機管理部と連携し、同講座の運営に当たっているほか、静岡県の行政職員防災研修の企画運営も行っています。また、内閣府防災研修コーディネーターとして同府による「防災スペシャリスト養成研修」の推進、気象庁「気象防災専門家育成」カリキュラム構築、気象庁「地方公共団体防災担当職員向け気象防災ワークショッププログラム開発」などの人材育成に取り組んでいます。

教員名：小山真人

所 属：副センター長・副担当・未来社会デザイン機構副機構長（主担当）、地域創造学環
教授（副担当）、教育学領域教授

静岡県周辺ならびに他地域の火山噴火史、地震活動史、地震火山防災、リスク情報の伝達と教育普及、ジオパークによる地域社会の活性化と防災基盤強化などに関する研究を進めています。とくに最近では富士山、伊豆東部火山群、箱根火山、伊豆大島火山の噴火史・噴火メカニズム・ハザードマップ・防災対応などの作成・見直しと効果検証、UAV（無人航空機）や高密度点群標高データを用いた火山地形・噴火史研究、宇宙線ミュオン粒子を用いた透視技術（ミュオグラフィ）による火山内部構造の研究（図：小山ほか，2022，科学）などに取り組んでいます。

こうした研究活動の一方で、静岡県防災・原子力学術会議地震・火山対策分科会委員、富士山火山防災対策協議会委員、富士山ハザードマップ（改定版）検討委員（副委員長）、富士山火山広域避難計画検討委員（副委員長）、伊豆東部火山群防災協議会委員などを努め、地域の火山防災体制確立のための助言活動に精力的に取り組んできました。また、静岡県と伊豆半島7市8町が進める伊豆半島ジオパークの顧問・学術部会長（2022年度からは美しい伊豆創造センター理事、同センタージオパーク委員会顧問）をつとめ、伊豆半島ジオパーク推進協議会の設立（2011年）、国内ジオパーク認定（2012年9月）、ユネスコ世界ジオパーク認定（2018年4月）などに貢献しています。

以上の作業と並行して、研究成果を一般市民にわかりやすい形で伝える書籍・資料を多数執筆するとともに、多数の講演会・公開講座の講師をつとめています。また、NHKの人気番組「ブラタモリ」の案内人を6回（富士山3回、日本平・三保松原1回、浜松1回、伊東1回）務めました。詳しい教育・研究・地域貢献活動の全貌については、研究室のWebサイト（以下、あるいは「小山研究室」で検索）をご覧ください。

http://sakuya.vulcania.jp/koyama/public_html/

教員名：前田恭伸

所 属：副センター長・副担当・学術院工学領域教授

主にリスクアナリシス、特にリスク対応への ICT の活用について研究を進めています。最近の成果としては、以下のようなものがあります。

一つ目は、インドネシア・パンデグラ地域防災のための情報システムの開発です。この地域は 2018 年に津波により大きな被害を出した地域です。この地域の防災担当者、自治会などの意見をもとに、住民の防災学習と訓練支援のための情報システム、<https://belajarbencana.com/> を開発しました。この成果は 2021 年の経営情報学会にて発表しました。

二つ目は、環境ボランティア獲得のための、環境団体と潜在的ボランティアのマッチングのための情報システムについての研究です。ただ、2020 年度、2021 年度はコロナ禍のため、全国の環境団体が厳しい状況におかれ、ボランティアを集めるどころではない事態となりました。そこで、全国の環境団体にコロナ禍がどのような影響を与えたのかということと、様々なボランティア活動をしている個人がコロナ禍にどのように対応したのかという事について、全国調査をしました。その結果については 2021 年の日本リスク学会において、ミニシンポジウム形式でセッションをひとつ企画し、そこで発表しました。またそのセッションの内容はリスク学研究に報告として発表しました。

これら成果を評価していただいたのか、2020 年には Society for Risk Analysis からフェローの称号をいただき、また 2021 年には日本リスク学会から学会賞をいただきました。

教員名：原田賢治

所 属：防災総合センター・専任准教授

津波の災害現象や防災対策についての研究を行っています。津波数値シミュレーションや現地調査、実験等により災害現象の理解と対策効果の評価検討について研究を進めています。現在、津波堆積物の形成過程を明らかにするために、実験水路を用いた津波堆積物の形成過程の再現実験の検討を進めています。加えて、沿岸自治体と協力して津波防災対策を地域で進めて行くための計画作りに関する検討も行っています。

教員名：川瀬憲子

所 属：副担当・人文社会科学領域 教授

国と地方の財政関係について研究しています。これまで、拙著『市町村合併と自治体財政—住民自治の視点から』（自治体研究社、2001年）、同『「分権改革」と地方財政—住民自治と福祉社会の展望』（自治体研究社、2011年）、同『アメリカの補助金と州・地方財政—ジョンソン政権からオバマ政権へ』（勁草書房、2012年）、3つの単著書を執筆してきました。

2022年7月には『集権型システムと自治体財政—「分権改革」から「地方創生」へ』（自治体研究社、近刊）を上梓させていただく予定です。そのなかで、東日本大震災復興の検証や熱海土石流災害と市財政に関する章をそれぞれ設けて、詳しく書かせていただきました。

東日本大震災から11年になりますが、2011年の東日本大震災後には、3つの研究グループにおいて、何度も現地調査を実施して、研究を重ねてきました。拙稿は、2冊の共著と雑誌の特集号、岡田知弘・自治体問題研究所編『震災復興と自治体』（自治体研究社、2013年）、『環境と公害』（第45巻第2号、岩波書店、2015年）、綱島不二雄・岡田知弘・塩崎賢明・宮入興一編『東日本大震災 復興の検証』（合同出版、2016年）にも収録されています。東日本大震災の復興財政に関する拙稿は、下記の通りです。

- ・川瀬憲子「東日本大震災後の復旧・復興と自治体財政—宮城県内自治体の事例を中心に」『経済研究』静岡大学、16巻4号、2012年2月、1-22頁。
- ・川瀬憲子「東日本大震災の復旧・復興と自治体財政—産業基盤重点投資と進まぬ生活再建」『経済科学通信』基礎経済科学研究所、2011年12月、78-84頁。
- ・川瀬憲子「被災者・被災地支援と市町村合併」岡田知弘他編『震災復興と自治体—「人間の復興」へのみち』自治体研究社、2013年、65-86頁。
- ・川瀬憲子「東日本大震災後の政府復興予算・一括交付金と自治体財政—宮城県石巻市を事例に」『経済論集』愛知大学経済学会、宮入興一教授退職記念号、第190号、2013年。313-342頁。
- ・川瀬憲子「市町村合併と復興格差をめぐる現状と課題—宮城県下の自治体の事例を中心に」『環境と公害』第45巻第2号、岩波書店、2015年、26-31頁。
- ・川瀬憲子「大震災後の復興交付金事業と復興格差をめぐる諸問題」綱島不二雄他編『東日本大震災 復興の検証』合同出版、2016年、115-136頁。

共著書では、平成の大合併時に広域的な合併を経験した宮城県石巻市の事例検証を主に担当しました。南海トラフ巨大地震が想定されるなかで、三陸海岸沿岸自治体の現状と課

題を提示することは重要であると思われたためです。特に、広域的な合併を経験した自治体では、域内の復興格差が拡大し、防災力空洞化への対応が課題となっています。しかも「人間の復興」（大震災によって破壊された生存機会の復興）という観点からみると、課題が山積していることも明らかになりました。2021年11月に宮城県と岩手県の調査を実施しましたが、宮城県には石巻市、岩手県には陸前高田市に、立派な津波伝承施設が建てられ、被災を経験した方々が語り部となって後世に伝える役割をされています。一方、熱海市は平成大合併期に合併せず、単独自治体として存続しました。熱海市は有名な温泉観光都市であり、被災者にはいち早くホテルに滞在できるような措置を講じるなど、「熱海モデル」とでもいふべき対応が行われました。2021年7月3日に発生した熱海市土石流災害は人災的要素の強いともいわれており、盛り土などに関する一層の規制強化と被災者のくらしの復興が望まれます。詳しくは近刊の拙著を参照してください。

教員名：池田恵子

所 属：副担当・学術院教育学領域教授

ジェンダー・多様性と災害

地域防災の体制に女性や多様な立場の人々の視点と参画が必要だという考えは、防災基本計画や地域防災計画にも反映され、徐々に浸透していますが、具体的な施策と地域の自主防災活動における実践はまだこれからです。とりわけ、女性の参画は、災害時避難行動要支援者、避難生活要配慮者の支援と強く関係しています。自主防災活動、防災訓練や防災知識の普及、避難所運営などの実践に、男女共同参画・多様性配慮の視点が組み込まれるよう、調査や研修を行ってきました。

1) ジェンダー・多様性に配慮した地域防災体制の研究

(ア)「2017年度女性・地域住民から見た防災・災害リスク削減策に関する調査」(全国の基礎自治体対象)の結果を受け、基礎自治体へ施策の導入を促進・阻害する要因を探るため、「ジェンダー・多様性の視点による防災・災害対応政策：自治体への導入過程の研究」を実施しました(2020～2022年度)。人口規模別(3区分)に政策導入が進んでいる自治体とそうではない自治体を選定し、各自治体の危機管理担当部署および男女共同参画担当部署、必要に応じて高齢者・障害者福祉の担当部署(避難行動要支援者関連)に対して、対面の聞き取り調査を実施しました。

(イ)静岡県において災害に備える地域活動を行っている女性、及び、防災や災害対応について自治体の立法を担っている女性議員から、地域の防災体制や自主防災組織の実態と女性の参画について経験や意見を聴き、女性が防災の担い手となるための政策提案の基礎資料とすることを目的に「静岡県における『災害発生に備える女性』の意識・実態調査」実施(2021年10月)しました。

2) 大規模災害からの復興の地域的最適解に関する研究

「東日本大震災における支援活動経験に関する調査」(調査期間：2011年6月～2012年6月)の「後継調査」(調査機関：2019年9月～実施中)を実施し、東日本大震災から10年後の被災地で、調査参加者がその後活動を展開してきた経緯と共に、復興の課題として取り組まれている問題を以下のとおり報告しました。

①人口の流失、②若年層の人口流出(特に女性)、③家族の分離、④小学校の統廃合・児童数の減少、⑤生活困窮・賃金格差・働く場・雇用、⑥生活インフラ(買い物・交通など)・子育ての場、⑦帰還・自主避難・住宅・移転先の関係、⑧かさ上げや防潮堤の建設など、⑨DV/性暴力/離婚、安全、⑩心身の健康、⑪高齢者の孤立・孤独、⑫若年男女の問題(虐待・引きこもり・不登校、居場所、性被害、依存症など)、⑬子どもの状態。

教員名：木村浩之

所 属：副担当・学術院理学領域教授

地球科学と微生物学を融合させた研究手法を用いて、静岡県中西部、山梨県南部、宮崎県南東部、沖縄本島の付加体の深部帯水層における微生物生態、メタン生成、窒素循環に関する研究を行った。また、温泉メタンガスを利用した地産地消エネルギーの生産、温暖化防止、広域災害対策、持続可能な社会の実現に向け、付加体に構築された温泉用掘削井を介して地下水および温泉付随ガスを採取し、地球化学および微生物学的手法を用いた研究を進めた。そして、付加体の地下圏でのメタン生成メカニズムを明らかにした。さらに、付加体の深部帯水層に由来する地下水、温泉メタン、微生物群集を活用した分散型エネルギー生産システムの創成に向けた技術開発にも取り組んだ。

これらの微生物学的研究を基盤として、付加体の深部帯水層に由来するメタンを活用した温泉メタン発電・熱生産プロジェクトおよび温泉メタン都市ガス化プロジェクトを静岡県内の自治体および企業と進めている。また、メーカーとの共同研究において、付加体の深部帯水層の地下水とそこに含まれる嫌気性微生物群集を活用したメタン生成リアクターおよび水素ガス生成リアクターを開発している。温泉用掘削井から採取した地下水とそこに含まれる微生物群集の培養実験を進め、実用化に向けて様々な条件を検討中である。

その他、静岡県環境審議会、島田市環境審議会、牧之原市環境審議会、静岡市水素エネルギー利活用促進委員会、掛川市・菊川市新廃棄物処理施設整備検討委員会にて委員を務めた。

教員名：藤井基貴

所 属：副担当・学術院教育学領域准教授

東日本大震災以降、教育学部の学生たちを中心に防災教育の教材および授業開発を進めています。2011年度に開発をはじめた小・中学校の道徳の授業向けの防災教材「防災道徳」は、これまでに全国300校以上の小・中学校で活用いただき、教材の一部は浜松市教育委員会編『浜松市版防災ノート』に収録されました。また、2021年には道徳科教材集『防災道徳』（東京書籍、2021）が刊行されました（図1）あわせて、2013年より特別支援学校、保育園・幼稚園、日本語学校とも連携して「災害時要援護者」を対象とした教材・授業づくりにも取り組んでおり、「防災紙芝居」、「防災体操」、「防災ゲーム」、「防災動画」などの教材を開発・提案し、学校祭や地域イベント等にもイベント出展しています。地域との連携においては保育園、幼稚園、学童保育防災センター等での防災紙芝居の読み聞かせ活動、地域のお祭り等での防災ブースの出展を行っています。2021年には防災紙芝居を英語・スペイン語に翻訳し、海外への提供を進めました。加えて、浜松市防災学習センターや静岡県内の高等学校（三島南高校、駿河総合高校等）と連携して、高校生による防災講座を支援する「防災ユースアンバサダープログラム」（図2）を実施し、のべ900人以上の高校生による防災講座を支援しています。こうした取組に対して、兵庫県等主催「1.17防災未来賞(ぼうさい甲子園)」では、4度の「ぼうさい大賞」を含む、9度の表彰をいただきました。また、朝日新聞社主催「大学SDGs Action! Awards 2021」では学生たちの企画「日本のBOSAIを世界へ」がグランプリとオーディエンス賞を受賞しました。これまでの取組は教員を目指す学生たちの粘り強い探究心と精力的な活動、そして静岡大学防災総合センターを始めとする研究ネットワークに大きく支えられています。今後も学生たちとともに防災・減災のネットワークづくりに貢献していきたいと考えています。



図1：教材集『防災道徳』東京書籍



図2：ガイドブック表紙

教員名：生田領野

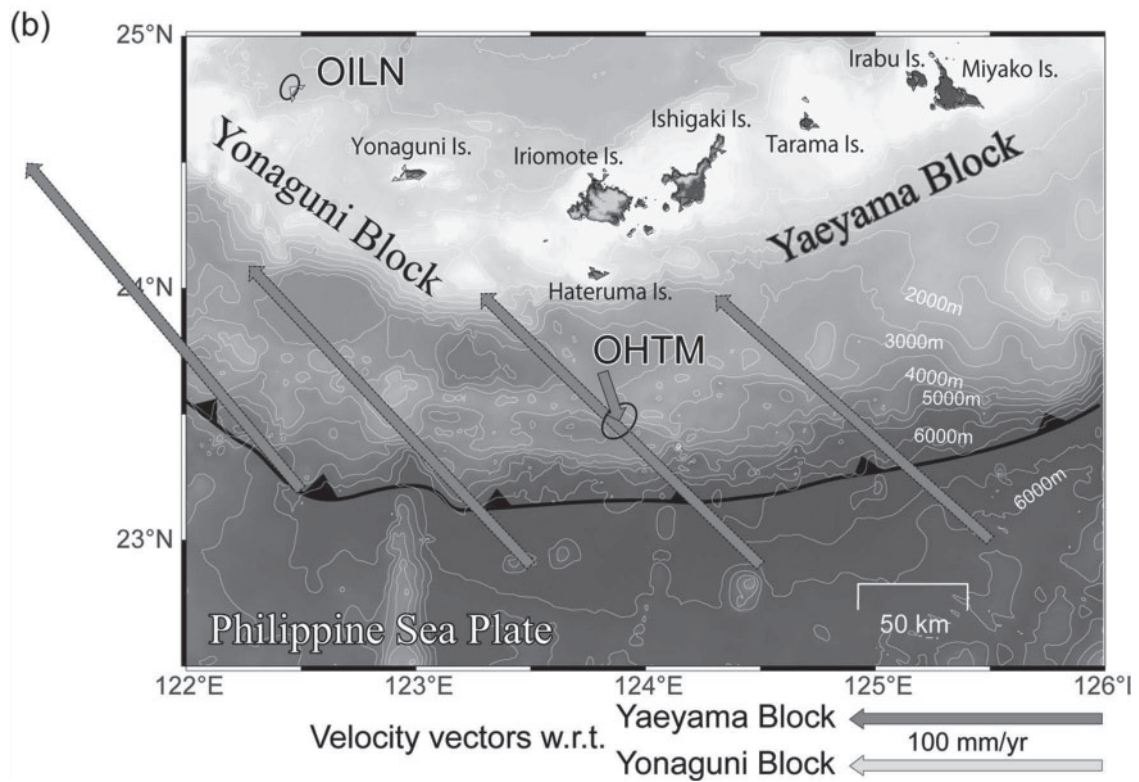
所 属：副担当・学術院理学領域准教授

私はプレート境界の巨大地震の準備過程を、観察を通して理解する研究をしています。力を入れて行っていることの一つは海底地殻変動の観測です。これはプレート境界地震を発生させる海溝付近での海底の動きを計測するものです。陸側のプレートが海溝付近で沈み込むプレートに引き込まれているのかそうでないのかを明らかにすることができます。この調査を1771年に巨大な津波に襲われた先島諸島（沖縄の南西部）付近の琉球海溝で行っています。計測した場所では、ほとんど巨大地震を起こすような歪を蓄積していない様子が明らかになりました⁽¹⁾。また海溝の反対側の海の下（沖縄トラフ）でプレートが引き裂かれて拡大するような場所の動きを計測し、小さなプレートの運動を明らかにしました⁽²⁾。

プレート境界を観察するもう一つの方法として、人工震源装置を用いて地震波が伝わる速度のモニタリングを行っています。地震波の速度は地下にかかっている力や歪みによって変化することが知られています。静岡県森町に設置した人工震源装置から人が感じない程度の微弱な地震波を出し、それを周辺の地震計で計測して静岡県下の地震波速度の変化をモニタリングしてきました。その結果、地震波速度は時間とともに徐々に速まっていく傾向が見られています⁽³⁾。これが地下のどのような変化に対応しているのかを明らかにするのが今後の課題です。

地震の前兆現象と呼ばれるものにも興味をもって取り組んでいます。2000年代に入って衛星からの電磁波を使ったリモートセンシング技術が発達し、地震の前に地表から数100km上空の電離圏の電子数の変化が捉えられたとする報告が相次ぎました。これらの事例の追試を行い、主要な報告の信憑性を評価しました。現在のところ、追試を行った報告については、地震の前兆現象であるとする根拠は薄いという結果が得られています⁽⁴⁾⁽⁵⁾⁽⁶⁾。

- 1) Chen, H-Y., Y-J. Hsu, R. Ikuta et al. (2022). *GRL* **49**
- 2) Chen, H-Y., R. Ikuta et al. (2018). *GRL* **45**
- 3) Tsuji, S., K. Yamaoka, and R. Ikuta et al. (2018). *EPS* **70**
- 4) Ikuta, R. et al. (2020). *JGR-SP* **125**
- 5) Ikuta, R. et al. (2021). *JGR-SP* **126**
- 6) Ikuta, R., & R. Oba (2022). *JGR-SP* **127**



海底地殻変動観測によって明らかになった琉球海溝南部の海底の動き（OHTM、OILN）。矢印は陸上・海底観測点の、島弧ブロックに対する相対的な動き。画面下から左上に延びる4本の大きな矢印は、琉球海溝から沈み込むフィリピン海プレートの動き。

教員名：石橋秀巳

所 属：副担当・学術院理学領域准教授

私は、天然の火山噴出物の組織解析・化学分析に基づき、マグマの形成・噴火プロセスについて研究しています。2020-2021 年では、富士山・伊豆東部火山群・伊豆大島・三宅島・霧島御鉢を対象に、クリスタルマッシュ状マグマだまりでの噴火準備過程や、マグマ噴火の火道浅部プロセスに関する研究を行いました。

富士山については、1707 年宝永噴火に含まれる斑糲岩捕獲岩について系統的に調べました。その結果、鉍物粒間に流紋岩質ガラスを含むマッシュ状斑糲岩が発見され、その化学的特徴から宝永噴火のデイサイト質マグマの形成に関わったメルトであることを議論しました(大塚ほか, 2021 火山学会)。また、石英を 10vol%程度含み、鉍物粒間に流紋岩質ガラスを 50vol%程度含むマッシュ状深成岩の捕獲岩も発見しました(石橋ほか, 2020 火山学会)。これは、富士山の火山噴出物中からの石英の初の報告と思われます。これらの結果は、富士山の地下に珪長質マグマだまりが発達しつつある可能性を示唆するものです。

伊豆大島については、1986 年にサブプリニー式噴火を発生した玄武岩質安山岩マグマ (B マグマ) の噴火前の貯蔵条件を探るため、高温高压実験による B マグマの H₂O 飽和斜長石リキダスの制約を行いました。その結果、既存モデルによって B マグマの H₂O 飽和斜長石リキダスが精度よく再現できることが明らかになりました。そこで、これを用いて B マグマの噴火前貯蔵深度を推定したところ、先行研究で示唆される 1100°C の噴火前温度を仮定した場合、噴火前のマグマ貯蔵深度はおよそ 2km 程度になることがわかりました。この深さは、先行研究で従来考えられてきた 3-5km に比べて有意に浅いものであり、伊豆大島の浅部マグマ供給系の描像が変わる可能性があります(Oida et al., in press)。

伊豆東部火山群については、約 4000 年前に噴火した大室山の噴出物に含まれる斜長石斑晶とそのメルト包有物について調べました。その結果、大室山の噴出物自体は玄武岩質安山岩であるにもかかわらず、斜長石斑晶中のメルト包有物は流紋岩質組成を示し、またホスト斜長石もこの流紋岩質メルトと平衡共存できる組成を有していました。このことから、単成火山である大室山の噴火前に既に、その地下には流紋岩質マグマが存在していたことが示唆されました (Hatada et al., 2020)。現在、大室山周辺の単成火山についても、同様の流紋岩質マグマの兆候が見られないか調査中です。

その他、富士山・伊豆大島・伊豆東部火山群・霧島御鉢などの火山を対象として、苦鉄質マグマの噴火ダイナミクスに強い影響を及ぼす火道浅部プロセスについても、噴出物の石基組織解析から解明することを目指した研究を進めています。

教員名：田阪美樹

所 属：副担当・学術院理学領域准教授

マントルにおける物質移動のメカニズムを明らかにするために、実験・天然・数値計算を用いてかんらん岩の変形特性に関わる研究を進めています。昨年度行った主な2つの成果についてまとめます。

1. 島根県川下アルカリ玄武岩中のスピネルかんらん岩捕獲岩の化学組成と変形構造を調べることで日本海拡大時のマントル流動を探る研究を行いました。岩石の化学組成と変形組織解析から川下かんらん岩捕獲岩は日本海拡大時のマントル変形構造を保存していること、輝石の平衡温度から西南日本のかんらん岩捕獲岩の平衡温度で最も高い温度を示すことがわかりました。これらの成果は査読付き国際誌に投稿され現在査読中です。
2. マントルウェッジ内のカンラン石の結晶方位定向配列 (CPO) による熱伝導率の異方性が東北海溝の定常熱構造に与える影響について、数値モデルを用いて検討しました。マントルウェッジの熱伝導率は、沈み込むスラブ直上と上盤プレート底部近傍の領域で、大きく異方的であることがわかりました。この成果は IF 付国際誌 (Morishige and Tasaka, 2021 Tectonophysics) として発表されました。

これまでの研究成果が高く評価され、2021 年度日本地質学会柵山賞、2020 年度日本鉱物科学会研究奨励賞 (第 29 回) を受賞しました。また論文査読にも精力的に取り組みアメリカ地球物理学会 AGU より優秀な査読者に贈られる賞として 2020 Editors' Citation for Excellence in Refereeing for *JGR-Solid Earth* を受賞しました。

教員名：三井雄太

所 属：副担当・理学領域准教授

地殻変動・地震活動データなどの統計的解析と固体力学の知見に基づいて、グローバルからローカルまでの幅広い時空間スケールにおける固体地球変動現象の発生・準備過程を研究している。伝統的な手法の高度化・精緻化に留まることなく、機械学習やスパースモデリングなどデータ科学的潮流を取り入れた解析手法の開発に取り組んでいる。それを基盤として、直接観察できない地下で起こっている様々な現象の実体を、少しでも定量的に理解したい。

教員名：小杉素子

所 属：副担当・学術院工学領域准教授

人々の生活の中の様々なリスクについて、社会心理学的な視点から研究をしています。特に、リスク問題について異なる利害や認知を持つ人々が、そのリスクの影響や被害の程度や範囲をどのように考え、社会全体やコミュニティとしてどのように対応・管理することが望ましいと考えるのかについて、意見を交換したり意思決定を行ったりするプロセスに着目しています。

2020～2021年度は、新型コロナウイルス感染症によるパンデミックについて、一般市民を対象としたオンライン質問紙調査を2020年度に2回、2021年度に1回実施しました。手洗いやマスク着用などの感染予防行動と、自分の感染可能性や重症化リスクの認知など行動を規定する要因について分析し、若年層と高齢者では予防行動を規定する要因が異なることを示しました。また、ワクチンについて接種済みの人のワクチンの評価視点と、接種していない人の評価視点が異なることから、ワクチン接種に関する情報提供のあり方について考察にしました。単純集計は防災総合センターのHPで公開、分析結果については論文発表しました。

東京電力福島第一原子力発電所事故による放射線リスクについて、2020年度には関連する複数分野の専門家へのヒアリング調査、2021年度には福島県民を対象としたデプスイントビューを行い、放射線影響に関わる知識や理解構造の専門家と市民の違いを明らかにしました。今後、この知見をもとに既存の情報提供方策の改善提案をまとめます。

地球温暖化（気候変動）のリスクについて、一般市民を対象としたオンライン調査を行い、緩和策および適応策の実施を規定する認知要因について分析を行いました。上記のコロナ感染予防行動の規定因の研究と統合し、リスク管理行動を規定する認知要因についての研究に発展させていく予定です。

教員名：橋本 岳

所 属：副担当・学術院工学領域准教授

私は画像計測を防災へ応用するという工学的アプローチに関する研究を行っています。これまでに「屋外遠距離において高精度な計測が可能」というユニークな計測技術を開発しており、具体的には計測距離約 100m にて誤差 10mm 以下という計測を実現しました。この高精度という特長を生かして様々な実用的な研究を進めています。研究の一例として、土砂災害の予兆検知を目的とした法面の微小動きの計測に取り組んでいます。また、動画画像を使った橋梁のたわみ計測から橋梁の劣化推定の汎用化を目指して研究を行っています。



橋梁のたわみ計測の例

教員名：二川雅登

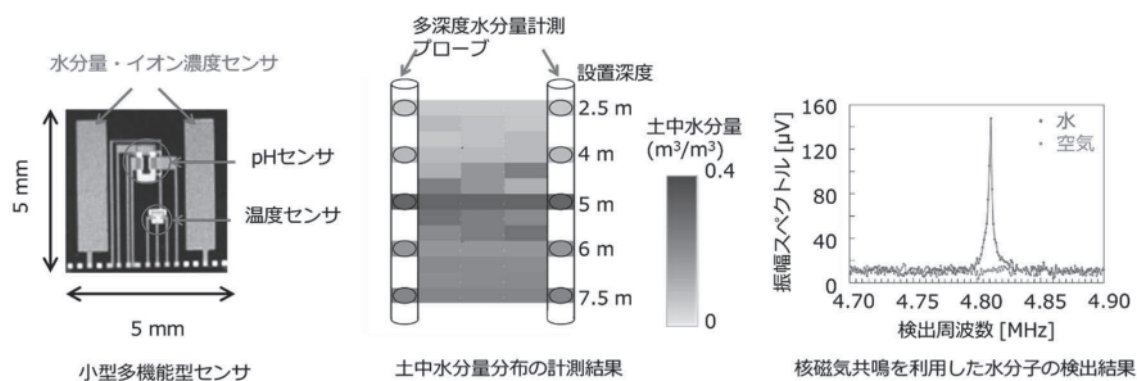
所 属：副担当・学術院工学領域准教授

世界各地で発生している豪雨などによる土砂崩れ（斜面崩壊）は、家屋だけでなく人の命も危険にさらし大きな被害をもたらします。一般的に崩壊が予想される危険斜面へは変位センサや転倒センサなどが使われており、崩壊直前の避難に役立っています。しかし、崩壊の兆しが見える前に現在の危険度を知ることができれば、道路の封鎖や余裕を持った避難が可能となります。そのため、斜面崩壊の予知ができる技術の確立が強く望まれています。

雨などにより土に含まれる水分量が増加し、土の摩擦力が低下するとともに水を含む土の重量が増加することにより、斜面崩壊が発生します。そのため、土中の水分量を直接計測し斜面崩壊の予知ができれば、防災・減災へとつながっていくと考えられます。

これまで、半導体集積回路技術を活用した小型土中水分量センサ（下左の図）を研究しており、降雨による土砂災害を事前に予知できるシステムの開発を目指しています。これまでの研究成果で、土中水分量センサのトモグラフィ計測を可能にし、土中 2 次元水分量分布の計測をおこないました（下中央の図）。市販センサでは点での水分量計測しかできなかったものが、検出不可領域の無い広範囲の土中水分量分布の観察ができるようになっていました。また、ソーラーパネルによる独立した電源確保と無線によるデータ送信を可能としており、電源の取れない山奥や幹線道路沿線など様々な設置場所に用いることができる点も大きな特徴と言えます。

また、2020 年度から 2021 年度にかけ、核磁気共鳴を利用した水分子及び各種イオンを検出可能な NMR センサ開発にも着手した。排水チューブ内の水の様子をモニタリングでき、環境の精密分析を可能とする技術となります。下右の図は、NMR センサでの計測事例です。今後、様々なイオン種の検出を実現していく予定です。



教員名：石川宏之

所 属：副担当・学術院融合グローバル領域准教授

1. 最近の研究活動

持続可能な観光を進めるための大学関係者の役割と公学民連携による地域プランニングのあり方

—伊豆半島ユネスコ世界ジオパークを事例として—

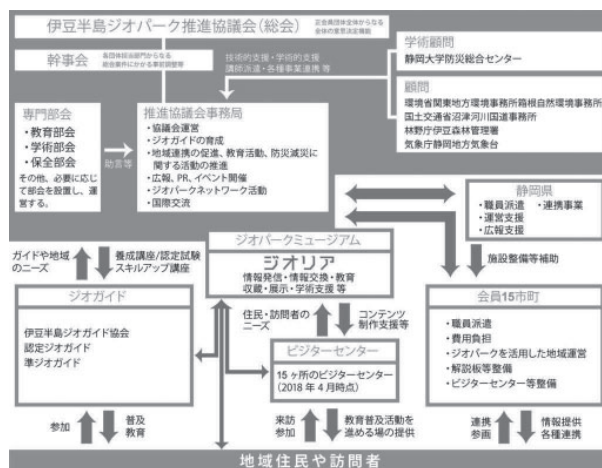
今日、地方都市では、雇用を支える基幹産業の観光業が衰退することで若者が大都市へ流出し、少子高齢化と過疎化が進んでいます。この様な地域問題を解決するために地質遺産を活かして持続可能な地域社会をつくるジオパーク活動が世界各地で展開されています。本研究は、日本のジオパークで地質遺産を活かして持続可能な観光を進めるために大学関係者の役割と公学民連携による地域プランニングのあり方を明らかにしました。調査対象は、2018年に日本で9番目に世界ジオパークに認定された伊豆半島ユネスコ世界ジオパークで、2014年からジオパーク活動に携わる自治体職員、専任研究員、大学関係者、市民団体の代表者に聴き取りを行いました。

その結果、ジオパークにおける大学関係者の役割とは、①ジオパーク活動を用いて地域課題の解決策を提案するプランナー的な役割、②各地質遺産の学術的価値を評価し、他の自然・文化遺産と結びつけてジオストーリー（大地の物語）をつくる文理融合的な科学者の役割、③ジオパークの教育方針を示してプログラムを企画・実践する教育活動家の役割を果たすことがわかりました。つぎに、持続可能な観光を進めるために公学民連携による地域プランニングのあり方とは、①学民が地質遺産を生かしたまちづくりを行いながらジオパーク構想を描くこと。②公学民が各事業を記したジオパーク基本計画・行動計画を策定すること。また、ジオガイドを養成してエリア全体で教育活動を展開すること。③公民が既存の学習プログラムを活かして教育旅行など観光振興を図ることと考えます。

2. 刊行物など

(1)石川宏之：持続可能な地域づくりを推進するための公学民連携によるボトムアッププロセスのあり方—糸魚川ユネスコ世界ジオパークを事例として—，2020年度日本建築学会大会学術講演梗概集，pp.783-786，2020

(2)石川宏之：持続可能な地域社会をつくるために博物館活動を通じたボトムアッププロセスのあり方—糸魚川ユネスコ世界ジオパークを事例として—，日本ミュージアム・マネジメント学会研究紀要，25，pp.13-21，2021



伊豆半島ジオパーク推進協議会の組織構成

(出典：伊豆半島ジオパーク推進協議会 HP)

教員名：秋元菜摘

所 属：副担当・情報学領域講師、静岡大学土木情報学研究所

本研究室では、2019年度より防災教育や観光防災について研究室プロジェクトを実施的に実施してきた。その成果は、授業等で静岡大学の学生に還元するとともに、防災総合センターの発表会でも共有してきた。また、静岡大学情報学部で開催される情報学シンポジウムやテクノフェスタなどで地域住民等へも毎年還元してきた。その後は、防災教育と観光防災に関する査読付き論文をそれぞれ投稿するなど学術的側面でも活動を進めている。

防災教育や地域防災については、静岡大学が南海トラフ地震をはじめとして災害のリスクが高い地域にありながら、防災訓練や災害時の避難計画、学生の準備、地域との連携などに課題があると考えられたため取組み始めた研究課題である。実際に授業等でアンケートを実施すると、学生は自分ではほとんど災害対策を行っていない実態も明らかになった。大学全体での取組みを改善するにはコストや時間も必要であることから、まずは学生が防災を自分のこととして捉え、各自で準備したり大学に働きかけたりできるように情報提供することを目的とした防災教材の開発を進めている。現段階では、防災を学びながらアンケートに回答する教材を作成しているほか、地理情報システム（GIS）により自分の居住地周辺のオリジナル防災マップを作る展示を行うなどしている。学生や住民が各自の防災意識を高め、地域防災についてもより考えて行動できるようになることを目指している。

このような活動の中で、情報学部長や大学の総務係等へヒアリング等も行ったが、その翌年2020年度から防災訓練時に「地域防災」という言葉が講演で用いられるようになるなど、大学側の意識改革にも繋がっていると考えられる。指摘されれば当然であろうが、最近まで大学の教育や活動には含まれていなかったことは事実である。本取組みの要点としては、教員と学生が共同して研究することで多様なアクターに伝わりやすいという側面が挙げられる。一教員がデータを基に指摘しても組織は動かないであろうが、学生や地域から疑問視されるようになると現況や深刻さをより理解することができると考えられる。

教員名：岩田孝仁

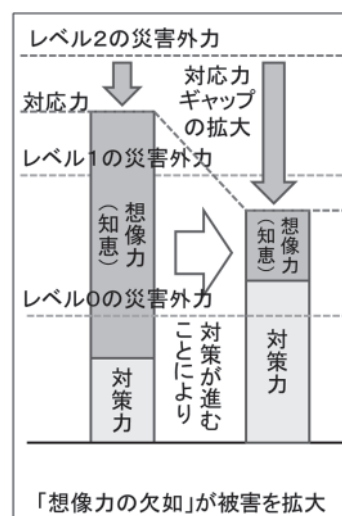
所 属：防災総合センター・特任教授

2017年4月から2020年3月まで防災総合センター長としてセンターの運営にあたり、3月末に静岡大学を定年退官しました。2020年4月から防災総合センター特任教授として引き続き研究・教育・社会貢献活動を継続しています。

研究分野としては、これまで深くかかわってきた防災行政や地域防災に関して、減災に甘えてしまう世の中の風潮を改め、災害犠牲者をゼロにすることを目標に「減災から防災社会の構築」をテーマに研究や教育・啓発を続けています。災害に備えるため一人一人の想像力をいかに引き上げることができるか、さらに関係する組織としての想像力をいかに高めることができるかが大きな課題と考えています。

私たちの暮らしを取り巻く自然環境は、日本が近代化のため進めてきた産業の拡大、人口の増大に符合して大きく変化してきました。昭和の時代だけでも、都市近郊の土地利用の状況は大きく変わってきました。河川・海岸堤防の整備や下水道・排水設備の整備などにより、従来は住まなかった（住めなかった）脆弱な低地にも都市インフラの整備に伴い、宅地や産業施設が進出するようになりました。こうした市街地の拡大などの急速な環境変化によって、私たち自身が、その土地本来が持つ固有の災害脆弱性を認識し難しくなっています。

このことが災害など日常と異なった環境に遭遇した時に、どのような事態が進みつつあるのかなどを考える力、すなわち「想像力」を欠如させる大きな要因でもあります。専門家の想像力が働かないのは論外として、市民レベルでも災害や事故に対して身の回りでどのようなことが起きようとしているのかを考える力がどんどん低下してきていることを危惧しています。こうした環境の中、想定していた外力を超えた力が襲うと対応の余力の無さから一気に過酷な被害につながってしまう可能性があります。どのようにして克服するかが私の研究活動の大きなテーマです。



教員名：石井輝秋

所 属：客員教授

2018年度及び2019年度は、主として研究航海に参加し、現場での試料採取・海底地質調査研究及びそれらの試資料に基く陸上での解析・研究を行ったが、2020年度及び2021年度は、コロナ禍のため研究船への乗船が不可となり、既採取試資料の陸上での解析・研究を行うこととなった。

2020年度-2021年度

東北沖の太平洋プレート上に散在するプチスポットパイプを活用してのモホール計画を考察している。

マントルに至る地球深部の物質科学的研究には、構成物質であるマントル橄欖岩をはじめとする岩石・鉱物の入手が不可欠である。陸上ではダイアトリウムを伴う火山の母岩及び捕獲岩・捕獲結晶が研究に供されてきた。たとえば、島弧地殻をもつ日本列島では、アルカリ玄武岩マグマ活動による火山岩中の捕獲岩が、大陸地殻を持つアフリカ大陸ではキンバーライトマグマ活動による火山岩中の捕獲岩が研究対象として活用されてきた。

海洋プレート域では、ホットスポットマグマ活動による火山岩中の、マントル橄欖岩捕獲岩が知られているが、ホットスポットマグマからの影響があるため、其の成因を一義的に決めるのは困難であろう。しかし、近年海洋プレートアスノスフェア由来のマグマ活動による単成火山であるプチスポット火山が発見(Hirano et al., 2006)され、海洋プレート域の汚染の少ない地球深部物質の入手が可能となった。とは言え、これら東北沖プチスポット火山は水深5000m以深にあるため、陸上火山調査に比べ困難が伴う。

その後、それらのプチスポット火山の中に爆裂火口(マール=maar)を有する火山が発見され(石井他, 2019) その火山体の基部にはプチスポットパイプと称すべき火山角礫岩からなるダイアトリウムの存在が予想できる。ここではR/V「ちきゅう」によるノンライザー深海掘削を希望する。プチスポット火山産角礫岩は見かけの比重が約1.4と小さいので、緻密な溶岩に比べ格段に容易に掘削可能と考えられる。そこでプチスポット火山火口内にリエントリーコーンを設置しての、R/V「ちきゅう」による、ノンライザー、ノーコアリングの深海掘削を提案したい。可能ならズリの回収は行いたい。水深約5500 m-6000 mの海底に散在している火口から、どの深度まで多孔質玄武岩からなるプチスポットパイプが連続するかは不明であるが、「ちきゅう」の能力を最大限活用すれば、検証可能であろう。海底数千米(条件が良ければ約3000 m-5000 m)、否、マントルまでの掘削も夢ではないであろう。何故ならば、プチスポットパイプ及びその周囲はマグマの貫入や、焼き生しで安定している可能性もあり得るからです。ノンライザー深海掘削には不可欠だと思われる、上方掘削可能コアバレルの新規開発・運用をも提言する。ドリルストリングスが回転している限り、即ち上方掘削が可能限りコアバレルを無事揚収できると考えられる(石井他, 2021)。更に、掘削孔壁を貫いての斜め掘装置を開発し、数百メートル毎に地質構成岩石採取が可能に成れば尚望ましい。これぞ“プチスポットパイプを活用してのモホール

計画”と言っても過言ではない。

尚、従来から稀少な捕獲結晶の発見は岩石薄片観察、又は岩石を砕いた粉末からの鉱物選別が基本である。私はX線CTスキャナーによる標準試料を用いての、元の試料を破壊せずに行える鉱物同定を試みている。

文献

Hirano, N., Takahashi, E., Yamamoto, J., Abe, N., Ingle, S. P., Kaneoka, I., Kimura, J.-I., Hirata, T., Ishii, T., Ogawa, Y., Machida, S. and Suyehiro, K. (2006): Science, 313, 1426-1428.

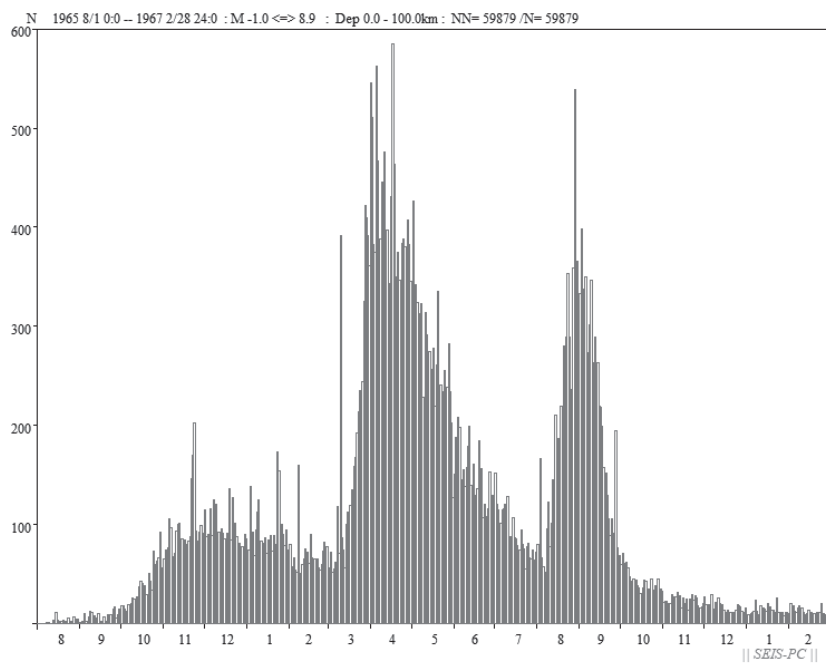
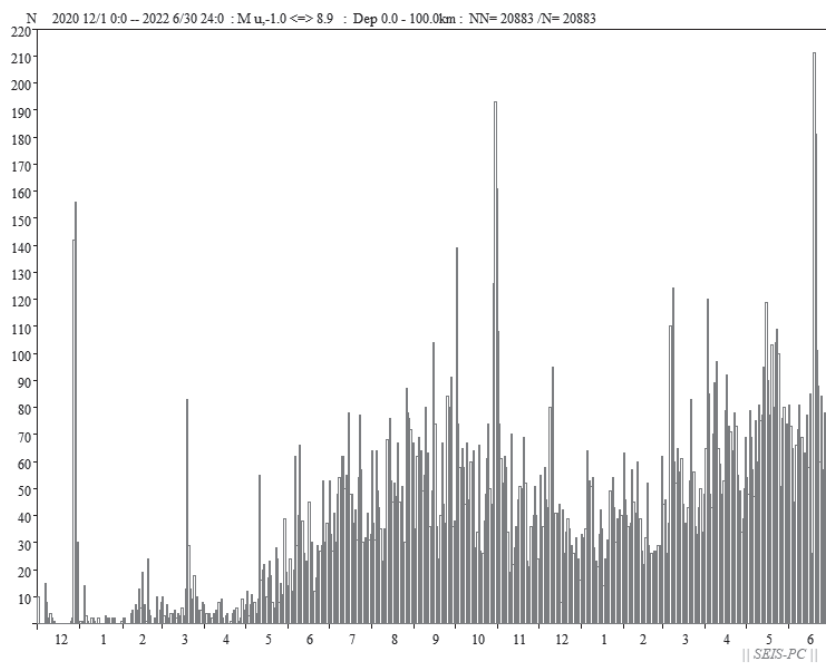
石井輝秋・金子誠・平野直人・町田嗣樹・秋澤紀克(2019):「新青丸」KS-18-9 航海, プチスポット火山ドレッジ研究速報と展望:一歴史的大発見:東北沖太平洋超深海底の爆裂火口(マール)ー. 深田地質研究所年報, 20, 105-128.

石井輝秋・金子誠・平野直人・町田嗣樹・秋澤紀克(2021):プチスポット溶岩及びマントル捕獲岩・捕獲結晶の地質学的・岩石学的研究ー太平洋プレートのアセノスフェアに至る地質断面構築を目指してー. 深田地質研究所年報, 22, 99-118.

教員名：石川有三

所 属：客員教授

これまで日本ではいろいろな群発地震活動が知られているが、2020年11月末に始まった能登半島北東部の群発地震はこれまでの群発地震とはかなり異った活動である。特に活



動期間が異常に長期に渡っており、これまで長期の活動で知られている松代群発地震の活動期間を超えつつある。上図、下図に能登半島北東部の活動(2020年12月-2022年6月)と松代群発地震の活動(1965年8月-1967年1月)の日別地震数をそれぞれ1年7ヶ月間に亘って示した。松代群発地震は1966年7、8月の3番目のピーク後は減少し、収束するが、能登半島北東部の群発地震は収束の気配が見られない。これら以外の伊豆半島周辺の群発地震等とも比べながら、群発地震の発生メカニズムの解明を行っていく。

教員名：伊藤 潔

所 属：客員教授

気象庁、国土地理院、産総研等の公開データを用いて、地震活動の性質を調査・研究している。当該年度には能登半島先端部の群発地震、飛騨山脈の群発地震、2018年大阪北部地震の余震などを調べた。結果はSNSで発表している。

大阪北部地震については、前記の公開データから、本震は2つのごく短時間に近接して発生した破壊からなっていることを確認した。この2つの破壊は共役断層による破壊からなっており、それぞれ北北東-南南西および東北東-西南西の地体構造の交点に近い同じところで発生していることが分かった。今後大地震については、共役な破壊も予測に加えるべきであろう。また、既存の地表活断層は地震の原因ではなく、地震の結果であることを前提に調査を進めるべきで、地体構造と広域応力分布の関連を考慮することが重要であることを確認した。また、余震域は破壊直後から、本震の破壊の2方向に拡大し、中規模誘発地震を拡散させている様子を示した。また、計測震度が1997年以前の人感による震度より大きめになっていることについて検証した。この理由は強震観測点が多点になり、地盤増幅度が大きい観測点の震度が報告されるためである。以前の地震の震度との比較には、この点の考慮も必要である。さらに、この地震については、自身が被災したため、電気、水、ガス、通信回線等のインフラについての理解が十分でないことを改めて感じた。この経験から、生活インフラについて成り立ちを調べた経過を示した。インフラの大規模化、集中管理は効率向上には良いが、災害には脆弱な面も多く、今後は分散管理が必要だと強く感じた。

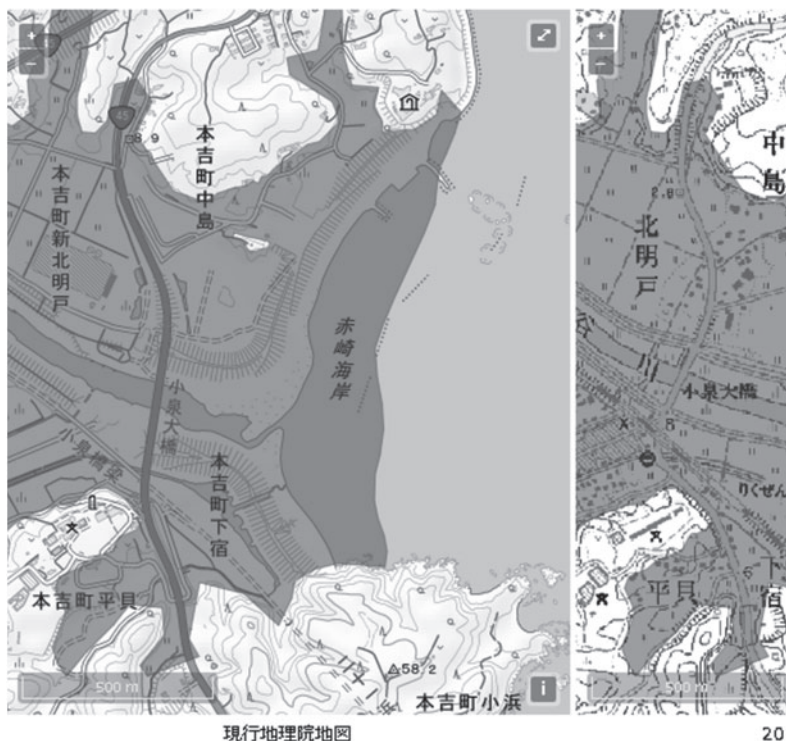
今後は群発地震を中心に活動の変化と原因を調査する。

教員名：岩松 暉

所 属：客員教授（2021 年度末で退任）・鹿児島大学名誉教授

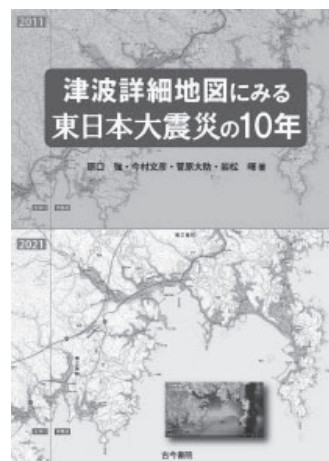
2021 年は東日本大震災 10 周年に当たる。当時、原口強大阪市立大学准教授と共著で『東日本大震災津波詳細地図（上・下巻）』を古今書院から刊行した。同時に、日本情報地質学会サーバを借用してネット発信も行った。しかし、背景図として使用している地理院地図は日々刻々更新されており、当時の地形とは異なる。とくに東北地方太平洋沖地震は余効変動が激しく、日本測地系が JGD2000 から JGD2011 に変わったほどである。下図に一例を挙げる。当時の赤崎海岸は今も海面下にあり、沿岸には超巨大防潮堤がそびえる。

東日本大震災2011-2021



一方、10 年前の地形図を入手することは一般人にとっては容易ではない。そこで、新旧地形図に津波浸水域を重ねた今昔マップの出版を企画した。折角出版するのだったら、その後の最先端津波研究も取り入れたい。津波シミュレーション動画にもリンクを張りたい、と欲が出てきて、出版予定が延び延びになり、2022 年になってしまった。

原口強・今村文彦・菅原大助・岩松 暉：津波詳細地図にみる東日本大震災の 10 年，古今書院，2022 年。



教員名：大谷栄治

所 属：客員教授・東北大学名誉教授

今期は、研究・外部活動・アウトリーチ・国際共同研究として以下の活動を行った。

研究：・地球内部の水循環の研究：含水鉱物と無水鉱物間の水の分配関係を明らかにした。

水を含むスラブ内では、水は含水鉱物に存在し、無水の橄欖石やその高圧相は水をほとんど含まないことが明らかになった。したがって、湿ったスラブ内でも乾燥した鉱物の相転移や流動特性を示すことが明らかになった。

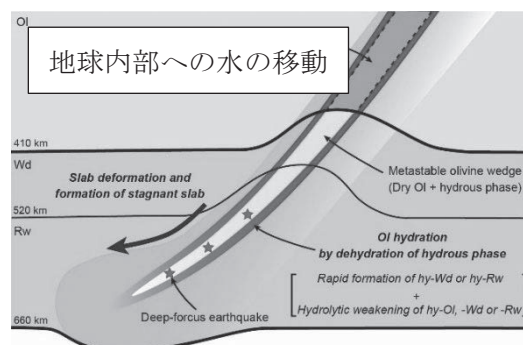
- ・高温高圧下にある地球の核の条件で、核を代表する FeNiSi 合金において hcp 相と CsCl (B2) 相の 2 相が共存することを示し、内核がこの 2 相からなる可能性を論じた。
- ・圧力スケールの構築：地球核におよぶ圧力条件でのレニウムの音速測定にもとづいて、地球核の超高圧条件でも適用できる圧力スケールを構築した。
- ・隕石中にブリッジマナイトの発見：2012 年にインドのカトール市に落下したコンドライト（カトール隕石）を研究し、地球の下部マントルに存在する化学組成を持ち、マグマから結晶したと思われる特異なブリッジマナイト鉱物を発見した。

外部委員会における活動：学術会議連携会員として、日本学術会議地球惑星科学委員会、同地球惑星圏分科会、同人材育成分科会当で活動し、大型研究計画の審査を行った。

JAXA のはやぶさ II キュレーション専門委員会の委員として、はやぶさ及びはやぶさ II 回収試料の分配の方針の決定に参加した。また、はやぶさ II 定常運用終了審査会委員として、はやぶさ II プロジェクトの評価を行った。

アウトリーチ活動：地球惑星の科学のアウトリーチのために、仙台市天文台において、ブレインサポーター（アドバイザー）として、展示のアドバイスの活動を行った。また、同天文台において、市民講演会（トワイライトサロン）の講師を引き受け、市民に「隕石と小惑星：はやぶさ II の試料から解ってきたこと」について講演を行った。

海外共同研究：高圧含水鉱物の高温高圧相平衡（パイロイト大学、中国高圧科学研究センター（北京）、ノボシビルスク大学）、それらの熱伝導率の測定（台湾中央研究院）、インドに落下したコンドライト隕石中の高圧鉱物の解析（インド工業大学）などについて、海外の研究者と共同研究を行った。



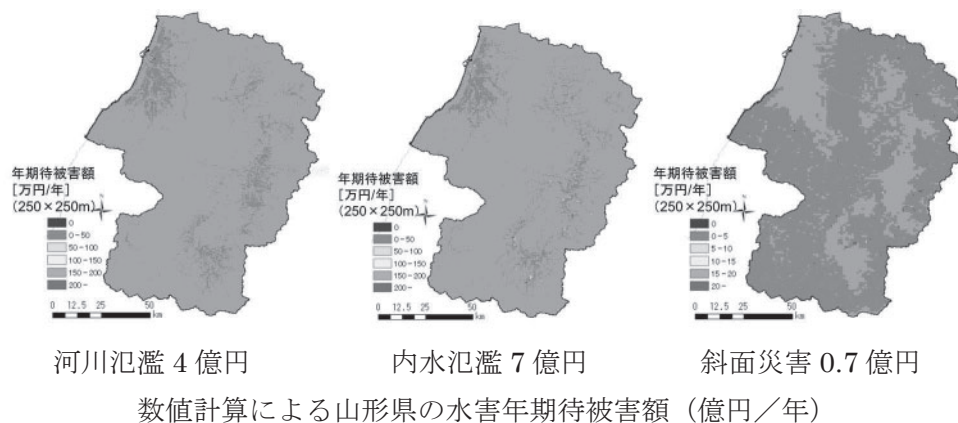
教員名：風間 聡

所 属：客員教授・東北大学大学院工学研究科土木工学専攻 教授

防災に関して下のような内容の研究を行っています。主に川に関するものです。

1. 気候変動に伴う水災害リスクの推定

環境研究総合推進費 S-18 の活動において、気候変動による日本の水災害被害額を推定し、その適応策を評価しています。複数の気候モデル (GCM) と温暖化シナリオ (RCP) から得られた気象データを、外水と内水の洪水氾濫モデルに入力して、再現確率に応じた各被害額を治水経済マニュアル (案) に従って計算します。河道掘削やたんぼダムなどの適応策の効果も、社会経済シナリオ (SSP) を考慮したモデルによって評価します。



2. R2 年最上川洪水氾濫の災害調査

R2 年に大規模氾濫した最上川流域において、白水川の破堤地点を中心に中流域の浸水調査を実施しました。雪国特有の高床住居が有効であること、犠牲者がゼロであること、などが特徴でした。一方、地方の河川は治水水準が十分でなく、整備水準も低く、観測機器の更新も進んでおらず、氾濫リスクは年々高まっています。

3. 海外の水災害研究

スリランカの洪水と斜面災害について気候変動と都市化の影響を見るとともに、数値計算によるリスク評価を行っています。国内で開発された物理モデルと深層学習を用いた推定方法の技術移転を進めています。異なる条件下の災害を研究することによって、様々な条件に対応できるモデルや評価手法を開発することができます。

4. 秋田県米代川流域の洪水予測精度の向上

高精度な分布型物理流出モデルを開発しています。特に融雪出水の研究を進めています。森吉山において積雪観測を実施し、山岳域の積雪分布の推定精度の向上に努めています。多くの融雪出水モデルはピーク流量の推定に問題がありますが、降雨パターンの解析やモデルの性質などをモデル定数に反映させることによってモデルの改善を目指しています。

教員名：狩野謙一

所 属：客員教授・静岡大学名誉教授

信州中～南部地域の新生代テクトニクス

本学理学部地球科学科卒業生の宮坂 晃と共同で調査してきた諏訪盆地・中信高原周辺に分布する鮮新統の小諸層群および塩嶺累層のテクトニクスに関する研究は、20-21 年度に公表した 3 論文によってほぼ完了した。その結果として、諏訪盆地の形成過程と、それに係わる糸魚川-静岡構造線の役割、大規模陥没構造の形成に伴った北八ヶ岳-霧ヶ峰-美ヶ原を含む中信高原地域の火山活動の特徴とその変遷、およびその後の隆起過程を考察することができた。また諏訪盆地南西側から中信高原を経て、小諸盆地にかけての鮮新世末期～中期更新世にいたる古地理の変遷について議論することができた。これらのうち、諏訪盆地周辺の糸魚川-静岡構造線は、現在最も地震災害リスクが大きい活断層帯の一つとされているが、活断層運動の起源は 150 万年前以降であることが明確になった。

この地域での調査は、塩嶺累層分布域の北側で、塩嶺累層・小諸層群の基盤とされている中央隆起帯の中部中新統内村累層に移行している。この中央隆起帯は、従来から中期中新世以降の“無褶曲地区”とされてきたが、実際には多数の褶曲が発達しており、そのテクトニクスについては再検討の必要があることが明らかになってきた。現在、調査はさらに北方の鮮新世以降の褶曲地帯とされてきた水内帯に進展し、前述した塩嶺累層・小諸層群を含めた中新世～更新世における広域テクトニクスをまとめつつある。

赤石山地(南アルプス)の地形・地質

南アルプスの地形・地質についての研究は 40 年以上に渡っているが、最近はその結果のまとめと普及・教育を行っている。20-21 年度については、大井川上流域の地質と地形の成り立ちを解説するための一般向け YouTube 動画を、県庁環境政策課と協力して作成した。このような普及・教育に関する取り組みは、随時行っていく予定である。

富士川河口断層帯

20-21 年度の富士川河口断層帯の調査では、特に羽鮒丘陵と星山丘陵の間の安居山低地を中心として、その地質と地形の成り立ちについて共同研究者とともに検討してきた。特に富士山側からの泥流～土石流堆積物と旧期新富士溶岩の流路が、安居山-大宮断層の活動と安居山低地の形成に規制されていることが明確となった。この点についての研究報告を作成中である。星山丘陵を通過する版茶法をも用いた地下構造解析は遅れていたが、新たな手法を用いて調査データの再解析を行った結果、複雑な地下形態を有することが明らかになってきた。現在、その結果をとりまとめ中である。

教員名：唐戸俊一郎

所 属：客員教授・イェール大学、地球惑星科学科教授

以下のテーマについての研究を行っている。

- (1) マントル物質の塑性変形
- (2) マントル物質への水（水素）の溶解とその効果
- (3) 地球型惑星の水の起源

教員名：小林 淳

所 属：客員教授・静岡県富士山世界遺産センター 学芸課教授

2019年4月より静岡県富士山世界遺産センターに勤務しています。同年8月より静岡大学防災総合センターの客員教員を務めています。専門は、火山地質学、第四紀地形地質学であり、火山の地形地質の形成過程に立脚した噴火史研究とこの成果を防災への取り組みとしていかしていきたいと考えています。

1 基本的な研究の取り組み

火山の地形や噴火による噴出物とその積み重なり等を詳細に観察することによって、火山の噴火史とその生い立ちを年表として明らかにすることを目指しています。特に広域テフラを年代基軸に利用した調査を行っています。派手な研究ではありませんが、現地で取得した地質データを一つ一つ積み上げることによって、個々の噴火の推移やメカニズムの復元につながると考えています。これらの研究成果は、火山の長い寿命の中での今の火山のクセを把握することにつながり、来るべき将来の噴火への備えの一つとして、ハザードマップや噴火シナリオの構築等に資する貴重な研究と考えています。

私が現在進めている研究は以下になります。

- ① 富士山の活動期転換期の噴火実績・特性とその時空間分布の解明
- ② 箱根山中央火口丘期、伊豆諸島北部火山群の噴火履歴の精緻化
- ③ 広域テフラを用いた噴火史層序の構築
- ④ 伊豆・小笠原火山弧北端部における噴火活動の関連性とメカニズムの検討

2 富士山に係る研究の取り組み

富士山の長期的噴火史の再構築と主要噴火の噴火推移の精緻化、並びに山麓地域の噴火ハザード評価を目的とした地質学的研究を進めています。このほかにも、静岡県富士山世界遺産センターでの多様な事業から得た知見を更に深めるための研究を進めています。

- ① 立川ローム上部ガラス質テフラ（UG）を用いた噴出物層序、火山発達過程の再構築
 - ・ 史跡大鹿窪遺跡（富士宮市）：芝川溶岩流との層位関係
 - ・ 国道246号線工事現場（沼津河川国道工事事務所）：岩屑なだれ堆積物との層位関係
 - ・ 活動転換期（星山期から富士宮期へ）における噴火様式・山体形成過程の検討
- ② 富士山噴火の地層剥ぎ取り試料製作・観察
 - ・ 過去4000年分の富士山噴火・崩壊イベントの地層剥ぎ取り試料（駿東郡小山町）
 - ・ 富士山南西麓の火砕流堆積物の地層・炭化樹幹の剥ぎ取り試料（富士宮市）
 - ・ 星山期の火山泥流堆積物の地層剥ぎ取り試料（富士宮市）
- ③ 涌玉池湧水のモニタリング
 - ・ 降雨イベントに対する地下水位や水素同位体比等の応答

3 期間中の主な活動

- 箱根山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会（委員）
- 富士宮市史編さん（執筆員）
- 日本火山学会 特集号「噴火史研究と火山観測を統合した新たな火山像の確立」（編集委員）
- 防災科学技術研究所 火山研究運営委員会データ利活用推進タスクフォース降灰チーム（委員）

教員名：佐藤興平

所 属：客員教授

群馬県前橋市の市街地には、「岩神の飛石」と呼ばれる国指定の天然記念物がある（写真参照）。この巨大な岩塊は安山岩質の溶結火砕岩で、1938年の指定時には近くの赤城火山から滑り落ちてきたとみなされていた。しかし近年、この岩塊の Sr 同位体比 ($^{87}\text{Sr}/^{86}\text{Sr}$) を、給源としての可能性が考えられる周辺火山の Sr 同位体比（防災総合センターのもと客員教授=野津憲治氏らによる研究）と比較することにより、この岩塊は西に 50km も離れた浅間火山からもたらされたことが明らかとなった。これに続く調査で、同じ Sr 同位体比をもつ同質の大岩塊を利根川や烏川の河床で多数確認し、それらの岩塊を運んできたと思われる前橋泥流（前橋~高崎地域の地盤を構成する厚さ 10-20m の火山泥流堆積物）に含まれる埋没木片の ^{14}C 年代測定により、この泥流の堆積時期が約 2.7 万年前であることも解明された。最終氷期さなかの寒冷な時代であったが、赤城山南麓の岩宿遺跡で知られるように、この地域には既に旧石器時代の人々が暮らしていたとみられ、彼らがこの火山泥流で被害を被った可能性も考えられる。

前橋泥流の発生は、浅間火山の形成初期に存在した黒斑火山の崩壊に起因するとみるのが一般的である。ところが、泥流の年代に関する検証を続ける中で、前橋泥流だけでなく長野県佐久地域など浅間火山周辺の泥流堆積物の埋没木片からも 2.7 万年より 1 万年以上も古い木片が複数発見され、山体崩壊は 1 回だけではなかった可能性も浮かび上がってきた。泥流堆積物中の小岩塊には浅間火山に関する従来のデータとは幾分異なる Sr 同位体比を持つ例も見出されており、崩壊事変は研究初期に推定したイメージよりも複雑なものであったとも考えられる。そもそも、(1) 山体崩壊の原因は何であったのか、(2) 黒斑火山から吾妻川の谷を経て前橋~高崎に至る 90km を超える長距離流動を可能にしたメカニズムは何かなどの基本的な問題が残されている。火山体は重力的には不安定な地形のひとつであり、防災の視点からも、前橋泥流に関わるこれらの問題の解明が待たれる。



前橋市街中心部に産する天然記念物「岩神の飛石」(1938年国指定)。地表部の高さは約 10m、地下にも 10m に及ぶ規模をもつことが前橋市教育委員会のボーリング調査で捉えられた。右は岩神神社の社殿。

教員名：佐藤 健

所 属：客員教授・東北大学災害科学国際研究所 教授

工学の都市・建築学をバックグラウンドとしながらも、教育学や社会学、経済学、地理学、医学などとの学際的研究に積極的に取り組み、学際融合による新しい研究成果の創造と、その社会実装による減災社会の構築を目指しています。

◎ 持続可能な防災活動のロールモデルに関する研究

まちづくり活動の中に防災活動を位置づけ、多様な人材の参画と若い人材の育成に取り組む地域コミュニティに着目し、持続可能な防災活動のロールモデルについて探究しています。

- Takeshi Sato, Aiko Sakurai, Yuki Sadaike, et al. : Sustainable Community Development for Disaster Resilience and Human Resources Development for Disaster Risk Reduction - Growth and Community Contribution of the Katahira Children's Board for Community Development -, Journal of Disaster Research, Vol.15, No.7, pp.931-942, 2020.12
- 佐藤 健, 桜井愛子, 小田隆史, 林田由那, 村山良之, 矢守克也 : コミュニティ・スクールにおける学校防災の推進モデル～横浜市立北綱島小学校の事例～, 自然災害科学, Vol.40, No.2, pp.175-190, 2021.8

◎ 防災教育を中心とした包括的学校安全に関する研究

東北大学災害科学国際研究所「防災教育国際協働センター」の研究者ネットワークを生かし、防災教育モデルの開発と実践、評価、さらには社会実装に取り組んでいます。また、学校と家庭・地域が連携した包括的学校安全の推進モデルを探究しています。

- Aiko Sakurai, Takeshi Sato, Yoshiyuki Murayama : Impact evaluation of a school-based disaster education program in a city affected by the 2011 great East Japan earthquake and tsunami disaster, International Journal of Disaster Risk Reduction, 47, 2020.

◎ 学校教員を対象としたリスクコミュニケーションモデルの開発に関する研究

学校防災の推進を担う役割を持つ学校教員を対象とした研修会の実践を通して、専門的知識の獲得プロセスやリスクコミュニケーションのロールモデルを探究しています。

- 小田隆史, 桜井愛子, 村山良之, 佐藤 健, 北浦早苗, 加賀谷 碧 : 教員の地図リテラシー育成とハザード理解に向けた学校防災研修一宮城県石巻市における試行から一, 安全教育学研究, Vol.20, No.1, pp.27-36, 2020.9
- 村山良之, 桜井愛子, 佐藤 健, 北浦早苗, 小田隆史, 熊谷 誠 : 地形とハザードマップに関するオンライン教員研修プログラムの開発～学校防災の自校化のために～, 季刊地理学, Vol.73, No.2, pp.94-107, 2021.

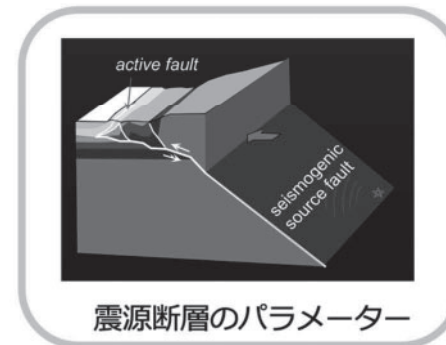
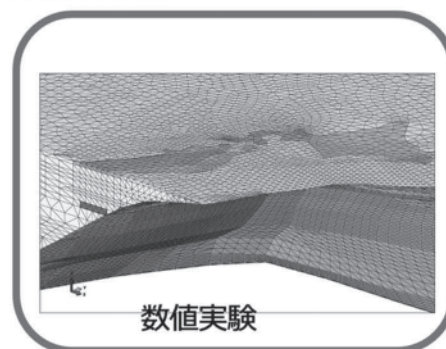
教員名：佐藤比呂志

所 属：客員教授・東京大学名誉教授

M7クラスの内陸地震でも、ごく僅かの地表地震断層しか伴わない地震が多く、地表近傍の資料のみから活断層を捉えることには限界がある。また、上盤プレート内の応力状態は、沈み込むプレート境界の固着状態に支配されており、こうしたシステムの影響を無視した活動履歴に基づいた内陸地震のリスク評価には、根本的な問題がある。これらの問題を打開するためには、プレートの沈み込みを考慮した上盤プレートの内の応力・地殻変動のモデル化、そしてその中の震源断層に作用する応力を推定することが重要な課題となる。2011年の東北地方太平洋沖地震後の地殻変動データを用いて、基本的なモデル化が可能となり、震源断層に作用するクーロン応力の蓄積速度の計算が可能になった。一方、断層の強度には断層それぞれの特性があり、こうした要素と組み合わせることで、今後、物理モデルに基づいた上盤プレート内の震源断層のリスク評価が可能になると考えている。

日本列島の震源断層のほとんどが、第四紀以前に形成された断層の再活動であり、震源断層の広がりや姿勢の推定には、地質学的な検討が重要である。このため、地震研在職中に取得した地殻構造探査結果を取りまとめるとともに、地質情報を活用し、震源断層の矩形モデルを構築していく予定である。

数十年スケールの地震発生ポテンシャル評価のために

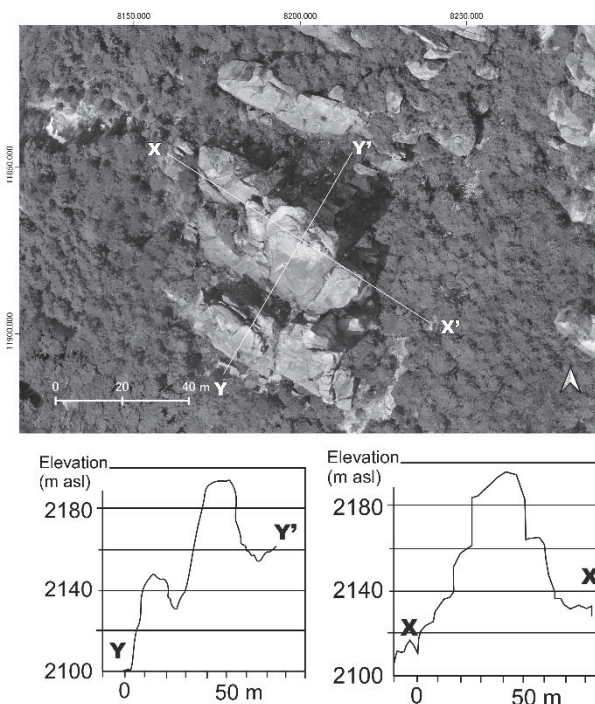


教員名：千木良雅弘

所 属：客員教授・公益財団法人 深田地質研究所 理事長

2020年3月に京都大学防災研究所を退職して、公益財団法人深田地質研究所に勤めております。新しい職場では、花崗岩の風化挙動を支配する花崗岩の冷却節理に関連する研究と山体の解体過程に関する研究を主に行っています。冷却節理に関する研究では、ドローンを使った3次元的節理のモデリングを行っています。従来、花崗岩には岩塔や岩海などの奇岩が多いことが知られていますが、これらが花崗岩の冷却時の柱状節理に起因する場合が多いことが明らかになってきました。このような石柱が球状風化してコアストーンをつくり、それが崩壊して土石流の破壊力を増すこともわかってきました。

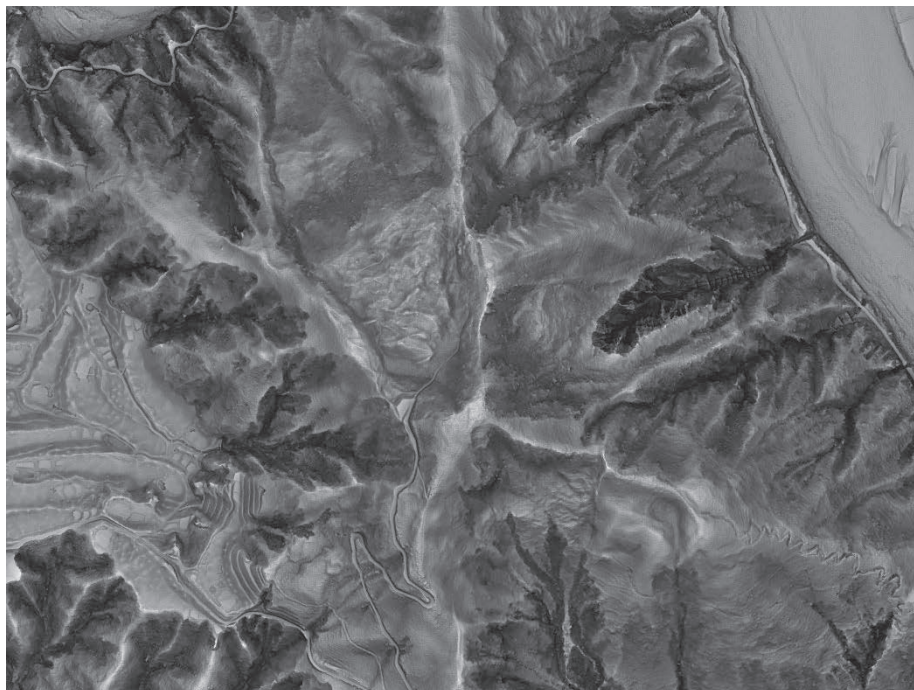
2021年7月の熱海の土石流の調査を行い、崩壊した盛土は古い沖積錐の上に造成されていたこと、また、古い地すべりの傷跡からの出水が盛土崩壊の引き金になったことを明らかにしました。



山梨県瑞牆山の岩塔。柱状節理に取り囲まれている (Chigira, 2021, Island Arc).

教員名：土屋 智

所 属：客員教授・静岡大学名誉教授



宝永地震時に崩壊し富士川を堰き止めた白鳥山について調査する機会があり、2012年に静岡大学総合防災センターが委託業務で作成した航空レーザー計測結果を用いた。

上記の赤色立体図（北：上方）がその一部である。図の中央部には白鳥山（標高567.4m）、右端には富士川が灰色の平坦地形として上方から流下、左端には随縁カントリークラブセンチューリ富士コースが明瞭に描かれている。白鳥山から右手（東）に見える赤銅色のやや幅広の谷地形が、宝永地震により崩壊し富士川を堰き止めた崩壊地である（安政東海地震でも崩落があり富士川を堰き止めた）。

白鳥山東斜面は、山頂直下の急崖から緩斜面がほぼ馬蹄形に広がり、中腹から白鳥山崩壊地が急崖をなしている。一方、南斜面をみると東斜面と同じように山頂直下から緩斜面があり、その中央には塩出村災害（宝永地震の2年前に発生、36人が溺死）の原因となった崩落源流部が見られる。さらに北斜面にも山頂直下に陥没斜面がみられ、その中央付近に一段下がった地形が見られる。北斜面では崩壊の記録はみられないものの、東斜面、南斜面と同様に陥没地形が存在しそれぞれ崩壊履歴があることを思うと、当該斜面でも豪雨時あるいは地震時に崩落が生じ富士川を塞ぎ止める危険性が高いと認識せざるを得ない。

白鳥山をとりまく陥没地形の存在は、宝永地震時に白鳥山東斜面は山体崩壊したか？の疑問を生む。東斜面に残る緩斜面が宝永地震時に山体崩壊したとすると、南斜面と北斜面に見られる緩斜面との整合性が疑われる。ただし富士川を堰き止めた土砂が崩壊地起因であるとするには、少なくとも堰き止め土量と崩土量が釣り合うことが条件である。

目下のところ、これを検証する土砂流動シミュレーションに取り組んでいる。

教員名：中川和之

所 属：客員教授・時事通信社

2020年3月末で、12年間続けた日本ジオパーク委員会(JGC)の委員などとしての審査任務を終えましたが、2021年7月に、地質、地理、第四紀、火山、地震、応用地質、地形学連合、活断層のJGC調査運営部会に委員を出していた8学会で設立した日本ジオパーク学術支援連合(JGASU)の委員を務めています。JGCの組織が、ユネスコガイドラインに沿った構成になったことから、関係学会とジオパークとの組織的つながりが薄くなることが懸念されていましたが、今後はJGASUが母体となって、広くたような学術がジオパークを支えていくとともに、学術研究の重要性が社会に浸透していくことに繋がればと考えています。

2020年1月に、阪神大震災をきっかけに行われてきた世界語り継ぎフォーラムで「ジオパークと語り継ぎ」分科会の共同座長を務めたことをきっかけに、日本が主導してきたジオパークと自然災害・防災についての関わりを、まとめて論文にすることができました。

2020-2023年度の科研費基盤研究(C)に採択された「事前の地学教育が震災時のストレス軽減を促す心理的プロセスの検証ー熊本地震の事例」の研究は、コロナ禍でなかなか進められなかったのですが、小学校で断層の授業を受けた当時の子どもたちのヒヤリングが実施でき、まとめを行っています。

内閣府(防災)の災害被害を軽減する国民運動の一環で開設されている「TEAM 防災ジャパン」というWebサイトのアドバイザーとして、多様な防災に関わる情報を、住民や企業、自治体職員らに役立つようお届けするお手伝いをしています。情報をいちばん知っているのは人。情報で人の知恵をつなぐサイトにしたいと取り組んでいます。

総務省消防庁のお手伝いで、2014年からベテラン災害記者たちと続けているトップセミナー用研修資料が、2017年度の災害を中心にした事例集以降、消防庁の防災・危機管理eカレッジで公開されています。災害を経験した首長たちが、その時に何を考えたのかの生々しい経験談や、全国の首長仲間へのメッセージは、ずっしり重たい内容になっています。

<https://www.fdma.go.jp/relocation/e-college/senmon/cat2/cat3/post-1483.html>

教員名：林 拙郎

所 属：客員教授・三重大学名誉教授

地震性の土砂災害は、地盤変状・建物被害などの一般的な地震災害にくらべて被害面積が大きいにもかかわらず、あまり注目されることが少なかった。地震性の斜面崩壊の場合、小規模な崩壊にしる、大規模崩壊にしる、これまで、崩壊量と地震量との関係はほとんど研究されてこなかった。地震量としては、従来の斜面安定解析の延長より、震動の最大加速度(PGA)が崩壊量の因子として有効なように考えられていた。また、気象庁の旧震度階でも震度VI以上で山崩れが発生し、その加速度は 250-400gal であるとしていた。

その後、一般の地震被害の研究においては、強震動のエネルギーが構造物の崩壊に対して重要と考えられるようになってきた。一方、山崩れが従来から地震被害の発現現象として気象庁震度階に採用されていた。気象庁震度がその後、計測震度に変更されたが、山崩れについては発現現象に従来同様、残されている。この計測震度については、最近、最大加速度(PGA)と最大速度(PGV)の両方が関係していることが指摘されるようになった。こういう経過より、震動エネルギーと震度因子を取り上げて大規模崩壊の発生要因についてこれまでのデータの再検討を行っている。

教員名：藤岡換太郎

所 属：客員教授

2020年4月に静岡大学防災総合センターの客員教授となる。20年から朝日カルチャーセンターで地球科学関係の講座を開設し毎月講演をしてきた。内容は山、フォッサマグナ、見えない絶景という深海底の話、三つの石で地球がわかるなど。2020年には講談社からブルーバックスで見えない絶景を上梓しこれに関係する講座を新宿でおこなった。見えない絶景は連続12回の講義を行い世界中の海嶺や海溝、海山など海底の大きな構造についての話をする。

海洋産業の航海で沖縄トラフの伊是名海穴にて熱水の調査に従事する。海底地形や地質、電磁気、化学物質の調査など。

2021年からは朝日カルチャーセンターは横浜でも開講されて月に2回新宿と横浜で講義を行ってきた。京都府立大学松田法子准教授の科研費、紀伊半島の漁村の調査にメンバーとして参加し、和歌山県の雑賀崎、塩津、三尾、三重県の鳥羽離島の答志島、神島、菅島の調査に現地へ赴いた。

2020年から21年にかけて伊豆大島、佐渡島、神奈川県のカ、相模川、酒匂川、境川、鶴見川、花水川などを巡検調査を行う。その他東海道の巡検調査や秦野盆地の震生湖など神奈川県を歩いて調査を行った。

これらの講義や調査は地球科学的な内容であるがその中には災害に関係したことも多く、地震、津波、気候変動などのテーマに関しても講義や調査に取り入れてきた。

今までの結果はいくつかの本や書き物として出版してきたが、現在特異災害と関係の深い天変地異についてまとめて「天変地異」という本にまとめていて2022年8月には出版予定である。

今後は地球科学と歴史や文化との関係について考察したいと考えている。その中で災害との関係は切っても切れない関係にあるのでその点についても十分に注意をしなければならぬと思っている。

教員名：増田俊明

所 属：客員教授・静岡大学名誉教授

最近の研究活動

応力場で岩石中に鉱物が核形成する際に、主応力に対してどういう結晶軸の方向を向くのかについて、応力場での反応速度論のモデルを用いて検討している。そのモデルでは、核形成速度 (I) を絶対温度 (T) と垂直応力 (σ_n) の関数として

$$I(T, \sigma_n) = A \exp\left(-\frac{\Delta U^* - T\Delta S^* + \sigma_n \Delta V^*}{k_B T}\right)$$

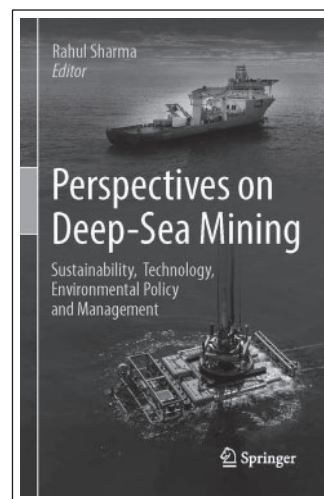
で表示した。ここで、 A は定数、 ΔU^* は活性化内部エネルギー、 ΔS^* は活性化エントロピー、 ΔV^* は活性化体積、 k_B はボルツマン定数である。このモデルを用いて変形変成岩中の雲母類や角閃石などの結晶軸の選択配向について、実際に計測されたものとよく似たパターンを作り出すことができた。

この研究は、直接防災知識と関連するものではないが、間接的には、山岳地帯の岩盤等の強度と関連するものと考えられる。風化変質鉱物が応力場で成長する際の選択配向は岩石や地盤の強度異方性に大きく影響するからである。

教員名：森下祐一

所 属：客員教授

海洋底の海山壁面でゆっくりと成長する鉄マンガンクラストには白金族のうち Pt が濃集することが全岩分析などで知られている。拓洋第五海山から採取した鉄マンガンクラストの Mn, Fe, Pt 化学組成を、二次イオン質量分析 (SIMS) による微小領域定量分析により明らかにした。SIMS 分析は、10nm 程度の非常に高い深さ方向分解能がある。このため、100 万年に 2.5mm しか成長しない鉄マンガンクラストの 5 年ごとの化学組成を明らかにすることが出来た。この結果、Pt はクラストの房に含有されているが、その濃度には微小領域での空間的な不均質性があることを世界で初めて明らかにした。研究成果は Springer Nature の書籍 (Perspectives on deep-sea mining: Sustainability, technology, environmental policy and management) の第 5 章 (Morishita, Y., Usui, A., Takahata, N., Sano, Y., 2022, Secondary ion mass spectrometry microanalysis of platinum in hydrogenetic ferromanganese crusts) として出版された。



金属鉱床の鉱床成因研究では、酸素・炭素同位体比分析に基づき、高取タングステン石英脈 (Morishita and Nishio, 2021) や神岡スカルン鉱床 (Morishita and Wada, 2021) の鉱化熱水の起源に関する研究成果を学術論文として出版した。

一方、月の Procellarum KREEP Terrane における岩石薄片の SIMS 分析を行い、同地域におけるマグマの進化を検討考察することにより、月形成の起源に迫る研究成果を公表した (Togashi et al., 2022)。

社会的活動では、静岡県環境影響評価審査会において、大規模事業で構造物を建設する際の、例えば土地の安定性の確保に関して地質学の知見を活用して、事業実施による環境への影響を低減する審議を行った。

一方、リニア中央新幹線事業の一環として南アルプスの地下をトンネル掘削する計画について、国土交通省鉄道局リニア中央新幹線静岡工区有識者会議委員や静岡県中央新幹線環境保全連絡会議地質構造・水資源部会専門部会長として、大井川源流部地下のトンネル掘削が大井川上流域、中・下流域の水資源に及ぼす影響等について科学的に検討した。

防災等の観点からは、トンネル掘削により発生する土を受容する土捨て場の安定性等について検討した。

教員名：山崎 登

所 属：客員教授・国士舘大学 防災・救急救助総合研究所教授

『10年経った東日本大震災の被災地』

新型コロナの感染拡大で2021年（令和3年）4月に発出された緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が9月30日に全国で解除された。それまでの一年半は災害の被災地などに取材に行くのを控えていたが、ワクチンの接種も進んで感染者も激減したことから、東日本大震災の被災地の岩手、宮城、福島の3県を取材した。ここでは宮城県の取材について報告したい。

国はこの10年で30兆円以上をつぎ込んで防潮堤や高台移転、災害公営住宅などのインフラ整備を行いハード面の復興は進んだ。宮城県によると、防潮堤などの海岸保全施設の整備は88%（2021年8月時点）が完成し、高台移転などで供給する民間住宅等用地と災害公営住宅はすべての整備が完了した。こうしてハード面での整備が進んだ一方で、新たに見えてきた課題があった。ここでは2つの課題を指摘したい。

一つは高齢者の見守りをどうするかだ。宮城県石巻市では復興公営住宅の一部に平屋建てで各部屋が廊下でつながり、入居者同士が支えあう「共助型住宅」を整備した。これは入居者それぞれが自立した生活を送るとともに、全体が一つの家屋に同居するような距離感で、お互いに見守り、助け合って暮らすことを目指したものだ。石巻市新西前第三復興住宅では2021年（令和3年）9月の段階で34世帯40人が生活していたが、平均年齢は73.6歳、高齢化率は87.5%だった。このため入居当初は見守りを担っていた人が高齢化によって見守られる側になり、「お互いが見守りあう」という当初の目的を果たすことが難しくなっていた。石巻市では今後、支援員を配置して入居者の暮らしを支えたいとしていた。

東日本大震災の被災地はもともと高齢化が進んでいったところが多いだけに、高齢者の健康不安や孤立、コミュニティの再生、見守りなどにどう向き合うかは共通した大きな課題だ。



新西前沼第三復興住宅（宮城県石巻市・筆者撮影）

二つ目の課題は移転元地の利活用だ。復興庁によると、被災地では約1万8000戸の高台移転が行われたが、行政が買い上げた移転元地の利用がなかなか進まないのが現状だ。手つかずになっている移転地にはニセアカシアやヤナギ、雑草などが生い茂ってまるで原野のようになっていた。そこで宮城県東松島市では移転元地の野蒜地区に「果樹の花里づくり」を進めようとしていた。全体の面積は25haで梅栽培を中心とした観光レクリエーション空間を整備したいというが、一帯には市有地と民有地がモザイク状に残されていた。堤防や復興住宅を作る際に相続などの手続きが行われていない土地で所有者の特定などに時間がかかったケースがあったが、移転元地の利活用にも同じ問題があるうえに財源の確保の問題もある。被災地に多い小さな基礎自治体だけの手には負えない問題のように思えた。

このほか水産業を中心とした産業の振興など10年経った被災地にはまだ多くの復興の課題が残されていた。また地震と津波の被害に加えて原発事故に見舞われた福島県では災害そのものが進行中という印象を強くした。今後も被災地の取材を継続し、被災地に寄り添いながら息の長い支援を考えていく必要があることを改めて強く感じた。

教員名：吉田明夫

所 属：客員教授

箱根火山の大涌谷では 2015 年に微小な水蒸気噴火が観測された。2001 年にも火山性蒸気を元に温泉水を造成している大涌谷の蒸気井が暴噴を起こしている。箱根火山は今世紀に入ってのち火山活動が活発化し、群発的な地震活動が、2001 年、2006 年、2008～2009 年、2011 年、2013 年、2015 年、2017 年と繰り返し発生している（ただし、2011 年の群発活動は東北地方太平洋沖の M9.0 の巨大地震によって誘発されたもの）、それに伴って箱根火山の山体膨張が GNSS で観測されている。大涌谷には季節を問わず毎日多くの観光客が訪れており、たとえ小規模の水蒸気噴火であっても、もし、未警戒のなかで噴火が発生すれば大災害が生じかねない。災害を未然に防ぐ上で、水蒸気噴火の発生を的確に予測することは極めて重要である。

2015 年の微小水蒸気噴火の後、噴火警戒レベル引き上げの基準が見直された。その見直しにあたっては、できるだけ客観性を担保できるようにという観点から、群発地震の回数や傾斜変動の大きさ、浅い低周波微動の発生など、数値的な基準の設定が可能なものが重視されている。しかし、例えば地震回数がレベル 3 の基準値を少し満たさないからと言って、あるいは傾斜変動量がわずかにレベル 4 の基準値に達しないからと言って、小規模の水蒸気噴火が発生する心配はないとは必ずしも言えないだろう。レベル引き上げの判断に、地震回数や傾斜変動の大きさなどの数値に過度に拘泥するのは問題があるのではなかろうか。

今世紀に入ってから繰り返し起きている箱根の火山活動の活発化において、大涌谷で水蒸気噴火が発生する危険があったのは、実際に微小な水蒸気噴火を起こした 2015 年の活動と、それに準ずる蒸気井の暴噴があった 2001 年の活動である。実は、これらの活動では、他の何度かの活動と明瞭に異なる特徴的な地殻変動が生じていることが見つかった。そのパターンの発現は、箱根火山で水蒸気噴火が発生する仕組みと密接な関わりを持つと推定されることから、この特徴的な地殻変動に注目して監視することにより、水蒸気噴火が起きる可能性がある火山活動が生じているか否かに関して、地震回数や傾斜変動の大きさなどの数値的な基準とは別の、火山体内部で起きているプロセスについての考察に基づいた、言うならば、科学的な視点からの評価・判断ができるのではないかと期待している。

教員名：渡辺俊樹

所 属：客員教授・名古屋大学大学院環境学研究科 教授

主に地震波を用いて地球の内部を「見る」、物理探査の研究を行っています。防災に関連する研究では、地震や火山活動が起きる場所がどのようになっている、なぜ地震・火山噴火が起きるのかを理解するために、まず、そこを「見て」構造や状態を明らかにし、さらに、現象が発生するまでのプロセスを「監視する」ことを目指して研究をしています。また、地すべりや液状化といった地盤災害に関する浅部地盤探査の研究も行っています。

2019年度と2021年度には東京都立大学（2019年当時は首都大学東京）の島嶼の火山災害研究プロジェクトの一環として、八丈島における地震観測の実施に協力しました。八丈島（と八丈小島）に計46点の地震観測点を設置し、それぞれ7ヶ月間の地震観測を実施して、連続地震記録を取得しました。このデータを用いて、火山島下の地震波速度分布の推定と、それを用いた微小地震の震源の精密決定、また、2回の観測による変化の有無の検出の解析を共同研究として実施しています。また、火山の散乱体構造やその時間変化のモニタリングなどの解析も試みています。

2020年度から「屏風山・恵那山断層帯及び猿投山断層帯（恵那山-猿投山北断層帯）における重点的な調査観測」の研究プロジェクトにおいて、「断層の三次元地下形状把握のための調査観測（サブテーマ3）」を実施しています。そのために、2021年度に反射法探査を実施しました。恵那山-猿投山北断層帯の西半部と東半部の境界付近における複数の断層、ならびに屏風山断層及び猿投山北断層との間の地下での連続性を把握し、各断層の地下での三次元的形状や連続性等を明らかにすることが目的です。それぞれ約5~7 km長の計3本の測線（測線長合計約17.8 km）において、総発振点数約2000点、受振点数1050点の反射法探査を実施しました。また屈折法探査も合わせて実施し、速度構造を明らかにすることとしています。また、この地域で過去に発生した微小地震活動の詳細な解析を行い、精密震源再決定を行って、震源分布の三次元的形状をもとに各断層の地下での接続の様子を推定する研究も実施しています。

本センターの副担当の生田准教授らとともに、人工震源装置を用いた断層・地表・地殻内部の構造および状態のモニタリングの研究を実施しています。

教員名：菅原大助

所 属：客員准教授・東北大学災害科学国際研究所准教授

東北地方での津波堆積物調査を中心に、清水建設との共同研究による津波土砂移動解析のV&V、新潟大との共同研究による佐渡島での調査、内閣府SIPによる高潮・高波リアルタイム浸水予測システムの開発、JST 未来社会創造事業によるデジタル防災コミュニティの探索プロジェクトの着手など、各分野で調査研究を進めました。また、防災総合センターの北村晃寿教授との共同研究の成果を始めとして、学術論文や著書などを公表しました。古今書院からの図書（原口 強・今村文彦・菅原大助・岩松 暉 著『津波詳細地図にみる東日本大震災の10年』、2022年3月）の出版に関連して、東日本大震災の津波による東北地方沿岸各地での浸水状況を数値シミュレーションで再現した動画を掲載するYouTubeチャンネルも開設しました。岩手・宮城・福島から34地点を公開中です（2022年7月5日現在）。

【東日本大震災 津波シミュレーションCG】

<https://www.youtube.com/channel/UC8jWrHltsavnSic1xATKhg>



東日本大震災 津波シミュレーションCG
チャンネル登録者数 18人

チャンネルをカスタマイズ 動画を管理

ホーム 動画 再生リスト チャンネル 概要

アップロード済み

宮城県石巻市 鮫浦湾 54 回視聴・7か月前 1:22	岩手県宮古市 閉伊川河口 59 回視聴・7か月前 1:01	宮城県石巻市 新北上川河口 59 回視聴・7か月前 0:38	岩手県下閉伊郡山田町船越 小谷島漁港 42 回視聴・7か月前 1:16	宮城県巨理郡巨理町吉田～山元町山寺 牛橋河口 62 回視聴・7か月前 2:12	宮城県名取市～岩沼市 仙台空港 (T3) 26 回視聴・7か月前 1:16
宮城県石巻市 旧北上川河口・石巻漁港 58 回視聴・7か月前 1:16	福島県相馬市 松川浦・宇多川河口・小泉川河口 16 回視聴・7か月前 0:40	宮城県仙台市宮城野区 仙台港 31 回視聴・7か月前 1:16	宮城県巨理郡巨理町吉田 島の海・吉田浜 19 回視聴・7か月前 2:12	岩手県大船渡市三陸町 越喜来湾 33 回視聴・7か月前 1:22	宮城県巨理郡山元町 磯浜漁港・水神沼 21 回視聴・7か月前 2:12
宮城県仙台市若林区荒浜～宮城野区新浜 1:16	岩手県大船渡市三陸町 吉浜湾 1:22	福島県相馬郡新地町 均浜 17 回視聴・7か月前 2:12	宮城県本吉郡南三陸町歌津 224 回視聴・7か月前 1:41	宮城県本吉郡南三陸町志津川 129 回視聴・7か月前 1:41	宮城県東松島市野蒜 107 回視聴・7か月前 1:28

教員名：中西利典

所 属：客員准教授・ふじのくに地球環境史ミュージアム 准教授

沖積層を中心とした第四系を対象にして地層の形成過程の検討や、放射性炭素 (^{14}C) による年代測定を用いた編年を実施しています。これらの調査研究によって、大規模な地震や津波、火山噴火などの履歴を記録している沿岸低地の堆積物を分析して、プレート間で発生する巨大地震や津波および都市域の直下において大規模地震を生じさせる伏在活断層の活動履歴などを検討しています。静岡県内では、富士川河口断層帯や北伊豆断層帯、大井川の環流旧河谷、菊川低地、伊豆半島の隆起地形などで研究を進めています。

2021 年度まで取り組んだ科学研究費補助金基盤研究 (B) の研究では、海洋表層水に由来する ^{14}C 年代値と大気起源の値との差異 (海洋リザーバー効果) の時空間変化を検討するために、釧路市、三陸海岸、関東平野、浮島ヶ原、清水平野、菊川低地、濃尾平野、隠岐諸島、斐伊川河口、高知平野、宿毛平野、大分平野、宮崎平野、台湾南西部の嘉南平原等の完新統および上部更新統の同層準から得られた貝化石と植物片の ^{14}C 年代値を比較しました (図 1)。

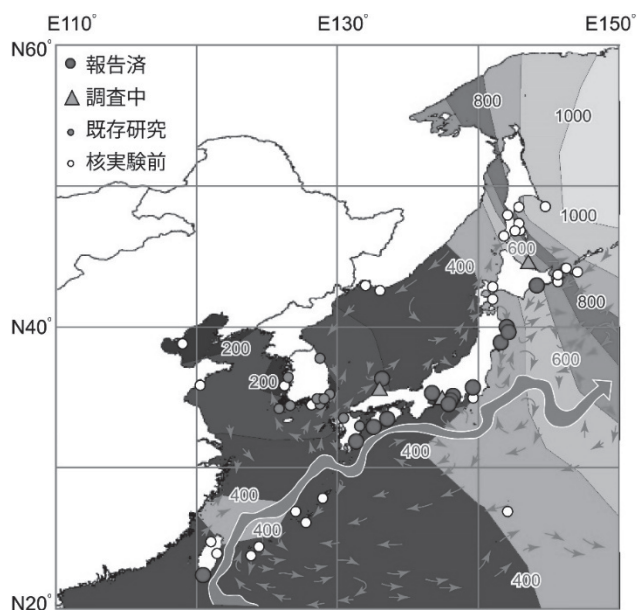


図 1. 東アジアの ^{14}C 海洋リザーバー効果と調査状況 (Nakanishi *et al.*, 2017 を改編).

教員名：楠城一嘉

所 属：客員准教授・静岡県立大学グローバル地域センター自然災害研究部門代表・特任
准教授

これまで私が所属していたグローバル地域センター地震予知部門は、2022年4月に同センター自然災害研究部門へと改組しました。地震の研究だけではなく、津波や火山、風水害など様々な自然災害を研究し、静岡県民に向けて、これまで以上に分かりやすく情報発信する組織へと生まれ変わります。

最近の私の防災研究の一例として、「熊本地震の本震の前に発生した規模の小さい地震の活動が通常と違い、本震発生の兆候を示す特徴があった」とする研究成果を発表しました¹⁾。熊本地域のような、活断層が分布する地域で大地震が発生した場合、大地震が隣接の活断層で続発する可能性があるかの評価に結びつく点で、地震防災上、重要な研究です。本成果は、地球科学の専門科学雑誌に掲載され、メディアを通じた報道もされました。

また、防災啓発を目的とした活動例として二つ挙げます。一つ目は、「地震と火山と防災のはなし」を出版したことです²⁾。本書は、大学生や高校生に日本の自然に興味を持ち、防災の心構えを持ってもらえるように書いた読み物です。一つ一つ的话题を1,000文字前後とし、通学中や隙間時間など気軽に読破できます。そのため、さまざまな世代の方に読んでいただけます。

二つの目は、防災・環境問題を切り口とし、私たちは何ができるかを考え行動するきっかけ作りのSDGsシンポジウムを開催したことです³⁾。本シンポジウムを通して、「誰一人取り残さない」約束を掲げるSDGs社会の大切さを再確認する機会となりました。

- 1) K. Z. Nanjo, J. Izutsu, Y. Orihara, M. Kamogawa: Changes in seismicity pattern due to the 2016 Kumamoto earthquake sequence and implications for improving the foreshock traffic-light system, *Tectonophysics*, Vol. 822, 229175, 2022, DOI: 10.1016/j.tecto.2021.229175.
- 2) 楠城一嘉: 地震と火山と防災のはなし, 成山堂書店, 2022年.
- 3) 国際シンポジウム「防災×環境×SDGs」
https://www.global-center.jp/holding_guidance/20220211/.

教員名：本間基寛

所 属：客員准教授・一般財団法人日本気象協会 担当部長

2020～2021 年度は、「豪雨災害における犠牲者数の推定方法に関する研究」に取り組みました。この研究では、平成 30 年 7 月豪雨、令和元年台風 19 号、令和 2 年 7 月豪雨における犠牲者の位置データと 1km メッシュでの降雨観測データを分析することにより、降雨に関する各種指標から「推計犠牲者発生数」を算出する可能性について検討を行、3, 6, 12, 24, 48, 72 時間の降雨継続時間雨量や土壌雨量指数といった 7 つの降雨指標について、降雨指標そのものではなく過去の観測最大値との比である「既往最大比」が犠牲者発生との関係性が高いことがわかりました。その結果を活用し、令和 3 年 8 月の大雨では、日本気象協会のホームページを通じて、予測される降水量から既往最大比や犠牲者発生ポテンシャル情報の発信を行い、豪雨災害時における人的被害の軽減に資する活動を行いました。

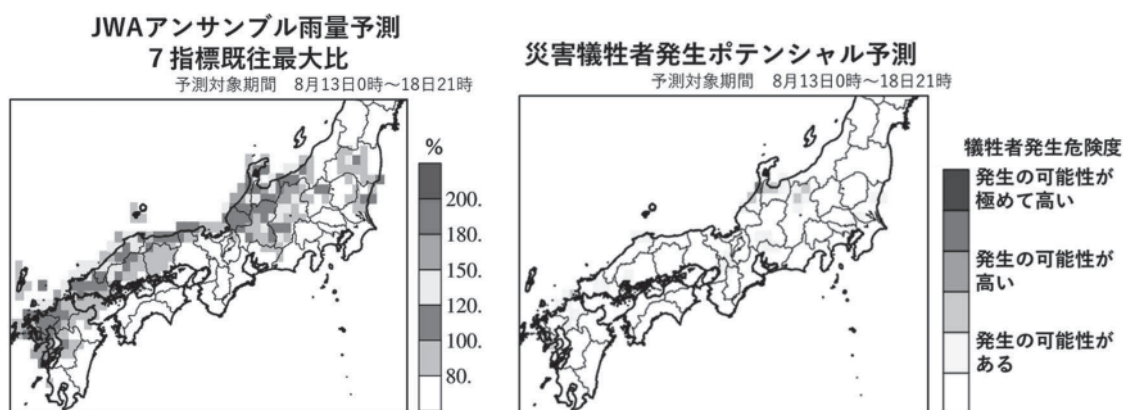


図 2021年8月13日に日本気象協会のホームページから発表した「防災レポート Vol.12」に使用した図 (<https://www.jwa.or.jp/news/2021/08/14218/>)

教員名：松井 務

所 属：客員准教授・国立大学法人 浜松医科大学 地域医療学講座 客員准教授

地域医療学講座は、中部電力株式会社による寄附講座です。

静岡県では安全・安心な地域を形成するために、南海トラフ地震などの集団災害に備えた対策を行政、住民などが一体となって進めています。しかし、対策を実行する上で重要な役割を担う医療の実態は、人口 10 万人あたりの医師数が静岡県は全国平均に比べて少なく、さらに二次保健医療圏別にみると中東遠および志太榛原の両医療圏は全国平均の 6 割～7 割程度であるなど、医師不足そして医師の地域偏在が深刻になっています。

医療面からの集団災害への対応は、まずは平常時から地域の各病院が正常に機能し、その上で災害発生を想定した訓練等の準備を継続することが重要です。そこで当講座は、上記の二次医療圏を中心に住民の立場から地域医療を育む住民活動の支援や災害医療（特に原子力災害医療）に関わる人材育成などの活動を行っています。

2.2 研究業績リスト

2.2.1 著書

- 藤井基貴・栗島智明「ドイツにおける学問の自由の生成と制度化」『学問の自由の現代的状況と課題』岩波書店、2022年3月、1-23頁。
- 藤井基貴編著『防災道徳』東京書籍、2021年、全9頁。
- 藤井基貴「防災・環境問題と道徳教育」『新道徳教育全集 第1巻 道徳教育の変遷・展開・展望』学文社、2021年、141-148頁（全275頁）。
- 藤井基貴「道徳教育」『小学校教育用語事典』ミネルヴァ書房、2021年、199-214頁（全366頁）。
- 藤井基貴「はじめに」「スポーツ・インテグリティ教育の可能性」『自律的思考を促すスポーツ・インテグリティ教育』静岡学術出版、2021年、6頁、33-52頁（全160頁）。
- 藤井基貴「道徳とは何か」『道徳教育の理論と方法』ミネルヴァ書房、2020年、3-15頁（全243頁）。
- 藤井基貴「第一章等 オンライン研修教材」『選手のインテグリティをどう育成するか』静岡大学現代教育研究所、2020年、6-8、17-20頁（全30頁）。
- 藤岡換太郎 見えない絶景 深海底巨大地形、講談社ブルーバックス、2020
- 林 拙郎：斜面崩壊・地すべり・土石流による土砂災害の発生構造，技報堂出版，2021，288P.
- 狩野謙一・北村晃寿，第4章：静岡周辺の直下型地震と断層運動．岩田孝仁・北村晃寿・小山真人・編「静岡の大規模自然災害の科学」，静岡新聞出版社，67-93. (2020)
- 風間聡,SI-CAT ガイドブック編集委員会編:気候変動適応技術の社会実装ガイドブック，技報堂出版，pp.178-181, 2020.10.1.
- 風間聡編:河川工学，理工図書，180p, 2020.9.16.（共著）
- 木村浩之，静岡の大規模自然災害の科学，静岡新聞社，2020（「第IV部 第5章 ライフラインを自家供給する地域防災拠点の創成」を執筆した）。
- Kitamura, A., CHAPTER 15 The application of molluscs for Investigating tsunami deposits. Geological Records of Tsunamis and Other Extreme Waves. 323-342. In Engel, M., Pilarczyk, J., May, S., M., Garrett, E., Elsevier, Amsterdam, Netherlands, 2020.
- 小杉素子:地域社会とのコミュニケーション社会技術 2：気候変動リスクコミュニケーション（分担執筆：8章），『気候変動適応に向けた地域政策と社会実装』2021 田中充・馬場健司編著 技報堂出版
- 小杉素子:気候変動適応技術の社会的実装を支える社会技術（項目共著：2-27）『気候変動適応技術の社会実装ガイドブック』，2020 SI-CAT ガイドブック編集委員会編，技報堂出版（編集委員会委員・編集副統括）
- 小山真人:地震と火山と防災のはなし．楠城一嘉（編）成山堂書店，118p，2022（分担執

筆)

小山真人:静岡の自然と文化 東部・伊豆半島を中心に 静岡大学地域創造教育センター
(編) 静岡大学公開講座ブックレット 11, 静岡大学地域創造教育センター, 50 p. 2021
(分担執筆)

Morishita, Y., Usui, A., Takahata, N., Sano, Y. (2022) Secondary ion mass spectrometry
microanalysis of platinum in hydrogenetic ferromanganese crusts, 115-133, in
Perspectives on deep-sea mining, Springer Nature, Switzerland, 689pp.

村越真・生田領野 (共同監修), 藤子・F・不二夫 (著者): ドラえもん探求ワールド ―自
然の脅威と防災―, 小学館, 2020 年, (第一章 自然の脅威 1-93)

村越真(2021)スポーツ・インテグリティとリスクマネジメント. 藤井基貴他 (編) 教育の現
代的課題シリーズ 自律的思考を促すスポーツ・インテグリティ教育: 理論と実践の構
築を目指して. ITSC 静岡学術出版、pp.79-99.

村越真 (2021). 読図. 地図情報の検索. 経路探索とナビゲーション. 森田喬他 (編)
地図の事典 朝倉書店. (pp.424-425, pp.426-427, pp.432-433.)

村越真・宮内佐季子 (2021) 遭難から身を守る 12 の思考. 山と溪谷社

村越真(2022) 研修会の安全で効果的な運営方法. 北村憲彦他 (編) 新・高みへのステッ
プ第一部. 日本スポーツ振興センター国立登山研修所. 総ページ 225. (担当
p.165-183.)

村越真(2022) 読図とナビゲーション. 北村憲彦他 (編) 新・高みへのステップ第三部.
日本スポーツ振興センター国立登山研修所. 総ページ 150. (担当 p.99-115,141-149.)

中川和之「自然災害科学・防災の百科事典」(日本自然災害学会編: 分担執筆: 災害と報道・
マスメディア、丸善出版、2022 年 1 月)

中島俊郎・福田智弘・滝内隆子・鈴木清史・村上リコ・野澤督・喜多悦子・出島有紀子・岡山寧
子・高橋裕子『ナイチンゲールの越境 4 ナイチンゲールが生きたヴィクトリア朝という時
代』日本看護協会出版会、2021 年

楠城一嘉: 地震と火山と防災のはなし, 成山堂書店, 2022 年.

佐藤比呂志: 地震予知連絡会 50 年のあゆみ, 国土地理院, 2020, 分担執筆(長野県北部の地
震 (2011 年 3 月 12 日, M6.7, M5.9, M5.3), p.182-187, 長野県北部の地震 (2014 年
11 月 22 日, M6.7), p.194-201, 茨城県北部の地震 (2016 年 12 月 28 日, M6.3), p.213-219).

佐藤 健ほか共著, 教師のための防災学習帳, 朝倉書店, 2021 (第 7 章 学校と家庭・地域
との連携・協働の仕組みづくりを分担執筆) ISBN978-4-254-50033-2

佐藤 健ほか共著, 東日本大震災からのスタート 災害を考える 51 のアプローチ, 2021 (30
章 コミュニティの防災を分担執筆) ISBN978-4-86163-357-7

Sugawara, D., 2021. Lessons from the 2011 Tohoku-oki tsunami: implications for
Paleotsunami research. In: Shiki, T., Tsuji, Y., Yamazaki, T., and Nanayama, F. (eds.),
Tsunamiites (Second Edition). Elsevier, pp. 155-181, doi:

10.1016/B978-0-12-823939-1.00010-0.

Sugawara, D., 2020. Trigger mechanisms and hydrodynamics of tsunamis. In: Engel, M. Pilarczyk, J., May, S.M., Brill, D., and Garrett, E. (eds.), Geological records of tsunamis and other extreme waves, Elsevier, pp. 47-73, doi: 10.1016/B978-0-12-815686-5.00004-3.

Takahashi, S., Eiji Ohtani, Takeshi Sakai, Seiji Kamada, Shin Ozawa, Tatsuya Sakamaki, Masaaki Miyahara, Yoshinori Ito, Naohisa Hirao, Yasuo Ohishi, 2020. Phase and melting relations of Fe₃C to 300 GPa and carbon in the core. In Carbon in Earth's interior, edited by C.E. Manning, J-F. Lin, and W. Mao, AGU Monograph volume, Chapter 3, 25-36. <https://doi.org/10.1002/9781119508229.ch3>

竹下光士(狩野謙一・監修), 2020: ジオスケープ・ジャパン. 山と溪谷社, 224p.

2.2.2 学術論文

Arai, Ryosuke, Yasushi Toyoda, So Kazama, Streamflow maps for run-of-river hydropower developments in Japan, Journal of Hydrology, Vol.607, 127512, pp.1-pp.14, 2022.1. DOI: 10.1016/j.jhydrol.2022.127512

新井涼允, 豊田康嗣, 風間聡, 流量特性を用いた全球水文モデルのキャリブレーションに関する基礎的検討, 土木学会論文集 B1 (水工学), Vol.77. No.2, I_247-I_252, 2021.12.10.

新井涼允, 豊田康嗣, 佐藤隆宏, 大庭雅道, 風間聡, 洪水量を算定するための降雨波形の提案, 土木学会論文集 G (環境), Vol.77. No.5, pp. I_93-I_104, 2021.9.27.

Arai, Ryosuke, Yasushi Toyoda, So Kazama, Runoff recession features in an analytical probabilistic streamflow model, Journal of Hydrology, 597:125745, 10pp., 2021. DOI: 10.1016/j.jhydrol.2020.125745

新井涼允, 豊田康嗣, 風間聡, ニューラルネットワークを利用した日本の最上流域における流量特性マップの作製, 土木学会論文集 B1(水工学), Vol.76, No.2, I_391-I_396, 2020.

新井涼允, 豊田康嗣, 大庭雅道, 佐藤隆宏, 風間聡, 庄川流域を対象とした融雪出水に対する気候変動の影響, 土木学会論文集 G (環境), Vol.76. No.5, pp. I_109-I_120, 2020.9.

新井友貴・林能成, 防災技術を模型で再現した防災意識の啓発教材, 社会安全学研究, vol.11, p.181-190, 2021.

浅野敏久, 森保文, 前田恭伸, 犬塚裕雅: 環境活動への市民参加を促すための情報提供 瀬戸内海流域住民を対象としたアンケート調査から, 水資源・環境研究, 34(2), 20-27, 2021.

Baba, Kenshi, Eri Amanuma, & Motoko Kosugi (2021) Attitude Change of Stakeholders towards Climate Change Adaptation Policies in Agricultural Sector by Online Deliberation. Climate, 9(5): 75. <https://doi.org/10.3390/cli9050075>.

- Chai, Yikai, Yoshiya Touge, Ke Shi, So Kazama, Evaluating potential flood mitigation effect of paddy field dam for Typhoon No.19 in 2019 in the Naruse River Basin, 土木学会論文集 B1(水工学), Vol.76, No.1, pp.295-303, 2020.12.
- Chen, H-Y., R. Ikuta*, Y-J. Hsu, T. Tsujii, M. Ando, Y. Tu, T. Kohmi, K. Takemoto, K. Mizuno, H. Tung, C-S. Ku & C-H. Lin, A Decade of Global Navigation Satellite System/Acoustic Measurements of Back-Arc Spreading in the Southwestern Okinawa Trough. *Front. Earth Sci.* 9:601138. doi: 10.3389/feart.2021.601138, 2021
- Chigira, M. (2021). Rock pillars shaped by columnar joints in granite at Mt. Mizugaki, central Japan. *Island Arc*, 30, e12424. doi:10.1111/iar.12424
- Chigira, M., & Hirata, Y. (2021). The Kui boulder fields: Formation processes controlled by columnar joints of granodiorite. *Catena*, 207(105683). doi:10.1016/j.catena.2021.105683
- 千木良雅弘. (2021). 私にとって画期的なクリノメーター : Fieldmove Clino. 深田地質研究所年報, 22, 89-97.
- 千木良雅弘. (2021). 日本最大の連続露頭 : 屏風ヶ浦の断層フリー領域. 深田地質研究所年報, 22, 1-20.
- Chigira, M., Wang, G., & Jaboyedoff, M. (Eds.). (2020). Special issue on deep-seated gravitational slope deformations and catastrophic landslides: Elsevier.
- 千木良雅弘. (2020). 近年の地質災害から学んだこと. 京都大学防災研究所年報, 63A, 49-63.
- 千木良雅弘. (2020). 空からの計測技術の恩恵. 砂防学会誌, 72(6), 1.
- 千木良雅弘, 鈴木毅彦, 王功輝. (2020). 1949 年今市地震による崩壊性地すべりの実態. 深田地質研究所年報, 21, 147-165.
- Dai, L. and Karato, S., 2020. Electrical conductivity of Ti-bearing hydrous olivine aggregates at high temperature and high pressure, *Journal of Geophysical Research*, 125: e2020JB020309
- 藤井基貴・太田知彩・高木ひとみ・星野晶成「コロナ禍における国際教育交流分野の人事公募に関する調査研究」『静岡大学教育研究』18、2022年3月、119-127頁。
- 藤井基貴・鈴木希実・上地香杜・上田啓瑚「総合学習における防災教育の導入 : 地域と連携した「総合的な探究の時間」のカリキュラム開発と指導方法の可能性」『静岡大学教育実践総合センター紀要』31、2021年、290-299頁。
- 藤井基貴・太田知彩、高木ひとみ、星野晶成「日本における国際教育交流分野の「第三領域」に関する研究動向」『静岡大学教育研究』17、2021年、111-119頁。
- 藤井基貴・中村美智太郎・松尾由希子・鈴木希実・野澤俊介・渡邊賢人「オンライン・オンデマンドツールを活用した教職授業「教育の原理」の授業改善」『静岡大学教育研究』17、2021年、169-185頁。

- 藤井 基貴・栗島智明「ドイツにおける研究公正と「学問の自由」(2): 電子ジャーナル問題をめぐるオープンアクセス化と二次公開」『静岡大学教育学部研究報告 (人文・社会・自然科学篇)』No.71、2020年、94-107頁。
- Fukimoto, K., M Miyahara, T Sakai, H Ohfuji, N Tomioka, Y Kodama, E Ohtani, A Yamaguchi, 2020. *Meteoritics & Planetary Science* 1–15 doi: 10.1111/maps.13543. <https://doi.org/10.1111/maps.13543>
- 福田晴花, 三井雄太: Sentinel-1 衛星データの InSAR 解析に基づく 富士山・伊豆大島周辺の地表変位場, 静岡大学地球科学研究報告, 48, 1-9, 2021.
- Furuhashi, Y., Support for higher education students with autism spectrum disorder *Psychology*, 12, 567-579, 2021 査読あり
- Furuhashi, Y., A study on supports for postsecondary students with ADHD. *Attention-Deficit Hyperactivity Disorder*, 43-69, 2021 査読あり
- Futagawa, M., Tatsumi Ito, Shin Ogasahara, Kenichiro Kusano, Yasushi Fuwa, and Mitsuru Komatsu: Fabrication of an Impedance Sensor with Hydrophilic Property to Monitor Soil Water Content for Slope Failure Prognostics, *Sensors and Materials*, Vol. 33, No. 12, pp.4147–4156, 2021.
- Ghosh, S., K. Tiwari, M. Miyahara, Arno Rohrbach, Christian Vollmer, Vincenzo Stagno, Eiji Ohtani, and Dwijesh Ray, 2021. Natural Fe-bearing aluminous bridgmanite in the Katol L6 chondrite. *Proceedings of the National Academy of Sciences U.S.A.*, 118, e2108736118. <https://doi.org/10.1073/pnas.2108736118>
- Girard, J., Silber, R.E., Mohiuddin, A., Chen, H. and Karato, S., 2020. Development of a stress sensor for in-situ high-pressure deformation experiments using radial X-ray diffraction, *Minerals*, 10: 166, 10.103390/min10020166.
- Goto, Akio*, Keiichi Fukui, Takehiko Hiraga, Yasunori Nishioda, Hidemi Ishibashi, Takeshi Matsushima, Tuyoshi Miyamoto, Osamu Sasaki, Reply to: Hiroaki Sato, Shigeru Suto, Tadahide Ui, Toshitsugu Fujii, Takahiro Yamamoto, Shinji Takarada, Keiichi Sakaguchi, “Flowage of the 1991 Unzen lava: discussion to Goto et al. ‘Rapid migration of Unzen lava rather than flow, *Journal of Volcanology and Geothermal Research*, 110, 107073.” *Journal of Volcanology and Geothermal Research*, 420, 107384, 2021.
- Goto, Akio*, Keiichi Fukui, Takehiko Hiraga, Yasunori Nishioda, Hidemi Ishibashi, Takeshi Matsushima, Tuyoshi Miyamoto, Osamu Sasaki, Rapid migration of Unzen lava rather than flow. *Journal of Volcanology and Geothermal Research*, 407, 107073, 2020.
- 後藤和久・菅原大助, 2021. 津波堆積学の進展. *地質学雑誌*, 127, 199-214, doi: 10.5575/geosoc.2019.0003.

- 萩原照通, 会田俊介, 風間聡, 根固めブロック周辺の浮遊砂堆積を促す効果的な配置方法の提案, 土木学会論文集 B1(水工学), Vol.76, No.2, I_1189-I_1194, 2020.
- 萩原直明, 飯田浩平, 須崎光祐, 橋本 岳, 阿部雅人, 杉崎光一, 山本茂広, “画像を用いた橋梁の振動計測における SRCNN による精度向上に関する基礎的研究,” 土木学会 AI・データサイエンス論文集, 2020 年 1 巻 J1 号, pp. 329-338 (2020) DOI https://doi.org/10.11532/jsceiii.1.J1_329
- Hamada, M., S Kamada, E Ohtani, et al., 2021. Synchrotron Mossbauer spectroscopic and x-ray diffraction study of ferropericlase in the high-pressure range of the lower mantle region. *Physical Review B* 103, 174108. <https://doi.org/10.1103/PhysRevB.103.174108>
- Han, G., Li, J., Guo, G., Mooney, W.D., Karato, S., Yuen, D.A., 2020. Pervasive low-velocity later atop the 410-km discontinuity beneath the Northwest Pacific subduction zone and rheological, dynamical implications, *Earth and Planetary Sciences Letters*, 554: 116642.
- Hashima, A., H. Sato and T. Sato: Stress loading and the occurrence of normal-type earthquakes under Boso Peninsula, Japan, *Earth Planets Space*, 72, <https://doi.org/10.1186/s40623-020-01201>, 2020.
- 橋本 岳, 橋本智洋, 武井祐馬, 山本耀平, 山本茂広, 中嶋規人, 井澤大介, 高野隼行, 阿部雅人, 杉崎光一, 全 邦釘, “セグメンテーションに画像処理を併用したひび割れ検出サポートシステムの基礎研究,” 土木学会 AI・データサイエンス論文集, 2021 年 2 巻 J2 号, pp. 589-597 (2021) DOI https://doi.org/10.11532/jsceiii.2.J2_589
- 橋本 岳, 橋本智洋, 山本茂広, “画像計測の対応点探索への応用を目指したマーカー形状と二値化・重心座標の変動に関する基礎的検討,” *電気学会論文誌 C*, Vol.140, No. 8, pp.1001-1009 (2020)
- 橋本智洋, 山本茂広, 橋本 岳, “超解像による対応点探索の精度向上に関する基礎的検討,” *電気学会論文誌 C*, Vol.141, No. 3, pp.358-366 (2021)
- Hatada, Risako, Hidemi Ishibashi*, Yukiko Suwa, Yusuke Suzuki, Natsumi Hokanishi, Atsushi Yasuda, Plagioclase-hosted melt inclusions as indicators of inhibited rhyolitic melt beneath a mafic volcano: a case study of the Izu-Omuoyama monogenetic volcano, Japan. *Journal of Mineralogical and Petrological Sciences*, 115, 322-331, 2020.
- 林田由那, 戸田芳雄, 佐藤 健: 宮城県の学校における避難訓練の評価手法の開発に向けた実践報告, *安全教育学研究*, Vol.20, No.2, pp.39-50, 2021.3
- 林能成, 1906 年台湾嘉義地震の特徴と防災科学上の重要性, *総合資料学の創生報告書*, 2020.
- 林能成・酒井慎一, 地震計を用いた新型コロナウイルス感染症による社会活動変化の評価—

- 関西大学千里山キャンパスにおける観測事例一, 社会安全学研究, vol.11, p.151-160, 2021.
- Henry, S., D. Eberhart - Phillips, D. Bassett, R. Sutherland, D. Okaya, M. Savage, D. Evanzia, T. Stern, H. Sato, K. Mochizuki, T. Iwasaki, E. Kurashimo, A. Seward, A. Wech: Upper Plate Heterogeneity Along the Southern Hikurangi Margin, New Zealand, *Geophys. Res. Lett.*, 47, e2019GL085511. <https://doi.org/10.1029/2020>.
- He, Y., Dai, L., Kim, D.Y., Li, H. and Karato, S., 2021. Thermal ionization of hydrogen in hydrous olivine with enhanced and anisotropic conductivity, *Journal of Geophysical Research*, 126, e2021JB022939.
- Higaki, H., Goto, K., Yanagisawa, H., Sugawara, D., and Ishizawa, T., 2021. Three thousand year paleo-tsunami history of the southern part of the Japan Trench. *Progress in Earth and Planetary Science*, 8, 28, doi: 10.1186/s40645-021-00415-w.
- Higuchi, K., Chigira, M., Lee, D. H., & Wu, J. H. (2020). Pore-water chemistry and its influence on rock mechanical properties and hydrogeophysical processes in a mudstone slope in the southwestern Taiwan badlands. *Catena*, 190. doi:10.1016/j.catena.2020.104533
- Higuchi, K., Chigira, M., Lee, D. H., & Wu, J. H. (2020). Simultaneous water and vapour transfer in an unsaturated mudstone in badlands terrain, southwestern Taiwan. *Earth Surface Processes and Landforms*. doi:10.1002/esp.4968
- Hirao, N., Kawaguchi-Imada, S., Hirose, K., Shimizu, K., Ohtani, E., Ohishi, Y., 2020. New developments in high-pressure X-ray diffraction beamline for diamond anvil cell at SPring-8. 2020, *Matter and Radiation at Extremes*, 2020, 5, 018403, <https://doi.org/10.1063/1.5126038>
- Hirano, N., Sumino, H., Morishita, T., Machida, S., Kawano, T., Yasukawa, K., Hirata, T., Kato, Y., and Ishii, T. (2021): A Paleogene magmatic overprint on Cretaceous seamounts of the western Pacific, *Island Arc*, 30, DOI: 10.1111/iar.12386. (査読あり)
- 本間基寛・牛山素行: 豪雨災害における犠牲者数の推定方法に関する研究, 自然災害科学, Vol.40, 特別号, pp.157-174, 2021
- Hosobuchi, N., Maho, Chigira, M., Lim, C., & Komoo, I. (2021). Geological history controlling the debris avalanches of pyroclastic fall deposits induced by the 2009 Padang earthquake, Indonesia: the sequential influences of pumice fall, weathering, and slope undercut. *Engineering Geology*, 287(106104).
- Hsieh, W. P., Ishii, T., Chao, K. H., Tsuchiya, J., Deschamps, F., Ohtani, E., 2020. Spin Transition of Iron in δ - (Al,Fe)OOH Induces Thermal Anomalies in Earth's Lower Mantle, *Geophysical Research Letters*, 47, e2020 GL087036,

- <https://doi.org/10.1029/2020GL087036>
- 五十島亮哉, 三井雄太: 海底地殻変動観測データとマルコフ連鎖モンテカルロ法に基づく南海トラフ浅部での複数のスローイベントの検出, 静岡大学地球科学研究報告, 47, 59-65, 2020.
- Iijima, Y., Goto, K., Sugawara, D., and Abe, T., 2021, Effect of artificial structures on the formation process of the 2011 Tohoku-oki tsunami deposits. *Sedimentary Geology*, 423, 105978, doi: 10.1016/j.sedgeo.2021.105978.
- 池田恵子: 地域防災を担う女性たち—東日本大震災から 10 年の現状と課題, ジェンダー研究, 24, 17-31, 2022.
- 池田恵子: 配慮から参画へ—防災・災害支援における「ジェンダーの視点」を問う, 「人権の視点で考える震災」調査研究報告書, 4-16, 2021.
- Ikuta, D., E. Ohtani, N. Hirao, 2021. Two-phase mixture of iron-nickel-silicon alloys in the Earth's inner core. *Communications Earth & Environment* 2, 225. <https://doi.org/10.1038/s43247-021-00298-1>.
- Ikuta, R., & R. Oba, How credible are earthquake predictions that are based on TEC variations? *Journal of Geophysical Research: Space Physics*, doi: 10.1029/2021JA030151, 2022
- Ikuta, R., R. Oba, D. Kiguchi and T. Hisada, Reanalysis of the ionospheric total electron content anomalies around the 2011 Tohoku-Oki and 2016 Kumamoto earthquakes: Lack of a clear precursor of large earthquakes, *Journal of Geophysical Research: Space Physics*, doi: 10.1029/2021JA029376, 2021
- Ikuta, R., T. Hisada, G. Karakama & O. Kuwano, Stochastic evaluation of pre-earthquake TEC enhancements. *Journal of Geophysical Research: Space Physics*, 125, e2020JA027899. <https://doi.org/10.1029/2020JA027899>, 2020
- Ishii, T. and E. Ohtani, 2021. Dry metastable olivine and slab deformation in a wet subducting slab. *Nature Geoscience*, 14, 526-530. <https://doi.org/10.1038/s41561-021-00756-7>
- 石井輝秋・金子 誠・町田嗣樹・金子純二・浅見慶志朗・平野直人・秋澤紀克・ほか (2020) : 「よこすか」「しんかい 6500」YK18-08, YK19-05S 研究航海の概要 —南鳥島海域プチスポット火山の「しんかい 6500」潜航研究速報—, 深田地質研究所年報, 21, 103-126. (査読なし)
- 石井輝秋・金子誠・平野直人・町田嗣樹・秋澤紀克(2021): プチスポット溶岩及びマントル捕獲岩・捕獲結晶の地質学的・岩石学的研究 —太平洋プレートのアセノスフェアに至る地質断面構築を目指して—, 深田地質研究所年報, 22, 99-118. (査読なし)
- 石川宏之: 持続可能な地域社会をつくるために博物館活動を通じたボトムアッププロセスのあり方 —糸魚川ユネスコ世界ジオパークを事例として—, 日本ミュージアム・マネジ

- メント学会研究紀要, 25, pp.13-21, 2021
- 石塚歩, 山下毅, 江川隆輔, 滝沢寛之, 山本道, 風間聡, ベイズ最適化による洪水シミュレーションコードの集荷分散自動調整, 情報処理学会論文誌コンピューティングシステム (ACS), Vol.14, No.2, pp.1-12, 2021.8.20.
- 板寺一洋・吉田明夫 2021年2月の福島県沖の地震及び3月と5月の宮城県沖の地震の震度分布にみられる地帯構造の影響, 温泉地学研究所研究報告, 53, 69-73, 2021.
- Iwahashi, Kurumi*, Hidemi Ishibashi, Atsushi Yasuda, Natsumi Hokanishi, Evidence for a 'third' endmember of the Unzen 1991-1995 eruption from amphibole thermometry and crystal clots. *Journal of Volcanology and Geothermal Research*, 396, 106833, 2020.
- 岩崎一孝: 日本の降雪の地域特性, 科学, Vol.91, No.4, 323-325, 2021.
- Januriyadi, N.Fajar, So Kazama, Idham Moe, Shuichi Kure, Effectiveness of structural and nonstructural measures on the magnitude and uncertainty of future flood risks, *Journal of Water Resource and Protection*, Vol.12, No.5, pp.401-415, 2020.4.28. DOI: 10.4236/jwarp.2020.125024
- Jiménez-Díaz, A., I. Egea-Gonzalez, L. Parro, M. Tasaka, J. Ruiz (2021), The thermal structure and mechanical behavior of the Martian lithosphere, *ICARUS*, 106, R2.
- 常名剛司・藤井基貴・亘理陽一「LILで繋ぐ小学校外国語教育と防災教育の統合実践」『静岡大学教育学部研究報告. 教科教育学篇』No.52、2020年、32-42頁。
- 上地香杜・藤井基貴「『令和の日本型学校教育』における特別活動の可能性と課題」『静岡大学教育学部研究報告 (教科教育学篇)』No.53、2021年、121-133頁。
- 狩野謙一・宮坂 晃: 北部フォッサマグナ, 諏訪盆地北方の下部更新統塩嶺累層が記録する糸魚川-静岡構造線の活動. *静岡大学地球科学研究報告*, 47, 23-50, 2020.
- 狩野謙一: 赤石構造帯南部に分布する下~中部中新統の露頭規模の変形構造一西南日本の中新世の構造回転との関連-. *地学雑誌*, 130, 403-427, 2021.
- 狩野謙一・宮坂 晃・山本玄珠・楠 賢司: 諏訪盆地南西側斜面に分布する下部更新統塩嶺累層安山岩溶岩のK-Ar年代. *地学雑誌*, 130, 615-632, 2021.
- Karato, S., 2021. A theory of inter-granular transient dislocation creep: Implications for the geophysical studies on mantle rheology, *Journal of Geophysical Research*, 126: e2021JB022763.
- Karato, S., Karki, B.B. and Park, J., 2020. Deep mantle melting, global water circulation and the implications for the habitability, *Progress in Earth and Planetary Sciences*, 7: 76: 10.1186/s40645-020-00379-3
- Kasahara, J., Hasada, Y., Kuzume, H., Ohnuma, H., Mikada, H., Fujise, Y.(2022) A field experiment of a temperature-tolerant distributed acoustic sensor in deep geothermal reservoir prospecting, *The Leading Edge*, May 2022, Volume 41, No. 5.

- 笠原, 羽佐田, 久詰, 三ヶ田, 藤瀬 (2022) 秋田県大沼地熱発電所地熱井内の DAS を用いた地熱探査, 日本地熱学会誌, 第 44 巻第 2 号, p.73-84.
- 川越清樹, 林誠二, 風間聡, 森林資源の活用を考慮した斜面に対する Eco-DRR マップの開発, 土木学会論文集 G (環境), Vol.76. No.5, pp. I_361-I_370, 2020.9.
- 河合美保・柴田知江・青山昌子・村越真(2022) 保育者のリスクマネジメントの実践知—園庭遊具のリスク累加要因と保育者のリスク対応の多様性—, 静岡大学教育学部教育実践センター紀要、(受理.ページなし)
- 川瀬憲子、「政府間関係再編下の地方財政—交付税・補助金に焦点を当てて」日本地方自治自治編『自治の現場と課題』地方自治叢書 32 号 (pp.63-95)、2020 年 1 月
- Kazama, So, Koji Sakamoto, Golam Saleh Ahmed Salem, Shunsuke Kashiwa, Improving the accuracy of snow and hydrological models using assimilation by snow depth, Journal of Hydrologic Engineering, ASCE, Vol.26, No.1, 05020043, 2020.10.29. DOI: 10.1061/(ASCE)HE.1943-5584.0002019
- Kitamura A., Yamada K., Sugawara D., Yokoyama Y., Miyairi Y. Hamatome team, 2020. Tsunamis and submarine landslides in Suruga Bay, Central Japan, caused by Nankai–Suruga trough megathrust earthquakes during the last 5000 years. Quaternary Science Reviews, 245, 106527.
- Kitamura, A., Yamamoto, Y., Harada, K., Toyofuku, T., 2020. Identifying storm surge deposits in the muddy intertidal zone of Ena Bay, Central Japan. Marine Geology, 426, 106228. <https://doi.org/10.1016/j.margeo.2020.106228>
- 北村晃寿, 2021, 2020 年日本第四紀学会学術賞受賞記念論文 貝化石・有孔虫化石の複合群集解析による日本本島の島嶼化過程・東海地震の履歴の研究. 第四紀研究, 60, 47-70.
- 北村晃寿, 2022, 静岡県熱海市伊豆山地区の土砂災害現場の盛土の崩壊斜面と土石流堆積物から見つかった海生二枚貝の貝殻. 第四紀研究, 61.
- 北村晃寿・池田昌之, 2020, 静岡県御前崎の隆起した穿孔性二枚貝化石. 化石, 107, 1-2.
- 北村晃寿・池田昌之, 2021, 2021 年 7 月 3 日に静岡県熱海市伊豆山地区で発生した土石流の速報. 静岡大学地球科学研究報告, 48, 63-71.
- 小林 淳・青木かおり・村田昌則・西澤文勝・鈴木毅彦: 伊豆諸島、新島火山宮塚山イベント以降のテフラ層序と噴火史, 火山, Vol.65, No.2, pp.21–40, 2020 年 6 月.
- 小林 淳: 富士火山の噴火史研究で目指すもの—世界遺産富士山の信仰と芸術の礎として—, 富士山学, No.1, pp.5–19, 2021 年 3 月.
- 小林 淳・萬年一剛・山口珠美・長井雅史: 箱根火山最新期噴火活動に関連した地形と堆積物, 月刊地球, No.510, pp.138–146, 2022 年 3 月.
- 小林 淳: 富士山火山ハザードマップ (改定版) の公表とそのポイント, 富士山学, 第 2 号, pp.89–90, 2022 年 3 月.
- Koemets, E., L Yuan, E Bykova, K Glazyrin, E Ohtani, L Dubrovinsky. 2020.

- Interaction between FeOOH and NaCl at extreme conditions: synthesis of novel Na₂FeCl₄OHX compound. *Minerals* 10 (1), 51. <https://doi.org/10.3390/min10010051>
- Koemets, E., T. Fedotenko, S. Khandarkhaeva, et al., 2021. Chemical stability of FeOOH at high pressure and temperature, and oxygen recycling in early Earth history. *European Journal of Inorganic Chemistry*, 2021, 3048-3053. <https://doi.org/10.1002/ejic.202100274>
- 近藤康生・中西利典・菊池直樹・島内朝康・奈良正和. 高知市追手筋地下の完新統上部貝化石層とその放射性炭素年代. 高知大学理工学部紀要, 5 (6), p. 1-15, http://science.cc.kochi-u.ac.jp/scientific_reports/vol05/202206.html 2022年3月(査読あり)
- Kosugi, Motoko(2021) Determinants of Preventive Behaviors for COVID-19 in Japan. *International Journal of Environmental Research and Public Health*, 18, 9979. <https://doi.org/10.3390/ijerph18199979>.
- 小杉素子・馬場健司・田中充 (2020) 地球温暖化リスクに対する日本人の態度変化. 土木学会論文集 G(環境) Vol. 76(5) I_167-I_176. https://doi.org/10.2208/jscej.76.5_I_167.
- 小山真人 (2020) 火山学の知見が活かされない原発の規制基準. 学術の動向, 25, No.12, 54-57. 村越 真・満下 健太・小山 真人 (2020) : 自然災害リスクはハザードマップから適切に読み取れているか? 地図リテラシーの視点からの検討. 地図, 58, 1-16.
- 黒澤祥一, 福島 健一郎, 梅原有理子, 吉田天, 風間聡, 融雪モデルと粒子フィルタを用いた米代川における融雪洪水予測, 土木学会論文集 B1 (水工学), Vol.77. No.2, I_307-I_312, 2021.12.8.
- 楠 賢司・三須寛希・狩野謙一: 静岡県の GEO DATA (23): WO26 赤石裂線の破碎岩(カタクレーサイト). 静岡地学, 122, i., 2020.
- 栗畑光博・杉山真二・中西利典・足立達朗・田尻義了・下山正一・山口龍彦・大串健一・七山 太, 宮崎平野における鬼界アカホヤテフラ降下前後の環境変化-MIK コアの解析結果に基づいて-. 月刊地球, 号外 70, 「国際火山噴火史情報研究Ⅲ特集号」, p.89-99, 2021年5月(査読無し)
- 栗畑光博・大平明夫・杉山真二・金原正子・中西利典・足立達朗, 宮崎平野の跡江地区における鬼界アカホヤテフラ降下前後の環境変化-MIK2 コアの解析結果に基づいて-. 宮崎大学教育学部紀要, 97, p.60-84, 2021年7月(査読無し)
- Ling, S., & Chigira, M. (2020). Characteristics and triggers of earthquake-induced landslides of pyroclastic fall deposits: An example from Hachinohe during the 1968 M7.9 tokachi-Oki earthquake, Japan. *Engineering Geology*, 264. [doi:10.1016/j.enggeo.2019.105301](https://doi.org/10.1016/j.enggeo.2019.105301)
- Maeda, Y., Watanabe, T., Estimating errors in autocorrelation functions for reliable investigations of reflection profiles, *Earth Planets and Space*, 74, 48, 2022.

- 前田恭伸, 森保文, 浅野敏久, 犬塚裕雅: 市民活動のためのボランティア募集と ICT 利用
 についての実態調査, エコミュージアム研究, 25, 80-86, 2021.
- 前田恭伸, 浅野敏久, 犬塚裕雅, 福森義之, 森保文: 市民の社会参加へのコロナ禍の影響,
 リスク学研究, 31(3), 161-167, 2022.
- Marzotto, E, WP Hsieh, T Ishii, KH Chao, GJ Golabek, M Thielmann, E Ohtani, 2020.
 Effect of water on lattice thermal conductivity of ringwoodite and its implications for
 the thermal evolution of descending slabs. *Geophysical Research Letters* 47 (13),
 e2020GL087607. <https://doi.org/10.1029/2020GL087607>
- Masuda, T., Omori, Y., 2021. A kinematic model of oriented nucleation under ns for the
 preferred orientation of columnar and platy minerals in metamorphic rocks. *Journal*
 of *Structural Geology*, 146, 104275.
- Matsubara, M., K. Shiomi, H. Baba, H. Sato, T. Nishimiya: Improved geometry of the
 subducting Philippine Sea plate beneath the Suruga Trough, *Global and Planetary*
 Change, 204 (103562), 2021.
- Matsushita, Makoto, Shugo Ishikawa, Kenta Magara, Yu Sato, Hiroyuki Kimura. The
 potential for CH₄ production by syntrophic microbial communities in diverse deep
 aquifers associated with an accretionary prism and its overlying sedimentary layers.
 Microbes and Environments, 35, ME19103, 2020.
- Matsuzawa, M., & Chigira, M. (2020). Weathering mechanism of arenite sandstone with
 sparse calcite cement content. *Catena*, 187, 104367.
 doi:<https://doi.org/10.1016/j.catena.2019.104367>
- Mitsui, Yuta, Hinako Muramatsu, Yusaku Tanaka: Slow deformation event between
 large intraslab earthquakes at the Tonga Trench, *Sci. Rep.*, 11(257),
 doi:10.1038/s41598-020-80728-w, 2021.
- 三井雄太, 渡邊識: 地表変位速度場のソフトクラスタリングに基づく伊豆半島およびその
 周辺の地体構造区分, *地震*, 73, 27-35, 2020.
- 三井雄太, 小長井駿: 大規模火山噴火 (VEI 4 以上) に伴う質量移動を衛星重力データから
 検出する試み, *静岡大学地球科学研究報告*, 47, 51-57, 2020.
- 満下健太・村越真・鎌塚優子(2021)小学校における活動場面別負傷・疾病事故発生率の年次
 的推移の分析: 「道徳」における変動を焦点として. *安全教育学研究*, 22(1), 23-32.
- 満下健太・村越真 (2021) 三相因子分析による自然災害に対するリスク認知の分析. *日本*
 リスク学会第 34 回年次大会講演論文集, 34, 160-165.
- Miyahara, M., A. Yamaguchi, M. Saitoh, et al. 2020. Systematic investigations of high -
 pressure polymorphs in shocked ordinary chondrites. *Meteoritics & Planetary*
 Science 55, 2619-2651, <https://doi.org/10.1111/maps.13608>
- Miyahara, M., A. Yamaguchi, E. Ohtani, et al., 2021. Complicated pressure-temperature

- path recorded in the eucrite Padvarninkai. *Meteoritics and Planetary Science*, 56, 1443-1458. <https://doi.org/10.1111/maps.13724>
- Miyake, Keita, Keiji Fushimi, Tomonori Kashimoto, Kaisei Maeda, Ni-Ni-Win, Hiroyuki Kimura, Masakazu Sugishima, Masahiko Ikeuchi, Rei Narikawa. Functional diversification of two bilin reductases for light perception and harvesting in unique cyanobacterium *Acaryochloris marina* MBIC 11017. *FEBS Journal*, 287, 4016-4031, 2020.
- Miyamoto, S., Nagahara, S., Morishima, K., Nakano, T., Koyama, M., and Suzuki, Y. (2022): A muographic study of a scoria cone from 11 directions using nuclear emulsion cloud chambers. *Geoscientific Instrumentation, Methods and Data Systems*, 11, 127-147.
- 宮坂 晃・狩野謙一: 北部フォッサマグナ, 中信高原・美ヶ原区の塩嶺累層に記録された前～中期更新世の火山活動とテクトニクスー大規模複合コールドロンの形成ー. 静岡大学地球科学研究報告, 48, 37-61, 2021.
- 望月 大・村越 真 (2022) 資質・能力の視点から見た、防災教育実践研究の動向ー東日本大震災以降の防災教育の授業実践論文を中心にー. 教科開発学論集 第10号
- 望月 大・村越 真(2022)豪雨災害時の「避難意図」を高める小学校社会科授業の開発と効果の検証 ー博物館を活用してー、防災教育学研究 2-2、(受理.ページ未)
- Morikami, Shunsuke, Yuta Mitsui: Omori-like slow decay ($p < 1$) of postseismic displacement rates following the 2011 Tohoku megathrust earthquake, *Earth Planets Space*, 72(37), doi:10.1186/s40623-020-01162-w, 2020.
- Morishige, M. and M. Tasaka (2021), Limited impact of anisotropic thermal conductivity in the mantle wedge on the slab temperature in the Tohoku subduction zone, Northeast Japan, *Tectonophysics*, <https://doi.org/10.1016/j.tecto.2021.229110>.
- Morishita, Y., Wada, A. (2021) Role of hydrothermal fluids in the formation of the Kamioka skarn-type Pb-Zn deposits, Japan, *Geosciences*, 11, 447, doi.org/10.3390/geosciences11110447.
- Morishita, Y., Nishio, Y. (2021) Ore genesis of the Takatori tungsten-quartz vein deposit, Japan: Chemical and isotopic evidence, *Minerals*, 11, 765, doi.org/10.3390/min11070765.
- 森 智夫・岩田実子・木村浩之・河岸和洋・平井浩文. 木質バイオマスからのメタン発酵前処理に適した白色腐朽菌の選抜. 日本きのこ学会誌, 28, 56-61, 2020.
- 村山良之, 桜井愛子, 佐藤 健, 北浦早苗, 小田隆史, 熊谷 誠: 地形とハザードマップに関するオンライン教員研修プログラムの開発～学校防災の自校化のために～, 季刊地理学, Vol.73, No.2, pp.94-107, 2021.
- 村越真 (2020) 危険予知訓練(KYT)によるリスク判断の多様性への気づき: 南極地域観測

- 隊安全教育を事例として.安全教育学研究、20(1),13-26.
- 村越真・満下健太・小山真人(2021) 自然災害リスクはハザードマップから適切に読み取れているか? 地図リテラシーの視点からの検討. 地図、58(4),1-16.
- 村越真(2021)自然環境での個別的リスクに対するリスクマネジメントの枠組みの提案. 野外教育研究,25,19-35.
- 村田昌則・小林 淳・青木かおり・高橋尚志・西澤文勝・鈴木毅彦: 伊豆諸島、神津島における過去3万年間のテフラ層序と噴火史, 地学雑誌, Vol.130, No.3, pp.379-402, 2021年6月.
- 永田秀尚・林 拙郎・篠田繁幸他: 平成30年7月豪雨による岐阜県での土砂災害, 応用地質, Vol.62, No.2, 82-92, 2021.
- Naing Cho Zin Zin, So Kazama, Terumichi Hagiharawa, Morphological Changes Due to the Peak Flow and Seasonal Flow of the Babame River, 土木学会論文集G (環境), Vol.77. No.5, pp. I_85-I_92, 2021.9.27.
- 中川和之,自らは語らない大地の物語を、ジオパークで人が語り継ぐ,人と防災未来センター調査研究レポート《Vol.50》「災害語り継ぎ」に関する研究論文集,P43-49、2021年6月
- Nakagawa, T. and Karato, S., 2021. Influence of realistic rheological properties on the style of mantle convection: roles of dynamic friction and depth-dependence of rheological properties, *Geophysical Journal International*, 226: 1986-1996.
- 中西利典・堤 浩之・山崎圭二・鳥井真之・エリクソン バリソ・ダニコ リベラ・ロブジュネリエアア リム・キャシー ポガイ・アルトロ ダアグ・ホン ワン・奥野 充, フィリピン, ルソン島のパイタン湖で得られたコア試料の変形構造—SSDS による大地震の再来間隔の評価—. 月刊地球, 号外 70, 「国際火山噴火史情報研究Ⅲ特集号」, p.24-31, 2021年5月 (査読無し)
- 中西利典・小松哲也・小形 学・川村 淳・安江健一, 熊野川中流部における環流旧河谷の堆積過程の検討. 月刊地球, 号外 71, 「基礎データから考える第四紀学の新展開・I」, p.148-155, 2022年2月 (査読無し)
- Nanayama, F., Tomohiro Tsuji, Tatsuhiko Yamaguchi, Yasuo Kondo, Michiharu Ikeda, Toshimichi Nakanishi, Michiko Miwa, Chuki Hongo, Akira Furusawa, Mitsuhiro Kuwahata, 7.3 ka giant earthquake inferred from the tsunami deposit in the Sukumo Bay area, southwestern Japan. *Island Arc*, 30, e12422, August 2021, doi: 10.1111/iar.12422
- 七山 太・前野 深・中西利典・杉山真二・栗畑光博, 宮崎平野で認められた7.3 ka 津波堆積物および鬼界アカホヤ火山灰降灰前後の古環境変化. 月刊地球, 号外 70, 「国際火山噴火史情報研究Ⅲ特集号」, p.76-88, 2021年5月 (査読無し)
- Nanjo, K. and A. Yoshida, Changes in the b value in and around the focal area of the

- M6.9 and M6.8 earthquakes off the coast of Miyagi prefecture, Japan, in 2021, *Earth, Planets and Space*, 73:176, 2021, <https://doi.org/10.1186/s40623-021-01511-3>
- Nanjo, K. Z., J. Izutsu, Y. Orihara, M. Kamogawa: Changes in seismicity pattern due to the 2016 Kumamoto earthquake sequence and implications for improving the foreshock traffic-light system, *Tectonophysics*, Vol. 822, 229175, 2022, DOI: 10.1016/j.tecto.2021.229175.
- Nanjo, K. Z., A. Yoshida: Changes in the b value in and around the focal areas of the M6.9 and M6.8 earthquakes off the coast of Miyagi prefecture, Japan, in 2021, *Earth Planets and Space*, Vol. 73, 176, 2021, DOI: 10.1186/s40623-021-01511-3.
- 楠城一嘉: b 値にもとづく大地震発生予測のモデルのレビュー, *地震予知連絡会会報*, Vol. 105, 489-492, 2021.
- Nanjo, K. Z.: Were changes in stress state responsible for the 2019 Ridgecrest, California, earthquakes?, *Nature Communications*, Vol. 11, 3082, 2020, DOI: 10.1038/s41467-020-16867-5.
- Nanjo, K. Z.: Capability of Tokai strainmeter network to detect and locate a slow slip: First results, *Pure and Applied Geophysics*, Vol. 177, 2701-2718, 2020, DOI: 10.1007/s00024-019-02367-1.
- Nanjo, K. Z.: Predicting the unpredictable, *Impact*, Vol. 2020, No. 6, 35-37, 2020, DOI: 10.21820/23987073.2020.6.35.
- 楠城一嘉: 小さな地震が大地震を探るカギ? - カリフォルニアの直下型大地震の解析から異常をとらえ、防災につなげる, *academist journal*, 2020, <https://academist-cf.com/journal/?p=14310>.
- Nishiyama, N., Chigira, M., Suzuki, K., & Watanabe, N. (2020). Distribution of fossil seawater and its role in Neogene sedimentary rock landslides in Niigata, eastern marginal region of the Japan Sea. *Island Arc*, 29(1), e12351. doi:10.1111/iar.12351
- 野村康紘, 山本茂広, 橋本 岳, “自動離着岸システムに向けたステレオ画像による船舶の検出と位置姿勢推定に関する検討,” *マリンエンジニアリング学会*, Vol. 57, No. 2, pp. 101-111 (2022)
- Nomura, Y., Shigehiro Yamamoto, Takeshi Hashimoto, “Study of 3D measurement of ships using dense stereo vision: towards application in automatic berthing systems,” *Journal of Marine Science and Technology* 26, pp. 573–581 (2021)
- 大庭伸一, 三井雄太: 個別要素法に基づく粉体せん断イベントの数値モデル実験: 初期条件と摩擦係数の影響, *静岡大学地球科学研究報告*, 48, 11-15, 2021.
- 小田隆史, 桜井愛子, 村山良之, 佐藤 健, 北浦早苗, 加賀谷 碧: 教員の地図リテラシー育成とハザード理解に向けた学校防災研修—宮城県石巻市における試行から—, *安全教育学研究*, Vol.20, No.1, pp.27-36, 2020.9

- 小形 学・小松哲也・中西利典, 長石光ルミネッセンス (OSL) 年代測定法を利用した穿入蛇行河川堆積物の年代推定: 紀伊山地十津川の事例. 第四紀研究, 60(2), p.27-41, 2021年6月
- Ohira, I., J. M. Jackson, W. Sturhahn, et al., 2021. The influence of δ -(Al, Fe) OOH on seismic heterogeneities in Earth's lower mantle. *Scientific Reports* 11, 12036. <https://doi.org/10.1038/s41598-021-91180-9>
- 大河原 誠一, 三浦 健太郎, 平野 陽豊, 大多 哲史, 二川 雅登: 培地イオン濃度計測に向けた小型核磁気共鳴センサによる水素イオン微小信号検出方法の確立, 電気学会論文誌E (センサ・マイクロマシン部門誌), Vol. 141, No. 11, Vol.141 No.11 pp.367-372, 2021.
- Ohkawara, S., Kentaro Miura, Harutoyo Hirano, Satoshi Ota, Masato Futagawa: Evaluation of a Hydrogen Signal Detection Method Using a Compact NMR Sensor for the Measurement of Ion Concentrations in Culture Medium, *Electronics and Communications in Japan*, Vol. 105, issue 2, pp. e12346-1-8, 2022.
- Ohtani, E., 2020. The role of water in the Earth's mantle. *National Science Review*. 7, 224-232, doi: 10.1093/nsr/nwz071
- Ohtani, E., 2021. Hydration and Dehydration in Earth's Interior, *Annual Review of Earth and Planetary Sciences*, 49, 253-278. <https://doi.org/10.1146/annurev-earth-080320-062509>
- Oikawa, J., Tanaka, S., Kagiya, T., Miyamachi, H. Tsutsui, T., Ikeda, Y., Katayama, H., Matsuo, N., Oshima, H., Nishimura, Y., Keigo Yamamoto, K., Watanabe, T., Yamazaki, F., Active-source Seismic Exploration of Fuji Volcano in 2003, *Bull. Earthq. Res. Inst. Univ. Tokyo*, 96, 1-10, 2022.
- Okumura, Satoshi*, Hidemi Ishibashi, Shoichi Itoh, Akimasa Suzumura, Yoshihiro Furukawa, Takahiro Miwa, Hiroyuki Kagi, Decompression experiments for sulfur-bearing hydrous rhyolite magma: Redox evolution during magma decompression. *American Mineralogist*, 106, 216-225, 2020.
- 奥野 充・井口正人・三好雅也・三浦大助・小林 淳・橋本武志・大場 武・佐藤鋭一・宝田晋治: 特集「噴火史研究と火山観測を統合した新たな火山像の確立」について (巻頭言・口絵写真解説), 火山, Vol.66, No.2, pp.65-70, 2021年6月.
- 奥野 充・黒木貴一・藤木利之・中西利典・山田和芳, 総論: 総特集「基礎データから考える第四紀学の新展開-I」. 月刊地球, 号外 71, p.5-8, 2022年2月 (査読無し)
- 大谷竜・兵藤守・林能成・橋本学・堀高峰・川端信正・隈本邦彦・岩田孝仁・横田崇・谷原和憲・入江さやか・福島洋, 南海トラフ地震情報を使った防災対応上の潜在的課題群の抽出法の開発—ゆっくりすべりケースに対するテレビ報道を例に一, 日本地震工学会論文集, vol.21, p.2_34-2_56, 2021.

- Ota, S., Seiichi Ohkawara, Harutoyo Hirano, Masato Futagawa, and Yasushi Takemura: Empirical and simulated evaluations of easy-axis dynamics of magnetic nanoparticles based on their magnetization response in alternating magnetic field, *Journal of Magnetism and Magnetic Materials*, Vol. 539, pp. 168354-1-10, 2021
- Phrakonkham, Sengphrachanh, So Kazama, Daisuke Komori, Integrated evaluation of water-related disasters using the analytical hierarchy process under land use change and climate change issues in Laos, *Natural Hazards and Earth System Science*, 21, pp.1551-1567, 2021 DOI: 10.5194/nhess-21-1551-2021
- Sakurai, Aiko, Takeshi Sato, Yoshiyuki Murayama : Impact evaluation of a school-based disaster education program in a city affected by the 2011 great East Japan earthquake and tsunami disaster, *International Journal of Disaster Risk Reduction*, 47, pp. - , 2020.
- 桜井愛子, 佐藤 健, 北浦早苗, 村山良之, 柴山明寛 : 津波記録を活用した被災地の学校での防災教育—災害伝承と命を守る防災教育の推進に向けて—, *防災教育学研究*, Vol.1, No.1, pp.53-65, 2020.
- Sakurai, Aiko, Takashi Oda, Yoshiyuki Murayama and Takeshi Sato : Linking geomorphological features and disaster risk in a school district: The development of an in-service teacher training programme, *IOP Conference Series: Earth and Environmental Science*, 630, 2021.
- Sakurai, Aiko, Takeshi Sato : Evolution of a disaster education program in the disaster cycle: from disaster recovery education to disaster risk reduction education, 17th WORLD CONFERENCE ON EARTHQUAKE ENGINEERING, ID: 7g-0002, 2021.9
- 佐藤比呂志・石山達也・橋間昭徳: 震源断層の長期評価に向けて, *地震予知連会誌*, 104, 476-479, 2020.
- 佐藤興平・南 雅代・池田信二・安部 久・武者 巖・中村俊夫 (2021) : 前橋の敷島公園に産する巨石「お艶ヶ岩」の起源, *群馬県立自然史博物館研究報告*, No.25, 65-74, 2021.
- 佐藤興平・南 雅代・安部 久・中村俊夫・武者 巖 (2021) : 利根川河床の前橋泥流から見出された木片群の 14C 年代, *群馬県立自然史博物館研究報告*, No.25, 75-80, 2021.
- 佐藤興平・南 雅代・中村俊夫 (2021) : 高崎のボーリングコアから見出された木片の 14C 年代と高崎—前橋地域の後期更新世の地層形成史における意義, *群馬県立自然史博物館研究報告*, No.25, 81-90, 2021.
- 佐藤興平・南 雅代・安部 久・中村俊夫・武者 巖 (2021) : 吾妻川上流域の火山泥流堆積物に含まれる木片の 14C 年代(予察), *群馬県立自然史博物館研究報告*, No.25, 91-100, 2021.
- 佐藤興平・南 雅代・武者 巖 (2022) : 前橋泥流の流下域に残存する安山岩塊の比重と Sr 同位体比, *群馬県立自然史博物館研究報告*, No.26, 91-104, 2022.

- 佐藤興平・南 雅代・安部 久・池田信二 (2022) : 浅間火山初期の山体で発生した山体崩壊の年代 : 塚原泥流に含まれる樹木片の ^{14}C 年代からの推定, 群馬県立自然史博物館研究報告, No.26, 105-118, 2022.
- 河合航汰・竹内 誠・斎藤 真・佐藤興平 (2021) : 下仁田地域南蛇井層からのジュラ紀末放散虫化石. 群馬県立自然史博物館研究報告, No.25, 135-138, 2021.
- 河合航汰・竹内 誠・志村侑亮・佐藤興平・南 雅代 (2022) : 関東山地下仁田地域北部に分布する中生界のジルコン U-Pb 年代. 群馬県立自然史博物館研究報告, No.26, 75-90, 2022.
- Sato, Takeshi, Aiko Sakurai, Yuki Sadaike, Yukiko Ouchi, and Yasuo Sugawara : Sustainable Community Development for Disaster Resilience Using the Fukuzumi-Machi Method and Human Resources Development for Disaster Risk Reduction, *Journal of Disaster Research*, Vol.15, No.7, pp.919-930, 2020.12
- Sato, Takeshi, Aiko Sakurai, Yuki Sadaike, Risa Yanagiya, and Hitoshi Konno : Sustainable Community Development for Disaster Resilience and Human Resources Development for Disaster Risk Reduction - Growth and Community Contribution of the Katahira Children' s Board for Community Development -, *Journal of Disaster Research*, Vol.15, No.7, pp.931-942, 2020.12
- 佐藤 健, 桜井愛子, 小田隆史, 林田由那, 村山良之, 矢守克也 : コミュニティ・スクールにおける学校防災の推進モデル~横浜市立北綱島小学校の事例~, *自然災害科学*, Vol.40, No.2, pp.175-190, 2021.8
- 佐藤 健 : 日本安全教育学会による東日本大震災の発生から 10 年間の学校安全の推進に関する研究と実践, *安全教育学研究*, 東日本大震災 10 周年特集号, pp.43-60, 2021.9
- Sato, Takeshi, Aiko Sakurai, Akihiro Shibayama, Satoru Masuda : Place-Based Activities of SENDAI BOSAI Leaders(SBLs) for Disaster Risk Reduction, 17th WORLD CONFERENCE ON EARTHQUAKE ENGINEERING, ID: 7g-0009, 2021.9
- Sato, Yu, Kenji Okano, Hiroyuki Kimura, Kohsuke Honda. TEMPURA: Database of growth TEMPeratures of Usual and RAre prokaryotes. *Microbes and Environments*, 35, ME20074, 2020.
- 佐藤 悠・岡野憲司・木村浩之・本田孝祐. 原核生物における多様な温度適応機構. *環境バイオテクノロジー学会誌*, 21, 17-28, 2021.
- Shi, Ke, Yoshiya Touge, So Kazama, Defining Drought Homogeneous Zones Based on Soil Moisture across Japan and Teleconnections with Large-scale Climate Signals, *Journal of Applied Meteorology and Climatology*, Vol.61, pp.43-60, 2022.1. DOI: 10.1175/JAMC-D-21-0133.1
- 新原俊樹・吉田明夫, 内陸で発生した大地震の前後における震央付近の地震活動の b 値, *地震* 2, 74, 77-86, 2021.

- Shiraishi, K., Watanabe, T., Passive seismic reflection imaging based on acoustic and elastic reverse time migration without source information: theory and numerical simulations, *Exploration Geophysics*, 53, 198-210, 2021.
- Shiraishi, K., Watanabe, T., Seismic imaging of deep crustal structures via reverse time migration using local earthquakes, *Proceedings of the 14th SEGJ International Symposium*, 2021, doi:10.1190/segj2021-069.1.
- Shito, A., Matsumoto, S., Ohkura, T., Shimizu, H., Sakai, S., Iio, Y., Takahashi, H., Yakiwara, H., Watanabe, T., Kosuga, M., Okada, T., Yoshimi, M., Asano, Y., 3-D Intrinsic and Scattering Seismic Attenuation Structures Beneath Kyushu, Japan, *Journal of Geophysical Research-Solid Earth*, 125, 2020.
- 志藤あずさ, 光岡郁穂, 松本聡, 松島健, 相澤広記, 清水洋, 内田和也, 神菌めぐみ, 手操佳子, 中元真美, 宮町凜太郎, 一柳昌義, 大園真子, 岡田和見, 勝俣啓, 高田真秀, 高橋浩晃, 谷岡勇市郎, 山口照寛, 小菅正裕, 東龍介, 内田直希, 江本賢太郎, 太田雄策, 岡田知己, 海田俊輝, 小園誠史, 鈴木秀市, 高木涼太, 出町知嗣, 中原恒, 中山貴史, 平原聡, 松澤暢, 三浦哲, 山本希, 今西和俊, 内出崇彦, 吉見雅行, 青井真, 浅野陽一, 上野友岳, 藤田英輔, 阿部英二, 飯高隆, 岩崎貴哉, 加藤愛太郎, 蔵下英司, 酒井慎一, 椎名高裕, 芹澤正人, 田中伸一, 中川茂樹, 平田直, 増田正孝, 宮川幸治, 八木健夫, 渡邊篤志, 後藤和彦, 伊藤武男, 奥田隆, 寺川寿子, 堀川信一郎, 前田裕太, 松廣健二郎, 山中佳子, 渡辺俊樹, 飯尾能久, 片尾浩, 加納靖之, 津田寛大, 三浦勉, 村本智也, 山下裕亮, 大久保慎人, 山品匡史, 大倉敬宏, 中尾茂, 平野舟一郎, 宮町宏樹, 八木原寛, 2016 年熊本地震合同地震観測データ—地震学的解析の基礎的資料として—, *地震 第2輯*, 73, 149-157, 2020.
- Sugawara, D., 2021. Numerical modeling of tsunami: advances and future challenges after the 2011 Tohoku earthquake and tsunami. *Earth-Science Reviews*, 214, 103498, doi: 10.1016/j.earscirev.2020.103498.
- 須崎光祐, 萩原直明, 杉浦功真, 橋本 岳, 阿部雅人, 杉崎光一, 山本茂弘, “画像を用いた橋梁のたわみ計測における実際の測定環境を想定した実験的研究,” *土木学会 AI・データサイエンス論文集*, 2021 年 2 巻 J2 号, pp. 712-720 (2021) DOI https://doi.org/10.11532/jsceiii.2.J2_712
- Suzuki, R., Yamaoka, K., Tsuji, S., Watanabe, T., Ground water-induced changes in velocities of P and S waves (V_p and V_s) measured using an accurately controlled seismic source, *Earth Planets and Space*, 73, 152, 2021.
- Suzuki, Seiji:2022 Compliant or Obedient? New Lifestyle and People in Japan in the Pandemic of Covid-19, *Advance*, Sage preprints community (DOI:10.31124/advance.19350143.v1)
- Takahashi, H., Takai, N., Chigira, M., Meng, G., Kita, S., & Yamada, T. (2020). Special

- issue “The 2018 Hokkaido Eastern Ibari Earthquake and Hidaka arc–arc collision system”. *Earth, Planets and Space*, 72(1). doi:10.1186/s40623-020-01176-4
- Takata, Kumiko; Hanasaki, Naota; Archevarahuprok, Boonlert; Champathong, Adisorn; Ikoma, Eiji; Jaikaeo, Chaiporn; Kaewrueng, Sudsaisin; Kanae, Shinjiro; Kazama, So; Kuraji, Koichiro; Matsumoto, Kyoko; Nakamura, Shinichiro; Nguyen-Le, Dzung; Noda, Keigo; Piamsa-nga, Napaporn; Raksapatcharawong, Mongkol; Rangsiwanichpong, Prem; Ritphring, Sompratana; Shirakawa, Hiroaki; Somphong, Chatuphong; Srisutham, Mallika; Suanburi, Desell; Suanpaga, Weerakaset; Tebakari, Taichi; Trisurat, Yongyut; Udo, Keiko; Wongsa, Sanit; Yamada, Tomohito; Yoshida, Koshi; Kiatiwat, Thanya; Oki, Taikan, A review of climate-change impact and adaptation studies for the water sector in Thailand, *Environmental Research Letters*, Vol.16, No.2, 023004: pp.1-35, 2021. DOI: 10.1088/1748-9326/abce80
- 高山佳子、山本裕之、松本百合子、古橋裕子、他. 男子学生の健康診断データの経時的動向と生活習慣との関係. *CAMPUS HEALTH* 58 (2) 147-154, 2021 査読あり
- 竹之内健介, 本間基寛, 矢守克也, 鈴木靖: 災害対応の素振り・振返りのための訓練ツールの機能評価—水害を対象とした事前検証を通じて—, *災害情報*, No. 19-1, pp. 11-22, 2021.
- 田近, 淳. 千木良雅弘, 小池明夫, 金秀俊, 石丸聡, & 雨宮和夫. (2020). 2018年北海道胆振東部地震によるテフラ層すべりと人的被害. *日本地すべり学会誌*, 57(6), 203-209. doi:10.3313/jls.57.203
- Tanabe, S., Yoshiro Ishihara, Toshimichi Nakanishi, Jan Stafleu, Freek S. Busschers, Distribution of Holocene marine mud and its relation to damage from the 1923 earthquake disaster in the Tokyo Metropolitan area, Japan. *Geosciences*, 11(7), 272, June 2021, doi: 10.3390/geosciences11070272
- Tanabe, S., Toshimichi Nakanishi, Rei Nakashima, Recycling of clastics in coast areas inferred from quantitative analysis of reworked radiocarbon samples. *Scientific Reports*, 12, 650, December 2021, doi: 10.1038/s41598-021-04660-3
- Tanaka, R., T. Sakamaki, E. Ohtani, H. Fukui, S. Kamada, A. Suzuki, S. Tsutsui, H. Uchiyama, A.Q.R. Baron, 2020. The sound velocity of wüstite at high pressures: implications for low-velocity anomalies at the base of the lower mantle. *Progress in Earth and Planetary Science*. Vol 7, 1-7.
- Tanaka, S., Satoshi Ota, Harutoyo Hirano, Masato Futagawa, and Yasushi Takemura: Evaluation of harmonic signals derived from multiple spatially separated samples for magnetic particle imaging, *IEEE Transaction on Magnetism*, 2022
- 寺山 怜・小林 淳・村田昌則・高橋尚志・鈴木毅彦: 伊豆大島北・西部におけるカルデラ

- 形成以前のテフラ, 月刊地球, No.510, pp.147-155, 2022年3月.
- 田阪美樹 (2022), かんらん岩の高歪みねじり実験から探るマントル・レオロジー, 岩石鉱物科学, 日本鉱物科学会研究奨励賞第29回受賞者記念研究紹介, 55, 1-5.
- Tasaka, M., M. E. Zimmerman, D. L. Kohlstedt (2020), Rheological weakening of olivine + orthopyroxene aggregates due to phase mixing, Effects of orthopyroxene volume fraction, *Journal of Geophysical Research- Solid Earth*, doi: 10.1029/2020JB019888.
- Togashi, S., Kita N.T., Tomiya A., Morishita, Y. (2022) Magmatic evolution of the host magma of plutonic rocks in the Procellarum KREEP Terrane. *Geochimica et Cosmochimica Acta*, 321, 375-402, doi.org/10.1016/j.gca.2021.12.029.
- 坪内暁子, 内藤俊夫, 佐藤 健, 大槻公一, 丸井英二, Fan Chia-Kwung, 奈良武司: グローバル時代の「予測と生存」並びに「BCPとSDGs」の観点からの新興感染症対策に関する提言, 生存科学, Vol.32, No.2, 2022.3
- Tsuji, S., K. Yamaoka & R. Ikuta, Temporal change in seismic wave attenuation using highly stable vibration sources, *Earth, Planets and Space*, 74, 15, doi: 10.1186/s40623-022-01570-0, 2022
- 内田典子, 久保田健吾, 会田俊介, 風間聡, 環境DNA解析に基づく宮城県名取川水系中流域における水生昆虫群集構造の時系列変化, 応用生態工学, Vol.23, No.1, pp.21-36, 2020.9.
- Uchida, Noriko, Kengo Kubota, Shunsuke Aita, So Kazama, Aquatic insect community structure revealed by eDNA metabarcoding derives indices for environmental assessment, *PeerJ*, 8:e9176, 2020. DOI: 10.7717/peerj.9176
- 牛山素行: 豪雨による人的被害発生場所と災害リスク情報の関係について, 自然災害科学, Vol.38, No.4, pp.487-502, 2020
- 牛山素行・本間基寛・横幕早季・杉村晃一: 2019年台風19号による人的被害の特徴, 自然災害科学, Vol.40, No.1, pp.81-102, 2021
- 山田和芳・村尾 智・富安卓滋・奥野 充・瀬戸浩二・香月興太・中西利典・加田 渉, ASGM (零細および小規模金採掘)に関連した環境汚染研究における湖沼掘削科学の貢献と役割. 月刊地球, 号外71, 「基礎データから考える第四紀学の新展開-I」, p.70-77, 2022年2月(査読無し)
- 山口珠美・山下浩之・萬年一剛・小林 淳: 箱根火山の地質と形成史: 最近の研究レビュー, 神奈川県立博物館調査研究報告(自然科学), No.16, pp.137-160, 2021年3月.
- Yamamoto, A., Yuki Kajikawa, Kei Yamashita, Ryota Masaya, Ryo Watanabe, Kenji Harada, Comparison of numerical models on formation of sediment deposition induced by tsunami run-up, *Journal of Disaster Research*, Vol.16, No.7, pp.1015-1029, 2021.
- Yamamoto, Junji*, Hidemi Ishibashi, Yuuki Hagiwara, Lena Yokokura, Kiyooki Niida,

- Raman spectroscopic identification of continuity of a channel olivine in a peridotite specimen. *Geochemical Journal*, 56, 31-39, 2022.
- Yamamoto, Tao, So Kazama, Yoshiya Touge, Tsuyoshi Yamashita, Tsuyoshi Tada, Hiroyuki Takizawa, Hataya Yanagihara, Evaluation of flood damage reduction throughout Japan from adaptation measures taken under a range of emissions mitigation scenarios, *Climatic Change*, 165:60, 18pp., 2021. DOI: 10.1007/s10584-021-03081-5
- 山本道, 風間聡, 峠嘉哉, 多田毅, 山下毅, 日本全国洪水氾濫解析による気候変動への緩和策及び土地利用規制の評価, *土木学会論文集 G (環境)*, Vol.76. No.5, pp. I_141-I_150, 2020.9.
- 山本玄珠・北垣俊明・斉藤朗三・狩野謙一・坂本 泉: 安居山低地周辺の新富士溶岩の層序. *東海大学紀要海洋学部*, 19, 1-12, 2021.
- 柳原駿太, 風間聡, 川越清樹, 日本全域における人口変動に伴う洪水・内水氾濫・斜面崩壊の曝露人口の変化, *土木学会論文集 B1 (水工学)*, Vol.77. No.2, I_1375-I_1380, 2021.12.9.
- 柳原駿太, 山本道, 風間聡, 峠嘉哉, Yikai Chai, 多田毅, 田んぼダムの潜在的な洪水被害軽減の国内地域別評価, *土木学会論文集 G (環境)*, Vol.77. No.5, pp. I_33-I_42, 2021.9.27.
- 柳原駿太, 山本道, 風間聡, 峠嘉哉, 日本全域を対象とした極値降雨データに基づく内水リスクの推定およびその将来変化, *土木学会論文集 B1(水工学)*, Vol.76, No.2, I_85-I_90, 2020.
- 安本真也・横田崇・牛山素行・石黒聡士・関谷直也:平成30年7月豪雨における西予市での住民の避難行動と避難の意思決定構造,*自然災害科学*,Vol.39,特別号,pp.71-86,2020
- Yokoyama, O. (2020). Evolution of uphill-facing scarps by flexural toppling of slate with high-angle faults. *Geomorphology*, 352. doi:10.1016/j.geomorph.2019.106977
- Yoshida, M., M. Miyahara, H. Suga, et al., 2021. Elucidation of impact event recorded in the lherzolitic shergottite NWA 7397. *Meteoritics and Planetary Science*, 56, 1729-174. <https://doi.org/10.1111/maps.13735>
- Zedgenizov, D., H Kagi, E Ohtani, T Tsujimori, K Komatsu, 2020. Retrograde phases of former bridgmanite inclusions in superdeep diamonds, *Lithos* 370, 105659. <https://doi.org/10.1016/j.lithos.2020.105659>
- Zhang, Z. and Karato, S., 2020. The effect of pressure in grain-growth kinetics in olivine aggregates with some geophysical applications, *Journal of Geophysical Research*, 126, e2020JB020886.

2.2.3 学会口頭発表

- 阿部 進・清水英彦・新部貴夫・佐藤比呂志・石山達也: 難地域深部地震探査における技術課題と今後の展望, 石油技術協会誌, 令和 2 年度(2020)石油技術協会学術大会講演要旨, 85(4-5), 250, 2020 年 10 月.
- 秋澤紀克・石川晃・藤田遼・石井輝秋 (2021): 前弧域マントルが記録する古溶融イベント. 日本鉱物科学会 2021 年ウェブ年会, 2021 年 9 月 18 日 .
- 阿久津光希・香月興太・中西利典・小田啓邦・古川竜太・七山 太, 北海道春採湖における巨大津波後の環境変遷 (予稿). 汽水域研究会, Web 開催, 2021 年 12 月
- 青木かおり・高橋尚志・小林 淳・村田昌則・鈴木毅彦: 房総沖掘削コア C9010E のテフラ層序ー利島で発見された新たな流紋岩質テフラと浅間火山起源テフラー, 日本第四紀学会 2020 年大会, 2020 年 12 月 26 日 (オンライン) .
- 青木かおり・小林 淳・村田昌則・高橋尚志・石村大輔・西澤文勝・鈴木毅彦: 房総沖掘削コア C9010E に介在するテフラ層序研究の進捗と概要. 高知大学海洋コア総合研究センター 令和 2 年度共同利用・共同研究成果発表会, 2021 年 3 月 1 日~2 日 (オンライン) .
- 青木かおり・小林 淳・村田昌則・鈴木毅彦: 房総沖海底掘削コア C9010E に介在するテフラ層序ー9 世紀噴火イベントの給源火山の推定. 日本地球惑星科学連合 2021 年大会, 2021 年 6 月 5 日 (オンライン) .
- 青木かおり・小林 淳・村田昌則・鈴木毅彦: 房総沖海底掘削コア C9010E に介在するスコリア層の給源火山推定. 第四紀学会 2021 年大会, 2021 年 8 月 27~28 日 (オンラインー大阪) .
- 青木かおり・小林 淳・村田昌則・高橋尚志・石村大輔・西澤文勝・鈴木毅彦: 房総沖掘削コア C9010E に介在するテフラ層序研究の進捗と概要; 玄武岩質テフラの給源, 高知コアセンター 令和 3 年度共同利用・共同研究成果発表会, 2022 年 3 月 1 日.
- Chigira, M. (2020). Recent large landslide hazards in Asian countries and their background. Paper presented at the International Conference on Earth Sciences and Environment. 2020 年 11 月
- Chigira, M., & Suzuki, K. (2020). Summary of the earthquake-induced landslides of pyroclastic fall deposits for predicting the potential sites of future landslide. Paper presented at the Japan Geosciences Union Meeting 2020, web. 2020 年 5 月
- 千木良雅弘, & 平田康人. (2020). 花崗岩の柱状節理. 2020 年度日本応用地質学会講演論文集. 2020 年 10 月
- 千木良雅弘, & 平田康人. (2020). 花崗岩の冷却節理と特有な地形. 日本地形学連合 2020 年秋季大会講演要旨, ウェブ. 2020 年 10 月
- Chigira, M., & Hirata, Y. (2021). Cooling joints of granite as a structural cause of the tors and boulder fields of granite. Paper presented at the European Geosciences Union General Assembly 2021, Vienna. 2021 年 4 月

- 千木良雅弘. (2021). 花崗岩類のタイプと風化様式と斜面崩壊について. Paper presented at the 日本地すべり学会第 60 回研究発表会. 2020 年 8 月
- 千木良雅弘. (2021). 日本における高レベル放射性廃棄物処分場選定について. Paper presented at the 日本地球惑星科学連合 2021 年大会, web. 2021 年 5 月
- Dominijanni, S., C. A. McCammon, E. Ohtani, et al., Sound velocity measurements of B2-Fe-Ni-Si alloy under high pressure by inelastic x-ray scattering: Implications for the composition of Earth's core, EMPG-XVII, Germany, March 1-3, 2021.
- Dominijanni, S., C. McCammon, E. Ohtani, et al., Composition of the Earth's inner core from high pressure sound velocity measurements of Fe-Ni-Si alloys, EGU General Assembly 2020, Austria, May 4-8, 2020.
- Dominijanni, S., E. Ohtani, D. Ikuta, et al., Sound velocity of B2-FeNiSi alloy at high pressure determined with inelastic X-ray scattering: Implications for the composition of the Earth's inner core (Poster), JpGU-AGU joint meeting 2020, Japan, July 12-16, 2020.
- 江川 香・佐々木 寿・千葉達朗・佐野実可子・阪本知典・岸本英一・小林 淳: 赤色立体模型を用いた富士山プロジェクトマッピング, 日本火山学会 2020 年度秋季大会, 2020 年 10 月 8 日~12 日 (オンライン) .
- Fujii, Motoki, Noriko Matsuda, Yu Namioka, Shinshin Jo, Online SDGs Education Program under COVID-19 Pandemic: Implementation of the Shizuoka University Student Ambassador and Global leadership Programs, 9th International ESD Forum 2021, オンライン開催・Universitas Gadjah Mada, 7rd December 2021. (招待講演以外)
- 藤井基貴「教育『学』はスポーツ文化にいかに関与できるか」「パネルディスカッション『考え行動するアスリート』胃の育成をどう進めるか」静岡大学現代教育研究所、招待講演以外、2021 年 9 月 21 日、オンライン開催
- 藤井基貴「道徳教育とスポーツ」道徳教育学フロンティア研究会、招待講演以外、2021 年 3 月 19 日、オンライン開催
- Fujii, Motoki, Tsuyoshi Jona, Nozomi Suzuki, Developments and Practices of the Risk Education Program for “Complex Disasters” Using Online Teaching Materials, 8th International ESD Forum 2020, オンライン開催・Universitas Gadjah Mada, 3rd December 2020. (招待講演以外)
- 藤井基貴・小林静乃・忍頼子・木村大輔「静岡大学スチューデント・アンバサダープログラム」の取組一般学生・留学生によるオンライン国際教育プログラムの成果と課題」大学教育改革フォーラム in 東海、招待講演以外、2021 年 3 月 6 日、オンライン開催、大学教育改革フォーラム in 東海 2021 実行委員会・名古屋大学高等教育研究センター
- 藤井基貴「卓球アスリート及び指導者に向けた「スポーツ・インテグリティ」教育プログラムの開発」2020 年度日本卓球協会スポーツ医・科学委員会研究発表、招待講演以外、

- 2020年11月14日、オンライン開催・日本卓球協会
 藤井基貴「防災を通じた「主体的・対話的で深い学び」の実現」日本安全教育学会、招待講演、2020年10月11日、静岡大学（オンライン開催）
- 藤井基貴「道德教育の理論・実践研究」道德教育学フロンティア研究会、招待講演以外、2020年6月19日、麗澤大学（オンライン開催）
- 古橋裕子、他「新入生メンタル状態のUPIでの比較」第58回全国大学保健管理研究集会（11月26日Web）
- Furuhashi, Y.: Efficacy of small group therapy for Japanese university students with high-functioning autism spectrum disorder 20th World Congress of Psychiatry（3月12日Web）
- Furuhashi, Y.: A small group therapy for Japanese postsecondary students with ADHD 21th World Congress of Psychiatry（2021年10月19日）
- 古橋裕子、他「コロナ禍での在宅授業が発達障害圏学生に及ぼす影響」第59回全国大学保健管理研究集会（10月6日Web）
- Harada, K., Tomoki Morita, Shu Ito, Numerical Analysis of the Effect of Intermittent Embankment Structures on Tsunami Inundation, 30th International tsunami symposium, e90144, Sendai, Japan, 1-3 July 2021.
- 橋間昭徳・佐藤比呂志・佐藤利典：房総半島下における正断層型地震の発生と応力蓄積モデル, 日本地球惑星科学連合大会予稿集(online), SCG63-P03, 2020年7月.
- 橋間昭徳・佐藤比呂志・石山達也・Freed Andrew・Becker Thorsten: プレート間巨大地震の固着による内陸震源断層への応力蓄積：南海トラフと千島海溝, 日本地球惑星科学連合大会予稿集 (online), MIS03-06, 2020年7月.
- Hashima, A., H. Sato, T. Ishiyama, Freed, Andrew, Becker, Thorsten: Fault stressing in the overriding plate due to megathrust coupling along the Nankai trough, Japan, 22nd EGU General Assembly, id.18393, 2020年5月.
- 橋間昭徳・佐藤比呂志・石山達也・五十嵐俊博: 琉球海溝-南海トラフのすべり速度欠損分布と繰り返し地震活動の関係, 日本地震学会秋季大会 2021, S09P-01, 2021年10月.
- 橋間昭徳・岩崎貴哉・佐藤比呂志・篠原雅尚・石山達也・蔵下英司・Becker Thorsten・Freed Andrew: 2011年東北沖地震による2021年M7.3福島沖地震への影響, 日本地球惑星科学連合大会, SIT20-05, 2021年6月.
- 橋間昭徳・佐藤比呂志・石山達也・Freed Andrew・Becker Thorsten: 東北日本弧、西南日本弧のプレート境界プロセスによる日本海海域の震源断層への応力蓄積, 日本地球惑星科学連合大会予稿集, SCG49-02, 2021年6月.
- 林 拙郎・山田 隆：令和2年7月球磨川豪雨による斜面崩壊の要因分析-豪雨度と地質要因からみた検討-, 砂防学会研究発表会, 2021年5月.
- 林 拙郎・山田 隆：2019年台風19号の豪雨特性と土砂災害, 砂防学会研究発表会, 2020

- 年 5 月.
- 林能成, 1970 年代の地球科学におけるグローバル・アプローチ ～故島津康男教授のオーラルヒストリーから～, 日本地球惑星科学連合大会, 2020 年 7 月 12 日.
- 林能成, 大学構内に設置した地震計の振動レベルにもとづく活動規制の評価, 東大地震研共同利用研究集会「地表・海底の振動記録から探る地震以外の諸現象」, 第 1 回オンライン研究集会, 2021 年 3 月 30 日.
- 本間基寛, 牛山素行: 豪雨災害における人的被害ポテンシャルの推定の試み, 日本災害情報学会第 22 回研究発表大会予稿集, pp. 24-25, 2020. <口頭>
- 本間基寛: 線状降水帯情報に対する住民の受け止め方に関する調査, 日本災害情報学会第 23 回研究発表大会予稿集, pp. 8-9, 2021. <口頭>
- 本間基寛, 牛山素行: 令和 3 年 8 月の大雨での降水量と人的被害発生の関係性, 日本災害情報学会第 24 回研究発表大会予稿集, pp. 53-54, 2022. <口頭>
- 堀 和明・石井祐次・田村 亨・佐藤善輝・稲崎富士・中西利典・北川浩之・廣内大助・三笥加葉・松多信尚. コア堆積物の解析にもとづく菊川低地の形成過程. 日本地理学会, 東京大学 (オンライン), 2022 年 3 月
- 池田恵子: 災害とジェンダー研究の系譜, 第 8 回震災問題研究交流会 (2022 年 3 月 20 日).
- 池田恵子: 自主防災組織を担う女性の実態と意識—静岡県における調査より—, 第 8 回震災問題研究交流会 (2022 年 3 月 19 日).
- 池田恵子: 復興の「地域的最適解」研究における包摂とエンパワーメント, 第 94 回日本社会学会大会 (2021 年 11 月 14 日).
- IKEDA, Keiko: Locally Accepted and Gender Sensitive: Gender Equity Center' s Engagement with Disaster Affected Communities in the Great East Japan Disaster, 2011, International Sociological Association Forum of Sociology (2021 年 2 月 27 日).
- 池田恵子: 「復興から防災へ: ネパール地震(2015 年)と女性たち」解説, 早稲田大学総合人文科学研究センター年次フォーラム「東日本大震災 10 年の軌跡と大規模災害からの復興をめぐって～新たな『日常』への模索～」, (2021 年 1 月 9 日).
- 池田恵子: 災害リスクと女性/ジェンダー/多様性～地域防災の現場から～, 国際ジェンダー学会 2020 年大会, (2020 年 9 月 12 日).
- Ikuta, D., E. Ohtani, H. Fukui, et al., IXS measurements in extreme conditions: A multi-megabar primary pressure scale and the structure of the Earth's core (Invited), Workshop on meV-resolved inelastic X-ray scattering, SPring-8, Japan, September 6-9, 2021.
- Ikuta, D., E. Ohtani, H. Fukui, et al. (Poster), Sound velocity of hcp-iron at extreme pressure by inelastic x-ray scattering measurement, JpGU Meeting 2021, Japan, May 30-June 6, 2021.
- Ikuta, D., E. Ohtani, T. Sakamaki, et al., Large density deficit of Earth's core revealed

- by a multi-megabar primary pressure scale, 日本鉱物科学会, Japan, September 16-18, 2021.
- Ikuta, D., E. Ohtani, H. Fukui, et al., Primary pressure scale of rhenium to multi-megabar pressures by inelastic x-ray scattering, 第 62 回高圧討論会, Japan, October 18-20, 2021.
- Ikuta, D., E. Ohtani, H. Fukui, et al., Determination for compressional wave velocity of hcp-iron to multi-megabar pressures by inelastic x-ray scattering (Poster), 第 62 回高圧討論会, Japan, October 18-20, 2021.
- Ikuta, D., E. Ohtani, H. Fukui, et al. (Poster), Sound velocity measurement of Fe-Ni-Si alloys at high pressure and high temperature, JpGU-AGU joint meeting 2020, Japan, July 12-16, 2020.
- 稲崎富士・松多信尚・楮原京子・岡田真介・中西利典・堀 和明・中埜貴元, S 波ランドストリーマー反射法探査および S 波速度検層による海岸平野下の浅部地下構造イメージング. 物理探査学会, サポートホール高松, 2021 年 11 月
- 庵 太志・秋元菜摘, 桜島降灰の時系列 GIS 解析と周辺地域への影響 — 自然・人文社会データの 3D 可視化に基づいて —, 地理情報システム学会, オンライン (Covid-19 のため), 2020/10/24.
- 庵 太志・秋元菜摘, 桜島火山灰が周辺地域の生活環境に与える影響, 2019 年度防災関連学部横断卒論・修論発表会, 静岡大学, 2020/03/07/
- 石橋秀巳, 大塚芽久, 田中佑希子, 安田 敦, 外西奈津美, 富士山での石英に富むクリスタルマッシュ状捕獲岩の発見. 日本火山学会 2020 年秋季大会, 2020 年 10 月.
- Ishii, T., E. Ohtani, Water content in olivine and its polymorphs coexisting with hydrous phases under water undersaturated conditions, JpGU Meeting 2021, Japan, May 30-June 6, 2021.
- 石井輝秋・金子 誠・平野直人・町田嗣樹・秋澤紀克 (2021) : プチスポット火山産太平洋プレート地質断面構成物質の探索, 東京大学大気海洋研究所・共同利用研究集会— InterRidge-Japan 研究集会, 2021 年 11 月 25 日, 東京大学大気海洋研究所 (柏キャンパス) .
- 石井輝秋・金子 誠・平野直人・佐藤勇輝・町田嗣樹・浅見慶志朗・秋澤紀克・松崎琢也 (2020) : プチスポット産火山岩中のマントル及びアセノスフェア由来物質 — 東北沖太平洋超深海底の爆裂火口 (マール) の構成岩石 —, 令和 1(2019)年度高知大学海洋コア総合研究センター 全国共同利用・共同研究成果発表会, 講演要旨集: P-27, 2020 年 2 月 27 日 (木), 高知大学, (ポスター発表) .
- Ishii, T., Makoto Kaneko, Naoto Hirano, Shiki Machida and Yuki Sato (2020) : Petit-spot with Maar like edifice, Goldschmidt 2020, 6/27, 08:51-08:54 at Tokyo time, Poster (zoom).

- 石井輝秋,金子誠,平野直人,町田嗣樹,松本亜沙子,秋澤紀克,佐藤勇輝,油谷拓,浅見慶志朗,桂木悠希,坂井俊太,中野幸彦,松崎琢也 (2020) : プチスポット火山ドレッジ研究速報と IODP 科学掘削提案 — 歴史的な発見: 東北沖太平洋超深海底の爆裂火口 (マール) —, 日本地球惑星科学連合 2020 年大会, 2020 年 7 月 17 日 (木), 幕張メッセ,千葉市 (ポスター発表, Zoom) .
- 石井輝秋・平野直人・金子 誠・町田嗣樹・佐藤勇輝 (2020) : 歴史的な発見: 東北沖太平洋超深海底の爆裂火口 (マール), 日本火山学会 2020 秋季大会講演予稿集, O1-12, 2020 年 10 月 8 日 (木) 15:15-15:30, 名古屋大学, 口頭(Zoom).
- 石井輝秋・金子 誠・平野直人・町田嗣樹・秋澤紀克・松崎琢也 (2021) : 北西太平洋プチスポット火山岩中の地球深部物質—プチスポット産火山岩中の下部地殻・マントル・アセノスフェア由来物質の探索—,令和 2(2020)年度高知大学海洋コア総合研究センター全国共同利用・共同研究成果発表会 *O-37 口頭(Zoom)令和 3(2021)年 3 月 2 日 15:10-15:25.
- 石川宏之: 持続可能な地域づくりを推進するための公学民連携によるボトムアッププロセスのあり方—糸魚川ユネスコ世界ジオパークを事例として—, 2020 年度日本建築学会大会 (関東), 2020.9.
- 石川宏之: 持続可能な観光を進めるための大学関係者の役割と公学民連携による地域プランニングのあり方—伊豆半島ユネスコ世界ジオパークを事例として—, 2021 年度日本建築学会大会 (東海), 2021.9.
- 石川有三,新型コロナによる地震検知能力の変化,日本情報地質学会,10/23, オンライン,2020
- 石野好彦, 瀬尾直樹, 原田賢治, 津波避難に関する御前崎地区住民アンケート—東北地方太平洋沖地震から 10 年を経て—, 土木学会第 41 回地震工学研究発表会講演論文集, D11-2277, 11p, 2021.9.16.
- 石山達也・佐藤比呂志・加藤 直子・阿部 進・横井 悟・清水英彦・奥田真央: 高分解能反射法地震探査による庄内平野の伏在活断層の構造的特徴, 石油技術協会誌, 令和 2 年度 (2020)石油技術協会学術大会講演要旨, 85(4-5), 249, 2020 年 10 月.
- Ishiyama, T., H. Sato, N. Kato, S. Koshiya: Quaternary back-arc strain localization of Northeast Japan accommodated by fault-related folding, 日本地球惑星科学連合大会 (online), MIS03-10, 2020 年 7 月.
- 石山達也・佐藤比呂志・加藤直子: 日本海の failed rift system の再活動による北陸地域のアクティブ・テクトニクス, 日本地球惑星科学連合大会, SCG49-P04, 2021 年 6 月.
- 石山達也・中西利典・廣内大助・松多信尚・加藤直子・佐藤比呂志, 富士川河口断層帯・入山瀬断層の構造・歴史時代の活動と地形変化. 地震研談話会, 2021 年 5 月
- 磯 真成, 木村浩之. 熱分解起源のメタンが溶存する付加体深部帯水層中の菌叢の特徴. 日本微生物生態学会第 34 回大会, 2021 年 11 月.
- 板寺一洋・吉田明夫, 芦ノ湖の水収支と箱根火山の熱水系, 地球惑星科学連合大会, 2022 年

5月.

伊藤谷生・狩野謙一・渡辺俊樹・阿部信太郎・佐藤比呂志・岩崎貴哉・石山達也・松原 誠, 藤原 明・阿部 進・東中基倫: First stage to reveal the structure of the Fujikawa-kako Fault Zone by the integrated seismic experiments across the northwestern region of the Izu collision zone, central Japan, 日本地球惑星科学連合, MIS03-08, 2020年6月.

伊藤谷生, 狩野謙一, 渡辺俊樹, 阿部信太郎, 佐藤比呂志, 岩崎貴哉, 石山達也, 松原誠, 藤原明, 阿部進, 東中基倫, First stage to reveal the structure of the Fujikawa-kako Fault Zone by the integrated seismic experiments across the northwestern region of the Izu collision zone, central Japan, , 日本地球惑星科学連合 2020年大会, 2020.7.12-16.

伊藤祐貴・秋元菜摘, 自衛隊による災害派遣・防災訓練の意義と効果, 2019年度防災関連学部横断卒論・修論発表会, 静岡大学, 2020/03/07.

伊藤祐貴・秋元菜摘, 自衛隊の広報活動における防災・災害派遣の情報戦略的役割, 静岡大学情報学シンポジウム, 静岡大学情報学部研究連携推進室, オンライン (Covid-19 のため), 2020/12/25.

岩橋くるみ, 安田敦, 石橋秀巳, クリスタルクロットを用いたプレ噴火過程の制約と噴火様式にもたらす影響の検討: 雲仙火山の例. 日本火山学会 2020年秋季大会, 2020年10月.

岩崎貴哉・佐藤比呂志・馬場久紀・鶴我佳代子・田中康久・石山達也・松原 誠・川崎慎治・平田 直: Refraction/wide-angle reflection study for 2018 seismic profiling in the northernmost part of the Suruga Bay, 日本地球惑星科学連合大会予稿集 (online), SSS11-07, 2020年7月.

岩崎貴哉・佐藤比呂志・蔵下英司・石毛宏和・清水英彦・石山達也・飯高 隆・篠原雅尚・川崎慎治, 阿部 進, 平田 直: 2019年海陸統合地震探査による東北日本弧中部の地殻・上部マントル構造, 日本地震学会秋季大会 2021, S06-03, 2021年10月.

岩崎貴哉・佐藤比呂志・蔵下英司, 石毛宏和・清水英彦・石山達也・飯高 隆・篠原雅尚・川崎慎治・阿部 進・平田 直: The upper crustal structure across the central part of the NE Japan Arc revealed from the 2019 onshore seismic refraction/wide-angle reflection profiling, 日本地球惑星科学連合大会, SCG49-05, 2021年6月.

Juanara, E. and Yasunobu Maeda: Prototyping Disaster Risk Management System on the Regional Innovation System: The Case of Pandeglang District Government, 経営情報学会 2021年度年次大会, 2021年6月13日

金丸諒太郎, 小田義也, 東宏幸, 大森健太郎, 菅家翔太郎, 渡辺俊樹, 八丈島における臨時稠密微小地震観測, 日本地球惑星科学連合 2020年大会, 2020.7.12-16.

Kasahara, J., Yoko Hasada, Haruyasu Kuzume, Hitoshi Mikada, Yoshihiro Fujise, Satoshi Kitaoka and Testsushi Matsuda, 2nd seismic and temperature

- measurements using DAS and DTS measurements at the Medipolis geothermal field, Kyushu, Japan, 地球惑星連合大会 I-Poster, 2020 年 7 月 1 1 日.
- Kasahara, J., Yoko Hasada and Haruyasu Kuzume, Geophysical implication of the high Vp/Vs zone at depth of approximately 3.6 km obtained by the DAS measurements at the Medipolis geothermal filed, 地球惑星連合大会 I-Poster, 2020 年 7 月 1 1 日.
- Kasahara, J., Yoko Hasada and Haruyasu Kuzume, Possibility of high Vp/Vs zone in the geothermal filed suggested by the P-to-S conversion, 地球惑星連合大会 I-Poster, 2020 年 7 月 1 1 日.
- Kasahara, J., Yoko Hasada, Haruyasu Kuzume, Hitoshi Mikada and Yoshihiro Fujise, The second seismic study at the geothermal field in southern Kyushu, Japan using an optical fiber system and surface geophones, Stanford Geothermal Workshop (米国カリフォルニア州 Palo Alto スタンフォード大学), 2020 年 2 月 10 日.
- Kasahara, J., Hasada, Y., Kuzume, H., Fujise, Y., Mikada, H., DAS and DTS measurements in the Medipolis geothermal borehole in southern Japan and subsurface characterization, SEG DAS workshop, Oral presentation, 2021 年 2 月.
- Kasahara, J., Hasada, H., Kuzume, H., Mikada, H., Fujise, Y., A DAS-VSP Study Around the Geothermal Field of the Ohnuma Geothermal Power Plant in Northern Honshu, Japan, PROCEEDINGS, 46th Workshop on Geothermal Reservoir Engineering, Stanford Geothermal Workshop 2021, 2021 年 2 月.
- 笠原順三、羽佐田葉子、久詰晴康、八幡平大沼地熱フィールドにおける DAS-地震波観測の結果の解釈, 地球惑星連合大会口頭発表, 2021 年 5 月.
- Kasahara, J., Hasada, Y., Kuzume, H., Mikada, H., Fujise, Y., DAS-Seismic and temperature data acquisition using DAS and DTS measurements at the Ohnuma, geothermal field, Tohoku, Japan, 地球惑星連合大会口頭発表, 2021 年 5 月.
- Kasahara, J., Hasada, Y., Haruyasu Kuzume, H. Simulation of Seismic Imaging of Supercritical Geothermal Reservoir Using the Full-Waveform Inversion Method, Proceedings World Geothermal Congress 2020+1, Reykjavik, Iceland, April - October 2021.
- Kasahara, J., Hasada, Y., Haruyasu Kuzume, H., Yoshihiro Fujise, Hitoshi Mikada, and Keigo Yamamoto, Seismic feasibility study to identify and characterize supercritical Geothermal Reservoirs, using DTS, DAS, and surface seismic array, Proceedings World Geothermal Congress 2020+1, Reykjavik, Iceland, April - October 2021.
- 笠原順三、羽佐田葉子、久詰晴康、三ヶ田均、藤瀬吉博、秋田県大沼地熱発電所地熱坑井内の DAS を用いた地震波探査, 探査学会 2021 年春季大会、口頭発表, 2021 年 6 月.
- Kasahara, J., Hasada, H., Kuzume, H., Mikada, H., and Fujise, Y., Exploring New

- Geothermal Reservoirs in the Ohnuma Well in Honshu, Japan Using Enhanced DAS Seismic Methods, EAGE 2021, Oral presentation, 2021年6月.
- Kasahara, J., Hasada, Y., Kuzume H., Mikada, H. Fujise, Y., Presence of an intense reflector at 2.8 km depth revealed by the enhanced borehole DAS seismic study in the Ohnuma Geothermal field in Honshu, Japan, SEG 2021, Oral presentation, 2021年10月.
- Kasahara, J., Hasada, Y., Kuzume, H., Mikada, H., Seismic exploration for geothermal resources, ICEG 2021, Keynote speech, 2021年10月.
- 笠原順三・羽佐田葉子・久詰陽康、三ヶ田均、藤瀬吉博、大沼地熱発電所地熱坑井内の DAS を用いた地震波探査, 地熱学会、口頭発表, 2021年10月.
- 笠原順三, 羽佐田葉子, 大沼寛, 久詰陽康, 三ヶ田均*北海道森町濁川地区における DAS 地震波探査, 探査学会春季、秋季大会, 2021年11月.
- 加藤直子・石山達也・佐藤比呂志・越谷 信・小池太郎・野田克也: 庄内平野および山形盆地における高分解能反射法地震探査, 日本地球惑星科学連合大会 (online), MIS03-P04, 2020年7月.
- Katsuki, K., Iori Miura, Toshimichi Nakanishi, Koji Seto, Yoshiki Saito. History of the Holocene lagoon development and recorded short-term water quality and ecological fluctuations in San'in Region, Japan. 7th International Conference on Estuaries and Coasts, Shanghai, October 2021
- 河合美保・村越真(2020) 教育実習生が「リスク」と感じる子どもたちの行動・環境の検討. 日本安全教育学会第21回大会(静岡)
- 川野 誠、木村浩之. 微生物メタネーションの実用化に向けた検討. 日本微生物生態学会第34回大会、2021年11月.
- Kazama, So: Measurement of People Number in a River Using Deep Learning for SNS Images, HS16-A022, AOGS, Online, 2021.8.5.
- 風間聡: 日本全土の洪水氾濫被害の将来展望, 学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点シンポジウム, オンライン, 2021.7.9.
- 風間聡: 人口減少地域における河川環境の調査, 土木学会東北支部技術研究発表会, オンライン, 2021.3.6.
- Kazama, So: Comparison of adaptation measures for floods in Japan, GOBESHONA Global Conference, Online, 2021. 1.22.
- Kazama, So: Adaptation to future flooding in a lowland city, - A case of Jakarta City -, International Symposium on Earth Resources Management and Environment 2020 (ISERME 2020), Online (Srilanka), 2020.12.21.
- Kimura, H., Toshimichi Nakanishi, Mei Yukawa, Takashi Hosoya, Wan Hong, Holocene activity of the strike-slip faults revealed by sediment cores and ground penetrating

radar profiling, the northern area of the Izu Peninsula, central Japan. The 15th International Conference on Accelerator Mass Spectrometry (AMS 15), A-4, p.95, Online, November 2021

木村俊則, 荒木英一郎, 横引貴史, 山岡耕春, 辻修平 & 渡辺俊樹, 豊橋沖海底ケーブルを用いた長期間 DAS 観測, 日本地震学会 2021 年秋季大会, 2021.10.14-16.

木村治夫・中西利典・堤 浩之・稲荷絢音, 谷口 薫, 埋没した断層変位地形の検出への地中レーダー探査の適用. 日本第四紀学会・リモートシンポジウム「陸域アーカイブから読む環境変化と巨大災害」, QRS1-04, 2021 年 7 月

北村晃寿 古生物学的手法に基づく 2021 年 7 月 3 日に静岡県熱海市伊豆山地区で発生した土石流の実態究明. 日本古生物学会, 2022 年 2 月 6 日.

北村晃寿 2020 年日本第四紀学会学術賞受賞記念論文 貝化石・有孔虫化石の複合群集解析による日本本島の島嶼化過程・東海地震の履歴の研究. 日本第四紀学会, 2021 年 8 月 29 日, 招待講演.

小林元気・秋元菜摘, 浜松北部地域における路線バス網の変遷と GIS データ分析 — 戦後の沿線市町村の産業・集落の変容と関連して. 日本地理学会 (持続可能な交通システム研究グループ研究会, 駒澤大学, 2020/3).

小林元気・秋元菜摘, 浜松市北部地域の変容と路線バス網の変遷に関する歴史 GIS 分析, 地理情報システム学会, オンライン (Covid-19 のため), 2020/10/24.

小林 淳・馬場 章: 静岡県富士山世界遺産センターにおける火山研究, 国際火山噴火史情報研究集会, 2020 年 9 月 26 日 (福岡大学: Webex meeting 併用) .

小林 淳: 富士山周辺の風化火山灰土の産状について. 第 35 回考古学研究会東海例会「愛鷹山麓の後期旧石器時代前半期における狩猟活動と植生改変」, 2021 年 2 月 20 日 (オンライン) .

香月興太・三浦伊織・中西利典・瀬戸浩二・齋藤文紀, XRF コアスキャンによる簸川平野東部における中期完新世古気候復元. 汽水域合同研究発表会 2022, 島根大学+Web 開催, 2022 年 1 月

香月興太・齋藤文紀・瀬戸浩二・中西利典・三浦伊織, 島根県簸川平野の年縞堆積物を用いた XRF コアスキャンによる中期完新世の古環境復元. 令和 3 年度高知大学海洋コア総合研究センター共同利用・共同研究成果発表会, オンライン開催, 2022 年 3 月

小松哲也・小形 学・中西利典・川村 淳, 穿入蛇行河川の過去数十万年間の平均下刻速度の推定-紀伊山地十津川の事例-. JpGU-AGU Joint Meeting, HGM03-02, ウェブ開催, 2020 年 7 月

越谷 信・後藤巖河・石山達也・佐藤比呂志・加藤直子・東中基倫: 重力調査に基づく四国西部中央構造線の地下構造, 日本地球惑星科学連合大会予稿集 (online), SSS16-05, 2020, 年 7 月.

小杉素子(静岡大学) COVID-19 の予防行動の規定因, 日本リスク学会第 34 回年次大会:

オンライン, 2021 年 11 月

小杉素子(静岡大学)・馬場健司(東京都市大) 気候変動リスクコミュニケーションと市民意識, 環境科学会 2021 年会: オンライン, 2021 年 9 月

小杉素子(静岡大学)・桑垣玲子(電力中央研究所)・土屋智子(一般社団法人複合リスク学際研究・協働ネットワーク) 放射線リスクに関する情報発信と受け手の理解, 日本社会心理学会第 62 回大会: オンライン, 2021 年 8 月

小杉素子(静岡大学)・馬場健司(東京都市大)・田中充(法政大学) 地球温暖化リスクに対する日本人の態度変化, 土木学会第 28 回地球環境シンポジウム: オンライン, 2020 年 9 月

小山真人・鈴木雄介・宮本成悟・長原翔伍・森島邦博・中野敏行: 伊豆東部火山群大室山スコリア丘の構造と形成過程—高解像度 DEM とミュオグラフィにもとづく再検討—, 日本火山学会 2021 年秋季大会, A3-15, オンライン, 2021 年 10 月

蔵下英司・佐藤比呂志・岩崎貴哉・飯高 隆・石山達也・篠原雅尚・石毛宏和・清水英彦・川崎慎治・阿部 進・平田 直: Seismic structure from the forearc region off Miyagi to the central part of Northern Honshu arc, Japan, revealed by onshore-offshore seismic experiment, 日本地球惑星科学連合大会, SCG49-04, 2021 年 6 月

桑垣玲子(電力中央研究所)・小杉素子(静岡大学)・土屋智子(一般社団法人複合リスク学際研究・協働ネットワーク) 福島第一原子力発電書事故から 10 年, 人々は放射線リスクとどう向き合ってきたか—メンタルモデル・インタビュー調査から考える—, 日本リスク学会第 34 回年次大会: オンライン, 2021 年 11 月

町田嗣樹・平野直人・金子純二・秋澤紀克・浅見慶志朗・田中えりか・石井輝秋・YK18-08/YK19-05 航海乗船研究者一同 (2020): 南鳥島南東沖のプチスポット火山群: YK18-08/YK19-05 航海総括, 海と地球の 2020 シンポジウム, 科学のフロンティア × 研究船, 2021 年 12 月 17 日, 東京大学大気海洋研究所 (柏キャンパス), 航海概要報告 3-15, (Zoom) .

前田光稀*, 田阪美樹, 南部洸太, 本村寛樹, 吉田英弘, 2022, かんらん石+単斜輝石多結晶体から得られた直流電場が及ぼす高温物質輸送への効果, 変成岩などシンポジウム, オンライン, 3 月 13 日 (口頭).

前田裕太, 渡辺俊樹, 御嶽山浅部への流体供給構造の地震学的イメージング, 日本地球惑星科学連合 2021 年大会, 2021.5.30-6.6.

前田裕太, 渡辺俊樹, 自己相関関数の誤差評価—反射断面推定の信頼性向上に向けて, 日本地震学会 2021 年秋季大会, 2021.10.14-16.

前田裕太, 渡辺俊樹, 自己相関関数の誤差評価と御嶽山浅部構造への適用, 日本火山学会 2021 年秋季大会, 2021.10.20-23.

前田恭伸, 森保文, 浅野敏久: 環境団体の活動へのコロナ禍の影響の調査, 環境科学会 2021 年会, 2021 年 9 月 11 日

- 前田恭伸, 森保文, 浅野敏久: 環境団体の活動へのコロナ禍の影響 —全国の団体への調査から—, 日本リスク学会第 34 回年次大会, 2021 年 11 月 20 日
- Marzotto, E., W. P. Hsieh, T. Ishii, et al., Combining thermo-reflectance measurements (TDTR) with finite-difference (FD) numerical modelling to study the thermal evolution of the subducting slabs (Invited), JpGU Meeting 2021, Japan, May 30-June 6, 2021.
- Mashiko, M., Chigira, M., Furuki, H., & Suzuki, T. (2020). Long-term rates of gravitational slope deformations on a low-angle fault that forms a dip slope in the Shimanto Belt, in the Kanto Mountains. Paper presented at the Japan Geosciences Union Meeting 2020. 2020 年 5 月
- 松原 誠・YANO Tomoko Elizabeth・佐藤比呂志: Lower limit of seismogenic zone beneath Japan based on hypocenter catalog determined with 3D seismic velocity structure, 日本地球惑星科学連合大会予稿集 (online), MIS03-02, 2020 年 7 月.
- 松原 誠・汐見勝彦・馬場久紀・佐藤比呂志・西宮隆仁: 駿河トラフから東海地域に沈み込むフィリピン海プレート形状, 日本地震学会秋季大会, S06-06, 2021 年 10 月.
- 松田, 北岡, 笠原, 久詰, 三ヶ田(2021)耐環境性光ファイバーの開発, 日本地熱学会令和 3 年学術講演会, 2021 年 10 月.
- 光井能麻, 吉武久美, 中川和之: 小学校における断層教育の事例報告-心の減災効果を加味した防災教育の検討に向けて, 日本地球惑星科学連合大会, 2020 年 5 月
- 三井雄太: 南海トラフにおける走向方向不均質: プレート内地震活動と大規模 SSE, 研究会「地震活動の統計モデルと物理的意味」, 2022/3/8.
- 三井雄太, 上原啓嗣, 小杉一誠, 松尾功二: 南海トラフのプレート内地震活動度と長期的スロースリップイベントの時空間的關係, 日本地震学会 2021 年度秋季大会, 2021/10/14.
- Mitsui, Yuta, Hinako Muramatsu, Yusaku Tanaka: Slow deformation event between large intraslab earthquakes at the Tonga Trench inferred from geodetic and seismological data, EGU General Assembly 2021, 2021/4/28.
- 三井雄太, 村松雛子, 田中優作: トンガ海溝における大きなスラブ内地震間のスローイベント, 日本地震学会 2020 年度秋季大会, 2020/10/31.
- 三井雄太, 加納将行: 東海地方の深部短期スロースリップイベント発生時期における駿河トラフ上盤-下盤間の GNSS 基線長変化, 日本測地学会第 134 回講演会, 2020/10/22.
- 満下健太・村越真・鎌塚優子(2020) 小学校の活動場面別に見た負傷・疾病事故発生率の年次比較. 日本安全教育学会第 21 回大会.
- 満下健太・村越真 (2021) 三相因子分析による自然災害に対するリスク認知の分析. リスク学会第 34 回年次大会, vol.34.
- 三浦伊織・香月興太・齋藤文紀・瀬戸浩二・中西利典, 珪藻化石分析に基づく斐伊川河口域における中期～後期完新世の環境復元. 汽水域合同研究会, 2021 年 1 月

- 三浦伊織・香月興太・瀬戸浩二・齋藤文紀・中西利典, 珪質微化石分析に基づく斐伊川河口域における完新世の環境変動と広域変動 (予稿). 汽水域研究会, Web 開催, 2021 年 12 月.
- 三浦伊織・香月興太・瀬戸浩二・齋藤文紀・中西利典, 珪質微化石分析に基づく斐伊川河口域における完新世の環境変動と広域変動. 汽水域合同研究発表会 2022, 島根大学+ Web 開催, 2022 年 1 月
- 三浦 健太郎, 大河原 誠一, 平野 陽豊, 大多 哲史, 二川 雅登: 給排水モニタリングに向けた小型核磁気共鳴センサによるイオン微小信号検出方法の検討, 令和 3 年度電気学会 E 部門総合研究会, オンライン開催, 2021 年 7 月 26 日-27 日
- 三浦 健太郎, 大河原 誠一, 大多 哲史, 平野 陽豊, 二川 雅登: 給排水モニタリングのための小型核磁気共鳴センサによる水素イオン微小信号検出方法の検討, 令和 4 年電気学会全国大会, オンライン開催, 2022 年 3 月 21-23 日
- 宮本 樹, 須貝俊彦, 木森大我, 小松哲也, 中西利典, 複数のボーリングコアの堆積層解析に基づく古東京湾の MIS6 から最終間氷期の地形発達史. JpGU - AGU Joint Meeting, HQR06-08, ウェブ開催, 2020 年 7 月
- 宮本 樹・須貝俊彦・丹羽雄一・中西利典・小松哲也・日浦祐樹, 関東平野中央部における最終間氷期海成層の高度分布. 日本地理学会, P019, ウェブ開催, 2021 年 3 月
- 宮本 樹・須貝俊彦・丹羽雄一・中西利典・小松哲也・日浦祐樹, 関東平野中北部における MIS12.以降の地形形成と地殻変動推定 (速報). 地球惑星科学連合大会, HQR04-P06, ウェブ開催, 2021 年 6 月
- 宮本成悟・長原翔伍・森島邦博・中野敏行・小山真人・鈴木雄介: 多方向ミュオグラフィによる伊豆大室山スコリア丘の 3 次元密度イメージング. 日本火山学会 2021 年秋季大会, A3-14, オンライン, 2021 年 10 月
- Miyamoto, S., Shogo Nagahara, Kunihiro Morishima, Toshiyuki Nakano, Masato Koyama and Yusuke Suzuki: Three-dimensional density structure imaging of the Izu-Omuoyama volcano by multi-directional muography. International Conference on Advanced Imaging 2021, Session 19: SPIJ: Radiation Track Imaging, Makuhari (online), October 7, 2021
- 森重学, 田阪美樹, 2022, 結晶方位選択配向による熱伝導率の異方性が沈み込み帯温度構造に及ぼす影響, 地球惑星科学連合, 幕張, 5 月 26 日(口頭).
- 森重学, 田阪美樹, 2021, 熱伝導率の異方性を考慮した東北地方沈み込み帯温度構造のモデリング, 日本地震学会 2021 年度秋季大会, 10 月 16 日(口頭).
- 森保文, 前田恭伸, 浅野敏久: ボランティア活動参加に対する依頼に関係する要因の影響, 環境科学会 2020 年会, 2020 年 9 月 19 日
- 森保文, 浅野敏久, 前田恭伸: 新型コロナウイルス禍のボランティア活動参加に与える影響とその機構, 日本 NPO 学会第 23 回研究大会, 2021 年 6 月 20 日

Mori Yasuhumi, Asano Toshihisa, Maeda Yasunobu: Effects of Elements Related to Being Asked to Participate on Volunteer Activities, ISTR2021 Global Virtual Conference, 2021年7月15日

森保文, 浅野敏久, 前田恭伸: ボランティア活動参加に与える新型コロナウイルス禍の影響, 日本リスク学会第34回年次大会, 2021年11月20日

向井利明・牛山素行:近年の記録的短時間大雨情報について その2 ー災害発生率等から見たその役割ー,日本災害情報学会第22回研究発表大会予稿集,pp.6-7,2020年11月28日

向井利明・牛山素行:近年の記録的短時間大雨情報について その1 ー速報版解析雨量導入後の運用,日本災害情報学会第22回研究発表大会予稿集,pp.104-105,2020年11月28日

向井利明・牛山素行:大雨警報(土砂災害)の運用実績と課題 ー警戒レベル3相当情報としてみた場合ー,日本災害情報学会第23回研究発表大会予稿集,pp.42-43,2021年11月27日

村越真・河合美保(2020)危ないと思うのはなぜか? 日本安全教育学会第21回大会(静岡)

村越真・満下健太(2020)人は自然の危険をどう見ているか:経験によるリスクイメージの変化. 認知科学会第30回大会発表抄録集

村越真(2021)自然環境におけるリスクとそのマネジメント:その実践知を探る. 野外教育学会自主シンポジウム. 2021.11.6 東京(オンライン)

村田昌則・小林 淳・高橋尚志・青木かおり・鈴木毅彦:伊豆諸島,神津島北部で発生した9世紀天上山噴火に先立つ噴火, JpGU-AGU Joint Meeting 2020, 2020年7月12日~16日(Virtual) .

村田昌則・小林 淳・青木かおり・高橋尚志・西澤文勝・鈴木毅彦:伊豆諸島,神津島火山における過去3万年間の火山噴出量,日本火山学会2020年度秋季大会,2020年10月8日~10日(オンライン) .

村田昌則・高橋尚志・青木かおり・西澤文勝・小林 淳・鈴木毅彦:埼玉県東部,元荒川沿いの沖積層上部を構成する再堆積火山噴出物. 日本地球惑星科学連合2021年大会,2021年6月5日(オンライン) .

村田昌則・高橋尚志・青木かおり・西澤文勝・小林 淳・鈴木毅彦:火山噴出物の再移動による埼玉県東部元荒川沿い沖積低地形成への影響,日本地理学会2021年秋季学術大会,2021年9月18日(オンライン) .

村山良之, 佐藤 健, 桜井愛子, 北浦早苗, 小田隆史, 林田由那, 熊谷 誠:山形県の学校における令和2年7月豪雨災害時の対応, 東北地理学会2020年度秋季学術大会, オンライン, 2020.10

村山良之, 佐藤 健, 桜井愛子, 北浦早苗, 小田隆史, 林田由那, 熊谷 誠:令和2年7月豪雨災害時の学校の対応ー山形県内小中学校ー, 令和2年度東北地域災害科学研究集会学術講演会, オンライン, 2020.12

村山良之, 桜井愛子, 佐藤 健, 北浦早苗, 小田隆史, 熊谷 誠:地形とハザードマップに

- 関するオンライン教員研修, 日本地理学会発表要旨集, 2021s, pp.-, 2021.3
- 村山良之, 佐藤 健, 桜井愛子, 北浦早苗, 小田隆史, 林田由那, 熊谷 誠: 山形県における登下校時の災害安全への取組~2020 年大雨経験を踏まえて~, 日本安全教育学会第22 回東京大会プログラム・予稿集, pp.85-86, オンライン, 2021.10
- Nagahara, S., Seigo Miyamoto , Kunihiro Morishima , Toshiyuki Nakano , Masato Koyama ,and Yusuke Suzuki: Demonstration of 11-directional muography in Omuro-yama Scoria cone, Izu, Japan. EGU General Assembly 2020, Online | 4–8 May 2020.
- 長野裕紀・小山真人・鈴木雄介・福山めぐみ: 浜松・浜名湖地域における教育ジオツアー実践—とくにオンサイトとオンライン両ツアーの試行とそれらの効果比較について. 日本地球惑星科学連合 2021 年大会, O02-P09, オンライン, 2021 年 6 月
- 永田泰裕, 原田賢治, 東日本大震災被災者証言にもとづく自動車漂流と車内からの脱出手段, 2020 年度自然災害科学中部地区研究集会予稿集, pp.8-9, 2021.3.8.
- 中村香太, 増田拓生, 橋本 岳, 山本茂広, “位相限定相関法のノイズ除去に着目したステレオ画像計測の高精度対応点探索の提案,” 令和 2 年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会, H3-2 (2020)
- 中西利典・七山 太・堀 和明・丹羽雄一・小松原純子・北村晃寿・ホンワン, 太平洋沿岸の完新統に含まれる海生生物と陸源植物の放射性炭素年代値の差異. 地球惑星科学連合大会, HCG22-P03, ウェブ開催, 2020 年 7 月
- 中西利典・小松哲也・本郷美佐緒・野口真利江・宮本 樹・木森大我・須貝俊彦, 隆起・沈降境界域での地殻変動の推定技術の高度化に向けた検討: 関東平野北部の事例. 地球惑星科学連合大会, HCG28-P03, ウェブ開催, 2020 年 7 月
- 中西利典・丹羽雄一・ホン ワン, 三陸海岸中部の完新統における植物片と貝の放射性炭素年代値の差異. 国際火山噴火史情報研究集会, 2020 (1), 3-02, 福岡大学中央図書館多目的ホール (Webex meeting 併用), 2020 年 9 月
- 中西利典・石山達也・ホン ワン, 富士川河口周辺の堆積環境と放射性炭素海洋リザーバー効果の検討. 国際火山噴火史情報研究集会, 2020 (2), 2-02, 福岡大学中央図書館多目的ホール (Webex meeting 併用), 2021 年 4 月
- 中西利典・七山 太・重野聖之, 年縞堆積物の高解像度解析, 自然史しずおか祭, ふじのくに地球環境史ミュージアム, 2020 年 10–11 月
- 中西利典, 駿河トラフから静岡にのびる地形. 富士山の日特別講演, ふじのくに地球環境史ミュージアム 2 階講堂, 2021 年 2 月
- 中西利典・酒井恵祐・小田啓邦・香月興太・山田圭太郎・山口龍彦・近藤康生・ホン ワン・重野聖之・七山 太, 北海道東部, 釧路市春採湖で採取した二本の堆積物コアの高解像度解析. 令和二年度高知大学海洋コア総合研究センター共同利用・共同研究成果発表会, オンライン開催, 2021 年 3 月

- 中西利典・堀川義之・佐藤鋭一・ホン ワン・パク キュジュン・奥野 充, 隠岐諸島のボーリングコア試料から認定されたテフラと海洋リザーバー効果. 日本第四紀学会・リモートシンポジウム「陸域アーカイブから読む環境変化と巨大災害」, QRS2-03, 2021年7月
- 中西利典・七山 太, 北海道釧路市春採湖における年縞と津波堆積物, 自然史しずおか祭, ふじのくに地球環境史ミュージアム, 2021年10-11月
- Nakanishi, T., Futoshi Nanayama, Yasuo Kondo, Keitaro Yamada, Keisuke Sakai, Tatsuhiko Yamaguchi, Kota Katsuki, Hirokuni Oda, Kiyoyuki Shigeno, Wan Hong, Radiocarbon age and tsunami deposits in laminated mud layers from the Lake Harutori, Pacific coast of Hokkaido, Northeast Japan. The 15th International Conference on Accelerator Mass Spectrometry (AMS 15), A-4, p.97, Online, November 2021
- Nakanishi, T., Yuichi Niwa, Wan Hong, Radiocarbon age offsets of plant and shell in the Holocene sediments from the central part of Sanriku coast, Northeast Japan. The 15th International Conference on Accelerator Mass Spectrometry (AMS 15), A-3, p.82, Online, November 2021
- 中西利典・松多信尚・堀 和明・稲崎富士・北村晃寿・北川浩之, 菊川周辺における放射性炭素の海洋リザーバー効果の予察結果. 名古屋大学宇宙地球環境研究所年代測定研究シンポジウム, オンライン開催, 2022年1月
- 中西利典・堀 和明・高橋瑛人・田辺 晋・陸 挽中・黄 智昭・ソン キルホ・ホン ワン, 台湾南西部嘉南平原における放射性炭素海洋リザーバー効果の予察結果. 国際火山噴火史情報研究集会, 2021(2), 3-02, 福岡大学18号館(Webex meeting 併用), 2022年3月
- 中山洋平・川野 誠・吉武 哲・木村浩之. メタネーション技術への利用に向けた地下圏の水素資化性メタン生成菌の培養と菌叢解析. 日本地球化学会第67回大会特別セッション微生物生態学2020, 2020年11月.
- 七山 太・山口龍彦・中西利典・辻 智大・池田倫治・近藤康生・三輪美智子・杉山真二・木村一成, 地震性地殻変動と大規模ラハールによって規制された開析谷埋積シークエンス: 南海トラフ沿岸, 宿毛臨海低地において採取された SKM コアの解析例. JpGU - AGU Joint Meeting, HQR06-P09, ウェブ開催, 2020年7月
- 七山 太・中西利典, 南海トラフ地震と大規模ラハールによって規制された開析谷埋積シークエンス. 自然史しずおか祭, ふじのくに地球環境史ミュージアム, 2021年10-11月
- 野口真利江・宮本 樹・須貝俊彦・中西利典・小松哲也・杉中佑輔・遠藤邦彦, 関東平野中央部, 猿島台地~宝木台地の珪藻分析に基づく古環境復元. 日本第四紀学会, 大阪ウェブ開催, 2021年8月
- 野 徹雄・小平秀一・佐藤比呂志・石山達也・佐藤 壮, 三浦 亮・下村典生・白石和也・藤

- 江 剛: 地震探査による山形沖の地殻構造の特徴と日本海東縁の震源断層の関係, 日本地震学会秋季大会, S06P-02, 2020 年 10 月.
- 野 徹雄・小平秀一・佐藤比呂志・石山達也・三浦 亮・藤江 剛・下村典生・佐藤 壮: 山形県沖～大和海盆～大和堆における海底地震計を用いた地殻構造探査, 日本地球惑星科学連合大会予稿集 (online), SCG66-14, 2020 年 7 月.
- 野 徹雄・佐藤 壮・小平秀一・佐藤比呂志: 地震探査から見る日本海の地殻構造の特徴, 日本地球惑星科学連合大会予稿集 2021, SCG49-03, 2021 年 6 月.
- 大庭拓武, 生田領野, 辻修平, 馮晨, 山岡耕春, 渡辺俊樹, 精密制御定常震源システム ACROSS による、地震波速度の地下水応答の解析, 日本地球惑星科学連合 2021 年大会, 2021.5.30-6.6.
- Ohtani, E., D. Ikuta, S. Dominijanni, et al., Existence of the two-phase mixture of HCP and B2 phases in the inner core, JpGU Meeting 2021, Japan, May 30-June 6, 2021.
- Ohtani, E., T. Ishii (Poster), Role of water in subducting slabs: dry phase transformation kinetics in wet slabs, JpGU Meeting 2021, Japan, May 30-June 6, 2021.
- Ohtani, E., T. Ishii, A. Schatskiy, D. Ikuta, 高温高压下における含水鉱物と無水鉱物間の水分配と地球内部における水の役割, 第 62 回高压討論会, Japan, October 18-20, 2021.
- Ohtani, E., W. P. Hsieh, T. Ishii, et al., Effect of Spin transition of iron in physical properties of hydrous phase δ -(Al,Fe)OOH under the lower mantle conditions, JpGU-AGU joint meeting 2020, Japan, July 12-16, 2020.
- 奥村聡, 石橋秀巳, 伊藤正一, 鈴木明政, 古川善好, 三輪学央, 鍵裕之, 減圧するマグマの酸化還元状態の変化: 減圧実験からの制約. JpGU Meeting 2021: Virtual (招待講演), 2021 年 5 月.
- 木森大我, 須貝俊彦, 宮本 樹, 小松哲也, 中西利典, 関東平野中北部・宝木台地における最終間氷期以降の地形発達史. JpGU - AGU Joint Meeting, HQR06-P05, ウェブ開催, 2020 年 7 月
- 小佐野淳平・秋元菜摘, 浜名湖エリアの潜在的観光資源に関する WebGIS の開発 — 探訪時の防災情報の提示にも配慮して, 地理情報システム学会, オンライン (Covid-19 のため), 2020/10/24.
- 小佐野淳平・秋元菜摘, 浜名湖エリアの観光防災 WebGIS の開発に向けたデータベース構築, 2019 年度防災関連学部横断卒論・修論発表会, 静岡大学, 2020/03/07.
- 大多 哲史, 大河原 誠一, 平野 陽豊, 二川 雅登, 竹村 泰司: バイオ医療応用を目指した磁性ナノ粒子の磁化容易軸応答の実験的観測, 電気学会 A 部門マグネティックス研究会, オンライン開催, 2020 年 11 月 19 日
- 大多哲史, 宮澤良真, 永田大貴, 二川雅登, 竹村泰司: 磁性ナノ粒子の構造に依存した磁気緩和の評価, 第 44 回日本磁気学会学術講演会, オンライン開催, 2020 年 12 月 14-17 日
- 大多哲史, 宮澤良真, 永田大貴, 二川雅登, 竹村泰司: 磁性ナノ粒子のネール緩和とブラウン

- 緩和の複合磁化応答モデル, 第 45 回日本磁気学会学術講演会, オンライン開催, 2021 年 8 月 31 日~9 月 2 日
- 大塚芽久, 石橋秀巳, 田中佑希子, 外西奈津美, 安田敦, 富士火山の珪長質マグマだまり: 宝永噴火のマッシュ状斑レイ岩捕獲岩からの制約. 日本火山学会 2021 年秋季大会, 2021 年 10 月.
- 齋藤俊介, 谷村圭一, 上村溪介, 大多哲史, 平野陽豊, 二川雅登: ストライプゲート型 pH センサの pH 値の違いによるドリフト抑制効果の検証, 令和 2 年度電気学会 E 部門総合研究会, Web 開催, 2020 年 7 月 6 日-7 日
- 齋藤 俊介, 秋山 真太朗, 谷村 圭一, 大多 哲史, 平野 陽豊, 二川 雅登 pH 連続長期計測にむけた非計測時のドリフト抑制システムの開発, 第 38 回「センサ・マイクロマシンと応用システム」シンポジウム論文集, 2021 年 11 月 9 日-11 日, オンライン開催
- 坂本 貴章, 大多 哲史, 平野 陽豊, 二川 雅登: 熱電冷却器(TEC)を用いた土中水分量計測方法に関する研究, 第 37 回「センサ・マイクロマシンと応用システム」シンポジウム論文集, オンライン開催, 2020 年 10 月 26 日-28 日,
- 坂本 貴章, 佐藤晴紀, 大多 哲史, 平野 陽豊, 二川 雅登: 熱電(TE)モジュールを用いた熱検出型土中水分量計測方法に関する研究, 令和 3 年電気学会全国大会, オンライン開催, 2021 年 3 月 9 日-11 日
- 佐藤 晴紀, 坂本 貴章, 大多 哲史, 平野 陽豊, 二川 雅登: 熱電モジュール(TEM)を用いた熱による土中水分量計測方法に関する研究, 令和 3 年度電気学会 E 部門総合研究会, オンライン開催, 2021 年 7 月 26 日-27 日
- 佐藤 晴紀, 坂本 貴章, 大多 哲史, 平野 陽豊, 二川 雅登: 熱電型水分量センサを用いた繰返し計測システムの開発, 第 38 回「センサ・マイクロマシンと応用システム」シンポジウム論文集, 2021 年 11 月 9 日-11 日, オンライン開催
- 佐藤比呂志・石山達也・野 徹夫・小平秀一・加藤直子・Claringbould Johan・松原 誠・橋間昭徳・石川正弘・佐藤 壯: 日本海と沿岸の震源断層モデル, 日本地震学会秋季大会, S06-04, 2020.
- 佐藤比呂志・石山達也・清水英彦・石毛宏和・加藤直子・越谷 信・篠原雅尚・岩崎貴哉・川崎慎治・阿部 進・松原 誠・平田 直: 庄内-新庄測線における深部反射法地震探査, 石油技術協会誌, 令和 2 年度(2020)石油技術協会学術大会講演要旨, 85, 4-5, 2020 年 10 月.
- 佐藤比呂志・石山達也・野 徹雄・松原 誠・小平秀一: Origin of seismogenic source faults in the backarc of Honshu, Japan. 日本地球惑星科学連合大会予稿集 (online), MIS03-05, 2020 年 7 月.
- Sato, H., T. Ishiyama, H. Ishige, N. Kato, M. Shinohara, T. Iwasaki, E. Kurashimo, H. Shimizu, S. Kawasaki, S. Abe, M. Matsubara, S. Koshiya, T. No, S. Kodaira, N. Hirata: Seismic transect across the central part of Northern Honshu, Japan, 日本地球惑星科学連合大会 (online), MIS03-P05, 2020 年 7 月.

- 佐藤比呂志・石山達也・斎藤秀雄・中田 守・加藤直子・阿部 進: 2020 年津軽半島横断地殻構造探査, 日本地球惑星科学連合大会予稿集, SSS07-02, 2021 年 6 月.
- 佐藤比呂志・石山達也・斎藤秀雄・中田 守・加藤直子・阿部 進: 津軽半島横断地殻構造探査, 石油技術協会誌, 令和 3 年度(2021)石油技術協会学術大会講演要旨, 86(3), 239, 2021 年 6 月.
- 佐藤 健: 持続可能な防災まちづくりと防災人材育成に関する研究〜コミュニティ・スクールを核とした防災まちづくり〜, 第 57 回自然災害科学総合シンポジウム講演論文集, pp.53-58, 2020.9
- 佐藤 健, 桜井愛子, 定池祐季: 仙台市の「がんばる避難施設」の有効性と可能性, 日本安全教育学会第 21 回静岡大会プログラム・予稿集, pp.56-57, 2020.10
- 佐藤 健: 東日本大震災発生後の学校安全の推進に関する研究と実践, 東日本大震災からの十年とこれから-58 学会、防災学術連携体の活動-, pp.34-35, オンライン, 2021.1
- 佐藤 健: 仙台市「杜の都防災力向上マンション」認定制度と認定事例, 第 39 回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, pp.67-68, オンライン, 2021.3
- 佐藤 健, 桜井愛子, 村山良之: 市町村の広域合併による小学校社会科副読本の内容変化〜防災関連コンテンツに着目して〜, 第 40 回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, pp.145-146, オンライン, 2021.9
- 佐藤 健, 桜井愛子, 村山良之, 小田隆史, 林田由那: 災害種別による学校等の避難訓練の法的根拠, 日本安全教育学会第 22 回東京大会プログラム・予稿集, pp.83-84, オンライン, 2021.10
- 重榎竜希, 寺岡佑起, 大多哲史, 平野陽豊, 安富啓太, 川人祥二, 二川雅登: 土壌過渡応答特性を利用した土中水分量・イオン濃度計測用フィードバック型回路システムの開発, 令和 2 年度電気学会 E 部門総合研究会, Web 開催, 2020 年 7 月 6 日-7 日
- 重野聖之・中西利典・ホン ワン・七山 太, 北海道太平洋岸、春採湖の津波堆積物から得られた放射性炭素年代値. JpGU - AGU Joint Meeting, HQR06-P01, ウェブ開催, 2020 年 7 月
- 篠原雅尚・酒井慎一・悪原 岳・望月公廣・佐藤比呂志・日野亮太・山下裕亮: Precise aftershock distribution of the 2019 off-Yamagata earthquake using anchored-buoy type ocean bottom seismometers, 日本地球惑星科学連合大会予稿集, SCG49-P02, 2021 年 6 月.
- 白井正明・小林 淳・宇津川喬子・河尻清和・高橋尚志: 相模川(桂川)上流域における富士相模川泥流の分布と岩相変化, JpGU-AGU Joint Meeting 2020, 2020 年 7 月 12 日〜16 日 (Virtual)
- 白井正明・小林 淳・河尻清和・宇津川喬子: 富士相模川ラハールと猿橋溶岩の桂川(相模川)の応答. 日本第四紀学会 2021 年大会, 2021 年 8 月 27 日〜28 日(オンライン-大阪).
- 白石和也 渡辺俊樹, 地殻構造の受動的地震波イメージング: 音響波および弾性波リバーstime法の数値実験, 日本地球惑星科学連合 2020 年大会, 2020.7.12-16.

- 白石和也, 渡辺俊樹, 受動的地震波イメージングにおける音響波・弾性波リバースタイムマ
イグレーション. 物理探査学会第 143 回学術講演会, 2020.11.25-27.
- 白石和也, 渡辺俊樹, 近地地震を用いた受動的反射波イメージング: MeSONet データへの
RTM 法の適用, 日本地震学会 2021 年秋季大会, 2021.10.14-16.
- Shiraishi, K., Watanabe, T., Seismic imaging of deep crustal structures via reverse time
migration using local earthquakes. The 14th SEGJ International Symposium,
2021.10.18-21.
- Sugawara, D. (菅原 大助): Fundamental data for tsunami numerical modeling:
definition and significance (津波数値解析における基盤データとその意義). IUGS 公開
シンポジウム「地質災害研究の最先端と社会実装への取り組み」, 2021 年 5 月.
- 菅原 大助: 2011 年東北地方太平洋沖地震後の津波数値解析の進歩と津波堆積物研究にお
ける課題. JpGU, 2021 年 5 月.
- Sugawara, D., Hidetoshi Masuda, Shuro Yoshikawa, Hideyuki Sakurai, Fumihiko
Imamura: Uncertainty assessment and validation of tsunami sediment transport
modeling: a case study of the 2011 Tohoku earthquake tsunami in the southern
Sendai Bay. International Tsunami Symposium 2021, 2021 年 7 月.
- 杉村晃一・牛山素行: 沿岸部住民における津波・洪水の危険度認知と避難行動意向 ~東日本
大震災から 10 年を迎えて, 日本災害情報学会第 23 回研究発表大会予稿集, pp.52-53, 2021
年 11 月 27 日
- 鈴木崇之, 中山洋平, 川野 誠, 寺尾美菜子, 木村浩之. 水素資化性メタン生成菌を用い
たメタネーション技術の開発と自動化に向けたバイオリアクターの制御法の確立. 日本
微生物生態学会第 34 回大会, 2021 年 10 月.
- 鈴木雄介・小山真人・杉本直也: VIRTUAL SHIZUOKA で見る伊豆東部火山群. 日本火山
学会 2020 年秋季大会, P-17, オンライン, 2020 年 9 月
- 高原花梨, 木村浩之. 付加体の深部帯水層に由来する嫌気性地下水と水素発生型発酵細菌
を利用した H₂ 生成リアクターの開発 ~食品廃棄物利用能の検証~. 日本微生物生態学
会第 34 回大会, 2021 年 10 月.
- 高橋尚志・青木かおり・村田昌則・小林 淳・鈴木毅彦: 伊豆諸島北部, 利島における流紋
岩質テフラの層序と対比. 日本第四紀学会 2020 年大会, 2020 年 12 月 26 日 (オンライ
ン).
- 高橋龍平, 前田裕太 渡辺俊樹, 2018 年 1 月 23 日の本白根山噴火時の傾斜を伴う地震波記録
の順解析, 日本地球惑星科学連合 2020 年大会, 2020.7.12-16..
- 高橋龍平, 前田裕太, 渡辺俊樹, 2018 年本白根山噴火時の傾斜を伴う長周期地震の波形イン
バージョン, 日本火山学会 2020 年秋季大会, 2020.10.8-10.
- 高橋龍平, 前田裕太, 渡辺俊樹, 2018 年 1 月 23 日草津白根山噴火時の傾斜を伴う極長周期
地震の地震波逆解析, 日本地球惑星科学連合 2021 年大会, 2021.5.30-6.6.

- 高橋輝希、木村浩之. 付加体の深部帯水層に生息するメタン生成菌の機能遺伝子の同定と定量解析. 日本地球化学会第 67 回大会特別セッション微生物生態学 2020、2020 年 11 月.
- 高橋輝希、木村浩之. 付加体の深部帯水層に生息するメタン生成菌の多様性と代謝特性. 日本微生物生態学会第 34 回大会、2021 年 10 月.
- Takei, Y., Mehran Andasibe, Damon Chandler and Takeshi Hashimoto, “Automatic glare region detection using deep-learning-based semantic segmentation,” Innovations in Information and Communication Science and Technology, 6th International Conference — TUSUR, Tomsk, Russia, (November 1-2, 2021) (on-premises and online, hybrid format)
- 田中祐仁, 原田賢治, 磐田市竜南工業団地における津波火災減少のための車両移動に関する調査, 2021 年度自然災害科学中部地区研究集会予稿集, pp.4-5, 2022.3.5.
- 田中捺希・秋元菜摘, 静岡大学浜松キャンパスの防災対策と避難所としての実態, 2019 年度防災関連学部横断卒論・修論発表会, 静岡大学, 2020/03/07.
- 田中捺希・秋元菜摘, 静岡大学浜松キャンパスの防災と ICT による情報提供—地域貢献に向けた実態の解明, 静岡大学情報学シンポジウム, 静岡大学情報学部研究連携推進室, オンライン (Covid-19 のため) , 2020/12/25.
- 田中靖也, 平野陽豊, 二川雅登, 竹村泰司, 大多哲史:パルス励磁による磁性ナノ粒子のイメージング手法, 第 45 回日本磁気学会学術講演会, オンライン開催, 2021 年 8 月 31 日~9 月 2 日
- 田中靖也, 平野陽豊, 二川雅登, 竹村泰司, 大多哲史パルス磁場を用いた磁性ナノ粒子の二次元イメージング,令和 3 年度電気学会 A 部門マグネティックス研究会, オンライン開催, 2022 年 1 月 21 日
- Tasaka, M., 2020, Strain localization in the lithosphere: the current knowledge and views from the experiments, 2020 CIG Tectonics Community Workshop on ductile shear zones and localization processes, July 27 (keynote speaker).
- 田阪美樹, 仲井優河*, 2022, 西南日本川下かんらん岩捕獲岩から得られた日本海拡大時の変形の証拠, 地球惑星科学連合, 幕張, 5 月 26 日(口頭).
- 田阪 美樹, 2021, マントル流動と鉍物量比の関係, プレーートの沈み込みと島弧変動のダイナミクス(東京大学地震研究所共同研究), オンライン, 9 月 24 日(口頭).
- 田阪 美樹, 2021, マントルにおける物質移動メカニズムを解明するための岩石鉍物物理研究, 日本鉍物科学会, オンライン, 9 月 17 日(口頭).
- 田阪 美樹, 2021, マントルかんらん岩の物質移動と素過程, 日本地質学会, オンライン, 9 月 5 日(口頭).
- 田阪 美樹, 大馬寛志*, 稲川駿介*, 2020, 島根県野山岳・川下に産するかんらん岩捕獲岩の微細構造解析～日本海拡大時の岩石変形?, 地球惑星科学連合, 幕張, 7 月 12-16 日

(iposter).

外岡凌, 近藤大騎, 橋本 岳, 山本茂広, “Google Earth Street View における単眼計測の可能性の実験的検討,” 令和 2 年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会, I6-2 (2020)

鶴我佳代子・佐藤比呂志・馬場久紀・関野善広・林 敏史・近藤逸人・青山千春・會川鉄太郎・石山達也・篠原雅尚・川崎慎治: 駿河湾中北部海域のトラフ軸横断測線における浅部地下構造イメージ, 日本地球惑星科学連合大会予稿集 (online), SSS11-06, 2020 年 7 月.

内野正洋、木村浩之. 沿岸部の地下帯水層に生息する新規微生物群集の代謝推定. 日本地球化学会第 67 回大会特別セッション微生物生態学 2020、2020 年 11 月.

植木岳雪, 佐藤 健, 丹羽千恵子: 防災紙芝居「オオカミ気象庁なんかじゃない!」の作成と今後の展開, 日本安全教育学会第 22 回東京大会プログラム・予稿集, pp.79-80, オンライン, 2021.10

梅木健太郎・越谷 信・佐藤比呂志・石山達也・加藤直子・東中基倫: 堆積層の厚い地域における活断層の地下構造-庄内平野東縁断層帯を例として-, 石油技術協会誌, 令和 2 年度(2020)石油技術協会学術大会講演要旨, 85(4-5), 249, 2020 年 10 月.

牛山素行:大雨特別警報と被害の関係について, 日本災害情報学会第 22 回研究発表大会予稿集, pp.108-109, 2020 年 11 月 28 日

牛山素行:2020 年台風 10 号接近時の住民の「予定変更行動」について, 日本自然災害学会第 39 回学術講演会講演概要集, pp.115-116, 2021 年 3 月 21 日

牛山素行:風水害犠牲者の分類名「避難行動なし」の再検討, 日本自然災害学会第 40 回学術講演会講演概要集, pp.109-110, 2021 年 9 月 12 日

牛山素行:2021 年 7 月 3 日熱海市土砂災害における人的被害, 第 40 回日本自然災害学会学術講演会, (臨時セッションのため概要集無し), 2021 年 9 月 12 日

牛山素行:人的被害と家屋被害の関係から見た 2021 年 8 月の大雨, 日本災害情報学会第 23 回研究発表大会予稿集, pp.39-40, 2021 年 11 月 27 日

牛山素行・本間基寛:2021 年 8 月の大雨による人的被害の特徴, 日本災害情報学会第 24 回研究発表大会予稿集, pp.80-81, 2022 年 3 月 19 日

渡辺俊樹, 十川直樹, PKIKP フェーズを用いた地震波干渉法によるフィリピン海プレート境界面反射波の抽出, 日本地球惑星科学連合 2020 年大会, 2020.7.12-16..

渡辺俊樹, 十川直樹, 自然地震実体波を用いた反射法探査ーコア・フェーズからのプレート境界反射波の抽出ー. 物理探査学会第 143 回学術講演会, 2020.11.25-27.

渡辺俊樹, 白石和也, 中丸遼太, 弾性波リバータイム・マイグレーションによる PS 変換波のイメージング: 数値実験による検討, 物理探査学会第 145 回(2021 年度秋季)学術講演会, 2021.11.24-26.

渡邊詩子, 東宏幸, 小田義也, 渡辺俊樹, 八丈島における稠密微小地震観測データへの地震

- 波干渉法の適用, 物理探査学会第 145 回(2021 年度秋季)学術講演会, 2021.11.24-26.
- 山田巧真, 平野陽豊, 大多 哲史, 二川 雅登機械学習を用いた土壌水分量二次元イメージングの実現にむけた取り組み, 令和 3 年度電気学会 E 部門ケミカルセンサ研究会, 埼玉大学, 埼玉県さいたま市, 2021 年 12 月 10 日
- 山口龍彦・辻 智大・七山 太・中西利典・池田倫治・近藤康生・三輪美智子・濱田洋平, 完新世中期における四国西部の相対的な海水準変化. JpGU - AGU Joint Meeting, HQR06-P08, ウェブ開催, 2020 年 7 月
- 吉元周平・山田和芳・中西利典・村尾 智, 鹿児島県蘭牟田池のボーリングコア分析結果から見るカルデラ湖の環境変化について. 社会地質学シンポジウム, Web 開催, 2021 年 11 月
- Zhao, S., Chigira, M., & Xiyong, W. (2020). Geological structural control on rock mass movement in response to fluvial incision along the plateau margin of Tibet. Paper presented at the Japan Geosciences Union Meeting 2020. 2020 年 5 月

2.2.4 その他の著作物

- 秋元菜摘, 世界のコンパクトシティー都市を賢く縮退するしくみと効果, 地理, Vol.65, No.11, 2-2, 2020
- 秋元菜摘, モビリティ確保のまちづくり: 富山市コンパクトシティー政策を事例として, 交通法研究「地域におけるモビリティ」(有斐閣), No.49, 123-140, 2021.
- 藤井基貴「「防災道德」授業のねらいと実践」『道德教育』753、2021年、48-51頁。
- 藤井基貴・吉川卓治「シンポジウムの趣旨、討論のまとめ」『日本の教育史学』62、2020年頁。
- 藤井基貴「「防災道德」授業の開発と普及」『青少年赤十字指導情報』168、2020年、3頁。
- 藤岡換太郎 新編湖から盆地へー北白川の地形と風土 その成り立ちと変遷、菊地暁・佐藤守弘編、学校で地域を紡ぐー「北白川こども風土記から」ーp.379-399., 2020.
- 藤岡換太郎 地球 46 億年の事件簿と海、望星、52 巻 2 号、p.10-18., 2021
- 藤岡換太郎 フォッサマグナと武蔵野 関東平野の地下にフォッサマグナはあるか、武蔵野樹林、vol.7, p. 18-23., 2021
- 藤岡換太郎 フォッサマグナと生物、武蔵野樹林、vol.7, p. 24-25., 2021
- 古橋裕子 発達障害圏学生の実行機能に焦点を当てた修学適応プログラムの開発 (2020 年 4 月 ~ 2023 年 3 月) 基盤研究(C) 実地状況報告書, 2021
- 古橋裕子、松本百合子、他. コロナ禍での在宅授業が発達障害圏学生に及ぼす影響 CAMPUS HEALTH 59 (1) 308-309, 2022
- 古橋裕子 発達障害圏学生を対象とした修学不適応予防プログラムの開発 (2017年4月 ~ 2020年3月) 基盤研究(C) 科学研究費助成事業 研究成果報告書 2020 課題番号 17KO4932

- 古橋裕子、加治由記、他. 新入生メンタル状態のUPIでの比較 CAMPUS HEALTH 58(1) 336-337, 2021
- 林 拙郎・山田 隆：2019 年台風 19 号の豪雨特性と斜面崩壊－斜面崩壊に関する豪雨度と地質的地盤の役割－, 2019/2020 年度土砂災害予測に関する研究集会プロシーディング, 2021, 129-136.
- 本間基寛：既往最大比を用いた豪雨災害ポテンシャルの評価, 災害情報, No. 18-2, pp. 177-180, 2020. (依頼原稿)
- 本間基寛：気象情報を利用した食品ロス削減の取り組み, JATAFF ジャーナル, Vol. 8, No. 6, pp. 45-49, 2020. (依頼原稿)
- 池田恵子：男女共同参画の視点による良好な環境整備・避難所の運営, 月刊福祉, 104/12, 90-93, 2021.
- 池田恵子：災害・復興とジェンダー, 月刊フェスク, 21/11, 2-9, 2021.
- 石橋秀巳, 岩橋くるみ, 安田 敦, 諏訪由起子, 長崎志保, 外西奈津美, 角閃石斑晶から探るマグマだまりプロセス：鶴見岳・阿蘇・雲仙火山の例. 火山, 66, 119-129, 2021.
- 石橋秀巳, 火山ガラスの Fe-K edge XANES 分析に関する近年の研究動向. 静岡大学地球科学研究報告, 47, 5-14, 2020.
- 石川宏之：持続可能な地域づくりを推進するための公学民連携によるボトムアッププロセスのあり方－糸魚川ユネスコ世界ジオパークを事例として－, 2020 年度日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 783-786, 2020
- 石川宏之：持続可能な観光を進めるための大学関係者の役割と公学民連携による地域プランニングのあり方－伊豆半島ユネスコ世界ジオパークを事例として－, 2021 年度日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 385-388, 2021
- 石川有三, 松代群発地震終息宣言から 50 年と 2020 年の上高地付近の群発地震, なみふる, No.123, p4-5, 2020.
- 石川有三, 日本海溝改訂地震津波観測網 (S-net) による震源データへの影響, 地震ジャーナル, No.72, 34-38, 2021.
- 石山達也・佐藤比呂志・加藤直子・鈴木毅彦・廣内大助・越後智雄・松多信尚・越谷 信・戸田 茂・豊島剛志・小林健太：陸域活構造調査, 令和 2 年「日本海地震・津波調査プロジェクト」成果報告書, 257-273, 2021.
- 岩田孝仁, 防災の課題「避難対策・防災情報・災害備蓄」を考える, 自治体・企業の防災担当者のための災害備蓄ガイドブック 2020 年度版, 2020, pp.10-16, 日刊工業新聞社
- 岩田孝仁, 新型コロナ禍の避難をめぐる新たな課題, 自治体・企業の防災担当者のための防災ハンドブック 2021 年度版, 2021, pp.10-16, 日刊工業新聞社
- 岩田孝仁, 想像力の欠如に陥らない防災社会の構築へ, 日本の科学者, Vol,56, pp.26-31, 2021 October No.10
- 岩田孝仁, 災害を特別なステージにしない知恵と工夫を, 2021 秋号 防災ハンドブック,

- 日刊工業新聞社, pp.9-12, 2021, 10月別冊
- 岩田孝仁, 大災害における自治体間連携を進めるために, 月間ガバナンス, ぎょうせい, pp.29-31, 2022 3月号, No.251 March
- 岩田孝仁, 「防災福祉のまちづくり」へ, 2022 春号 防災ハンドブック, 日刊工業新聞社, 第70巻 第2号, pp.10-14, 2022,
- 伊藤 潔, 2018年大阪北部の地震雑感, コラボ, No.7, 3-12, 2021年10月
- 岩田孝仁, CIDIR Newsletter 第53号 災害対策基本法を地域から見ると, 2021.12.1
- 加治由記, 松本百合子, 古橋裕子, 他 静岡大学における感染症対策について第2報 新型コロナウイルス感染症対策 CAMPUS HEALTH I58 (1) 355-357, 2021
- 狩野謙一・監修, ふじのくにメディアチャンネル(静岡県庁公式), 2021: 南アルプス大井川流域における地質と地形の成り立ち[概要版]. YouTube 動画 (<http://www.pref.shizuoka.jp/kankyoku/ka-020/rinia/chishitudouga.html>)
- 川瀬憲子, 「書評:『自治体戦略 2040 構想』と地方自治」『住民と自治』通巻 674号 (p.40), 2019年6月
- 川瀬憲子, 「論壇 静岡大学・浜松医科大学のアンブレラ方式について」『全大教新聞』2019年8月10日付
- 川瀬憲子, 「大学統合材編と自治の形骸化—静岡大学で何が起きているのか」『大学フォーラムつうしん』3号 (pp.6-8), 2019年9月
- 川瀬憲子, 「第61回自治体学校 in 静岡を終えて」『住民と自治』通巻 678号 (pp.38-39), 2019年10月
- 川瀬憲子, 「静岡大学・浜松医科大学との法人統合・再編問題—現場で何が起きているのか」『日本の科学者』55巻1号 (pp.43-46), 2020年1月
- 川瀬憲子, 「集権型国家システムによる集約型国土再編の課題」『学習の友(別冊)』(pp.42-47), 2020年1月
- 川瀬憲子, 「第1期地方創生とは何だったのか—静岡県に見る『地方創生』の現実」『住民と自治』通巻 691号 (pp.18-21), 2020年11月
- 川瀬憲子, 「市民運動とは何か」清水まちづくり市民の会編『まもろう愛しのまちを』静岡新聞社, 2020年 (pp.88-90)
- 風間聡:気候変動影響:自然災害(洪水), 長野県の気候変動とその影響(信州気候変動適応センター), pp.21, 2020.3.
- Kimura, H., Tosimichi Nakanishi, Mei Yukawa, Takashi Hosoya, Ki-Suck Sung, Wan Hong, Holocene activity of the Sagiriko fault detected from sediment cores and a ground penetrating radar profiling, Izu Peninsula, central Japan. Proceedings of the 8th East Asia Accelerator Mass Spectrometry Symposium (EA-AMS 8), p.77-80, June 2020 (査読無し)
- 木村治夫・中西利典・堤 浩之・稲荷絢音・谷口 薫, 埋没した断層変位地形の検出への地

- 中レーダー探査の適用. 日本第四紀学会・リモートシンポジウム「陸域アーカイブから読む環境変化と巨大災害」講演要旨集, p.78-82, 2021年7月(査読無し)
- Kitamura, A., Examination of level 1.5 earthquake and tsunami in eastern edge of Nankai Trough, Japan. Impact, Volume 2020, Number 3, May 2020, pp. 23-25(3) <https://doi.org/10.21820/23987073.2020.3.23>.
- 小林 淳: 大宮・村山口登山道の自然・地理的環境, 富士山巡礼路調査報告書, 大宮・村山口登山道(静岡県富士山世界遺産センター・富士宮市・富士市), pp.22-40, 2021年3月.
- 小林 淳・村田昌則・鈴木毅彦: 大鹿窪遺跡で確認した富士火山起源のスコリア層と広域テフラ層序, 史跡大鹿窪遺跡発掘調査報告書—史跡整備事業に伴う再発掘調査—(富士宮市教育委員会): pp.85-90, 2022年3月.
- 小山真人(2022)伊豆半島ジオパークを軸にした取り組みと今後の展開, 静岡大学地域課題解決支援プロジェクト成果報告書, no.7, 53-61.
- 小山真人(2021)改定された富士山のハザードマップ. NEW SUPPORT 高校理科, 36, 11-13.
- 小山真人(2021)富士宮周辺の地形の成り立ちと大鹿窪遺跡. 史跡大鹿窪遺跡の歴史と環境, 令和2年度埋蔵文化財シンポジウム事業発表要旨集, 富士宮市教育委員会, 17-23.
- 小山真人(2020)欧州の火山遺産と富士山. 第4回静岡県富士山世界遺産センター・ふじのくに地球環境史ミュージアム合同国際シンポジウム「富士山学の頂へ—富士山がもつ普遍的価値の多面性—」シンポジウム記録集, 6.
- 小山真人(2020)世界遺産・富士山の噴火史と防災. 日本学術会議中部地区会議ニュース, no.148, 9-10.
- 松本百合子、加治由記、古橋裕子、他 健康診断時に実施した新型コロナウイルス感染症対策の報告 CAMPUS HEALTH 58 (1) 232-232, 2021
- 森下祐一, 地球温暖化と脱炭素社会. 楽しいわが家, 全国信用金庫協会 (69), 5, 6-7, 2021.
- 森下祐一, 生命誕生の秘密入り玉手箱. 楽しいわが家, 全国信用金庫協会 (68), 9, 6-7, 2020.
- 森俊明、松本百合子、古橋裕子、他. 大学生における心電図 QT 間隔と体格変化、運動時間との関連 CAMPUS HEALTH 59 (1) 210-212, 2022
- 森俊明、野上愛里子、古橋裕子、他 ストレスチェックで判定される高ストレス者には低血圧症状が含まれる CAMPUS HEALTH 58 (1) 399-401, 2021
- 村上祐介・樋口 修資・島田 陽一・佐久間 亜紀「教員の働き方改革と教職の専門職性」『教育学研究』、87/1、2020年、64-90頁。
- 村越真(2022)私たちの周りにおけるリスクとそのマネジメント. 静岡大学地域創造教育センター(編)リスクに向き合う:危機に備えたまちづくり・くらしづくり. 静岡大学地域創造教育センター.
- 中川和之,賛同の輪拡がる「防災教育と災害伝承の日」制定=大企業から自治体、個人まで

- 1カ月で1千超,時事通信「特別情報」、2021年3月18日配信
- 中川和之,進む放送局の災害映像アーカイブの公開=教育などで二次利用を想定、スマホで利用のガイド本も発行,時事通信「特別情報」、2021年1月22日配信
- 中川和之,日比谷の入り江からようやく引っ越し=真の防災官庁へ組織改革も-気象庁時事「特別情報」、2020年11月20日配信)
- 中川和之,土地の成り立ちで災害リスクを知る=ハザードマップ補う手法を公開-地理学会,時事通信「特別情報」、2020年9月24日配信
- 中川和之,コロナ禍で進む避難所の環境改善、仮設の入居基準緩和も明確に,時事通信「特別情報」、2020年7月22日配信
- 中川和之,大地が支える持続可能な地域社会=ジオパークの運動のいま(28・完)ジオパークの地域を越え、見いだされた価値を広く社会へ=つながる力を生かし、多様な活動を展開し続けて,時事通信「地方行政」,10970号,P20-23,2020年6月1日
- 中川和之,避難所と緊急避難の違い明確に=「密」を避けつつ災害から命を守る,時事通信「特別情報」、2020年5月22日配信
- Nakai, H., M. Takemura, M. Sakamoto, Re-Evaluation of Seismic Intensity Distribution and Damage Characteristics of the 1945 Mikawa Earthquake、17th World Conference on Earthquake Engineering、17WCEE
- Nakanishi, T., Wan Hong, Kiyoyuki Shigeno, Futoshi Nanayama, Radiocarbon age offsets of plants and shells in the Holocene sediments from the Lake Harutori, Pacific coast of Hokkaido, northeastern Japan. Proceedings of the 8th East Asia Accelerator Mass Spectrometry Symposium (EA-AMS 8), p.81-84, June 2020 (査読無し)
- Nakanishi, T., Masakazu Niwa, Nobuaki Okabe, Motohisa Kato, Akihiro Matsubara, Natsuko Fujita, Marine reservoir effects in transgressive sediments from the Miyazaki Plain, southeast coast of Kyushu, Southwest Japan. Proceedings of the 8th East Asia Accelerator Mass Spectrometry Symposium (EA-AMS 8), p.85-88, June 2020 (査読無し)
- 中西利典・丹羽雄一・ホン ワン, 三陸海岸中部の完新統における植物片と貝の放射性炭素年代値の差異. 国際火山噴火史情報研究集会講演要旨集, 2020(1), p.31-36, 2020年9月(査読無し)
- 中西利典・小松哲也・小形 学, 環流旧河谷を用いた河川下刻速度の推定技術の高度化に向けた研究開発. JAEA-Review, 2020-013, p.53-54, 2020年8月, DOI:10.11484/jaea-review-2020-013 (査読無し)
- 中西利典・奥野 充・山崎圭二・ホン ワン・藤田奈津子・中村俊夫・堀川義之・佐藤鋭一・木村治夫・堤 浩之, 島原半島北部の唐比低地における湿地堆積物の形成過程. 名古屋大学年代測定研究, 5, p.38-43, 2021年3月(査読無し)
- 中西利典・石山達也・ホン ワン, 富士川河口周辺の堆積環境と放射性炭素海洋リザーバー

- 効果の検討. 国際火山噴火史情報研究集会講演要旨集, 2020 (2), p.24-26, 2021 年 4 月 (査読無し)
- 中西利典・堀川義之・佐藤鋭一・ホン ワン・パク キュジュン・奥野 充, 隠岐諸島のボーリングコア試料から認定されたテフラと海洋リザーバー効果. 日本第四紀学会・リモートシンポジウム「陸域アーカイブから読む環境変化と巨大災害」講演要旨集, p.91-93, 2021 年 7 月 (査読無し)
- 中西利典, 令和 3 年 7 月 3 日の熱海伊豆山地区の土砂災害. 理科教室, 804, 64(12), p.60-62, 2021 年 11 月 (査読無し)
- 中西利典・堀 和明・高橋瑛人・田辺 晋・陸 挽中・黄 智昭・ソン キルホ・ホン ワン, 台湾南西部嘉南平原における放射性炭素海洋リザーバー効果の予察結果. 国際火山噴火史情報研究集会講演要旨集 2021-2, p.48-50, 2022 年 3 月 (査読無し)
- 楠城一嘉: 大学・大学院時代の研究はかけがえのない事, IGPS 同窓会ニュース, Vol. 51, 7-8, 2020.
- 西村太志, 石橋秀巳, 森 俊哉, 地引泰人, 中道治久, 齋藤武士, 嶋野岳人, 吉村俊平, 宮縁育夫, 巻頭言 特集「次世代研究者のための火山学講座」. 火山, 66, 133-134, 2021.
- 野上愛里子, 森俊明, 古橋裕子, 他. 大学教職員における仕事満足度に関する因子の検討 CAMPUS HEALTH 59 (1) 187-189, 2022
- 太田裕一, 太田祐子, 古橋裕子, 他 オンラインフリートークグループ実施について CAMPUS HEALTH 58 (1) 111-113, 2021
- 佐藤比呂志: 富士川断層帯における重点的な調査観測, 地震本部ニュース 2020 秋, 4-5, 2020.
- 佐藤比呂志・篠原雅尚・石山達也・岩崎貴哉・鶴我佳代子・馬場久紀: 駿河湾横断地殻構造探査データの追加解析, 平成 29~令和元年度「富士川河口断層帯における重点的な 調査観測」成果報告書, 6~32, 2020.
- 佐藤比呂志・篠原雅尚・石山達也・岩崎貴哉・鶴我佳代子・林 敏史・中東和男・山中順子・馬場久紀: 駿河湾横断地殻構造探査, 平成 29~令和元年度「富士川河口断層帯における重点的な 調査観測」成果報告書, 67-84, 2020.
- 佐藤比呂志・石山達也・橋間昭徳・加藤 直子・岩崎貴哉・David A. Okaya: 海溝型地震と内陸沿岸地震の関連メカニズムの評価準備, 平成 31 年度 (令和元年)「日本海地震・津波調査プロジェクト」成果報告書, 269-284, 2020.
- 佐藤比呂志・平田 直・石山達也・橋間昭徳・加藤直子・Van Horn, A.・Claringbould Johan S.・野 徹雄・石川正弘・松原 誠・越谷 信・豊島剛志・小林健太・小菅正裕: 断層モデルの構築, 平成 31 年度 (令和元年)「日本海地震・津波調査プロジェクト」成果報告書, 205-239, 2020 年 4 月.
- 佐藤比呂志・石山達也・蔵下英司・加藤 直子・岩崎貴哉・越谷 信・戸田 茂・豊島剛志・小林健太: 沿岸海域および海陸統合構造調査, 平成 31 年度 (令和元年)「日本海地震・

- 津波調査プロジェクト」成果報告書, 151-192, 2020年4月.
- 佐藤比呂志・田中 淳・関谷直也・佐藤慎司・佐竹健治・篠原雅尚・石山達也・加藤直子・大塚浩二: 地域研究会・合同地域研究会の実施, 平成31年度(令和元年)「日本海地震・津波調査プロジェクト」成果報告書, 61-86, 2020.
- 佐藤比呂志・石山達也・蔵下英司・加藤直子・岩崎貴哉・越谷信・戸田茂・豊島剛志・小林健太: 沿岸海域および海陸統合構造調査, 令和2年「日本海地震・津波調査プロジェクト」成果報告書, 175-256, 2021.
- 佐藤比呂志・関谷直也・下園武範・佐竹健治・篠原雅尚・石山達也・加藤直子・柳澤恭子・卜部厚志: 地域研究会・合同地域研究会の実施, 令和2年「日本海地震・津波調査プロジェクト」成果報告書, 65-86, 2021.
- 佐藤比呂志・石山達也・橋間昭徳・加藤直子・野 徹雄・石川正弘・松原 誠・越谷 信・豊島剛志・小林健太・小菅正裕: 断層モデルの構築, 令和2年「日本海地震・津波調査プロジェクト」成果報告書, 275-303, 2021.
- 佐藤比呂志・石山達也・橋間昭徳・加藤直子・岩崎貴哉・David A. Okaya: 海溝型地震と内陸沿岸地震の関連メカニズムの評価準備, 令和2年「日本海地震・津波調査プロジェクト」成果報告書, 356-370, 2021.
- 佐藤 健: 災害時の避難施設となる学校が受ける影響, 独立行政法人教職員支援機構メールマガジン NITS NEWS, Vol.145, 2020.10
- 佐藤 健: 学習者の探究心を喚起する防災教育プログラム～地名をヒントに郷土の自然と歴史を理解し、次の災害に備える～, 地域防災, 通巻41号, pp.4-7, 2021.12
- 佐藤 健: 地域貢献意欲の高い人材を育み続けることの意義, ほくとう総研情報誌 NETT, 2022 Winter, Vol.115, pp.10-13, 2022.1
- 佐藤 健: 学校防災が有効に機能するための地域の連携 新連載 第1回 震災直後の復興教育・防災教育の実際, みんなの安全ニュース, 第1622号付録, 少年写真新聞社, pp.2-3, 2022.1
- 佐藤 健: 地理院地図を使ってハザードマップを読む, 季刊地域, No.48, pp.126-129, 2022.2
- 佐藤 健: 学校防災が有効に機能するための地域の連携 新連載 第2回 地域で取り組む学校防災体制の実際, みんなの安全ニュース, 第1625号付録, 少年写真新聞社, pp.2-3, 2022.2
- 佐藤 健: 学校防災が有効に機能するための地域の連携 新連載 第3回 活動しながら次世代の人材を育成し続けること, みんなの安全ニュース, 第1628号付録, 少年写真新聞社, pp.2-3, 2022.3
- 武村雅之、過去の巨大地震災害を教訓にした防災哲学の構築に向けて、基礎工(特集巨大地震による災害への備えの新たな展開)、11月号、11-16、2021
- 武村雅之、東京都における関東大震災の慰霊碑・記念碑・遺構 その3 郊外各区と移転寺院、名古屋大学減災連携研究センター、214pp、2021

- 武村雅之、東日本大震災の教訓は生かされてきたか？－10年前と現在、名古屋大学減災連携研究センター、それぞれの3.11、3-5、2021
- 武村雅之、連載コラム その24 2011年3月11日、日本地震工学会ニューズレター、Vo 1.10No.1、13-14、2021
- 武村雅之、連載コラム その25 “未曾有”をなくすために、日本地震工学会ニューズレター、Vo 1.10No.2、11-12、2021
- 武村雅之、連載コラム その26 震災と女性の社会的地位向上、日本地震工学会ニューズレター、Vo 1.10No.3、11-12、2021
- 坪内暁子、内藤俊夫、佐藤 健、佐々木宏之、今村文彦、仲田悦教、Chia-Kwung Fan, 奈良武司:国際都市新宿区の成城学校避難所地域住民にむけた新型肺炎 COVID-19 予防策、地域ケアリング, 4月号, Vol.22(4), pp.68-73, 2020.4
- 坪内暁子、内藤俊夫、佐藤 健、佐々木宏之、今村文彦、仲田悦教、Chia-Kwung Fan, 奈良武司:国際都市新宿区の成城学校避難所地域住民にむけた新型肺炎 COVID-19 予防策(続報)、地域ケアリング, 6月号, Vol.22(6), pp.72-75, 2020.6
- 坪内暁子、内藤 俊夫、佐藤 健、佐々木宏之、今村文彦、仲田悦教、范 家埜、奈良武司:気候変動で高まる災害リスク:感染症教育と災害教育の重要性、アグリバイオ, 8月号, Vol.4(9), pp.71-76, 2020.6
- 坪内暁子、内藤俊夫、佐藤 健、佐々木宏之、今村文彦、仲田悦教、范 家埜、奈良武司:国際都市新宿区の成城学校避難所地域住民にむけた新型肺炎 COVID-19 予防策(No.3)、地域ケアリング, 2月号, Vol.23(2), pp.42-45, 2021.2
- 坪内暁子、内藤俊夫、佐藤 健、佐々木宏之、今村文彦、仲田悦教、Chia-Kwung Fan, 丸井英二、奈良武司:改正災害対策基本法の現状と社会的懸念、Precision Medicine, 7月号, Vol.4 No.7, pp.73-79, 2021.7
- 牛山素行:特集 災害時の「避難」を考えるープロローグ 避難勧告等ガイドラインの変遷ー, 災害情報, No.18, pp.115-130, 2020
- 牛山素行:風水害被害に対する防災対策の積み重ねと効果ー大雨による「災害」は増えているのか, 月刊経団連, 2020年5月号, pp.32-33, 2020
- 牛山素行:洪水・土砂災害ハザードマップの意義と注意点, 国民生活, 2020年6月号, pp.11-15, 2020
- 牛山素行:2019年台風19号等による犠牲者はどのような場所で発生したか, 消防防災の科学, No.140, pp.40-44, 2020
- 牛山素行:洪水・土砂災害は「起こりうるものが、起こりうる場所で」, 静岡経済研究所調査月報, 2021年12月号, pp.32-37, 2021
- 山崎 登:「水害に強い町を作る」(「JFMAジャーナル」No205・2022年1月20日発行・日本ファシリティマネジメント協会)
- 山崎 登:「東日本大震災から10年 教訓を生かしていくために」(「地域防災」No37、

2021年4月15日発行・日本・防火防災協会)

山崎 登:「豪雨の時代の防災対策」(「消防防災の科学」No145、2021年夏号・消防防災科学センター)

山崎 登:雑誌「近代消防」連載「時の視点」(近代消防社、2020年から2021年度の毎月発行、その時々々の自然災害や防災をテーマに執筆)

2.2.5 受賞

藤井基貴, 朝日新聞社主催「大学 SDGs Action! Awards 2021」グランプリ 2021年3月.

藤井基貴, 朝日新聞社主催「大学 SDGs Action! Awards 2021」オーディエンス賞 2021年3月.

藤井基貴, 兵庫県等主催「1.17 防災未来賞」優秀賞 2022年1月.

藤井基貴, 兵庫県等主催「1.17 防災未来賞」ぼうさい大賞 2021年1月.

藤岡換太郎, 日本地質学会 50年勤続賞受賞, 2020.9.13

岩田孝仁, 令和2年防災功労者内閣総理大臣表彰, 2020/09/01

風間聡:水文・水資源学会学術賞, 2020.9.17.

北村晃寿 2020年度日本第四紀学会学術賞 貝化石・有孔虫化石の複合群集解析による日本本島の島嶼化過程および東海地震の履歴の研究 日本第四紀学会 2020年7月9日

Maeda, Y., Fellow of the Society for Risk Analysis, 2020年12月21日

前田恭伸, 日本リスク学会 学会賞, 2021年11月20日

満下健太・村越真, 日本リスク学会、大会優秀発表賞(ポスター部門) 2021年11月、(満下健太・村越真(2021) 三相因子分析による自然災害に対するリスク認知の分析. 日本リスク学会第34回年次大会講演論文集, 34, 160-165.)

村越真・満下健太・小山真人, 日本地図学会、論文賞、2022年4月 (村越真・満下健太・小山真人(2021) 自然災害リスクはハザードマップから適切に読み取れているか? 地図リテラシーの視点からの検討. 地図、58(4), 1-16.)

Nanjo, K. Z., IOP trusted reviewer, Institute of Physics Publishing, 2021年3月18日.

大谷栄治: 日本地球惑星科学連合フェロー(Fellow of Japan Geoscience Union), 2021年6月1日.

重榎竜希, 第10回 IEEE SSCS Japan Chapter VDEC Design Award アイデアコンテスト部門 囑望賞「土中水分量・イオン濃度計測用フィードバック型回路」2020年09月26日(二川雅登研究室).

武村雅之、名誉会員認定、日本地震工学会、2021年5月

田中捺希・秋元菜摘, 静岡大学浜松キャンパスの防災とICTによる情報提供—地域貢献に向けた実態の解明, 静岡大学情報学シンポジウム, 教務委員長賞, 静岡大学情報学部研究連携推進室, 2020/12/25.

谷村圭一, 令和元年電気学会 優秀論文発表賞「長期計測を目指したストライプゲート型

pH センサの最適動作条件の確立」, 2020 年 04 月 01 日 (二川雅登研究室) .
田阪美樹, 2021 年度日本地質学会柵山雅則賞, 2021/9/5.
田阪美樹, 2020 年度日本鉱物科学会研究奨励賞 (第 29 回) , 2022/9/18.
田阪美樹, 2020 Editors' Citation for Excellence in Refereeing for JGR-Solid Earth.
寺岡佑起, 令和元年電気学会 優秀論文発表賞「水分量・イオン濃度センサ用フィードバック型インピーダンス計測回路チップの製作」, 2020 年 04 月 01 日 (二川雅登研究室) .

2.2.6 特許等

- 出願日 : 2020 年 10 月 15 日
出願番号 : 特願 2020-173878
名称 : 水分センサ
二川雅登, 坂本貴章, 静岡大学
- 出願日 : 2021 年 10 月 28 日
出願番号 : 特願 2021-176467
名称 : イオン濃度計測装置
二川雅登, 静岡大学
- 国際出願日 2021 年 3 月 19 日
国際出願番号 : PCT/JP2021/011455
名称 : メタン生成装置
川野 誠・木村浩之

3 学内教育活動

3.1 新入生セミナー

静岡大学では新入生全員を対象として、「大学生活における健康管理に関する啓発」、「防災意識の涵養と防災教育に関する啓発」、及び「ハラスメントに関する啓発」を目的として、講演会を実施しており、全新生が受講する「新入生セミナー」という科目の一部として実施されている。

当センターでは、同講演会の一部として、「防災を考える」というタイトルで講義を分担している。主な講義内容は下記の通りである。また、静岡県危機管理部の協力を得て、静岡県発行の「ふじのくに防災ガイドブック」を参考資料として提示している。

災害と防災 「災害の時にどうするか」が防災ではない 様々な外力で被害が生じている 東海・東南海・南海地震の発生史 地震による被害 地震の建物倒壊は古い建物で主に生じている 津波の発生 津波による被害 原因別死者数	洪水災害 土砂災害 高波による被害 避難とは避難場所へ行くことだけではない 災害は主として起こりうる場所で発生する 重ねるハザードマップ ハザードマップを見るときに注意点 身近な備えについて
--	--

図 2021 年度新入生セミナーで使用した主なスライドのタイトル

本講演会は、2020 年度は新型コロナウイルス感染症への対策として講義動画(30 分程度)によるオンデマンド形式での実施となり、2021 年度も同様だった。講義動画の作成は牛山教授(専任)のとりまとめにより、生田准教授(副担当)、原田准教授(専任)、小杉特任准教授の計 4 名で担当した。

3.2 全学教育科目「地震防災」

地震防災はさまざまな分野にまたがる総合科学であり、数十年にわたり地震に対する注意が呼びかけられ対策が進められてきた静岡県で生活する学生にとってこれを学ぶことは極めて重要である。この講義は、(1)地震を中心に、災害をもたらす自然現象(ハザード)の基本的なメカニズムと、災害との関係について理解することができる。(2)地震災害を主な例として、被害を軽減するための技術、社会的な制度の現状と課題について理解することができる。(3)社会の一員として活動していく中で、日々の仕事や日常生活の中に防災に関する視点を持てるようになる。などの知識、態度を身につけることを目標とし、2004年度から開講されている。全学部の学生が受講可能な「学際科目」の一つとなっている。講師陣は大学の研究者ばかりでなく、行政やメディア関係者など幅広い分野で地震防災に関係している人が担当している。2009年度からは浜松キャンパスでの開講もはじまり、2020、2021年度は、前期に静岡と浜松で各1講座、後期に静岡(昼間および夜間)の2講座、年間で合計4講座が開講された。受講者は計例年数百人におよんでいる。なお本科目は、2020年度は新型コロナウイルス感染症への対策として講義動画または資料配信によるオンデマンド形式での実施となり、2021年度も同様だった。

以下に一例として2021年度・静岡地区(前期)の講義内容一覧を掲げる。

開講日	タイトル	担当者	所属
2021/4/9	地震学の基礎 1	生田領野	静大
2021/4/16	地震学の基礎 2	三井雄太	静大
2021/4/23	テクトニクスと地震活動	増田俊明	静大
2021/4/30	地震による災害：津波災害	原田賢治	静大
2021/5/7	地震による災害：土砂災害	今泉文寿	静大
2021/5/14	地震による災害：建物災害	小林研治	静大
2021/5/21	災害時の心のケア	小林朋子	静大
2021/5/28	地震災害史	武村雅之	名古屋大
2021/6/4	地震予知	堀高峰	JAMSTEC
2021/6/11	地震災害のリスク認知	村越真	静大
2021/6/18	地震防災行政	板坂孝司	静岡県
2021/6/25	災害報道	荒川修平	テレビ東京
2021/7/2	市民防災	横幕早季	静大
2021/7/9	災害時の医療	山本裕之	静大
2021/7/16	様々な自然災害	牛山素行	静大

3.3 全学教育科目「地域社会と災害」

学際科目「地震防災」は、科目立ち上げ時の経緯や、静岡において特に地震災害に対する関心が高いこともあり、内容が地震関係に偏ってしまっていることが課題となっていた。静岡県においても災害は地震だけではなく、また、学生が卒業後に全国、全世界に活躍の場を移すことを考えれば、地震以外の災害に対する教育が必要であることは当然のことである。そこで、地震災害については「地震防災」で学ぶこととして、地震以外の様々な災害を対象に、災害を考えるための基礎的な考え方や、災害をもたらす現象のメカニズム、災害による被害を軽減するための技術や制度について理解し、社会の一員として、当事者意識を持って災害に備える事ができる人材の育成を目的として、2010年度から静岡キャンパスで「地域社会と災害」を開講した。「地震防災」と同様、全学部の学生が受講可能な学際科目の一つとしての開講である。受講者は、2020年度約160人、2021年度約150人などとなっている。「地震防災」は15回すべてで担当者が代わるオムニバス形式だが、「地域社会と災害」では、防災総合センター専任教員2人、兼任教員1人、客員教員2人、教育研究支援員(以下の一覧では「支援員」)2人の計7名が分担する形式としている。

以下に2021年度の講義内容一覧を掲げる。

開講日	タイトル	担当者	所属
2021/10/5	自然災害科学概論1	牛山素行	静大
2021/10/12	自然災害科学概論2	牛山素行	静大
2021/10/19	地震災害	原田賢治	静大
2021/10/26	津波・高潮災害	原田賢治	静大
2021/11/2	風水害1	牛山素行	静大
2021/11/9	風水害2	牛山素行	静大
2021/11/16	火山災害	石橋秀巳	静大
2021/11/30	ハザードマップ	牛山素行	静大
2021/12/7	警報と避難	牛山素行	静大
2021/12/14	地域社会と災害	矢守克也	京都大
2021/12/21	原子力災害医療	松井務	浜松医大
2022/1/4	行政と災害対応	牛山素行	静大
2022/1/11	防災行政実務	杉村晃一	静岡市(支援員)
2022/1/18	災害情報	牛山素行	静大
2022/1/25	災害と身近な暮らし	横幕早季	静大(支援員)

3.4 全学教育科目「地球科学」

全学教育科目「地球科学」では、地球をシステムととらえ、地球の活動を理解するとともに、地球の活動により人間社会へもたらされる災害のメカニズムや地球上に暮らす我々の社会と自然の関わりについて理解し、その課題について考えることができるようになることを目標としている。全学教育科目「地球科学」は、平成 24 年度より防災総合センター原田准教授が全 15 回を担当している。主な内容は下記のとおりである。「地球科学」は全学教育科目-教養展開科目/現代的教養科目-教養領域 B（自然科学分野）/個別分野科目（自然科学分野）として、理学部を除く、静岡キャンパスの全学生を対象に開講されており、新型コロナウイルス感染症への対応としてオンデマンドで実施され、令和 2（2020）年度 144 名、令和 3（2021）年度 143 名の履修登録受講者であった。

1. 地球科学概論
2. 流体地球と固体地球
3. 地球システム（気圏、水圏、地圏、生物圏、人間圏）としての地球
4. 大気、海洋のシステム
5. 水循環システム
6. 気温、気候、温暖化のシステム
7. 温暖化対策と炭素循環のシステム
8. 地球システムと物質循環
9. 固体地球のシステム
10. 地殻運動のシステム
11. 地球システムの進化（地球環境の歴史）
12. 地球システムの進化（生命の誕生と進化）
13. 地球環境と人間社会（自然災害と防災減災）
14. 地球環境と人間社会（資源と地球環境）
15. 地球科学総論（地球システムと地球観）

3.5 全学教育科目「社会資本マネジメント論」

防災の地域づくりには私たちが暮らす社会が持続的に発展しかつ安全で暮らしやすい社会であることが重要である。静岡大学には都市計画や防災まちづくりを専門的に学ぶ既存コースがなく、このため街づくりなど中長期を見据えた視点で防災施策を議論する基礎的な学習が困難であった。本講座では静岡県交通基盤部の全面的な協力のもとで、2016年度より開講した。私たちの生活を支える道路や公園など社会資本の意義、それに関する行政・関連産業の仕組みと役割及び事業の企画から完成後の維持管理に至る一連の流れを理解し、どのようなマネジメントが必要か、また、社会資本を利用する住民などとの合意形成に何が必要か、さらに安全な地域社会づくり、街づくり、防災施設としての事前復興の考えなどを学び、社会資本整備に関わるマネジメントやまちづくりを実践していく上での考え方や基礎的知識を習得することができる。

講師は、静岡県交通基盤部の各分野で実務を扱う専門家が専門分野ごとにオムニバス形式で講義を行う。受講生は、理学部、農学部、人文社会学部、教育学部、地域創造学環と大谷キャンパスの全学部にまたがっている。

以下に2021年度の講義内容の一覧を掲げる。

社会資本マネジメント論 (2021後期 月5・6)					12:45~14:15
No	講義名	授業日	授業方法	所属	氏名
①	ガイダンス	10/4	在宅授業	静岡大学防災総合センター	岩田 孝仁
⑮	リニア中央新幹線計画に係る南アルプスの環境影響評価	10/4	在宅授業	生活環境課 主査	諸橋 良
②	社会資本概要	10/11	オンデマンド授業	建設技術監理センター 技監	井倉 基
③	社会資本重点計画(社会インフラの進め方)	10/18	在宅授業	建設政策課 班長	太田 智久
④	社会資本の維持管理計画(アセットマネジメント)	10/25	在宅授業	建設政策課 班長	太田 智久
⑤	住民参加と合意形成(協働のまちづくり)	11/1	在宅授業	建設技術監理センター 班長	齊藤 秀孝
⑥	社会資本整備における広報(静岡どぼくらぶ)	11/8	在宅授業	建設政策課 技師	富田 ひかる
⑦	環境保全の取組み	11/15	WEB+オンデマンド授業	技術調査課 班長	百瀬 大志
⑧	景観形成	11/22	在宅授業	景観まちづくり課 班長	勝山 敏司
⑨	港湾概論と清水港における国際クルーズ拠点の形成	11/29	在宅授業	港湾企画課 班長	石倉 俊彦
⑩	防災対策概論Ⅰ(事前復興行動計画)	12/6	在宅授業	土木防災課 班長	中島 秀介
⑪	防災対策概論Ⅱ(静岡方式)	12/13	在宅授業	河川企画課 班長	横山 卓司
⑫	GISとその活用	12/20	オンデマンド授業	建設政策課 班長	杉本 直也
⑬	持続可能な都市の形成(コンパクト+ネットワーク)	1/17	在宅授業	都市計画課 主幹	伊東 謙吾
⑭	交通ネットワーク(陸・海・空)	1/24	在宅授業	建設政策課 班長	岩崎 伸昭

3.6 全学教育科目「公共施設デザイン論」

静岡大学には土木・建築を専門に学ぶ既存コースがなく、このため防災施策の中でもハード面での耐震工学や土木工学、水利工学などを学生が学ぶ機会は限定的である。この解消のため、静岡県交通基盤部の全面的な協力のもとで、私たちの暮らしを支える道路、橋梁、河川、海岸、港湾、砂防など様々な公共施設の整備にあたっての計画段階から設計、施工に関する考え方、さらに都市計画や交通計画の手法について実践事例を交えて学ぶことにより、耐震や防災、安全なまちづくりなどをデザインする上での基礎を身につける科目として2016年度より開講した。

講師は、静岡県交通基盤部の各分野で実務を扱う専門家が専門分野ごとにオムニバス形式で講義を行う。受講生は、理学部、農学部、人文社会学部、教育学部、地域創造学環と大谷キャンパスの全学部にまたがっている。

以下に2021年度の講義内容の一覧を掲げる。

公共施設デザイン論 (2021前期 金3・4)					10:20~11:50
No	講義名	授業日	授業方法	所属	氏名
①	ガイダンス	4/9	在宅授業	静岡大学防災総合センター	岩田 孝仁
②	公共事業の概要	4/9	在宅授業	建設技術監理センター 技監	井倉 基
③	河川計画と設計 I	4/16	在宅授業	河川企画課 班長	杉山 喜一郎
④	河川計画と設計 II	4/23	在宅授業	河川海岸整備課 班長	露木 靖
⑤	海岸保全計画と設計	5/7	在宅授業	河川企画課 班長	横山 卓司
⑥	砂防施設計画と設計	5/14	在宅授業	砂防課 班長	佐野 裕庸
⑦	急傾斜地崩壊対策計画と設計	5/21	在宅授業	砂防課 班長	大野 正敏
⑧	道路計画と設計 I	5/28	在宅授業	道路整備課 班長	藤井 洋行
⑨	道路計画と設計 II	6/4	在宅授業	道路整備課 班長	山下 高詳
⑩	橋梁設計 I	6/11	在宅授業	道路整備課 班長	伊藤 彰浩
⑪	橋梁設計 II	6/18	在宅授業	道路整備課 班長	伊藤 彰浩
⑫	舗装計画と設計	6/25	在宅授業	道路保全課 班長	石神 和晃
⑬	港湾・漁港計画と設計	7/2	在宅授業	港湾整備課 班長	山崎 剛
⑭	都市計画	7/9	在宅授業	都市計画課 班長	大村 光央
⑮	交通計画	7/16	在宅授業	都市計画課 班長	神村 崇宏

3.7 全学教育科目「リスクコミュニケーション」

本科目は、浜松地区で「静岡大学防災マイスター称号制度」をスタートさせるにあたり、必修科目として2016年度より開講している。

(1) 科目概要

本科目は、自然災害を含む日常生活の中のリスクについて、個人や家庭や社会としてどのように対処するかを受講生が主体的に考えられるようになることを目指す。

現代社会は、直接的・局所的・短期的なリスクだけでなく、間接的・広域・長期的かつ複雑な因果関係を伴うリスクが増大してきている。それらのリスクを理解し、適切に管理するためには、科学的なリスク評価の視点だけでなく、多様な利害関係者の視点が必要とされる。本科目は、講義と演習を通して多様なステークホルダーが関与してリスク問題を考えるためのリスクコミュニケーションに関する知識を習得し、その社会的機能やリスクマネジメントへの寄与についても理解を深めることを目標としている。そのため、この科目は、理学や工学分野におけるリスク管理やリスク評価に関する内容、人間の認知や情報処理の特徴やバイアスに関する心理学や認知科学分野の内容、地域コミュニティや利害関係者とのコミュニケーションのあり方に係わる内容などから構成される。

2021年度の講義内容一覧は、以下の通りである。

- 1 ガイダンス：生活の中のリスク 小杉素子（静大）
- 2 リスクへのアプローチ 小杉素子（静大）
- 3 リスク認知と情報処理過程 小杉素子（静大）
- 4 演習① リスクメッセージの作成 小杉素子（静大）
- 5 災害とインフラ整備 鈴木康之（静大）
- 6 災害・防災とコミュニティ 笹原 恵（静大）
- 7 地震とプレートテクトニクス 増田俊明（静大）
- 8 災害リスクコミュニケーション 前田恭伸（静大）
- 9 火山のハザードマップの作られ方を学ぶとともに、一般市民が防災情報を利用する上での課題を考える 村越 真（静大）
- 10 東日本大震災から10年 放射能汚染からの環境回復と今後の課題を考える 万福裕造（農研機構）
- 11 コミュニケーションとリアリティの共有 小杉素子（静大）
- 12 リスク問題と社会的合意形成 小杉素子（静大）
- 13 演習②-1 交渉シミュレーション 小杉素子（静大）
- 14 演習②-2 交渉シミュレーション 小杉素子（静大）
- 15 総括：リスクとともに暮らす 小杉素子（静大）

3.8 大学院総合科学技術研究科共通科目「津波工学特論」

「津波工学特論」は、平成 27 年度より大学院総合科学技術研究科（修士課程）で開講されており、研究科コースに関わらず選択することができる研究科共通科目となっている。本科目は、防災総合センター原田准教授が全 15 回を担当している。主な内容は下記のとおりである。「津波工学特論」では、現象としての津波、津波災害の特徴、津波防災対策について理解することを目的としている。総合科学技術研究科の理学専攻、農学専攻、工学専攻、情報学専攻の大学院生を対象に開講しており、新型コロナ感染症への対応としてオンデマンドで実施され、令和 2（2020）年度は 14 名、令和 3（2021）年度は 30 名の受講者であった。

1. ガイダンス（講義概要）津波の特性と理論
2. 自然現象としての津波（津波の発生要因）
3. 自然現象としての津波（津波の規模と強度）
4. 自然現象としての津波（過去の津波の調査：地質学的調査、文献調査）
5. 自然現象としての津波（津波痕跡調査と津波の観測）
6. 自然現象としての津波（地震による津波の発生メカニズム）
7. 自然現象としての津波（外洋から浅海における津波の挙動）
8. 自然現象としての津波（沿岸から陸上における津波の挙動）
9. 津波による災害（津波による被害の発生要因）
10. 津波による災害（津波による被害の種類と形態：人的被害、建物被害、施設被害）
11. 津波による災害（津波による被害の種類と形態：インフラ被害、ライフライン被害、津波火災）
12. 津波による災害（日本における津波災害の歴史）
13. 津波に対する防災対策（総合的津波防災対策、事前対策）
14. 現在の総合的な津波対策
15. 津波に対する防災対策（津波予警報、東日本大震災以降の津波防災対策）

3.9 大学院総合科学技術研究科共通科目「災害情報学特論」

「災害情報学特論」は、当センター専任教員(牛山素行教授)が担当する大学院総合科学技術研究科共通科目として、2015年度から開講された。防災のために必要とされる情報が「災害情報」であり、幅広いものが含まれる。現代は多くの災害情報が存在しているが、実際の災害時に十分活用されていないことがしばしば問題となる。本講では、自然災害に関わる様々な情報を読み解き、活用する上で知っておくべき「災害情報の性質」を理解することを目標としている。災害情報を活用する上で必要な基礎知識を、主に講義・演習形式で解説している。後半では各自事例地を設けて調査レポートをとりまとめる課題を出題し、最終回を報告会とした。

以下に2021年度の主な講義内容を掲げる。

- 災害と防災の基礎的概念
- 専門的情報を専門外の人に伝える
- 最近の自然災害事例から
- 災害統計
- 災害の素因と誘因
- 災害と地形
- 災害情報の基礎概念
- 防災気象情報・警報避難
- 災害情報に関わる厳しい現実
- 地域調査とその報告

3.10 静岡大学防災マイスター称号制度（静岡キャンパス）

1) 防災マイスター称号制度とは

本学では地域の防災力向上に貢献するため、これまでも全学を対象に地震防災の授業や新入生セミナーにおける防災についての講演会を実施してきた。「防災マイスター称号付与制度」はこうした防災に関する授業を有機的に結びつけ、一定レベルの防災知識を備えた学生を養成して社会に送り出す事業であり、平成 23（2011）年度より教育学部で試行的にスタートした。おりしも、2011 年は東日本大震災が発生し、防災に対する教育の有効性が強く意識されたこともあり、防災についての大学の取り組みの先進的事例として、本制度は全国的にも関心を集めた。

2012 年度からは、静岡キャンパスの人文社会科学部、理学部、農学部にも対象を広げた。また 2018 年度からは浜松キャンパスにも対象を広げた（3.11 参照）。2021 年度終了時点で、静岡大学防災マイスターは 129 名、ふじのくに防災マイスター（後述）は 122 名となった。マイスターを社会に送り出してから 10 年がたち、修了生たちの教育・行政その他の現場での活躍が大いに期待されるが、防災総合センターとしてその活動を支援したり、社会の中での活用の中を生み出すには至っていない。この点は今後の課題だと考えられる。

2) 防災マイスター称号付与の条件

称号付与の条件は、12 単位以上（必修科目 3 単位、選択必修 4 単位以上、選択 5 単位以上）の履修が必要である。

履修科目は表 3.10（令和 3 年度入学生用）のとおりである。必修科目は「学校におけるリスク管理」「防災科学実習」、選択必修科目は「地震防災」「地域社会と災害」「地球科学」「災害時における危機マネジメント」である。これらの科目では、地震発生に関する自然科学的な知識のみでなく、自然災害のリスクや防災について広く考えるための人文社会系の授業も含まれている。

なお、2022（令和 4）年度からは、科目の変更に伴い、必修科目 4 単位、選択必修 4 単位以上、選択科目 4 単位以上の計 12 単位以上とした。必修科目は「学校におけるリスク管理」「大規模自然災害の科学」、選択必修科目は「地震防災」「地域社会と災害」「地球科学」「災害時のマネジメント」となった。「学校におけるリスク管理」は教育学部、その他は全学教育科目である。

また、選択科目は、教育学部、理学部、農学部、地域創造学環の科目も指定されているが、人文社会科学部については教育学部の聴講となっている。

修了時には、受講した授業などを踏まえ、卒業後の職場や地域で、得た知識やスキルをどう生かすかをまとめたレポートを義務づけ、学習内容の整理を促している。

3) 令和 2・3 年度の実施状況と今後

令和 2、3 年度には、それぞれ新たに 13 名、31 名の登録があり、年度末に修了した

ものはそれぞれ9名、18名であった。

2023（令和5）年度に予定されている新学部の創設とともに、防災関係の講義が充実することを踏まえて、履修科目の充実と見直しが必要になってくると考えられる。

4) 県知事認証について

静岡県による認証「静岡県ふじのくに防災マイスター」の条件を満たす静岡大学防災マイスターは、マイスター取得後、県が主催する1日の講習を受講することで、上記の認証も受けられる。令和2、3年度はそれぞれ9名、17名が取得した。

表 3.10 令和3年度防災マイスター取得申請者用の履修科目リスト

●必修科目（3単位）

対応学部等	科目名	単位	対象年次	担当教員
教育学部	学校におけるリスク管理	2	3	村越真
地域創造学環	防災科学実習	1	3	小山真人

●選択必修科目（4単位以上※注）

対応学部等	科目名	単位	対象年次	担当教員
全学教育（静岡）	地震防災	2	2～3	牛山素行/原田賢治
	地域社会と災害	2	2	牛山素行
	地球科学	2	2	原田賢治
	災害時におけるリスク危機マネジメント	2	2～3	村越真

●選択科目（5単位以上）

対応学部等	科目名	単位	対象年次	担当教員
全学教育（静岡）	進化と地球環境	2	2	鈴木雄太郎
	静岡県の防災・減災と原子力	2	3	大矢恭久
	社会資本マネジメント論	2	2	岩田孝仁
	公共施設デザイン論	2	3	岩田孝仁
教育学部 人文社会科学部 地域創造学環	自然災害学（隔年開講）	2	2～4	2021年度非開講
	地球・宇宙システムⅡ（隔年開講）	1	3～4	小山真人
	心理学入門	2	1	小林敬一
	学校カウンセリング論	2	2	小林朋子
	認知心理学	2	3	村越真
	地誌学概論	2	1	中條暁仁
理学部 地域創造学環	地球ダイナミクス概論Ⅰ	2	2	川本竜彦/田阪 美樹
	地球ダイナミクス概論Ⅱ	2	2	生田領野/石橋秀巳/ 三井雄太
	生物環境科学概論Ⅰ	2	2	塚越哲/佐藤慎一
	生物環境科学概論Ⅱ	2	2	木村浩之/宗林留美
	放射線計測・管理学概論	2	3	大矢恭久
	放射線管理実習	1	2	大矢恭久/矢永誠人/ 近田拓未
農学部	溪流環境学	2	3	今泉文寿
	森林環境水文学	2	2	土屋 智
	地質学概論	2	2	石川政憲
	山地保全学	2	3	高山翔揮
	測量学	2	3	今泉文寿/菌部礼
地域創造学環	実践からの防災行政論	2	1～3	岩田孝仁
	科学ジャーナリズム論（隔年開講）	2	3～4	黒沢大陸/添田孝史
	自然災害と現代社会	2	3	小山真人
（学芸員）	博物館情報・メディア論	2	2	江水是仁

注 選択必修科目を4単位を超えて履修した場合、その超えた単位は選択科目の単位とすることができる。（例：選択必修科目6単位履修の場合は2単位を選択科目の単位とすることができる）

3.11 静岡大学防災マイスター称号制度（浜松キャンパス）

浜松キャンパスでは、2016年度から「防災マイスター称号制度」をスタートした。称号付与の条件は静岡キャンパスと同一であり、12単位以上（必修単位3単位以上、選択必修4単位以上、選択5単位以上）の履修が必要である。

履修科目は表3-11の通りである。必修科目の「リスクコミュニケーション」については、2016年度より新規科目として設定し、「防災科学実習」は静岡キャンパスの教育学部で開講されているものとはほぼ同一の構成で、浜松キャンパスでは学際科目として設定された。選択必修および選択科目については、情報学部および工学部から、自然災害の現象やメカニズムだけでなく、防災や減災に関わる技術や地域コミュニティや政策まで幅広い分野の科目が指定されている。

マイスター申請登録学生は最終学年で受講した授業などをふまえ、卒業後の職場や地域で、得た知識やスキルをどう活かすかをまとめるレポートを提出し、浜松キャンパスでは令和3年度(2021年度)に1名が修了した。

表3-11 令和3年度防災マイスター取得申請者用の履修科目リスト

学部・学科	科目名	単位	年次	
●必修科目（3単位）				
学際	リスクコミュニケーション	2	2年	小杉素子ほか
学際	防災科学実習（通年）	1	3年	小杉素子ほか
●選択必修科目（4単位以上）				
学際（浜松）	地震防災	2	3年	小杉素子ほか
学際	静岡県の防災・減災と原子力	2	2年	大矢恭久ほか
全学（浜松）	地球科学	2	2年	栗田 敬
全学（浜松）	進化と地球環境	2	2年	増田俊明
工学部	安全工学	2	3・4	戸田三津夫ほか
●選択科目（5単位以上）				
工・機械工学	材料力学Ⅰ（必）	2	1年	吉田健吾
	確率・統計（必）	2	2年	岡本正芳
	環境工学（選）	2	3年	福田充宏ほか
	経営システム工学（選）	2	4年	關根惟敏
工・電気電子	確率統計 <情報エレクトロニクス(必)>	2	2年	大内浩司
	<エネルギー・電子制御(選)>	2	3年	和田忠浩
	数値シミュレーション	3	3年	丹沢徹ほか
	<情報エレクトロニクス(必)>			
	経営システム工学（選）	2	4年	立岡浩一
	技術者倫理（選）	1	4年	松木純也
	センサ工学 <情報エレクトロニクス(選)>	2	4年	坂田肇
電気法規および施設管理	2	4年	石川明	
工・電子物質	<エネルギー・電子制御(選)>			
	環境工学 <電子物理デバイス(選)>	2	3年	須田聖一
	<材料エネルギー化学(選必)>			
工・化学バイオ	経営システム工学（選）	2	4年	立岡浩一
	技術者倫理（必）	1	3年	馬淵大幾
	移動現象論Ⅰ（必）	2	2年	立元雄治

	環境化学 <環境応用化学(必)> <バイオ応用工学(選)>	2	2年	岡島いづみほか
工・数理システム	確率統計 (選)	2	1年	佐藤一憲
	リスク分析 (選)	2	3年	前田恭伸
	経営システム工学 (選)	2	4年	立岡浩一
	技術者倫理 (選 必)	1	3年	守田智
情報学部	統計学入門	2	1年	荒木由布子
	社会モデル	2	2年	高口鉄平
	社会調査論	2	1年	藤岡伸明
	コミュニティ・デザイン論	2	2年	笹原恵ほか
	webデザイン論	2	2年	杉山岳弘
	都市デザイン論	2	2年	秋元菜摘
	都市・地域政策論	2	3年	中澤高師ほか
	自治体行政論	2	3年	笹原恵ほか
学際	わが街・浜松の市政	2	2年	中澤高師

4 プロジェクト・関連行事

4.1 「ふじのくに防災フェロー養成事業」

4.1.1 事業の概要

(1)はじめに

近年、様々な形での防災関係の人材育成の取り組みが各地で行われつつある。静岡県では、平成8年から防災士養成講座を実施し、これまでに静岡県ふじのくに防災士（平成22年度に「静岡県防災士」を改名）を1250名輩出している。この講座の受講生は自治体・企業等での防災に関する実務に従事している防災実務者が多いことが特徴で、ふじのくに防災士取得者は相当数が実務にあたっている。

一方、同講座では講師による講義を聴く座学が中心で「広く浅い」基礎知識の習得にとどまる。防災実務の現場では地域特性・時代特性等、個々の状況にあわせた科学的・技術的知見の応用力が要求されるが、対応できる人材もその育成の場も少ない。そこで、静岡大学は静岡県と連携して平成22(2010)年度より、文部科学省の科学技術戦略推進費(平成25年度からは「社会的システム改革と研究開発の一体的推進事業」)による地域再生人材創出拠点の形成事業「災害科学的基礎を持った防災実務者の養成」として「ふじのくに防災フェロー養成講座」構築に着手した。

戦略推進費による講座運営は2014年度で終了し、その後は静岡県および静岡大学からの予算拠出によって運営している。

(2)講座の概要

この講座では自治体や企業等で災害・防災に関する実務に従事している者を対象にする。災害発生後の危機管理ノウハウにとどまらず、災害の事前予防を目指して、地域の特性を理解し、科学的専門知識とその情報を読み解ける実践的応用力の習得を目標とする。

それぞれ原則1科目1日の形で開講される25科目(2021年度実績、年度により若干変動する)の「講義・実習」と、担当教員による指導により個別の研究テーマの結果をとりまとめる「修了研修」を本講座のカリキュラムの主軸とした。講座修了は、①講義実習科目を必修科目2科目、基礎系科目1科目以上、応用系科目1科目以上、実習系科目1科目以上、合計10科目以上履修、②修了研修の内容を何らかの公開の場で発表(もしくは発表の具体的な予定がある)の条件を満たすことで判定する。受講期間は1年間を基本とし、最長で1年間の期間延長(合計で2年間)は認めるものとした。

募集人数は若干名で、応募資格として次のいずれかに該当する者としている。

- ・ 行政機関、指定公共機関、指定地方公共機関(都道府県は問わない)、学校(学校教育法第一章第一条に定める教育機関)のいずれかにおいて、防災に関わる業務に従事している者(今後従事する見込みの者も含む)。
- ・ 令和元年度以降に、静岡県「防災行政研修」を受講した者

- ・ 令和元年度以降に、内閣府「防災スペシャリスト養成研修」を1コース以上受講した者
- ・ 防災関連の大学院修士課程以上に在学中の者
- ・ その他、防災に関わる業務に従事している者で、ふじのくに防災フェロー養成講座実施委員会が適当と認める者。なお、「業務に従事」とは、その仕事に従事することにより、主たる生活上の収入を得ている者を指し、例えば地域の自主防災組織への関与は「業務」とは見なさない。

受講者の選考は提出された出願書類の内容を元にした一次選考、口頭試問及び面接を行う二次選考による。なお、入学料及び受講料は2015年度までは無料として来たが、2016年度より有料化した。毎年1月に応募を受け付け、2月に選考作業を行っている。2014年度までは3月より講義開始としていたが、年度をまたぐことで不都合が多かったことから2015年度からは4月から開始とした。

講義・実習は、表1のような科目をほぼ隔週土曜日の終日に開講している。話を聞くだけの形式ではなく、計算・作図等数値や物理的・質的データを用いた作業を伴い、毎回課題提出をもとめている。なお、2019年度からカリキュラムを見直し、講義科目、実習科目を明確に分けたほか、開始時の「入門演習」と、修了直前の「専門演習」を設け、いずれも必修とした。科目は随時見直しを続けており、2020年度には「防災気象情報論」を新設した。2021年度は大きな変更はない。

修了研修では、受講生と担当教員とのディスカッションにより、特定の研究テーマを決めて取り組む。2020、2021年度に発表されたテーマを下記に列挙する。受講生の居住地や実務に関連したものが多い。

2021年3月修了者

- 養護教諭のための地震災害対応に関する教材の開発
- 東日本大震災被災者証言から自動車使用者の自動車漂流と車内閉込めの問題点

2022年3月修了者

- 遠州地域におけるウバメガシ防災林の天然更新に関する研究
- 磐田市竜南工業団地における津波火災減少の為に車両移動に関する調査

表1 防災フェロー養成講座講義・実習科目開講スケジュール(2021年度)

科目名	科目群	担当者	開講日
入門演習	必修	牛山素行	2021/4/3
コミュニケーション論	応用系	関谷直也	2021/4/10
津波工学	基礎系	原田賢治	2021/4/24
防災気象情報論	応用系	牛山素行	2021/5/8
災害社会学	応用系	矢守克也	2021/5/15
都市防災概論	応用系	廣井 悠	2021/5/29
火山学	基礎系	小山真人・鶴川元雄	2021/6/12
砂防学	基礎系	土屋 智	2021/6/26
リスク論	応用系	鈴木清史	2021/7/10
人文社会科学のデータ収集と統計処理	基礎系	村越 真	2021/7/24
地震学	基礎系	笠原順三	2021/8/7
河川工学	基礎系	風間 聡	2021/8/21
企業防災と事業継続論	応用系	紅谷昇平	2021/9/4
地震工学	基礎系	秦 康範	2021/9/18
地理学演習	実習系	近藤昭彦	2021/10/2
地理情報演習	実習系	岩崎一孝	2021/10/16
気候学	基礎系	木村圭司	2021/10/23
地質学演習	実習系	狩野謙一	2021/11/6
地震計測実習	実習系	林 能成	2021/11/20
地域調査演習	実習系	牛山素行	2021/12/4
建築防災学	応用系	佐藤 健	2021/12/18
強震動・地震災害史	応用系	武村雅之	2021/12/25
防災法制度	応用系	中川和之	2022/1/8
防災実務実習	実習系	岩田孝仁	2022/1/17
専門演習*	必修	牛山素行	2022/2/5
			2022/2/19

なお、2020年度は、新型コロナウイルス感染症の流行により開講形態の見直しの必要性が生じた。急遽オンライン開講の準備を整え、4月の第1回講義「入門演習」から、Zoomによるリアルタイムオンライン形式での開講を基本とすることとした。急な開講形態の変更であり、行動制限に関わる情勢も逐次変化したことから、結果的に以下のような開講状況となった。

- ・ 日程を変更してリアルタイムオンライン形式で開講：気候学

- ・ オンデマンド形式(講義動画の配信)で開講：コミュニケーション論、火山学
- ・ 休講：地理情報演習、地震工学、防災実務実習
- ・ 講義室での開講時間を短縮し対面形式で開講：地質学実習
- ・ リアルタイムオンライン形式で開講：その他の科目

2021年度も新型コロナウイルス感染症の流行状況が継続したため、対面開講も模索しつつ、オンライン開講を引き続き基本とした。結果的には下記の開講状況となった。

- ・ 日程変更、オンデマンド形式開講は無し
- ・ 休講：地理情報演習、防災実務実習
- ・ 講義室での開講時間を短縮し対面形式で開講：地質学実習
- ・ リアルタイムオンライン形式で開講：その他の科目

(3)応募・終了の状況

2022年3月末現在で、12期生までの募集・選考が終了している。1期53人、2期43人、3期35人、4期34人、5期28人、6期16人、7期14人、8期13人、9期10人、10期9人、11期2人、12期9人の応募者があり、それぞれ22人、20人、21人、20人、17人、11人、7人、7人、6人、4人、2人、7人を受講生として受け入れた。このうち10期までは2022年3月末時点で最長受講期間が終了しており、1期20人、2期17人、3期14人、4期13人、5期10人、6期11人、7期4人、8期7人、9期4人、10期3人が修了認定された。11期はすでに1人が修了、1人が受講中である。2022年3月末時点で、のべ144人が受講し、うち104人が修了、8人が受講中となっている。

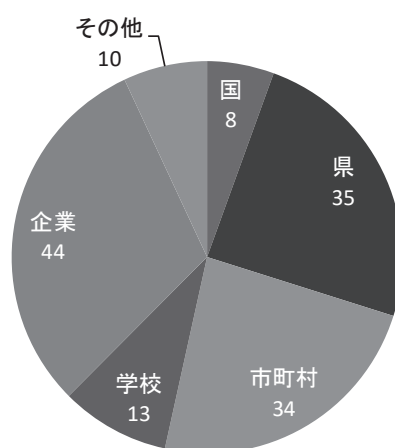


図1 受講者の所属

受講者の所属を受講開始時点で分類すると図1となる。市町村、国、県といった行政機関からの受講生が各年とも概ね半数を占めるが、企業等からの受講生も少なくない。なお、「企業」44人のうち、指定公共機関もしくは指定地方公共機関の関係者が15人を占める。

受講生の居住地は静岡県内が多いが、各年共に県外からの受講生も少なくない。県外としてはこれまでに、秋田県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県、岐阜県、熊本県に居住する受講生を受け入れており、広い範囲から受講生が集まっている。

(4)修了後の対応

まず、受講生および関係教員との連絡を図る目的で、メーリングリストを講座開始直後から運用している。修了後も特に本人からの申し出が無い限りリストから削除していない。修了生から、防災関係の行事案内などが流されるケースもあり、関係者の連絡網として機能しつつある。

当初は、修了後に開講の講義・実習科目は受講できないこととしていたが、受講生からの意見を参考にリカレントの狙いも含め、2014年度から「科目受講制度」を新設し、講義内容を紹介するブログ記事を作成することを条件に、年間3科目までの受講を認める事になった。2018年度からはさらなる活性化のため、年間の受講科目数の上限を撤廃した。各担当教員によっては、開講しているゼミに修了生の出席を認めているケースもある。

2014年度からは、本講座修了生らと静岡大学のさらなる連携を図ることを目的として、「静岡大学教育研究支援員」の制度を新設し、これまでに修了生ら11人を任命し、修了研修や講義・実習科目の実施に協力してもらっているほか、研究、普及活動を教員と共同実施している。また、一部の支援員は、全学共通科目「地震防災」「地域社会と災害」の講義も担当している。

このほか修了生は、各職場において様々な活躍をしており、詳細は次項「受講生の活動報告」に挙げる。

(5)今後の展望

本講座では、受講対象を現役の防災実務者に限定したが、開講後5年間にわたり1年当たり10人程度と想定した受講者数をはるかに上回る旺盛な応募が広域から続き、防災実務者に対してある程度の魅力を持った内容となっていることが示唆される。修了後も継続的に本講座関係教員、修了生らとの交流が行われ、静岡大学を拠点とする防災に関する人的ネットワークが構築されつつあると見ていい。

2020年度は新型コロナウイルス感染症の流行という非常事態により、いわば受動的な形でオンライン形式での開講を余儀なくされ、2022年度時点でも基本的な状況は変わっていない。一方で、オンライン開講により、特に遠方からの受講生にとって、時間的、費用的に大きなメリットが生じた面もある。そこで、2023年度以降もオンライン形式での開講を基本とし、講義室や野外での作業を伴う実習科目の一部は対面形式で開講する事を検討しているところである。

現在、喫緊かつ重大な課題は運営資金の確保策である。2022年時点では、静岡県および

静岡大学からの予算拠出によって運営し、2016年度からは1人12万円の受講料徴収を行っているが、厳しい状況が続いている。2018年度からは、内閣府「防災スペシャリスト養成研修」との連携、2019年度からは静岡県「行政職員防災講座」との連携など、講座内容の更新を予定しているほか、今後も継続的に講座の見直しを計画している。今後、さらに講座の継続、発展を目指したいと考えている。

4.1.2 シンポジウム

本事業の成果や今後の展望について議論するため、定期的にシンポジウムを開催している。2020、2021年度は下記シンポジウムを実施した。

(1)「災害科学的基礎を持った防災実務者の養成」(ふじのくに防災フェロー養成講座)2020年度称号授与式・シンポジウム

日時：2021年3月27日(土) 13:30～15:30

Zoomによるオンライン開催

【2020年度ふじのくに防災フェロー称号授与式】

称号授与

静岡県危機管理部

挨拶

静岡県地震防災センター 所長 外岡達朗

【2020年度ふじのくに防災フェロー養成講座シンポジウム】

●ふじのくに防災フェロー養成講座 最近の概況報告

静岡大学防災総合センター教授・

ふじのくに防災フェロー養成講座運営主幹 牛山 素行

●ふじのくに防災フェロー 近況報告

◆2019年度修了生：石垣 治久、渡嘉敷唯之、安本 真也、

◆2020年度修了生：永田 泰裕

●全体の講評

静岡大学防災総合センター センター長 北村晃寿

(2)「災害科学的基礎を持った防災実務者の養成」(ふじのくに防災フェロー養成講座)2021年度称号授与式・シンポジウム

日時：2022年3月19日(土) 13:30～15:30

Zoomによるオンライン開催

【2021年度ふじのくに防災フェロー称号授与式】

称号授与

静岡県危機管理部

挨拶

静岡県地震防災センター 所長 金嶋千明

静岡大学防災総合センター センター長 北村晃寿

【2021年度ふじのくに防災フェロー養成講座シンポジウム】

- ふじのくに防災フェロー養成講座 最近の概況報告

静岡大学防災総合センター教授・

ふじのくに防災フェロー養成講座運営主幹 牛山 素行

- ふじのくに防災フェロー 新規修了生からの挨拶

◆2021年度修了生：田中 祐仁

- ふじのくに防災フェロー 修了生からの話題提供

「災害対策本部のマネジメントについて」

浜松市道路企画課交通安全対策担当課長・総務省「災害マネジメント総括支援員」

小林 正人(第1期修了生)

4.1.3 受講生の活動報告

氏名：青島 晃

所属：静岡県立磐田南高等学校

県立高等学校の地学の教員として理科教育、防災教育に取り組んでいます。1981年から中遠行政センターの委託を受け、「昭和19年東南海地震に学ぶ」（1981）を始め、「昭和19年東南海地震の記録」（1982）、「写真で見る東南海地震」（1994）などの冊子の編集を中心にやって行いました。また、磐田北高校では静岡県地震予知観測学習モデル校、浜松北高校、磐田南高校では地学部顧問として地震観測や歴史地震の研究を指導し、日本学生科学賞では内閣総理大臣賞を受賞するなど、指導力を発揮しました。

研究活動では、1944年東南海地震を対象とした約40,000件のアンケート調査を静岡県西部地域や三重県南部地域で実施したり、歴史地震による液状化や津波堆積物を地質学的手法により研究を行ったりしてきました。2011～2012年には、袋井市の液状化対策委員として、ハザードマップ作成のために、1944年東南海地震で発生した液状化の記録を提供しました。また、太田川河口で仁和地震（887）による津波堆積物を発見し、2019年に産業技術総合研究所の藤原治博士との共著により、“Tsunami deposits refine great earthquake rupture extent and recurrence over the past 1300 years along the Nankai and Tokai fault segments of the Nankai Trough, Japan”として“Quaternary Science Reviews”に掲載されました。

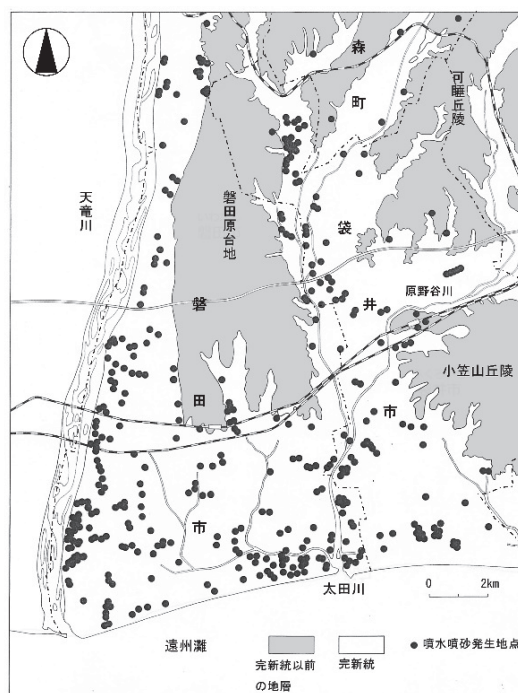
<https://reader.elsevier.com/reader/sd/pii/S0277379119303749?token=54807528ADD7DCBEA1A99666BFF8C1C51740AB82FD92623A7DBD9117E8523E668069A912229D0110D245DC18307EBE2E>

最近では、2021年7月に「アンケート調査による基づく1944年東南海地震による静岡県太田川低地の噴水・噴砂地点とその地形・地盤条件」が、歴史地震36号に掲載されました。

http://www.histeq.jp/kaishi/HE36_019_032_aoshima.pdf

今後は天竜川低地の液状化についても、取り組んで行きたいと考えています。

図 東南海地震（1944）による太田川低地と天竜川低地左岸の噴水・噴砂発生地点
青島他（2021）より引用



氏 名：塩崎竜哉

所 属：多治見市役所

豪雨災害時において、自治体が避難に関する情報の提供や応急対応を迅速に行うため、危険度が高まった地区を的確に把握する手法について研究をしています。

これまで、2011年9月に岐阜県多治見市で発生した豪雨災害や2014年8月広島豪雨災害時の記録から、行政機関への電話通報数と降水量・実被害の関係を調査し、地域ごとに集計した通報数の増大は当該地域の災害危険度の高まりを示す指標になることを明らかにしてきました。

災害時における電話通報については、自治体の災害対応を阻害する一因として取り上げられがちですが、こうした特性が活用できれば、災害対策の強化につながるものと考えられます。

近年では、大雨・洪水警報の危険度分布が示されており、こうした指標と実被害の関係についても明らかにできればと考えています。

氏 名：有友春樹

所 属：一般財団法人河川情報センター

ふじのくに防災フェロー養成講座第4期生として、静岡大学原田賢治准教授ご指導のもと、「市町村の津波避難計画の設定条件に関する特徴の比較検討」として津波避難計画の設定条件の調査を行いました。当時は、建設コンサルタント会社にて、主にソフト防災の分野である計画策定（地域防災計画、職員行動マニュアル、エリア防災計画等）および防災訓練（下水道BCP訓練、大規模土砂災害訓練、火山災害訓練等）支援業務を実施しており、これらの活動について、2019年3月にふじのくに防災フェロー育成講座シンポジウム「2018年度称号授与式・シンポジウム」において活動報告をさせて頂きました。

現在は、一般財団法人河川情報センターに所属し、風水害の防災対策に注力しており、主に「ハザードマップの周知・利活用のための支援検討」や「マイ・タイムラインの全国展開の支援」を担当しております。

※「マイ・タイムライン」とは、洪水のような進行型災害が発生した際に、「いつ」「何をするのか」を整理した個人の防災計画です。

近年の活動として2020年度では、令和元年東日本台風の被災地区（長野市北部）へ被災調査および避難に関する住民アンケートを整理し、その結果を令和2年度河川情報シンポジウムにて発表いたしました。2021年度では、東京都大田区福祉部局の講習会の事例により、水害時の要配慮者（避難行動要支援者）のためのサポート・タイムラインの活用方法について考察を行いました。また、青森県弘前市などの講習会の事例により、マイ・タイムライン講習会が受講者の避難行動に関する知識・態度に及ぼす効果の検証の試みなどを行っております。

○近年の発表論文

有友春樹,中安正晃,向井正大：アンケート結果を用いた令和元年東日本台風被災地区（長野市北部）住民の避難行動と提供情報の関連性に関する分析,令和2年度河川情報シンポジウム,2020

有友春樹,鮎川一史,森野香織,向井正大：水害時要配慮者支援のためのサポート・タイムラインの活用方法の一考察 -東京都大田区福祉部局の事例より-,日本災害情報学会第23回学会大会予稿集,2021

田畑佳祐,佐藤翔輔,今村文彦,向井正大,鮎川一史,有友春樹：マイ・タイムライン講習会が受講者の避難行動に関する知識・態度に及ぼす効果の検証 -地域防災リーダーを対象とした試み-,土木学会論文集B1（水工学）,Vol77(2),I_1489-I_1494,2021

氏 名：津島俊介

所 属：国土交通省近畿地方整備局河川部水災害予報センター

2020年度は気象庁大気海洋部気象リスク対策課（組織改編前は気象庁予報部予報課）で防災気象情報の周知や普及に関する業務を行った。当該年度は気象庁ホームページのリニューアルや、危険度分布の愛称決定があり、かかる業務に携わった。また、気象庁防災情報 Twitter アカウントの運営などを通して、防災気象情報の発信にも携わった。

2021年度は大阪管区気象台気象防災部予報課に在籍し、現業職員として奈良県および和歌山県の天気予報業務に携わった。警報・注意報・気象情報などの防災気象情報の作成・発信の実作業に携わり、また、自治体防災担当への訪問も行い、防災気象情報の伝わり方の実態についても理解を深めた。

現在（2022年度）は、出向を経て国土交通省近畿地方整備局河川部水災害予報センターに移り、主に水文観測についての業務に携わりつつ、非常時の対応も行っている。

研究活動については、2014年度～2017年度にかけてふじのくに防災フェロー養成講座およびその継続にて行った、調査研究「台風の勢力と死者・行方不明者の関係について」期間の延長（資料追加）および整理を行っている。今後、本研究の成果を論文等の成果としてまとめたうえで、台風の勢力の指標について、また外力を評価する指標について他の指標についても含め検討を深めていきたいと考える。また、講座終了後も本学の牛山教授のゼミに定期的に参加し、情報交換や助言等を行っている。

氏 名：向井利明

所 属：新潟地方気象台

2020年度は名古屋地方気象台に勤務し、2021年度末に長野地方気象台にて定年退職となりました（2022年4月からは再任用にて新潟地方気象台に勤務）。

2020年度には、牛山素行教授のご指導のもと、10分ごとに更新される速報版解析雨量導入後の記録的短時間大雨情報に関して、30分ごとに更新される通常版解析雨量のときより発表回数が4割増えていることなどを「近年の記録的短時間大雨情報について その1-速報版解析雨量導入後の運用」として、また、同情報の近年の災害発生率を向井・牛山（2018）「記録的短時間大雨情報の変遷及び災害発生率」と対比させた結果などを「近年の記録的短時間大雨情報について その2-災害発生率等から見たその役割」として、それぞれ日本災害情報学会第22回学会大会において口頭発表しました。

2020年は、2000年9月に発生した東海豪雨から20年となるため、東海豪雨の概要、当時の防災気象情報の課題、その後の防災気象情報の改善等について資料をまとめ、報道機関に説明しました。その内容は、在名TV各局や新聞社の東海豪雨20年特集等で取り上げられました。

2021年度には、牛山素行教授のご指導のもと、「大雨警報（土砂災害）の運用実績と課題-警戒レベル3相当情報としてみた場合」と題して、日本災害情報学会第23回学会大会において口頭発表しました。大雨警報（土砂災害）の7割～8割はその先、土砂災害警戒情報にまで至らないことや、3時間先までの予測で土砂災害警戒情報基準に達する場合にのみ大雨警報（土砂災害）を発表すると仮定した場合の効果や課題等を分析しました。

2021年8月の大雨により長野県岡谷市では土石流が発生し、3名が犠牲となりました。岡谷市は、この災害での避難情報の発令や住民の避難行動等について検証し今後の取り組みを検討するため、有識者からなる「避難情報の発令等に係る検証アドバイザー会議」を設置しました。小職は、牛山素行教授と共にアドバイザーとしてこの会議に参画しました。当該会議報告書は岡谷市ホームページにて公開されています。

<https://www.city.okaya.lg.jp/soshikikarasagasu/kikikanrishitsu/197/21577.html>

ふじのくに防災フェロー養成講座において、2020年度は「地域防災セミナー」として、2021年度は科目「防災気象情報論」として、近年の防災気象情報の動向等について講義を行いました。

これからも、気象庁の防災情報の利用促進や改善につながる調査、気象防災に関する普及啓発などに取り組んで行きたいと思っております。

氏 名：小 掠 明

所 属：藤枝市役所 環境水道部上水道課

ふじのくに防災フェローを受講し6年が過ぎました。コロナ禍で災害時の応急給水講座を市民の皆さんと行う事が2年間できないでいました。ようやく、地元小学校や保育園に出向きライフラインとして水道の大切さを覚えていただく事の中で、災害時には重要な水で有ると伝えていきます。

昨今、地震の発生や気象状況の急変により災害が起こりやすくなっており、気象機関からの報道、インターネット等より情報を得ています。

2022年7月より地元自治会から、防災委員に任命されました。今まで以上に地震・気象災害における防災知識を習得し、地元に戻元できるようにして行きます。

氏 名：中谷泰三

所 属：静岡県東部地域局 危機管理課

「ふじのくに防災フェロー養成講座」第6期生として、2016年度から受講させていただきました。修了研修が完了したのが2017年度だったため、修了も2017年度となりました。

自分は、防災フェロー養成講座を受講したことによって、信頼できるデータ・情報に基づいて判断や予測するクセを身につけることができたように思います。むろん、自分は研究者ではないので、できることには限界がありますが、行政職員としては、確実にレベルアップできたのではないかと考えています。

たとえば、象警報発表時などは、早いうちから防災気象情報や河川水位情報等に当たりながら準備し、事象終了まで対応していくことは、当たり前のことですが、自分は、恥ずかしいことに、以前はこの「当たり前のこと」が必ずしもできていませんでした。ごく限られた情報等をもとに、ややもすれば、感覚的な判断をしてしまうことすらあったように思います。防災フェロー養成講座はそのような姿勢を根本から変えてくれました。

防災フェロー養成講座で得られたものは知識や情報にとどまらず、牛山先生や素晴らしい専門家の方々とのつながりも、自分にとっては大きな財産です。最近はある個人的な研究をしているため参加できていないのですが、一段落したら再び「刺激的オフレコ情報満載」の牛山ゼミに加えていただき、自分の職務能力の向上を図ることができれば、大変ありがたいと存じます（ゼミでは、情報や知識をいただくばかりで、自分からはほとんど何も提供できていないのがとても心苦しいのですが…）。

牛山先生、メンバーの皆様、今後ともよろしく願いいたします。

氏 名：渡邊浩喜

所 属：静岡県特別支援学校長会事務局、静岡県教育委員会教育厚生課、星槎大学

2016年度「ふじのくに防災フェロー養成講座」第6期を修了し、引き続き、「特別支援学校における防災力の向上」を目的とした調査研究を進めた。

静岡県特別支援学校長会事務局長として、県立特別支援学校の災害対応に関する各種調査研究を実施すると共に、各校で作成している防災対策マニュアルの分析を行い、特別支援学校における共通の対応方針や具体の改善に努めた。

静岡県教育委員会の教職員サポート事業相談員として、各特別支援学校を訪問し、若手教職員と面談し業務や生活のサポートを行うと共に、管理職支援の一環として、各学校における災害対策(危機管理)の現状や課題に対し、指導・助言を行った。

2021年3月まで、星槎大学大学院教育学研究科修士課程に在籍し、大規模災害を想定した特別支援学校の防災力の現状と課題について研究した。(現在は、星槎大学特任講師、大学院客員研究員)

具体的には以下のような取り組みを行った。

(1) 大規模災害時情報伝達ネットワークの構築

大規模災害発生時には携帯電話等によるリアルタイムでの情報伝達が困難となるため、地域を走行する特別支援学校のスクールバスや各特別支援学校(基地局)間とを結ぶ情報伝達ネットワークの構築を、県教育委員会と連携して進めた。

2019年度から地区ごとに整備を進め、2023年度には県内全ての特別支援学校に整備される予定である。簡易無線の送受信範囲は通常1～2km程度であるが、大型アンテナを設置することにより半径10km以上の範囲での送受信を可能とした。山地等により通信が困難な地域は、携帯電話のデータ通信周波数帯で音声通話が可能な通信機器を導入した。

(2) 各特別支援学校における災害リスクやその対応に関する調査研究

県内を走行するスクールバスの運行コース上の災害リスク(津波浸水域、土砂災害、液状化、河川洪水等)の現状と対応の準備状況について調査した。

(3) 特別支援学校が作成する防災対応マニュアルの現状と変遷について調査

2010年度(東日本大震災前)、2015年度(東日本大震災5年後)、2020年度(東日本大震災10年後)において、各特別支援学校が作成した防災対応マニュアルについて分析した。

(4) 研究成果の報告

上記等の調査・研究について、星槎大学大学院修士論文にまとめると共に、2021年度自然災害科学中部地区研究集会において報告した。

(5) 県内特別支援学校における大規模災害発生時の初動体制の構築

特別支援学校の特性を考慮した共通の初動体制について各校に通知し、対応の共通理解を図った。(防災対策マニュアル作成の留意点、大規模災害発生時の初動体制、異なる色ののぼり旗を活用した周辺地域への情報発信、など) [2021年4月通知]

氏 名：石塚隆之

所 属：千葉県 防災危機管理部 防災対策課

学術関係では、2020～2021 年度において、前年度から引き続き静岡大学総合防災センター教育研究支援員の委嘱を受け、また、放送大学大学院にて人的被害情報の取扱、特に被災者の氏名公表に関する研究を行い、修士論文にまとめました。

業務の関係では、2020 年度から現所属に配置となり、令和元年台風 15 号等における千葉県の被災状況を踏まえ新設された部署で人的・物的支援や被害情報の取扱に従事しています。2021 年度は、災害時における被災者の氏名公表に関する千葉県のガイドライン策定に関わりました。

最後に私的な活動ですが、主に公務員が集まって社会的活動を行う団体（よんなな防災会）に所属しており、この団体メンバーの一員として 2022 年 5 月に地域安全学会 2022 年春季研究発表会で口頭発表を行い、優秀発表賞を受賞しました。

氏 名：安本真也

所 属：東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター

現在、防災に資する地震や火山に関する情報のあり方について検討を行っている。具体的には、すでに公表されている地震学・火山学の成果であるハザードの想定を基にした被害想定や、地震や火山に関する確率情報に対する評価や理解度を住民に対するアンケート調査の手法を用いて把握している。中でも、地震や火山の成果を防災に結びつけるうえで、そのコミュニケーションツールとしての想定情報が重要であると考え、首都圏住民に対して、首都直下地震と想定映像の効果について縦断調査を実施し、分析を行っている。

その結果、首都直下地震の被害想定提示によって、知識やリスク認知に影響を及ぼしているものの、劇的な変化ではないことが明らかとなっている。今後はさらに、実際の行動などへの分析を通して、こうした想定情報のあり方についての課題を明らかにする。

また、住民の大規模な地震や大規模な噴火に対する認知構造を明らかにしている。そのために、住民が地震や火山に対して素朴に抱いている認識、いわば災害における” Lay Theory” を把握するための調査を実施した。そのデータを前提に量的な分析を実施している。ここでは大規模な地震や火山噴火が起こるとどのような現象が起こるのか、どのような状況になると住民は理解しているのか、つまり想定しているのかを明らかにする。これらの認識とリスク認知、備え行動の関係を統計的に分析することで、どのような地震学・火山学の知見が防災対策に資するのかを特定する。

情報のあり方の課題と実際の住民の認知構造をふまえて、災害情報の活用を抑制している要因と課題の一端を明らかにする。これらを統合し、精緻な分析を行うことで、地震学・火山学の成果を「住民が理解しうる」情報体系に昇華させる方策を検討している。

4.1.4 受講生の研究成果・社会的活動

(1)著書

柴田達哉, 知っておきたい斜面のはなしQ&A2—斜面の災害に備える—, (公社) 土木学会, 2022年1月 (5-9.斜面災害の防災教育はどうなっているの?) .

(2)学術論文

青島晃・土屋光永・中野幸子・野嶋宏二・松井孝友, アンケート調査に基づく1944年東南海地震による静岡県太田川低地の噴水・噴砂発生地点とその地形・地盤条件, 歴史地震 36, 19-32, 2021

石橋真帆・安本真也・朱沁怡・関谷直也・岩崎雅宏, 2021, 2020年新型コロナウイルス感染症拡大初期の情報行動と社会心理, 東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編, No.37, pp.1-72.

石原貴代: 防災倉庫の現状と防災倉庫を活用した学校での防災教育, 名古屋学芸大学研究紀要 教養・学際編 第17号, pp1-27, 2021.

石原貴代: 高層住宅の防災倉庫の整備と防災活動, 名古屋学芸大学研究紀要 教養・学際編 第18号, pp29-47, 2022.

柴田達哉, 「斜面崩壊による労働災害防止対策ガイドラインと実際の地山挙動」, 安全工学シンポジウム2020 論文集, p114, 2020年7月2日.

柴田達哉, 「斜面崩壊による労働災害防止対策ガイドラインによる地質リスク抽出と実際の地山挙動」, 土木学会論文集 F6 (安全問題), 77巻1号, 2021年.

田畑佳祐, 佐藤翔輔, 今村文彦, 向井正大, 鮎川一史, 有友春樹: マイ・タイムライン講習会が受講者の避難行動に関する知識・態度に及ぼす効果の検証—地域防災リーダーを対象とした試み—, 土木学会論文集 B1 (水工学), Vol77 (2), I_1489-I_1494, 2021.

安本真也・河井大介・齋藤さやか・関谷直也, 2022, 首都直下地震に関する映像による認知の変化—パネル調査を用いたドラマ「パラレル東京」の効果分析—, 災害情報 No.20 (1), pp.123-136. (査読付)

安本真也・関谷直也, 2022, 火山噴火に対する意識: 「登山者」と首都圏住民へのアンケート調査をもとに, 東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編, No.38, pp.39-77.

安本真也・赤石一英・横田崇, 2021, 南海トラフ地震の想定と住民の意識—沿岸部住民へのインターネット調査の試行—, 愛知工業大学地域防災研究センター 年次報告書, vol.17, pp.12-21.

安本真也・河井大介・齋藤さやか・関谷直也, 2021, パネル調査に基づくドラマ「パラレル東京」の効果—首都直下地震への対策—, 東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編, No.37, pp.73-150.

安本真也・横田崇・牛山素行・石黒聡士・関谷直也, 2021, 平成30年7月豪雨における災

害情報と住民の避難行動, 東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編, No.37, pp.151-187.

安本真也・横田崇・牛山素行・石黒聡士・関谷直也, 2020, 平成 30 年 7 月豪雨における西予市での住民の避難行動と避難の意思決定構造, 自然災害科学 vol.39, 特別号, pp.71-85. (査読付)

安本真也・横田崇・関谷直也, 2020, 平成 30 年 7 月豪雨における野村ダム放流時の西予市消防団の対応, 愛知工業大学地域防災研究センター 年次報告書, vol.16, pp.37-43.

(3)学会口頭発表

青島晃・市川舜・鈴木洸希・加藤来歩・樽松宏征, 遠州灘磐田海岸で見られた令和元年東日本台風の高潮によるイベント堆積物, 2021 年度自然災害科学中部地区研究集会講演予稿集,2-3, 2022.3

青島晃・樽松宏征・戸塚剛志・高橋邑弥・有村航輔・鈴木洸希・市川舜・加藤来歩, 静岡県磐田市鮫島海岸で見られた令和元年東日本台風による高潮堆積物, 日本地質学会第 128 年学術大会講演要旨, 2021, R9-P-2, 2021.9

青島晃・土屋光永・中野幸子・野嶋宏二・松井孝友, アンケート調査による静岡県浜松市南部の液状化現象, 第 37 回歴史地震研究会講演要旨集, 2020.9

有友春樹,中安正晃,向井正大: アンケート結果を用いた令和元年東日本台風被災地区(長野市北部)住民の避難行動と提供情報の関連性に関する分析,令和 2 年度河川情報シンポジウム,2020.

有友春樹,鮎川一史,森野香織,向井正大: 水害時要配慮者支援のためのサポート・タイムラインの活用方法の一考察 -東京都大田区福祉部局の事例より-,日本災害情報学会第 23 回学会大会予稿集,2021.

石原貴代・村越真, 養護教諭のための地震災害対応に関する教材の開発, 2020 年度自然災害科学中部地区研究集会, 2021 年 3 月 6 日.

望月靖郎・内海明・増澤武弘, 遠州地域におけるウバメガシ防災林の天然更新に関する研究, 富士学会, 2021 年 11 月 13 日.

向井利明・牛山素行: 近年の記録的短時間大雨情報について その 1 -速報版解析雨量導入後の運用, 日本災害情報学会第 22 回研究発表大会,2020 年 11 月 28 日.

向井利明・牛山素行: 近年の記録的短時間大雨情報について その 2 -災害発生率等から見たその役割,日本災害情報学会第 22 回研究発表大会,2020 年 11 月 28 日.

向井利明・牛山素行: 大雨警報(土砂災害)の運用実績と課題 -警戒レベル 3 相当情報としてみた場合, 日本災害情報学会第 23 回研究発表大会,2021 年 11 月 27 日.

永田泰裕・原田賢治, 東日本大震災被災者証言にもとづく自動車漂流と車内からの脱出手段, 2020 年度自然災害科学中部地区研究集会, 2021 年 3 月 6 日.

柴田達哉,「事前対応したが掘削時に発生した想定外の地質リスク発現事例」,地質リスク学

会,2019年11月1日.

杉村晃一・牛山素行：沿岸部住民における津波・洪水の危険度認知と避難行動意向 ～東日本大震災から10年を迎えて，日本災害情報学会第23回研究発表大，2021年11月27日.

田中祐仁・原田賢治，磐田市竜南工業団地における津波火災減少の為の車両移動に関する調査，2021年度自然災害科学中部地区研究集会，2022年3月5日.

安本真也・関谷直也，地震の被害想定という情報は住民の備えにつながるのか，日本災害情報学会第24回学会大会，一橋大学一橋講堂，2022年3月20日.（口頭発表）

安本真也・河井大介・齋藤さやか・関谷直也，防災啓発番組の視聴は地震の備え行動につながるのか：ドラマ「パラレル東京」の効果検証，日本災害情報学会第23回学会大会，オンライン開催，2021年11月27日.（口頭発表）

安本真也・河井大介・齋藤さやか・関谷直也，首都直下地震に関するイメージの変化：自由記述結果からみるドラマ「パラレル東京」の効果，日本災害情報学会第22回学会大会，オンライン開催，2020年11月28日.（口頭発表）

安本真也・河井大介・齋藤さやか・関谷直也，首都直下地震に関する防災啓発番組による知識獲得—知識ギャップ仮説に着目して—，日本心理学会第84回大会，オンライン開催，2020年9月8日-11月2日.（口頭発表）

(4)その他の著作物

青島晃，てくてく地質学講座「七夕豪雨」，静岡県袋井土木事務所広報誌てくてく太田川 No21.4，2022

青島晃，てくてく地質学講座「サンドバイパスの砂の起源」，静岡県袋井土木事務所広報誌てくてく太田川 No20.4，2021

(5)受賞

安本真也，第31回（令和3年度）日本自然災害学会学術奨励賞，2021年9月12日.

安本真也，第84回日本心理学会学術大会優秀発表賞，2020年10月22日.

(6)特許等

なし.

(7) 外部・公開講演会等

青島晃，野外観察会「化石をみつけよう！」，日本宇宙少年団袋井分団，掛川市遊家・袋井市宇刈里山公園，2021.11.21

青島晃，野外観察会「地層や鉱物・岩石を見てみよう！」，日本宇宙少年団袋井分団，磐田市池田天竜川河川敷・袋井市上山梨太田川河川敷，2020.11.22

石原貴代,令和 3 年度 防災ボランティアコーディネーター養成講座 講師,長久手市社会福祉協議会,長久手市,2021 年 7 月 17 日.

石原貴代,名古屋学芸大学防災人材育成プログラム 2022 講師,名古屋学芸大学,日進市,2022 年 7 月 9 日.

小林正人,令和 3 年度第 2 回静岡県行政職員防災講座「災害対策本部のマネジメント」講師,静岡県,web,2022 年 2 月 16 日

小林正人,2021 年度ふじのくに防災フェロー養成講座シンポジウム「災害対策本部のマネジメントについて」講師,静岡大学総合防災センター・静岡県,web,2022 年 3 月 19 日

向井利明,電力気象連絡会東海地方委員会での講演,電力気象連絡会東海地方委員会,愛知県名古屋市(オンライン併用),2020 年 5 月 12 日.

向井利明,道路除雪講習会での講演,一般社団法人日本建設機械施工協会中部支部,愛知県名古屋市,2020 年 11 月 1 日.

向井利明,運輸事業者の防災情報活用を促すワークショップでの講演,中部運輸局,オンライン,2021 年 1 月 27 日.

向井利明,シンポジウム「現象および地域特性を踏まえた備え」でのパネリスト,土木学会中部支部,愛知県名古屋市(オンライン併用),2021 年 3 月 4 日.

向井利明,日本気象予報士会長野支部例会での講演,一般社団法人日本気象予報士会長野支部,オンライン,2021 年 5 月 9 日.

向井利明,テレビ信州での講演,株式会社テレビ信州,オンライン,2021 年 5 月 19 日.

向井利明,長野国道事務所工事安全対策協議会での講演,国土交通省関東地方整備局,長野県長野市,2021 年 11 月 1 日.

向井利明,安曇野市職員研修での講演,長野県安曇野市,長野県安曇野市,2021 年 11 月 17 日.

向井利明,日本気象予報士会長野支部例会での講演,一般社団法人日本気象予報士会長野支部,長野県松本市,2022 年 2 月 26 日.

向井利明,日本気象予報士会サニーエンジェルス研修会での講演,一般社団法人日本気象予報士会有志活動団体サニーエンジェルス,オンライン,2022 年 3 月 5 日.

柴田達哉,「令和元年度地域産学官と技術士との合同セミナーIN SHIZUOKA」,(公社)日本技術士会,静岡市,2019 年 11 月 16 日.

杉村晃一,静岡市防災講演会,静岡市,静岡県コンベンションアーツセンター,2021 年 11 月 7 日.

杉村晃一,清水港台風・津波等対策協議会臨時総会,清水海上保安部,清水テルサ,2021 年 11 月 16 日.

杉村晃一,清水防災セミナー,静岡市清水区生涯学習交流館,清水生涯学習交流館,2021 年 11 月 20 日.

杉村晃一,富士山ハザードマップ(改定版)住民等説明会,静岡県・富士市・静岡市,富士

市文化会館，2021年11月24日。

安本真也，福島県立新地高校講演（東日本大震災祈念行事）「災害をめぐるコミュニケーション」，福島県立新地高校，新地町文化交流センター（オンライン），2022年3月8日。

(8) マスメディア・新聞等への掲載

青島晃，静岡新聞，磐田南高校「空振」キャッチ，2022.1.20

青島晃，静岡第一テレビ，news every.しずおか，トンガ大規模噴火で日本に到達した”衝撃波”高校生が観測，2022.1.20

青島晃，静岡新聞，火球追跡高校生が金星，2020.7.27

向井利明，NHK名古屋ほか，大雨に関する中部地方整備局と気象台との合同記者会見，2020年7月10日。

向井利明，CBCテレビ，東海豪雨20年，2020年9月10日、11日。

向井利明，中日新聞，東海豪雨20年，2020年9月7日。

向井利明，NHK長野ほか2局，大雨に関する千曲川河川事務所との合同記者会見，2021年8月13日。

杉村晃一，静岡新聞，水害備え いつ、何を 事前行動計画表 各自の避難目安考える，2020年4月12日。

杉村晃一，静岡第一テレビ 地震・防災チェック，避難対策，2020年5月23日。

杉村晃一，SBS ORANGE 6，#防災最前線 梅雨入り前に考える キーワードは「分散避難」，2020年6月3日。

杉村晃一，NHK総合 たっぷり静岡，感染症対策考慮した避難所運営学ぶ，2020年6月10日。

杉村晃一，静岡新聞，災害時の避難所 運営備え研修会 静岡市職員，2020年6月12日。

杉村晃一，NHK静岡ラジオ第1 BOUSAI ニュージェネレーション！，2020年8月29日。

杉村晃一，静岡第一テレビ news every 静岡，防災の日 コロナ禍で避難所運営訓練，2020年9月1日。

杉村晃一，静岡朝日テレビ とびつきり！静岡，新型コロナに対応した避難所運営訓練を実施 静岡市，2020年9月1日。

杉村晃一，SBS ORANGE 6，台風に警戒 側溝が詰まり…浸水被害の懸念，2020年9月3日。

杉村晃一，静岡新聞，県内総合防災訓練 コロナ禍避難所運営を確認，2020年9月13日。

杉村晃一，静岡第一テレビ 地震・防災チェック，防災の日の訓練から，2020年9月19日。

杉村晃一，NHK NEWS WEB，避難勧告と避難指示の一本化など 避難情報の名称 大幅変更へ，2020年12月24日。

杉村晃一，FMしみず・マリパル 特別番組，Change the World 2021～考えよう防災，2020年12月27日。

杉村晃一, NHK 総合 たっぷり静岡, 南海トラフ地震臨時情報 認知度は?, 2021 年 1 月 18 日.

杉村晃一, SBS ORANGE 6, #防災最前線 今年から変わります! 防災・気象情報, 2021 年 1 月 12 日.

杉村晃一, NHK 総合 たっぷり静岡, 南海トラフ臨時情報 静岡市 認知度低く 対応検討, 2021 年 1 月 28 日.

杉村晃一, SBS ORANGE 6, 静岡市 大地震の臨時情報 誰がどこに避難するか防災計画に初めて明記, 2021 年 1 月 28 日.

杉村晃一, SBS ORANGE 6, 富士山の災害予測図改定 噴火の被害 より早く広範囲の恐れ, 2021 年 3 月 26 日.

杉村晃一, SBS ORANGE 6, どう変わる? 市や町の避難情報, 2021 年 3 月 30 日.

杉村晃一, 静岡朝日テレビ とびっきり! 静岡, 「避難指示」一本化でどう変わる? 改正災害対策基本法が 20 日から施行, 2020 年 5 月 19 日.

杉村晃一, NHK 総合 たっぷり静岡, きょうから避難情報変更 対応急ぐ 静岡市, 2021 年 5 月 20 日.

杉村晃一, SBS ORANGE 6, 自治体が出す情報「避難指示」一本化, 2021 年 5 月 20 日.

杉村晃一, 静岡朝日テレビ とびっきり! 静岡, 足久保川で初めてのハザードマップ作り 静岡市, 2020 年 6 月 28 日.

杉村晃一, SBS ORANGE 6, 新たな課題 避難指示に一本化 発表相次ぐ, 2021 年 7 月 2 日.

杉村晃一, 静岡第一テレビ news every 静岡, 大雨 静岡県内の各地に「避難指示」求められる行動は?, 2021 年 7 月 2 日.

杉村晃一, 静岡第一テレビ news every 静岡, 高潮被害の危険性を共有 県内で初めて静岡市が高潮浸水想定区域図をもとに住民説明会開催, 2021 年 10 月 22 日.

杉村晃一, テレビ静岡 ただいま! テレビ, 高潮浸水域のハザードマップ公表 津波とどう違う? 住民に説明 静岡市, 2021 年 11 月 2 日.

杉村晃一, NHK 総合 たっぷり静岡, 初公表 高潮の被害想定, 2021 年 11 月 13 日.

杉村晃一, 静岡新聞, 洪水の危険認識 6 割 津波に比べ低く 静岡市沿岸部 「リスク理解重要」, 2021 年 11 月 27 日.

杉村晃一, NHK 総合 NHK ニュース おはよう日本, 静岡市沿岸住民 洪水の危機意識が津波より低い結果に, 2021 年 12 月 9 日.

杉村晃一, SBS ORANGE 6, #防災最前線 静岡市が高潮ハザードマップ公表, 2022 年 2 月 8 日.

(9) 公的な委員会等

石原貴代, 日進市環境まちづくり評価委員会委員, 2022 年度～

向井利明, 木曾川洪水予報連絡会委員会委員, 2020 年度.

向井利明, 中中部の港湾における高潮・暴風対策検討委員会委員, 2020 年度.

向井利明, 岡谷市「避難情報の発令等に係る検証アドバイザー会議」アドバイザー, 2021 年度.

(10) 学会活動

有友春樹, 土木学会教育企画部門教育企画・人材育成委員会シビル NPO 推進小委員会 (土木と市民社会をつなぐフォーラム) 委員, 2020 年 10 月～現在.

有友春樹, 日本材料学会信頼性部門委員会関東地区常任幹事, 2018 年 4 月～現在.

柴田達哉, 公益社団法人土木学会地盤工学委員会斜面工学研究小委員会, 委員, 2020.9.～2022.8.

安本真也, 日本災害情報学会第 24 回学会大会, 大会実行副委員長, 2022 年 3 月.

安本真也, 日本災害情報学会学会大会委員 (第 10・11 期), 2019 年 12 月～.

4.2 静岡県行政職員防災講座

4.2.1 静岡県行政職員防災講座

2019年度より静岡県危機管理部と、静岡大学防災総合センターが協力して、静岡県行政職員防災講座を開講することとなった。この講座のカリキュラムは、内閣府が実施している「防災スペシャリスト養成研修」(東京開催・2日間10コース・年2回)に準じている。昨今災害が続発する中、現場で防災実務に当たる行政職員の役割は重要性を増している。一般向け「防災教育」「防災人材育成」はよくいわれるところだが、地域での防災知識普及を推進する核となるべき自治体等の防災担当職員は、防災実務に関する特別なトレーニングを受けているわけではなく、厳しい環境下で職務に従事している。こうした方々に対する支援策の一つとして、こうした研修機会の充実は重要性が高いものと考え、実施に至った。

前項の「ふじのくに防災フェロー養成講座」の入門編的な内容であり、同講座との連携を図る意味で、「静岡県行政職員防災講座」(令和元年度以降)の受講者は、1科目分の履修を免除することとしている。

2020年度も2019年度と同様な方法での開講を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の流行により開催形式を再検討し、後述のフォローアップ研修と内容を統合し、2021年2月に開講することとした。また、内閣府より「防災スペシャリスト養成研修」の地方研修用に用意されている講義動画の提供を受け、オンデマンド形式と、Zoomによるリアルタイムオンライン形式を組み合わせた開講形式とした。講義動画の視聴は2021年2月中に、リアルタイムオンライン形式の講義は2021年2月24、25日に実施し、一部参加を含め、静岡県内の市町職員、県職員計52人が受講した。

講義内容は下記の通りだった。

講義動画

防災行政概要	(内閣府)
災害法体系	(内閣府)
防災計画	(内閣府)
警報避難の枠組み	(内閣府)
被災者支援の枠組み (A) (災害救助法と仮設住宅)	(内閣府)
被災者支援の枠組み (B) (避難生活支援)	(内閣府)
被災者支援の枠組み (C) (生活再建支援①)	(内閣府)
被災者支援の枠組み (D) (生活再建支援②)	(内閣府)

2月24日

防災基礎総論	牛山素行 (静岡大学)
豊岡市における風水害における防災・減災対策	

原田泰三（兵庫県豊岡市）

防災アプリ「静岡県防災」を活用した地域防災強化へのアプローチ

友寄隆裕（静岡県危機管理部）

2月25日

地震・火山災害の基礎

斎藤直子（静岡地方気象台）・山下慧（静岡地方気象台）

風水害の基礎

牛山素行（静岡大学）

2021年度も、新型コロナウイルス感染症の流行により開催形式を2020年度と同様なものとした。なお、2020年度には実施を見送った演習をリアルタイムオンライン形式で実施した。講義動画の視聴は2021年6月中に、リアルタイムオンライン形式の講義・演習は2021年6月9、10日に実施し、一部参加を含め、静岡県内の市町職員、県職員計55人が受講した。

講義内容は下記の通りだった。

講義動画

防災行政概要（内閣府）

災害法体系（内閣府）

防災計画（内閣府）

警報避難の枠組み（内閣府）

被災者支援の枠組み（A）（災害救助法と仮設住宅）
（内閣府）

被災者支援の枠組み（B）（避難生活支援）（内閣府）

被災者支援の枠組み（C）（生活再建支援①）（内閣府）

被災者支援の枠組み（D）（生活再建支援②）（内閣府）

6月24日

防災基礎総論 牛山素行（静岡大学）

地震災害の基礎 ～基礎的な知識と気象庁が発表する情報等について～
山下慧（静岡地方気象台）

富士山と伊豆東部火山群 ～その特徴と防災対応～
道端秀和（静岡地方気象台）

静岡県の地震・津波対策 ～災害を正しく恐れ、備え、行動する～
金嶋千明（静岡県危機管理部）

6月25日

風水害の基礎 牛山素行（静岡大学）

新たな避難情報等について 菅良一（内閣府）

[演習]災害対応過程と態度を学ぶ（気象防災ワークショップ）

竹本加良子（(株)サイエンスクラフト）

牛山素行（静岡大学）

菅良一（内閣府）

防災実務者育成の重要性（まとめ）

牛山素行（静岡大学）

4.2.2 フォローアップ研修

静岡県行政職員防災講座は、2018年度以前は静岡県単独主催で実施しており、これら既修者に対するフォローアップ研修も、2019年度からは静岡県危機管理部と、静岡大学防災総合センターが協力して行うこととなった。

2020年度は前述のように本研修と統合し、単独では実施しなかった。

2021年度は、2022年2月16日に、Zoomによるリアルタイムオンライン形式で実施し、県職員、市町職員の計79人が受講した。当日の講義内容は下記の通りだった。

「災害対策本部のマネジメントについて」

小林正人（浜松市道路企画課交通安全対策担当課長）

「熱海市における土砂災害について」

北村晃寿（静岡大学大学院理学研究科地球科学専攻・

静岡大学防災総合センター・センター長）

4.3 自然災害科学中部地区研究集会

京都大学防災研究所を事務局とする自然災害研究協議会は、各地区に部会をおいている。同協議会中部地区部会では、2011年度から毎年度末に「自然災害科学中部地区研究集会」を開催している。この集会は、中部地区の災害、防災関係研究者、技術者、学生などが研究成果を発表するもので、一般的な学会に準ずる集会である。発表に際して、会員登録等の必要はなく、中部地区に在勤していない者でも参加、発表が可能である。静岡大学防災総合センターは、この研究集会の実施事務局となっており、毎年3月上旬に静岡市内で開催している。

2020、2021年度には下記の概要で開催された。2021年度からは、招待講演者による「災害調査報告セッション」を新設した。

2020年度自然災害科学中部地区研究集会

主催：自然災害研究協議会中部地区部会・静岡大学防災総合センター

期日：2021年3月6日(土)

場所：Zoomによるオンライン開催

発表件数：4件

2021年度自然災害科学中部地区研究集会

主催：自然災害研究協議会中部地区部会・静岡大学防災総合センター

期日：2022年3月5日(土)

場所：Zoomによるオンライン開催

発表件数：一般発表4件、招待講演2件

4.4 しずおか防災コンソーシアム・ふじのくに防災学講座

静岡県では県危機管理部、教育委員会および静岡大学、浜松医科大学、静岡県立大学、静岡文化芸術大学、東海大学、常葉大学の県内6大学、気象台、報道機関各社を加えた「しずおか防災コンソーシアム」が平成21年4月に発足した。このコンソーシアムは、県内の防災に携わる研究者と専門家等の多面的な交流や情報発信を目的としており、その一環として、静岡県地震防災センターを会場として、市民向け公開講座「しずおか防災コンソーシアム地域連携土曜セミナー」をおおむね1か月に1回のペースで定期的に開催している。

コンソーシアムの準備段階からこのセミナーは始まり、平成20年度から平成23年度までに45回開催し、平成23年度からは「ふじのくに防災学講座」と名称を変え、継続的に実施されている。防災総合センターは、静岡県地震防災センターと連携してこの講座の運営にあたっている。平成22年度からは、参加6大学と静岡県がそれぞれ持ち回りで担当回を担う形で運営している。静岡県の防災研究者、防災行政関係者、市民の定期的な交流の場として定着しつつある。

令和2～3年度は、コロナ禍のため、会場への入場者数を制限し、Zoomによる視聴と合わせたハイブリッド形式で行われた。(一部Zoomのみ)

【令和2年度／受講者のべ人数：会場受講370名・Zoom視聴554名…計924名】

—期間前半はコロナ禍のため開催中止—

126回「台風と危険度分布」令2.9.19(土) 講師：静岡地方気象台 望月 司 防災気象官

127回「南海トラフ地震の可能性を捉える研究の動向～日頃からの備えが大切な理由～」

令2.10.17(土) 講師：静岡県立大学グローバル地域センター 楠城一嘉 特任准教授

128回「南海トラフ巨大地震の推定振動エネルギーと三保半島の津波浸水アニメーション」

令2.11.21(土) 講師：東海大学海洋学部 原田 靖 専任講師

129回「新型コロナ時代の健康づくりと災害への備え」

令2.12.19(土) 講師：浜松医科大学医学部 尾島俊之 教授

130回「3.11 津波裁判からひもとく真の防災力」令3.1.16(土) 講師：永野 海 弁護士

131回「災害と法～災害に関する法制度とコロナ渦における防災を考える～」

令3.2.20(土) 講師：静岡文化芸術大学文化政策学部 村中洋介 専任講師

132回「次の南海トラフ巨大地震の様相」

令3.3.20(土) 講師：静岡大学防災総合センター 北村晃寿 教授 (センター長)

【令和3年度／受講者のべ人数：会場受講287名・Zoom視聴958名…計1,245名】

133回「富士山ハザードマップの改定～最新知見に基づく噴火想定～」

令3.5.15(土) 講師：静岡県危機管理部 吉永尚史 危機情報課長

134回「人の口から人の心に伝える～仙台市職員の震災体験を100年後の人たちへ～」

令3.6.19(土) 講師：仙台市職員有志団体 Team Sendai ほか

135回「個人的なリスクマネジメント方略：幼稚園から南極まで」

令3.7.17(土) 講師：静岡大学教育学部 村越 真 教授 (副センター長)

136回「地震 雷 火事 親父」令3.9.18(土) 講師：東海大学海洋研究所 長尾年恭 客員教授

137回「災害と生物進化」令3.10.16(土) 講師：静岡県立大学 酒井 敏 教授 (副学長)

138回「令和3年5月1日に菊川市から牧之原市にかけて発生した突風について」

令 3.11.20(土) 講師：静岡地方気象台 眞下国寛 地域防災官

139 回「緊急被ばく医療～放射線事故に備える」

令 3.12.18(土) 講師：浜松医科大学地域医療学講座 松井 務 特任准教授 (防災セ客員教員)

140 回「令和 3 年 7 月伊豆山土石流災害～被災者支援コーディネートの現場から～」

令 4.1.15(土) 講師：静岡県被災者支援コーディネーター 鈴木まり子

141 回「災害の伝承を読み解く～語り継がれたハザードマップ～」

令 4.2.19(土) 講師：静岡文化芸術大学文化政策学部 二本松康宏 教授

142 回「付加体深部帯水層の微生物群集とメタンに関する基礎研究から社会実装まで

～水・ガス・電気・熱を自家供給する地域防災拠点の創成を目指して～

令 4.3.19(土) 講師：静岡大学グリーン科学技術研究所 木村浩之 教授 (センター副担当)



▲講演する北村センター長／令 3.3



▲講演する村越教授 (防災セ副センター長) / 令 3.7

4.5 しずおか防災コンソーシアム・勉強会

静岡防災コンソーシアム構成機関の担当者が最新の防災関連情報の共有と専門家との意見交換を行う勉強会を開催している。

(参考) 静岡防災コンソーシアム構成機関

静岡大学、浜松医科大学、静岡県立大学、静岡文化芸術大学、常葉大学、東海大学

静岡県、静岡県教育委員会、静岡地方気象台

静岡新聞、中日新聞静岡総局

NHK 静岡放送局、静岡放送、静岡第一テレビ、静岡朝日テレビ、テレビ静岡

第 9 回 2020 年 10 月 29 日 19 : 30～20 : 30

テーマ 改めて考える 自助・共助・公助

講師 静岡大学防災総合センター 特任教授 岩田孝仁

参加者 30 名

会場 オンライン開催

第 10 回 2020 年 12 月 6 日 19 : 30～20 : 30

テーマ 静岡県における気候・気象の変化

講師 静岡地方気象台 次長 永井千春

参加者 30 名

会場 オンライン開催

第 11 回 2022 年 1 月 14 日 19 : 30～20 : 30

テーマ 熱海市伊豆山で発生した土石流に関する地球科学的調査

講師 静岡大学防災総合センター長 理学部教授 北村晃寿

参加者 60 名

会場 オンライン開催

4.6 東海圏減災研究コンソーシアム

(1) 東海圏減災研究コンソーシアムとは

東海圏減災研究コンソーシアムとは、南海トラフ巨大地震、巨大台風や集中豪雨による風水害、洪水などの災害による被害を最小限に抑えることを目標に掲げ、東海圏に位置する6つの国立大学法人の防災・減災関連センターが協力・協働する場として、平成25年3月3日に設立されたものである（詳細は、<http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/consortium/>）。

本コンソーシアムに参加する各大学はそれぞれ得意な研究・教育分野を持ち、また各大学はそれぞれが位置する地域や市民と密接な関わりを持っている。このような各大学の特質や長所を有機的に連携させ、東海圏全体の防災・減災力を総合的に向上させるため、本コンソーシアムでは各大学の代表者による幹事会、実務委員会に加え、ハザード評価専門部会、被害予測専門部会、減災技術開発専門部会、地域防災力向上専門部会、人材育成・活用専門部会、そして情報基盤整備専門部会の6つの専門部会を設置している。

防災総合センターは、本コンソーシアムに参画し、地域社会における防災・減災について大学の枠を越えて各大学と連携して研究を推進している。

(2) コンソ-シアム参加の各大学のセンター

岐阜大学地域減災研究センター

静岡大学防災総合センター

名古屋大学減災連携研究センター

名古屋工業大学高度防災工学研究センター

豊橋技術科学大学安全安心地域共創リサーチセンター

三重大学地域圏防災・減災研究センター

(3) 活動実績

2020-2021年度の活動としては、幹事会および実務委員会の開催、各専門部会（ハザード評価専門部会、被害予測専門部会・減災技術開発専門部会、地域防災力向上専門部会、人材育成・活用専門部会、情報基盤整備専門部会）の研究会において研究内容や災害事例についての情報交換や連携を行った。また、参加する各大学が主催する報告会を共催として協力した。

2021年6月19日に三重大学地域イノベーションホールとオンラインのハイブリッドで第7回シンポジウムを開催し（2020年度活動）、「リモートワーク時代における防災教育とフォローアップの新しい展開」をテーマとしたパネルディスカッションが行われた。2021年度活動の第8回シンポジウムは、2022年3月1日、名古屋工業大学ラーニングコモンおよびオンラインのハイブリッド形式で開催され、「防災・減災に向けた技術開発最前線」をテーマとするパネルディスカッションが行われた。

4.7 防災・減災ワークショップ

本ワークショップは、公益財団法人中部科学技術センターが主体となって行われているもので、2020（令和2）年度の第2回から、静岡大学防災総合センター、静岡県地震防災センター及び東北大学災害科学国際研究所の4機関が主催して毎年夏に開催されている。

夏休み中の小中学生を受講対象とし、毎回保護者を含め70名程度の参加者がある。

【第2回】

日時：2020年8月22日（土）13:30～16:30 会場：静岡県地震防災センター
プログラム

第1部 聞いて学ぼう

「日本や世界で起こっている自然災害のはなし」

東北大学災害科学国際研究所 保田真理プロジェクト講師

「静岡県で起こりうる自然災害のはなし」

静岡大学防災総合センター 原田賢治准教授

第2部 体験してあそぼう（グループワーク）

静岡県地震防災センターの起震装置等の体験・展示コーナーを巡回

第3部 みんなでシェアしよう

【第3回】

日時：2021年7月31日（土）13:30～16:30 会場：静岡県地震防災センター
プログラム

第1部 聞いて学ぼう

「減災ってどうすること？」

東北大学災害科学国際研究所 保田真理プロジェクト講師

「静岡県で起こりうる自然災害のはなし」

静岡大学防災総合センター 原田賢治准教授

第2部 体験してあそぼう（グループワーク）

静岡県地震防災センターの起震装置等の体験・展示コーナーを巡回

第3部 みんなでシェアしよう



▲会場の様子



▲起震装置で震度6の揺れを体感する参加者

5 社会的活動

5.1 外部・公開講演会等

秋元菜摘, モビリティ確保のまちづくり—富山市のコンパクトシティ政策を事例として—, 日本交通法学会 (定期総会・個別報告), 日本交通法学会, オンライン (Covid-19 のため, 拠点: 高岡法科大), 2021/05/22.

秋元菜摘, 静岡大学土木情報学プロジェクト研究所の設立・運営, 所長: 木谷友哉, 静岡大学, 2020/10/01.

秋元菜摘, 静岡大学土木情報学研究所第1回会議 (キックオフ・ミーティング), オーガナイザー: 木谷友哉, オンライン (Covid-19 のため, 拠点: 静岡大学), 2021/02/08.

秋元菜摘, 静岡大学土木情報学研究所: 活動紹介と SC 連携, 浜松市デジタル・スマートシティ第03回運営委員会, 浜松市デジタル・スマートシティ本部, オンライン (Covid-19 のため, 拠点: 浜松市), 2021/10/11.

千木良雅弘. (2020). チベット高原南縁(ヒマラヤ)と東縁(眠山山脈)で起こっている山地の解体. 日本応用地質学会関西支部特別講演会, ウェブ. 2020年

千木良雅弘. (2020). 最近の山地災害の実態. ひょうご講座. 2020年11月

千木良雅弘. (2021). 花崗岩の風化様式と斜面崩壊様式. 令和2年度第2回WEB防災講演会・ライブ配信～再発する大規模災害への備え～ (日本技術士会中国本部, 建設コンサルタンツ協会中国支部), 2021年2月

千木良雅弘 (2021) 地すべり・斜面災害と地質. 日本地すべり学会シンポジウム「地すべりと地質—地質学で地すべりを解剖する」招待講演. 2021年6月

千木良雅弘 (2021) 近年の山地災害の実態. 建設コンサルタンツ協会第41回地質技術報告会. 2021年8月

藤井基貴, 研修会「p4c」授業の授業開発支援, 清水中校内研修, 静岡県清水町立清水中学校, 2021年12月.

藤井基貴, 研修会 道徳授業の研修, 小山町立北郷中校内研修, 小山町立北郷中学校, 2021年12月.

藤井基貴, 高大連携 高大連携出張講座「防災道徳」の出前講座, 浜松工業高校, 2021年12月.

藤井基貴, 研修会 吉田町教育委員会による吉田探究の検討会への助言指導, 吉田探究, 吉田町役場, 2021年11月.

藤井基貴, 講演会 災害と教育 令和3年度 静岡大学サステナビリティセンター×静岡大学現代教育研究所×静岡市西部生涯学習センター 共催講座、災害と向き合う哲学 (全3回) —現代をサバイブする自律的思考—, 静岡市西部生涯学習センター, 2021年11月.

藤井基貴, 研修会 特別支援学校における防災教育, 附属特別支援学校, 2021年10月.

藤井基貴, 講演会 学校における効果的な防災教育, 静岡県教育委員会, オンライン, 2021年6月.

藤井基貴,講演会 現代的な課題を活かした道徳教育―題材としての防災教育の課題と可能性―,日本赤十字社静岡支部,オンライン,2021年6月.

藤井基貴,講演会 教職課程と地域連携,愛知学院大学,オンライン開催,2021年3月.

藤井基貴,研修会 発問を生かした道徳の授業づくり,三島市立向山小学校,オンライン開催,2021年2月.

藤岡換太郎	朝日カルチャーセンター	新宿	2020年7月21日
藤岡換太郎	朝日カルチャーセンター	新宿	2020年8月18日
藤岡換太郎	朝日カルチャーセンター	新宿	2020年9月15日
藤岡換太郎	朝日カルチャーセンター	新宿	2020年10月20日
藤岡換太郎	朝日カルチャーセンター	新宿	2020年11月17日
藤岡換太郎	朝日カルチャーセンター	新宿	2020年12月15日
藤岡換太郎	朝日カルチャーセンター	新宿	2021年1月19日
藤岡換太郎	朝日カルチャーセンター	新宿	2021年2月16日
藤岡換太郎	朝日カルチャーセンター	新宿	2021年3月16日
藤岡換太郎	朝日カルチャーセンター	新宿	2021年4月20日
藤岡換太郎	朝日カルチャーセンター	新宿	2021年5月18日
藤岡換太郎	朝日カルチャーセンター	新宿	2021年6月15日
藤岡換太郎	朝日カルチャーセンター	新宿	2021年6月19日
藤岡換太郎	朝日カルチャーセンター	新宿	2021年7月10日
藤岡換太郎	朝日カルチャーセンター	新宿	2021年8月21日
藤岡換太郎	朝日カルチャーセンター	新宿	2021年9月11日
藤岡換太郎	朝日カルチャーセンター	新宿	2021年10月9日
藤岡換太郎	朝日カルチャーセンター	横浜	2021年11月6日
藤岡換太郎	朝日カルチャーセンター	新宿	2021年11月13日
藤岡換太郎	朝日カルチャーセンター	新宿	2021年12月11日
藤岡換太郎	朝日カルチャーセンター	新宿	2022年1月8日
藤岡換太郎	朝日カルチャーセンター	横浜	2021年1月29日
藤岡換太郎	朝日カルチャーセンター	横浜	2022年2月5日
藤岡換太郎	朝日カルチャーセンター	新宿	2022年2月5日
藤岡換太郎	朝日カルチャーセンター	横浜	2021年3月5日
藤岡換太郎	朝日カルチャーセンター	新宿	2021年3月12日

二川雅登,水センシングに向けた半導体型マルチモーダルセンサの開発と農業・防災分野での実証研究,水の先進理工学第183委員会,日本学術振興会,オンライン開催,2021年2月2日

二川雅登,オンサイトモニタリングを目指した多機能型水分量センサの開発,高温プロセス部会/計測・制御・システム工学部会シンポジウム,日本鉄鋼協会,オンライン開催,2021

年 3 月 19 日

二川雅登, 土砂災害発生危険度把握のための土中水分量センサ開発, 社会インフラ・モニタリングシステム研究会、次世代センサ協議会, オンライン開催, 2022 年 1 月 19 日

原田賢治, 伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくりをみんなで考える会(市民集会), アドバイザー, 旧土肥小学校体育館, 2022.2.28.

原田賢治, 伊豆市, 第 7 回松原公園津波避難複合施設整備検討委員会, アドバイザー, 伊豆市土肥支所, 2022.2.21.

原田賢治, 伊豆の国市・静岡県, 第 2 回「わたしの避難計画」作成ワークショップ, アドバイザー, 伊豆の国市南條区民ホール, 2022.1.16.

原田賢治, 菊川市・静岡県, 第 2 回「わたしの避難計画」作成ワークショップ, アドバイザー, 菊川市平川コミュニティ防災センター, 2021.12.20.

原田賢治, 南伊豆町・静岡県, 第 2 回「わたしの避難計画」作成ワークショップ, アドバイザー, 南伊豆町石廊崎コミュニティセンター, 2021.12.9.

原田賢治, 静岡市静岡南生涯学習センター防災講座, 自然災害リスクの理解と地域の防災情報の活用について, 講師, 静岡市静岡南生涯学習センター, 2021.12.7.

原田賢治, 御前崎市・静岡県, 第 3 回「わたしの避難計画」作成ワークショップ, アドバイザー, 御前崎市文化会館, 2021.12.3.

原田賢治, 牧之原市・静岡県, 第 2 回「わたしの避難計画」作成ワークショップ, アドバイザー, 牧之原市川崎コミュニティ防災センター, 2021.11.30.

原田賢治, 焼津市・静岡県, 第 2 回「わたしの避難計画」作成ワークショップ, アドバイザー, 焼津市塩津公会堂, 2021.11.27.

原田賢治, 河津町・静岡県, 第 2 回「わたしの避難計画」作成ワークショップ, アドバイザー, 河津町見高入谷農村会館(公民館), 2021.11.24.

原田賢治, 清水町・静岡県, 第 2 回「わたしの避難計画」作成ワークショップ, アドバイザー, 清水町中徳倉公民館, 2021.11.21.

原田賢治, 御前崎市・静岡県, 第 2 回「わたしの避難計画」作成ワークショップ, アドバイザー, 御前崎市文化会館, 2021.11.19.

原田賢治, 伊豆の国市・静岡県, 第 1 回「わたしの避難計画」作成ワークショップ, アドバイザー, 伊豆の国市南條区民ホール, 2021.11.14.

原田賢治, 菊川市・静岡県, 第 1 回「わたしの避難計画」作成ワークショップ, アドバイザー, 菊川市平川コミュニティ防災センター, 2021.11.12.

原田賢治, 御前崎市・静岡県, 第 1 回「わたしの避難計画」作成ワークショップ, アドバイザー, 御前崎市文化会館, 2021.11.5.

原田賢治, 伊豆市, 第 6 回松原公園津波避難複合施設整備検討委員会, アドバイザー, 伊豆市土肥支所, 2021.10.29.

原田賢治, 河津町・静岡県, 第 1 回「わたしの避難計画」作成ワークショップ, アドバイ

ザー，河津町見高入谷農村会館（公民館），2021.10.18.

原田賢治，牧之原市・静岡県，第1回「わたしの避難計画」作成ワークショップ，アドバイザー，牧之原市川崎コミュニティ防災センター，2021.10.14.

原田賢治，静岡市長田生涯学習センター防災講演会，自然災害リスクの理解と地域の防災対策，講師，静岡市長田生涯学習センター，2021.10.13.

原田賢治，南伊豆町・静岡県，第1回「わたしの避難計画」作成ワークショップ，アドバイザー，南伊豆町石廊崎コミュニティセンター，2021.10.12.

原田賢治，焼津市・静岡県，第1回「わたしの避難計画」作成ワークショップ，アドバイザー，焼津市塩津公会堂，2021.10.10.

原田賢治，清水町・静岡県，第1回「わたしの避難計画」作成ワークショップ，アドバイザー，清水町中徳倉公民館，2021.10.3.

原田賢治，令和3年度ふじのくに防災士養成講座 B コース，「津波防災，静岡県第4次地震被害想定における津波被害想定の実状とその対策」，オンライン講義，2021.9.25.

原田賢治，令和3年度ふじのくに防災士養成講座 A コース，「津波防災，静岡県第4次地震被害想定における津波被害想定の実状とその対策」，オンライン講義，2021.9.15.

原田賢治，中部サイエンスネットワーク第3回防災・減災ワークショップ，「静岡県で起こりうる自然災害のはなし」，静岡県地震防災センター，2021.7.31.

原田賢治，伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくりをみんなで考える会（市民集会），アドバイザー，旧土肥小学校体育館，2021.7.15.

原田賢治，伊豆市，第5回松原公園津波避難複合施設整備検討委員会，アドバイザー，伊豆市土肥支所，2021.6.30.

原田賢治，伊豆市，第4回松原公園津波避難複合施設整備検討委員会，アドバイザー，伊豆市土肥支所，2021.6.1.

原田賢治，伊豆市，第3回松原公園津波避難複合施設整備検討委員会，アドバイザー，伊豆市土肥支所，2021.5.14.

原田賢治，伊豆市，第2回松原公園津波避難複合施設整備検討委員会，アドバイザー，伊豆市土肥支所，2021.4.21.

原田賢治，伊豆市，第1回松原公園津波避難複合施設整備検討委員会，アドバイザー，伊豆市土肥支所，2021.4.14.

原田賢治，西伊豆町・静岡大学・賀茂医師会/賀茂薬剤師会/賀茂歯科医師会・TrueBizon/SOMPO ホールディングス/グリーンサービス，伊豆半島ドローン医療配送実証実験～コロナ禍の複合災害に備えた、産官学医連携による防災訓練～，学術連携協力，2021.3.14.

原田賢治，御前崎市，南海トラフ地震臨時情報発生時の事前避難に関するワークショップ，学術アドバイザー，2021.2.14&28.

原田賢治，伊豆市，伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくりをみんなで考える会（市

民集会), アドバイザー, 旧土肥小学校体育館, 2021.2.17.

原田賢治, 伊豆市, 伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくりをみんなで考える会(市民集会), アドバイザー, 旧土肥小学校体育館, 2020.12.23.

原田賢治, 静岡県・松崎町, 南海トラフ地震臨時情報を活かした防災対策を地域で考える会(松崎地区第2回), アドバイザー, 松崎町環境改善センター, 2020.12.15.

原田賢治, 静岡県・松崎町, 南海トラフ地震臨時情報を活かした防災対策を地域で考える会(松崎地区第1回), アドバイザー, 松崎町環境改善センター, 2020.11.17.

原田賢治, 静岡県・下田市, 南海トラフ地震臨時情報を活かした防災対策を地域で考える会, アドバイザー, 下田市民文化会館小ホール, 2020.11.10.

原田賢治, 静岡県・松崎町, 南海トラフ地震臨時情報を活かした防災対策を地域で考える会(三浦地区), アドバイザー, 松崎町環境改善センター, 2020.10.27.

原田賢治, 伊豆市, 伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくりをみんなで考える会(市民集会), アドバイザー, 旧土肥小学校体育館, 2020.10.23.

原田賢治, 静岡県・南伊豆町, 南海トラフ地震臨時情報を活かした防災対策を地域で考える会, アドバイザー, 南伊豆町ゆけむりホール, 2020.10.14.

原田賢治, 令和2年度ふじのくに防災士養成講座 B コース, 「津波防災, 静岡県第4次地震被害想定における津波被害想定の実状とその対策」, オンライン講義, 2020.9.26.

原田賢治, 令和2年度ふじのくに防災士養成講座 A コース, 「津波防災, 静岡県第4次地震被害想定における津波被害想定の実状とその対策」, オンライン講義, 2020.9.9.

原田賢治, 中部サイエンスネットワーク第2回防災・減災ワークショップ, 「静岡県で起こりうる自然災害のはなし」, 静岡県地震防災センター, 2020.8.22.

原田賢治, 伊豆市, 伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくりをみんなで考える会(市民集会), アドバイザー, 旧土肥小学校体育館, 2020.7.20.

橋本 岳, 新技術交流イベント in Shizuoka 2021, 静岡県交通基盤部, 静岡県コンベンションアーツセンター/グランシップ(静岡市), 2021-11-02

橋本 岳, 新技術交流イベント in Shizuoka 2020, ふじのくに i-Construction 推進支援協議会事務局(静岡県 交通基盤部 建設支援局 建設技術企画課内), ONLINE, 2020-11-05

本間基寛, ロジスティクス全国大会 2020, 公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会, 東京都港区, 2020年10月16日.

本間基寛, サステナブル・ブランド国際会議 2020 横浜, 株式会社博展・Sustainable Life Media, Inc., 神奈川県横浜市, 2020年2月19日.

本間基寛, 令和2年度気候情報の応用技術に関する検討会, 気象庁, 東京都港区, 2021年1月29日.(オンライン)

本間基寛, ロジスティクス全国大会 2021, 公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会, 東京都港区, 2021年10月14日.

池田恵子, 「男女共同参画の視点による災害対応」, 縦割り行政の打破に関するプロジェクト

ト、自由民主党行政改革推進本部、オンライン開催、2022年3月2日。

池田恵子、「地域に暮らす多様な人々の視点で災害に強い地域づくりを」、令和3年度宮崎県 地域の防災セミナー日向市防災講演会～多様な視点による防災対策の取組～、宮崎県防災士ネットワーク、オンライン開催、2022年2月22日。

池田恵子、「災害時の暴力とその防止」、Jo-Shizu 防災講座、静岡市女性会館、静岡市、2022年2月19日。

池田恵子、「防災とソーシャルキャピタル ～男女共同参画の視点から～」、第14回男女で環になり笑顔のフォーラム2022、山梨県甲州市、オンライン開催、2022年2月12日。

IKEDA, Keiko, Gendering Disaster Management :Lessons learned from recent disasters in Japan, JICA Training Course: Water Related Disaster Management (Preparedness, Mitigation and Reconstruction), JICA, Online, 2022年2月22日。

池田恵子、「災害時の暴力とその防止」、令和3年度 新潟県男女共同参画推進体制づくり研修会、新潟県女性財団、オンライン開催、2022年1月11日。

池田恵子、自主防災会の女性参画の現状と展望」、令和3年度地域で活躍する女性防災リーダー育成事業、静岡県くらし・環境部県民生活局男女共同参画課、静岡県袋井市、2021年12月19日。

池田恵子、「男女共同参画の視点による防災対応 セミナー基礎編」、令和3年度普及・啓発事業「男女共同参画ネットワークセミナー 実践 講座」、山梨県立男女共同参画推進センター・びゅあ総合、山梨県甲府市、2021年12月6日。

池田恵子、「男女共同参画×防災 ～その時、被災地で何が起きたのか～」、令和3年度男女共同参画の視点を取り入れた防災リーダー養成講座、佐賀県立男女共同参画センター、佐賀県佐賀市、2021年12月4日。

池田恵子、「男女共同参画の視点からの防災対策－災害時の暮らしをDV・性暴力・虐待から守るために－」、令和3年度「男女共同参画の視点からの防災対策講座」、浜松市市民部UD・男女共同参画課、静岡県浜松市、2021年11月23日。

池田恵子、「男女で取組む災害に強い地域づくり」、湖西市男女共同参画及び地域防災に関する講演会、静岡県湖西市、静岡県湖西市、2021年11月20日。

池田恵子、「ジェンダー視点で高める地域防災力」、「ひょうご講座2021」、ひょうご震災記念21世紀研究機構、兵庫県神戸市、2021年11月8日。

池田恵子、あなたは知っていますか?「避難所のリアル」、フリージア(御前崎市男女共同参画の会)講演会、フリージア(御前崎市男女共同参画の会)、静岡県御前崎市、2021年11月7日。

池田恵子、「多様な人々の視点で高める地域の防災力 ～自主防災組織のこれから～」、令和3年度地域防災講演会、長野県下伊那郡喬木村、オンライン開催、2021年11月4日。

池田恵子、「地震・津波災害における自治区の対応」、令和3年度 掛川市区長会連合会区長研修会、掛川市区長会連合会、静岡県掛川市、2021年11月2日。

池田恵子, 「男女共同参画の視点からの防災」, 令和3年度静岡県ふじのくに防災士養成講座 B コース, 静岡県危機管理課, オンライン開催, 2021年10月23日.

池田恵子, 「災害時の情報収集」、「支援活動シミュレーション」, 令和3年度新型コロナウイルス感染症を踏まえた災害対応における男女センター相互支援促進事業 被災地支援人材育成プログラム, 第9回女性等多様な視点での防災対策意見交換会, 全国女性会館協議会, オンライン開催, 2021年10月16-17日.

池田恵子, 基調講演「地域の多様な主体とつながるプラットフォームづくり」, 令和3年度「男女共同参画の視点による災害対応研修」, 国立女性教育会館, オンライン開催, 2021年10月8日.

池田恵子, 「女性の参画を通して考える 自主防災組織のこれから」, 令和3年度男女共同参画における防災・減災講座, 御前崎災害支援ネットワーク, オンライン開催, 2021年9月26日.

池田恵子, 「自主防災会の女性参画の現状」, 令和3年度なでしこ BOSAI パワーズ第1回全体会, なでしこ BOSAI パワーズ, オンライン開催, 2021年9月18日.

池田恵子, 「男女共同参画の視点からの防災」, 令和3年度静岡県ふじのくに防災士養成講座 A コース, 静岡県危機管理課, オンライン開催, 2021年9月14日.

池田恵子, 「東日本大震災で、女性たちがどう動いたか」, 令和3年度あざれあ宅配「防災と女性参画」事業 あざれあ防災ブラッシュアップ講座, 静岡県男女共同参画センター, オンライン開催, 2021年8月28日.

池田恵子, 「災害時の女性と子どもに対する暴力とその対策」, 令和3年度市町人権教育連絡協議会 第2回社会教育部会, 静岡県市町人権教育連絡協議会社会教育部会, オンライン開催, 2021年8月11日.

池田恵子, 「東日本大震災から10年 防災復興施策にジェンダー視点はどこまで導入されたのか」, 令和3年度岡山市男女共同参画大学「さんかくカレッジ」専門コース, 岡山市男女共同参画社会推進センター, 岡山県岡山市, 2021年7月24日.

池田恵子, 「災害時の男女共同参画～多様な人々の参画を促すために～」, 令和3年度焼津市市民防災リーダー育成講座, 静岡県焼津市防災部地域防災課, 静岡県焼津市, 2021年7月17日.

池田恵子, 「男女共同参画の教材づくり」, 令和3年度きょうと府市男女共同参画センター防災事業「男女共同参画の教材づくり」, 京都市男女共同参画推進協会, 京都府京都市, 2021年6月18日, 2021年7月16日.

池田恵子, 「地域防災力の向上のために～男女共同参画視点の取り込み方～」, 令和3年度藤枝市防災研修会, 静岡県藤枝市危機管理課, オンライン開催, 2021年7月3日.

池田恵子, 「男女共同参画の視点から防災を考える」, 令和3年度愛知県市町村男女共同参画行政担当者研修会, 愛知県県民文化局男女共同参画推進課, オンライン開催, 2021年6月29日.

池田恵子, 「男女共同参画の視点でみんなでつくろう! 安全・安心な避難所」, 佐賀県三養基郡基山町防災講座, 佐賀県三養基郡基山町, 佐賀県三養基郡基山町, 2021年6月24日.

池田恵子, 「地域防災力の向上のための男女共同参画視点の取り込み方」, 令和3年度市町村男女共同参画担当課長・防災担当課長合同会議, 千葉県総合企画部男女共同参画課・千葉県防災危機管理部防災政策課, オンライン開催, 2021年6月4日.

池田恵子, 「災害時にも安全安心に暮らしたい! -女性と子どもの安全対策-」, 焼津市大富地区女性防災講座, 静岡県焼津市, 2021年3月17日.

池田恵子, 「私の声を地域に活かす 地域活動への扉」, Jo-Shizu 防災講座(第5回), 静岡市, 2021年3月6日.

池田恵子, 趣旨説明, 東日本大震災から10年シンポジウム「女性も担う地域防災」, 政策形成プロジェクト, オンライン開催, 2021年2月12日.

池田恵子, 「~その時、被災地で何が起きたのか~」, 令和2年度男女共同参画の視点を取り入れた防災リーダー養成講座, 佐賀県立男女共同参画センター, オンライン開催, 2021年2月6日.

池田恵子, 「+女性の視点で災害対応力を強化する」, 令和2年度 きょうと男女共同参画センター防災事業, 京都市男女共同参画センター, オンライン開催, 2021年2月5日.

池田恵子, 「地域住民の視点を生かした災害に強い地域づくり」, 小浜市議会地域防災研修会, 福井県小浜市, 福井県小浜市, 2021年1月24日.

池田恵子, 「災害時の男女共同参画」, 焼津市市民防災リーダー育成講座, 静岡県焼津市, 静岡県焼津市, 2021年1月23日.

池田恵子, 「災害対応力を強化する女性の視点」, Jo-Shizu 防災フォローアップ講座(第2回), 静岡市女性会館, 静岡市, 2020年12月19日.

池田恵子, 「地域防災力の向上のために~男女共同参画視点の取り込み方」, 令和2年度「男女共同参画の視点による災害対応研修」, 国立女性教育会館, オンライン開催, 2021年12月17日.

池田恵子, 「国際動向・国内政策と現状」, 「災害時における女性への暴力防止」, 「女性関連施設の役割とこれから」など, 災害(復興)・防災と男女共同参画に関する講師養成研修, 全国女性会館協議会, 静岡県浜松市, 2020年12月12-13日.

IKEDA, Keiko, Gendering Disaster Management :Lessons learned from recent disasters in Japan, JICA Training Course: Water Related Disaster Management (Preparedness, Mitigation and Reconstruction), JICA, Online, 2020年12月9日.

池田恵子, 「防災 わが町 災害時でも誰もが安心安全に過ごすには」, 令和2年度びゅあ総合普及啓発事業 男女共同参画ネットワークセミナー実践講座, 山梨県男女共同参画センターびゅあ総合, 山梨県甲府市, 2020年12月6日.

池田恵子, 「災害時にも安全安心に暮らしたい! -女性と子どもの安全対策-」, 地域の

防災力パワーアップ講座 in 焼津, 静岡県・(特活)静岡県男女共同参画センター交流会議, 静岡県焼津市, 2020年11月7日.

池田恵子, 「災害に強い地域づくり～高齢者・障害者・子ども・女性などの視点から～」, 令和2年度地域団体活動推進事業, 静岡市女性団体連絡会, 静岡市, 2020年11月2日.

池田恵子, 「男女共同参画の視点を取り入れた防災・復興」, 令和2年度佐賀県「市町男女共同参画担当職員実践研修」, 佐賀県立男女共同参画センター, 佐賀県佐賀市, 2020年10月30日.

池田恵子, 「男女共同参画の視点からの防災」, 令和2年度静岡県ふじのくに防災士養成講座 B コース, 静岡県危機管理課, オンライン開催, 2020年10月24日.

池田恵子, 「災害に強い地域づくり～高齢者・障害者・子ども・女性などの視点から～」, 令和2年度 静岡市葵区自治会連合会研修会, 静岡市女性団体連絡会, 静岡市, 2020年10月15日.

池田恵子, 「災害への備え ～男女双方の視点を活かすには」, 浜松市防災学習センター 2020年度 一般向け講座, 浜松市防災学習センター, 静岡県浜松市, 2020年9月26日.

池田恵子, 「地域防災活動を問い直す 災害に強い地域とは?」, 清水有度地区防災講演会, 清水有度生涯学習交流館, 静岡市, 2020年9月25日.

池田恵子, 「男女共同参画の視点からの防災」, 令和2年度静岡県ふじのくに防災士養成講座 A コース, 静岡県危機管理課, オンライン開催, 2020年9月9日.

池田恵子, 「with コロナ時代の防災活動と災害対応」, Jo-Shizu防災フォローアップ講座, 静岡市女性会館, 静岡市, 2020年8月29日.

池田恵子, 「避難所生活における女性の役割」, 袋井東一自治会連合会防災研修会, 袋井東一自治会連合会, 静岡県袋井市, 2020年8月22日.

池田恵子, 「災害に強い地域づくり～高齢者・障害者・子ども・女性などの視点から～」, 令和2年度地域団体活動推進事業, 静岡市女性団体連絡会, 静岡市, 2020年8月25日.

池田恵子, 「いろいろな目線で考える 防災・減災」, 豊田市男女共同参画セミナー, 豊田市, 愛知県豊田市, 2020年7月5日.

石橋秀巳, 放送大学 2020年度第2回公開講演会, 放送大学静岡学習センター, 県立三島長陵高校視聴覚室, 2020年10月25日

岩田孝仁, 気象庁火山業務研修 火山防災対策概論 (オンライン) 2020.07.31

岩田孝仁, Panasonic 防災研修会 (オンライン) 2020.08.20

岩田孝仁, 静岡福祉大学職員研修 減災から防災社会へ 30名 2020.08.28

岩田孝仁, 静岡県消防防災業協会 防災講演 50名 2020.09.23

岩田孝仁, 磐田市福田地区防災研修 150名 2020.09.27

岩田孝仁, 自民党静岡県連勉強会 15名 2020.10.01

岩田孝仁, Panasonic 防災研修会 (オンライン) 2020.10.05

岩田孝仁, 防災スペシャリスト養成研修 総合監理コース (オンライン) 2020.10.05～

- 岩田孝仁, 防災スペシャリスト養成研修 総合監理コース (オンライン) 2020.10.22
- 岩田孝仁, 藤沢ビジネスフォーラム防災講演 (オンライン) 2020.10.24
- 岩田孝仁, ふじのくに防災コンソーシアム勉強会 (オンライン) 2020.10.29
- 岩田孝仁, 松江市原子力防災研修会 200名 2020.10.31
- 岩田孝仁, 浜松工業会浜松支部講演会 (オンライン) 40名 2020.11.07
- 岩田孝仁, 静岡県警災害対策研修 40名 2020.12.08
- 岩田孝仁, 静岡県保険医協会防災研修会 「想像力の欠如に陥らない防災」 30名
2020.12.10
- 岩田孝仁, 静岡県立湖北高校 防災授業 想像力の欠如に陥らない防災 250名
2021.01.15
- 岩田孝仁, 島田市防災講演会 想像力の欠如に陥らない防災 (200名+ビデオ配信)
2021.01.23
- 岩田孝仁, 山梨県電力供給戦略会議 講演 想像力の欠如に陥らない防災 (70名+オン
ライン) 2021.02.02
- 岩田孝仁, 防災スペシャリスト養成研修 総合監理コース (オンライン) 2021.02.03
- 岩田孝仁, 浜松市防災委員研修 想像力の欠如の陥らない_新型コロナ共存時代の防災 (ビ
デオ配信) 2021.02.06
- 岩田孝仁, 台湾防災教育実務経験交流フォーラム 講演_想像力の欠如に陥らない防災 (オン
ライン)250名 (会場 160名、オンライン 90名) 2021.04.14
- 岩田孝仁, 気象庁火山業務研修 火山防災対策概論 (オンライン) 2021.07.00
- 岩田孝仁, 高校生の東北スタディツアー研修 (静岡県ボランティア協会) 講演_想像力の欠
如に陥らない防災 (会場 30名) 2021.09.25
- 岩田孝仁, DRI_災害対策専門研修 A 講義_想像力の欠如の陥らない防災 (オンライン 60
名) 2021.10.06
- 岩田孝仁, 防災スペシャリスト養成研修 総合監理コース (オンライン 60名) 2021.10.11
~24
- 岩田孝仁, 防災スペシャリスト養成研修 総合監理コース (オンライン 60名) 2021.10.29
- 岩田孝仁, 災害危機管理研修 (財 河川情報センター) 講義_想像力の欠如の陥らない防災
(オンライン 854名) 2021.11.15~12.28
- 岩田孝仁, 菊川市議会議員勉強会 講演_想像力の欠如の陥らない防災 (会場 30名)
2021.11.16_
- 岩田孝仁, 静岡市西豊田学区防災実行委員会 講演_想像力の欠如の陥らない防災 (会場 50
名) 2021.11.26_
- 岩田孝仁, 静岡県警災害対策研修 (会場 40名) 2021.12.14
- 岩田孝仁, 愛媛県市町長防災危機管理ラボ 講演_減災から防災社会へ_ “想像力の欠如に

- 陥らない防災・危機管理”自治体トップに求められること（オンライン 40 名）
2022.02.08
- 岩田孝仁, TOMOSO 第 46 回静岡小児臨床研究ネットワーク勉強会、講演 想像力の欠如に陥らない防災、(会場 30 名 オンライン 24 名) 2022.03.12
- 岩田孝仁, 日本科学者会議 第 23 回総合学術研究集会分科会: 南海トラフ巨大地震への備え 想像力の欠如に陥らない防災 “南海トラフ巨大地震に備える” (オンライン)
2020.12.5
- 岩田孝仁, 国際防災・人道支援フォーラム 2021 基調講演「想像力の欠如に陥らない防災・新型コロナ共存時代の自然災害への対応」(オンライン) 2021.01.26
- 岩田孝仁, シンポジウム マルチモーダルハブシティ清水を目指して パネルディスカッションのパネラー (会場 300 名 YouTube 配信), 2021.11.24
- 川瀬憲子、「私たちの税金はどう使われているのか」市民学習会、焼津高校会場、2019 年 5 月 19 日
- 川瀬憲子、「人口減少と自治体政策—少子化対策に焦点を当てて」静岡県中部議会議員研修会、藤枝市会場、2019 年 7 月 3 日
- 川瀬憲子、「自治体財政のしくみと課題」第 61 回自治体学校、グランシップ会場、2019 年 7 月 28 日
- 川瀬憲子、「地方財政から見た集約型国土再編の論理—憲法・住民自治からの問題提起」、静岡県地方自治研究集会、静岡県男女共同参画会館「あざれあ」会場、2019 年 9 月 26 日
- 川瀬憲子、「『平成の大合併』とは何だったのか」日本弁護士連合会学習会、オンライン、2020 年 11 月 13 日
- 風間聡, 近年の豪雨災害とその備え～東北の減災と適応～, 電気記念日式典, 日本電気協会東北支部, 仙台, 2022.3.25. (基調)
- 風間聡, 河川洪水・内水氾濫リスクの高まりとその適応策について, 小布施町環境フォーラム, オンライン, 2022.2.27. (基調)
- 風間聡, 気候変動と水災害について, 東北都市環境問題対策協議会研修会, オンライン, 2021.11.25. (基調)
- Kazama, So, Impact and adaptation for flood in Japan under climate change, International Symposium 2021 by Ecology and Civil Engineering Society, Leading-edge research of the impact of climate change on ecosystems and infectious diseases, Online, 2021.9.23. (招待)
- 風間聡, 気候変動下における流域治水の展開, 山形トップセミナー, オンライン, 2021.7.30. (基調)
- 風間聡, 気候変動下における流域治水の必要性, 阿武隈川上流流域治水シンポジウム, 福島, 2021.6.21. (基調)

風間聡, 気候変動下での水に関する問題, 庄内・社会基盤技術フォーラム, 酒田, 2021.1.19.
(基調)

Kazama, So, Flood adaptation in Jakarta and environmental concerns in the case of
Chao Phraya and Mekong, Cho Phraya Delta 2040, Kasetsart University, 2020.8.17.
(Invited)

木村浩之, 自立分散型エネルギー生産に関する学習会, 静岡県資源環境技術研究会, 静岡,
2020年9月14日.

木村浩之, 静岡大学・読売新聞連続市民講座 2020「静岡学事始め第二章 ～歴史と大地の"
層"を紐解く～」第3回講座, 読売新聞・静岡大学, 静岡, 2020年11月21日.

木村浩之, 静岡大学サステナビリティセンターオンライン公開講座, 静岡大学サステナ
ビリティセンター, 静岡, 2021年9月4日.

木村浩之, 日本微生物生態学会第34回大会シンポジウム-3「微生物生態学を社会実装す
る!」, 静岡大学サステナビリティセンター, オンライン開催, 2021年11月1日.

木村浩之, 第142回ふじのくに防災学講座, 静岡県地震防災センター, 静岡, 2022年3月
19日.

北村晃寿, 地層・化石記録から解読された下田市における自然災害の歴史. 下田市制50周
年記念・令和3年度下田市教育委員会連続講座「南豆の歴史を後世に」下田市教育委員
会, 下田市, 2021年10月10日

北村晃寿, 第132回ふじのくに防災学講座「次の南海トラフ巨大地震の様相」, 静岡県,
静岡県地震防災センター, 2021年3月20日

北村晃寿, 静岡大学・読売新聞 連続市民講座「静岡学事始め 第二章 歴史と大地の“層”
を紐解く」静岡県における過去数千年間の地震・津波の履歴, 静岡大学・読売新聞, オ
ンライン, 2020年10月31日

小林 淳: 富士宮市中央図書館講座「富士山の湧水の気になることを“科学的な目”でみる」,
富士宮市中央図書館, 2020年8月26日.

小林 淳: 富士山ハザードマップの読み解き方—火山防災につなげるために—, 御殿場市
自主防災連合会, 静岡県富士山世界遺産センター, 2020年9月17日.

小林 淳: 第1回 富士山火山対策連絡会「火山災害の特殊性と富士山噴火—富士山火山ハ
ザードマップの読み解き方—」, 静岡県警察, 静岡県富士山世界遺産センター, 2020年
11月27日.

小林 淳: 県境を越えた防災連絡会議「富士山の火山防災について—火山災害の特殊性と富
士山ハザードマップ—」, 静岡県東部地域局, 静岡県御殿場合同庁舎, 2020年12月3日.

小林 淳: 富士火山の基礎に関する学習会「火山災害の特殊性と富士山噴火—富士山ハザ
ードマップ(改定版)の読み解き方—」, 静岡県警察, 静岡県富士山世界遺産センター, 2021
年4月21日.

小林 淳: 裾野の大地に隠れた魅力 特別無料講座「富士山噴火が作り上げた屏風岩・景ヶ

島溪谷」, 裾野市生涯学習センター, 2021年5月23日.

小杉素子, 東三河防災カレッジ 2020 オンライン化特別企画第5弾「災害リスクと避難行動」講師, 豊橋科学技術大学, 2021.03.

小杉素子, 令和3年度・第29回浜松市民アカデミー(全9回講座)第9回「リスクとのつきあいかた:社会心理学の視点でリスク管理を考える」講師, 浜松市, 2021.10.

小山真人, 2020年6月13日 ふじのくに防災フェロー講座 2020年度講義, 静岡市(オンライン), 「火山学」.

小山真人, 2020年8月18-21日 伊豆半島ジオパーク「ユネスコ世界ジオパーク再審査(予備審査)」, 伊豆市など, 「静岡大学と伊豆半島ジオパーク」.

小山真人, 2020年9月10日 浜松市学生協主催 小学校教務主任研修会, 浜松市, 「浜松・浜名湖ジオパーク」がひらくキャリア教育と地域の未来.

小山真人, 2020年9月25日 静岡大学未来社会デザイン機構第2回学内セミナー, 静岡市, 「静岡大学未来社会デザイン機構と東部サテライト三余塾の基本設計」.

小山真人, 2020年10月2日 富士市医師会学術講演会, 富士市, 「火山がつくった世界遺産・富士山の噴火史と防災」.

小山真人, 2020年11月20日 公益財団法人 損害保険事業総合研究所主催 2020年度環境問題講演会, 静岡市(オンライン), 「世界遺産・富士山の噴火史と防災」.

小山真人, 2021年6月12日 ふじのくに防災フェロー講座 2021年度講義, 静岡市, 「火山学」(オンライン).

小山真人, 2021年6月30日 令和3年度労働災害防止大会, 浜松市, 「浜松の大地の物語」.

小山真人, 2021年10月5日 西伊豆町議会, 西伊豆町, 「西伊豆町の自然災害リスク とくに2つの候補地の比較」.

小山真人, 2021年12月(オンライン期間限定) 静岡県立静岡がんセンター防災講習会、長泉町、「改定された富士山のハザードマップ 富士山の火山防災対策の現状と課題について」.

小山真人, 2020年9月8日 2020年度ふじのくに防災士養成講座 A コース, 静岡市(オンライン), 「火山災害一般と静岡県の活火山」.

小山真人, 2020年9月26日 2020年度ふじのくに防災士養成講座 B コース, 静岡市(オンライン), 「火山災害一般と静岡県の活火山」.

小山真人, 2020年11月29日 2020年度静岡大学公開講座「静岡の自然と文化～東部・伊豆半島を中心に～」, 静岡市(オンライン), 「世界遺産・富士山と伊豆半島ジオパーク」.

小山真人, 2021年2月6日 クリフエッジプロジェクト「躍動する山河」オンライン講演会, 伊豆市, 「中伊豆の大地の物語」.

小山真人, 2021年2月11日 静岡大学×和歌山大学研究フォーラム「半島地域における交流・協働のためのプラットフォームを考える」, 静岡市(オンライン), 「伊豆半島ジオパークを軸にした取り組みと今後の展開」.

- 小山真人,2021年4月18日 静岡県富士山世界遺産センター公開講座,富士宮市,「富士山ハザードマップ(改定版)から学ぶべきこと」.
- 小山真人,2021年6月19日 2021年度静岡大学公開講座「静岡の自然と文化～富士山・県東部を中心に～」,沼津市,「改定された富士山のハザードマップ そこから何を読み取るべきか?」.
- 小山真人,2021年9月14日 2021年度ふじのくに防災士養成講座Aコース,静岡市(オンライン),「火山災害一般と静岡県の活火山」.
- 小山真人,2021年9月25日 2021年度ふじのくに防災士養成講座Bコース,静岡市(オンライン),「火山災害一般と静岡県の活火山」.
- 小山真人,2022年3月6日 富士宮市教育委員会主催「地域文化をほりおこす市民のつどい」,富士宮市,「火山がつくった富士宮の大地と自然」(オンライン).
- 小山真人,2022年3月18日 静岡大学東部サテライト連続セミナー「伊豆でビジネスチャンスを探る!産学官連携の新たな試みの視点から」プレセミナー,伊豆市,「先端科学技術がひらく伊豆の未来」.
- 小山真人,2022年3月19日 ふじのくに地球環境史ミュージアム公開シンポジウム「21世紀は災害の世紀かー生命と大地ー静岡で考える過去・現在・未来」,静岡市,「静岡県の活火山とその対策」.
- 小山真人,2022年3月26日 富士宮市埋蔵文化財シンポジウム事業「史跡 大鹿窪遺跡の歴史と環境」,富士宮市(オンライン),「富士宮周辺の地形・地質の成り立ちと大鹿窪遺跡」.
- 小山真人,2020年9月5日 浜松市学校生活協同組合主催「浜松オンラインジオツアー2020:奇跡の湖・浜名湖」,浜松市・湖西市.
- 小山真人,2020年11月7日 浜松市学校生活協同組合主催「浜松オンラインジオツアー2020:奇跡の川・天竜川」,浜松市.
- 小山真人,2021年7月5日 浜名湖クラブ主催「浜松オンラインジオツアー2021:奇跡の湖・浜名湖」,浜松市・湖西市.
- 小山真人,2021年9月4日 浜松市学校生活協同組合主催「浜松オンラインジオツアー2021:奇跡の湖・浜名湖」,浜松市・湖西市.
- 小山真人,2021年10月9日 浜名湖クラブ主催「浜松オンラインジオツアー2021:奇跡の川・天竜川」,浜松市・磐田市.
- 小山真人,2021年10月30日 浜松市学校生活協同組合主催「浜松オンラインジオツアー2021:奇跡の川・天竜川」,浜松市・磐田市.
- 小山真人,2020年11月13日 静岡県立浜松工業高校,出前授業「南海トラフ地震と浜松」.
- 小山真人,2020年12月18日 静岡県立下田高校,出前授業「伊豆地域の持続可能な未来を考える」.
- 小山真人,2021年1月20日 静岡県立伊豆総合高校,出前授業「ジオパークがひらく地域

の未来」.

小山真人,2021年10月15日 静岡県立浜松工業高校,出前授業「浜松の自然災害リスクとハザードマップ」.

前田恭伸:未来の科学者養成スクール,静岡大学,オンライン,2020年8月

前田恭伸:未来の科学者養成スクール,静岡大学,オンライン,2021年8月

前田恭伸:静岡県佐鳴湖の環境保全と市民参加,勉強会:水辺の環境保全とヨシの活用・市民参加:葦船世界大会の開催に向けて,オンライン,2021年3月21日

松井 務,医療と介護の総合的な確保に向けてのシンポジウム、医療と介護シンポジウム開催実行委員会・静岡県、焼津市、2020年11月20日.

松井 務,医療と介護の総合的な確保に向けてのシンポジウム、医療と介護シンポジウム開催実行委員会・静岡県、富士市、2021年11月22日.

森下 祐一,鉱物資源・岩石・鉱山,ミュージアム学習会,静岡(ふじのくに地球環境史ミュージアム),2021.11.15.

森下 祐一,地質学の役割と重要性:リニア南アルプストンネルの水資源・自然環境への影響等を例として,静岡県地質調査業協会 地盤技術講習会,静岡(WEB 同時開催),2021.7.30.

森下 祐一, SIMS を用いた硫化鉱物中の見えない金の研究, SIMS 研究会 13-塚本教授紫綬褒賞受賞記念研究会-, WEB(ZOOM)開催, 2020.9.25.

村越真(2021)挑戦を支えるリスクマネジメント:幼稚園から南極まで(第22回安全教育学会特別講演、2021.10.16) pp.21-24.

Murakoshi, S. (2021). The Antarctic as a natural laboratory: A case of cognitive studies (Local Keynote). SCAR SC-HASS Biennial conference, Kobe University, 2021.11.18.

村越真、世界中、道に迷わないナビゲーション能力を磨く。ウォーキング学会招待講演(2021.10.9)

村越真、オリジナルマウンテンマラソン(安全管理マネージャー)、2020年、2021年

村越真、全国安全登山指導者研修会東日本地区、国立登山研修所、2020年9月19-21日

村越真、登山研修所サテライトセミナー、国立登山研修所、2020年12月19-20日(東京、オンライン)

村越真、登山研修所サテライトセミナー、国立登山研修所、2021年6月20日(宮城県)

村越真、高校登山部顧問研修、国立登山研修所、2021年7月11日(オンライン)

村越真、全国遭難対策協議会、スポーツ庁等主催、2021年7月16日

村越真、上級リスクマネジメント研修、国立登山研修所、2021年9月18-19日(神戸)

中川和之,第2回蔵王町ジオパーク推進連絡会ジオパークにおける「テーマ」と「ストーリー」,蔵王町,オンライン,2022年1月20日

中川和之,令和3年度芦屋市防災士養成講座「災害・危機時の情報の受発信=あなたも伝えるに!」,芦屋市,芦屋市役所,2021年11月27日

中川和之, i J AMP自治体セミナー 時事危機管理オンラインシンポ「これからの日本の重大事案対応を考える」,時事通信社,時事通信社,2021年11月19日

中川和之,第16回全国市議会議長会研究フォーラム「地方自治体の災害対策や感染症対策の現状と課題」,全国市議会議長会,海運ビル(オンライン配信),2021年11月17日

中川和之,ぼうさいこくたい 2021 いわて釜石から「防災・減災への新聞社の取り組み・役割」,TEAM 防災ジャパンメディアチーム,釜石市民ホール,2021年11月7日

中川和之,ぼうさいこくたい 2021 いわて釜石から「どこまで分かった東北地方太平洋沖地震、何が分かってない日本海溝・千島海溝や南海トラフの地震」,日本地震学会,ホテルサンルート釜石,2021年11月6日

中川和之, i J AMP自治体セミナー危機管理オンラインシンポジウム「緊急時の情報発信はどうあるべきか」,時事通信社,時事通信社,2021年6月18日

中川和之,令和3年度管理職(副所長)研修「クライシスコミュニケーションの向上」,中国地方整備局,オンライン,2021年5月20日

中川和之,防災対策に資する南海トラフ地震調査研究プロジェクトシンポジウム「南海トラフ地震に備える」,海洋研究開発機構,オンライン,2021年3月18日

中川和之,令和2年度「ひょうご防災リーダー講座」「災害・危機時の情報の受発信=あなたが伝え手に!」,兵庫県広域防災センター,兵庫県広域防災センター,2021年3月13日

中川和之, i J AMP自治体セミナー 時事危機管理オンラインシンポ「3.11東日本大震災からの10年とコロナ禍」,時事通信社,時事通信社,2021年3月12日

中川和之,宣伝会議危機管理広報講座災害対策専門コース「大規模災害時、企業に求められる情報発信」,宣伝会議,オンライン配信,2021年3月2日

中川和之,中国地方整備局危機管理広報セミナー「災害・危機管理時の情報発信のあり方」,中国地方整備局,オンライン,2020年11月9日

中川和之,ぼうさいこくたい 2020inHIROSHIMA ワークショップ「つながる+発見,そして新しい場づくり~実空間を超えて」,TEAM 防災ジャパン,オンライン,2020年10月3日

中川和之,ぼうさいこくたい 2020inHIROSHIMA ワークショップ「何でも聞いてみよう、中国地方の地震活動のこれまでとこれから」,日本地震学会,オンライン,2020年10月3日

中川和之,香川大学シンポジウム ジオパーク×防災「大地の成り立ちから考える持続可能な地域づくり」「大地がもたらす恩恵と災いをジオパークで発見する」,香川大学,香川大学 OLIVE SQUARE 多目的ホール,2020年9月26日

中川和之,神戸クロスロード研究会「Zoomのブレイクアウトルームを使ったクロスロード」,神戸クロスロード研究会,オンライン,2020年6月25日

中川和之,TEAM 防災ジャパンオンラインミーティング第1回オンライン版「新型コロナと自然災害を考えてみよう」冒頭問題提起,TEAM 防災ジャパン,オンライン,2020年6月

12日

中西利典, 富士山の日特別講演「駿河トラフから静岡にのびる地形」, ふじのくに地球環境史ミュージアム, 2021年2月23日

大谷栄治, High Pressure Mineral Physics of the Deep Mantle and Core (keynote), 第3回ヨーロッパ鉱物学コンファレンス(キーノート講演), クラコウ(ポーランド), 2021年8月29日—9月2日(Online).

大谷栄治, 仙台市天文台市民講演会(トワイライトサロン)「隕石と小惑星:はやぶさIIの試料から解ってきたこと」2022年3月19日.

大谷栄治, 第3回ジャーナル問題セミナー講演, 「学術誌とオープンサイエンス」, 東北大学, 仙台, 2021, 10, 18 (Online).

大谷栄治, 「IMA(国際鉱物学連合)の活動報告および日本の貢献」, 日本学術会議学術フォーラム, 2021年2月15日(Online).

佐藤比呂志: 京都府日本海側の地震・津波: 日本海地震津波調査プロジェクトの成果から, 第4回 京都府地震・津波防災地域研究会, 京都府・日本海地震・津波調査プロジェクト, 京都府庁(オンライン), 2020年12, 23.

佐藤比呂志: 庄内地域の地震・津波災害予測: 第8回山形県地震・津波防災地域研究会, 山形県・日本海地震・津波調査プロジェクト, オンライン, 2021, 3, 15.

佐藤比呂志: 新潟県で予測される地震・津波について-日本海地震・津波調査プロジェクトの成果: 第9回新潟県地震・津波防災地域研究会, 新潟県・日本海地震・津波調査プロジェクト, オンライン, 2020, 12, 21.

佐藤比呂志: 津軽半島周辺の地震・津波災害: 予測と防災に向けて: 第2回青森県地震・津波防災地域研究会, 青森県・日本海地震・津波調査プロジェクト, 弘前文化センター, 2020, 9, 28.

佐藤比呂志: 鳥取県の地震・津波予測について: 日本海PJの成果から: 第4回青森県地震・津波防災地域研究会, 鳥取県・日本海地震・津波調査プロジェクト, オンライン, 2021, 1, 27.

佐藤比呂志: 日本海側の地震・津波予測-富山県を中心として: 第4回青森県地震・津波防災地域研究会, 富山県・日本海地震・津波調査プロジェクト, 富山国際会議場, 2020, 11, 4.

佐藤比呂志: 地震・津波による災害, 富山県防災士養成研修, 富山県, 富山県農協会館, 2021年3月27日

佐藤比呂志: 津波のしくみと被害, 富山県防災士養成研修, 富山県, 富山県農協会館, 2020年1月18日

佐藤比呂志: 千島海溝超巨大地震発生前に促進される北海道と日本海の地震・津波: 第8回北海道地震・津波防災地域研究会, 北海道・日本海地震・津波調査プロジェクト, 札幌かでの2・7ホール, 2020年10月21日

- 佐藤比呂志: Structure and deformation in the overlying plates of Japanese arcs, 日本地球惑星科学連合大会予稿集 2021, SCG49-08. 2021年6月, 招待講演
- 佐藤比呂志: 日本海海底断層と津波-富山県の地震・津波にどう備えるか. 令和2年度地盤工学会と富山県との災害協定に基づく富山県技術職員研修会, 地盤工学会北陸支部, 2020年11月20日
- 佐藤興平: 群馬の地質と中小坂鉦山の鉄鉦床, 鉄の技術と歴史研究フォーラム第40回講演会, 東京工業大学(大岡山キャンパス会場およびオンラインによるハイブリッド講演会), 2022年2月5日
- 佐藤 健: WEBシンポジウム「災害研の減災デザイン・実装の成果と活動の展望」, 「人材育成」, 東北大学災害科学国際研究所, オンライン, 2020.11.30
- 佐藤 健: サロン de 防災, 「地名と災害リスク」, NPO 法人防災白熱アカデミー, オンライン, 2020.11.18
- 佐藤 健: 夏休みの子ども向け防災イベント「災害について調べて新聞を作ろうワークショップ」, 『南海トラフ地震が起こったら、自分の地域・生活はどうか』の調べ方, 朝日学生新聞社, オンライン, 2021.8.10
- 佐藤 健: 夏休みの子ども向け防災イベント「災害について調べて新聞を作ろうワークショップ」, 「作品講評ほか」, 朝日学生新聞社, オンライン, 2021.8.22
- 佐藤 健: 気候変動×防災×環境教育を考える勉強会#8, 「復興・防災マップづくりの学習プログラム～郷土の自然と暮らしを知るために～」, SciNeth, オンライン, 2021.5.31
- 佐藤 健: 宮城県地域連携型学校防災体制等構築推進事業(宮城県涌谷高等学校)研修会, 「指定緊急避難場所への避難行動と指定避難所の開設運営～洪水を中心に～」, 宮城県教育委員会, 宮城県涌谷高等学校, 2021.9.22
- 佐藤 健: 公開講座 わがまち防災減災実践講座④, 「災害時の避難行動を考える」, 仙台市太白区中央市民センター, 太白区中央市民センター, 2020.12.5
- 佐藤 健: 公開講座 東北大学片平まつり災害科学国際研究所「答えてみよう!聞いてみよう!クイズで学ぶ災害の科学」, 「講義③ 地名のひみつを探ってみよう～地名と災害との関係が見えてくるぞ～」, 東北大学, オンライン, 2021.10.9
- 佐藤 健: 小中高との連携 石巻市立大谷地小学校6年生出前授業, 「北上川のはんらん(洪水)から命をまもる!～安全なひなん場所をみんなで考えよう～」, 宮城県教育委員会, 石巻市立大谷地小学校, 2021.11.29
- 佐藤 健: 仙台防災未来フォーラム 東日本大震災メモリアルシンポジウム2022, 「学校を核とした災害に強い地域づくり～コミュニティ・スクール等の積極的な利活用～」, 仙台市・東北大学災害科学国際研究所, 仙台国際センター展示棟, 2022.3.6
- 佐藤 健: 島根県学校学校安全(災害安全)研修, 『災害安全』の現状と課題～防災管理と防災教育の推進に向けて～, 島根県教育委員会, オンライン, 2021.8.3
- 佐藤 健: 島根県学校学校安全(災害安全)研修, 『災害安全』の現状と課題～防災管理

と防災教育の推進に向けて～」、島根県教育委員会、浜田合同庁舎、2021.8.4

佐藤 健：内閣府防災スペシャリスト養成研修（第2期）「災害への備え」コース、「防災教育・災害教訓の伝承」、内閣府、オンライン、2021.1.25～2021.2.7（配信期間）

佐藤 健：内閣府防災スペシャリスト養成研修「災害への備え」コース、「防災教育・災害教訓の伝承」、内閣府、オンライン、2020.9.21～2020.10.4（配信期間）

佐藤 健：日本建築学会東北支部 みちのくの風ー山形 2021 特別企画 東北探訪 エクスカーション・シンポジウム 『震災復興 10 年とこれからの 10 年～近未来の東北と建築学専門家集団の関わり方～』、「災害調査連絡会×福島県沖の地震」、日本建築学会東北支部、オンライン、2021.6.19

佐藤 健：福岡県学校安全担当者等研修会、「家庭や地域と協働した学校防災の取組事例からの学び①防災管理／②防災教育」、福岡県教育委員会、オンライン、2021.5.26

佐藤 健：福岡県学校安全担当者等研修会、「家庭や地域と協働した学校防災の取組事例からの学び①防災管理／②防災教育」、福岡県教育委員会、オンライン、2021.7.21

佐藤 健：防災スペシャリスト養成研修 令和3年度 有明の丘研修（第1期）、「防災教育・災害教訓の伝承」、内閣府、オンデマンド、2021.9.17～2021.10.3（受講期間）

佐藤 健：防災スペシャリスト養成研修 令和3年度 有明の丘研修（第2期）、「防災教育・災害教訓の伝承」、内閣府、オンデマンド、2022.2.7～2022.2.20（受講期間）

佐藤 健：防災士資格取得研修（岩手）、「『地震・津波による災害』、『地震・津波への備え』」、NTTラーニングシステムズ株式会社、NTT 東日本・東北（盛岡支店）、2021.12.2

佐藤 健：防災士資格取得研修（宮城）、「『地震・津波による災害』、『地震・津波への備え』」、NTTラーニングシステムズ株式会社、NTT 東日本仙台青葉通ビル、2022.1.20

佐藤 健：防災士資格取得研修（宮城）、「『地震・津波による災害』、『地震・津波への備え』」、NTTラーニングシステムズ株式会社、仙台パークビル、2021.10.29

佐藤 健：防災士資格取得研修（山形）、「『地震・津波による災害』、『地震・津波への備え』」、NTTラーニングシステムズ株式会社、山形県生涯学習センター遊学館、2021.11.30

佐藤 健：防災士資格取得研修（秋田）、「『地震・津波による災害』、『地震・津波への備え』」、NTTラーニングシステムズ株式会社、NTT 東日本・東北（秋田支店）、2021.11.16

佐藤 健：令和2度「地域と共に創る放射線・防災教育推進事業」地区別研究協議会（いわき）、「地元学こそ防災教育～土地に根ざした学びの魅力と波及効果～」、福島県教育委員会、福島県環境創造センター交流館「コミュタン福島」、2020.8.20

佐藤 健：令和2年度「地域と共に創る放射線・防災教育推進事業」防災教育実践協力校講演会、「地元学こそ防災教育～地域の自然や社会を学び、地域の災害リスクを知る～」、福島県下郷町立江川小学校、江川小学校、2020.10.21

佐藤 健：令和2年度学校安全指導者養成研修、「災害安全」、独立行政法人教職員支援機構、オンライン、2020.11.10～2020.12.17（配信期間）

佐藤 健：令和2年度日本安全教育学会第5回WEB研修会、「地球規模の視点で災害のメ

- カニズムを解明し、国境、文化を超えて世界の災害軽減に貢献する～東北大学による災害科学国際研究所の活動～」, 日本安全教育学会, オンライン, 2020.10.31
- 佐藤 健: 令和 3 年度 第 1 回石巻市防災主任研修会, 「学区の地図を活用した災害リスクの理解」, 石巻市教育委員会, 遊学館, 2021.6.22
- 佐藤 健: 令和 3 年度 第 2 回石巻市防災主任研修会, 「学区の地図を活用した災害リスクの理解 (続)」, 石巻市教育委員会, 遊学館, 2021.9.15
- 佐藤 健: 令和 3 年度みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会, 「講義Ⅱ 自然災害の基礎と地域における災害対策」, 宮城県教育委員会, 多賀城市文化センター, 2021.12.12
- 佐藤 健: 令和 3 年度災害レジリエンス向上のための社会的期待発見研究 中間発表会, 「学校の避難確保計画の社会実装に関する課題解決型実践研究」, 防災科学技術研究所, オンライン, 2022.3.30
- 佐藤 健: 令和 3 年度女性防災指導員等交流セミナー, 「私にできる身近な防災活動～女性によるネットワークづくりを考える～」, 宮城県復興・危機管理部防災推進課, 自治会館 202 会議室, 2021.12.21
- 佐藤 健: 令和 3 年度石巻市学校防災フォーラム, 「学校と地域、行政の連携による防災体制の確立」, 石巻市教育委員会, マルホンまきあーとテラス, 2021.8.3
- 佐藤 健: 令和 3 年度仙台市地域防災リーダー (SBL) 新規養成講習会, 「自分の住んでいる地域の特性の理解」, 仙台市危機管理局, オンワード樫山仙台ビル 10 階ホール, 2021.11.13
- 佐藤 健: 令和 3 年度第 1 回白石市小・中学校防災主任者会・研修会研修会, 「学校防災と地域防災の融合に向けて」, 白石市教育委員会, 白石市防災センター, 2021.5.20
- 佐藤 健: 令和 3 年度日本安全教育学会第 3 回 WEB 研修会, 「風水害を中心とした学校防災の推進」, 日本安全教育学会, 東北大学災害科学国際研究所から配信ハイブリッド形式, 2022.3.13
- 武村雅之、1923 (大正 12) 年関東大震災後の帝都復興事業に学ぶ-現代東京はなぜ首都直下地震に怯えなければならないのか?、日本地震工学会・大会 2021、遠隔開催、2021 年 11 月
- 武村雅之、大正 12(1923)年関東大震災での東京における寺院移転の実態と現状、第 21 回日本災害情報学会、遠隔開催、2021 年 11 月
- 武村雅之、大正 12 年関東大震災後の東京における寺院大移動の実態、第 15 回中部「歴史地震」研究懇談会、名古屋大学、2021 年 12 月
- 武村雅之、東海地における南海トラフ沿いの歴史地震津波に関する現地調査結果について (その 3)、第 37 回歴史地震研究会、遠隔開催、2021 年 9 月
- 田阪 美樹, 地球内部で宝石がゆっくり流動する話, サイエンスカフェ in 静岡, 2021 年 2 月 (動画公開)
- 牛山素行, 「風水害の基礎」, 静岡県ふじのくに防災士養成講座, 静岡県, 静岡市, 2020 年 9 月 1

日

- 牛山素行,「最近の豪雨災害事例から学ぶこと ―風水害・土砂災害と対策―」,福井県防災士養成講座,福井県,福井県敦賀市,2020年9月6日
- 牛山素行,「防災基礎総論」,防災スペシャリスト養成研修,内閣府,オンデマンド,2020年9月(視聴期間)
- 牛山素行,「風水害のメカニズムとその被害」,防災スペシャリスト養成研修,内閣府,オンデマンド,2020年9月(視聴期間)
- 牛山素行,「被害の実態と地域の脆弱性」,防災スペシャリスト養成研修,内閣府,オンデマンド,2020年9月(視聴期間)
- 牛山素行,「災害対応過程と態度を学ぶ」(演習),防災スペシャリスト養成研修,内閣府,オンライン,2020年10月1日
- 牛山素行,「2020年台風10号と防災気象情報」,日本災害情報学会,日本災害情報学会勉強会,オンライン,2020年9月26日
- 牛山素行,「最近の豪雨災害事例から学ぶこと ―風水害・土砂災害と対策―」,福井県防災士養成講座,福井県,福井県福井市,2020年11月1日
- 牛山素行,「最近の豪雨災害事例から学ぶこと」,消防団員幹部教育指揮幹部科 現場指揮課程,静岡県消防学校,静岡市,2020年11月7日
- 牛山素行,「最近の豪雨災害事例から学ぶこと」,消防職員幹部教育中級幹部科,静岡県消防学校,静岡市,2020年11月13日
- 牛山素行,「地域を知り,防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」,佐賀県自主防災組織防災リーダー研修会,佐賀県,佐賀県神埼町,2020年11月15日
- 牛山素行,「地域を知り,防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」,長崎県防災推進員養成講座,長崎県,長崎県東彼杵町,2020年11月21日
- 牛山素行,「地域を知り,防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」,島根県自主防災リーダー研修会,島根県,島根県益田市,2020年11月28日
- 牛山素行,シンポジウム「避難」のあるべき方向を考える」,日本災害情報学会第22回学会大会,日本災害情報学会,オンライン,2020年11月29日
- 牛山素行,「最近の豪雨災害事例から学ぶこと ―風水害・土砂災害と対策―」,福井県防災士養成講座,福井県,福井県越前市,2020年12月6日
- 牛山素行,「地域を知り,防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」,長崎県防災推進員養成講座,長崎県,長崎県平戸市,2020年12月13日
- 牛山素行,「防災基礎総論」,防災スペシャリスト養成研修,内閣府,オンデマンド,2021年1月(視聴期間)
- 牛山素行,「風水害のメカニズムとその被害」,防災スペシャリスト養成研修,内閣府,オンデマンド,2021年1月(視聴期間)
- 牛山素行,「被害の実態と地域の脆弱性」,防災スペシャリスト養成研修,内閣府,オンデマン

ド,2021年1月(視聴期間)

牛山素行,「災害対応過程と態度を学ぶ」(演習),防災スペシャリスト養成研修,内閣府,オンライン,2021年1月27日

牛山素行,「2020年の風水害をふりかえって」,(岩手県)災害情報協議会,東北地方整備局岩手河川国道事務所,オンライン,2021年2月8日

牛山素行,「防災基礎総論」,静岡県行政職員防災講座,静岡県・静岡大学防災総合センター,オンライン,2021年2月24日

牛山素行,「風水害の基礎」,静岡県行政職員防災講座,静岡県・静岡大学防災総合センター,オンライン,2021年2月24日

牛山素行,「地域を知り,防災を考えるー最近の豪雨災害事例から学ぶことー」,波佐見町社会福祉協議会防災講演会,長崎県波佐見町,オンライン,2021年2月27日

牛山素行,「地域を知り,防災を考えるー最近の豪雨災害事例から学ぶことー」,諏訪市公民館市民大学講座,長野県諏訪市,オンライン,2021年3月13日

牛山素行,「豪雨災害と災害情報」,国土交通大学校 土砂災害防止対策〔警戒避難等〕研修,国土交通大学校,小平市(オンライン),2021年5月10日

牛山素行,「地域を知り,防災を考えるー最近の豪雨災害事例から学ぶことー」,岡山県防災セミナー,岡山県,岡山市(オンライン),2021年5月22日

牛山素行,「最近の豪雨災害事例から学ぶこと」,市町村職員防災連続講座,消防防災科学センター,(オンライン),2021年5月26日

牛山素行,「地域を知り,防災を考えるー最近の豪雨災害事例から学ぶことー」,長野地域防災セミナー,長野地域連携中枢都市,長野市(オンライン),2021年5月29日

牛山素行,「防災基礎総論」,静岡県行政職員防災講座,静岡県・静岡大学防災総合センター,オンライン,2021年6月9日

牛山素行,「風水害の基礎」,静岡県行政職員防災講座,静岡県・静岡大学防災総合センター,オンライン,2021年6月10日

牛山素行,「災害対応過程と態度を学ぶ」,静岡県行政職員防災講座,静岡県・静岡大学防災総合センター,オンライン,2021年6月10日

牛山素行,「地域を知り,防災を考えるー最近の豪雨災害事例から学ぶことー」,市町災害対応力強化研修会,石川県,(オンライン),2021年7月12日

牛山素行,「地域を知り,防災を考えるー最近の豪雨災害事例から学ぶことー」,鳥取県地域防災リーダースキルアップ研修,鳥取県,倉吉市(オンライン),2021年7月24日

牛山素行,「風水害の基礎」,静岡県ふじのくに防災士養成講座,静岡県,静岡市,2021年9月7日

牛山素行,「防災基礎総論」,防災スペシャリスト養成研修,内閣府,オンデマンド,2021年9月(視聴期間)

牛山素行,「風水害のメカニズムとその被害」,防災スペシャリスト養成研修,内閣府,オンデ

マンド,2021年9月(視聴期間)

牛山素行,「被害の実態と地域の脆弱性」,防災スペシャリスト養成研修,内閣府,オンデマンド,2021年9月(視聴期間)

牛山素行,「災害対応過程と態度を学ぶ」(演習),防災スペシャリスト養成研修,内閣府,オンライン,2021年9月24日

牛山素行,「最近の豪雨災害事例から学ぶこと」,消防団員幹部教育指揮幹部科 現場指揮課程,静岡県消防学校,静岡市(オンライン),2021年10月3日

牛山素行,「最近の豪雨災害事例から学ぶこと」,消防職員幹部教育中級幹部科,静岡県消防学校,静岡市,2021年11月3日

牛山素行,「地域を知り,防災を考えるー最近の豪雨災害事例から学ぶことー」,豊岡市防災学習会,兵庫県豊岡市,兵庫県豊岡市,2021年11月4日

牛山素行,「地域を知り,防災を考えるー最近の豪雨災害事例から学ぶことー」,島根県自主防災リーダー研修会,島根県,島根県安来市,2021年11月6日

牛山素行,「地域を知り,防災を考えるー最近の豪雨災害事例から学ぶことー」,静岡市防災講演会,静岡市,静岡市,2021年11月7日

牛山素行,「地域を知り,防災を考えるー最近の豪雨災害事例から学ぶことー」,令和3年度研修「事例から学ぶ水災害に備えた市町村の対応」,全国建設研修センター,東京都小平市,2021年11月25日

牛山素行,「最近の豪雨災害事例から学ぶこと」,利根川水系砂防事務所管内流域協議会防災講演会,利根川水系砂防事務所,(オンライン),2021年11月(視聴期間)

牛山素行,「最近の豪雨災害事例から学ぶこと」,陸前高田市防災マイスター養成講座,岩手県陸前高田市,岩手県陸前高田市,2021年12月26日

牛山素行,「地域を知り,防災を考えるー最近の豪雨災害事例から学ぶことー」,長崎県防災推進員養成講座,長崎県,長崎県島原市,2022年1月9日

牛山素行,「最近の豪雨災害事例から学ぶこと」,岡山県市長危機管理ラボ,消防防災科学センター・岡山県,岡山市,2022年1月13日

牛山素行,「洪水・土砂災害ハザードマップに対して懸念される様々な誤解」,日本災害情報学会,日本災害情報学会勉強会,オンライン,2022年1月22日

牛山素行,「防災基礎総論」,防災スペシャリスト養成研修,内閣府,オンデマンド,2022年1月(視聴期間)

牛山素行,「風水害のメカニズムとその被害」,防災スペシャリスト養成研修,内閣府,オンデマンド,2022年1月(視聴期間)

牛山素行,「被害の実態と地域の脆弱性」,防災スペシャリスト養成研修,内閣府,オンデマンド,2022年1月(視聴期間)

牛山素行,「災害対応過程と態度を学ぶ」(演習),防災スペシャリスト養成研修,内閣府,オンライン,2022年1月26日

牛山素行,「最近の豪雨災害事例から学ぶこと」,静岡県西部・中東遠地域減災協議会,静岡県,(オンライン),2022年2月2日

牛山素行,「最近の豪雨災害事例から学ぶこと」,協働による地域づくり発表会,静岡県建設技術監理センター,(オンライン),2022年2月4日

渡辺俊樹,財務総合セミナー「地震火山災害に正しく備えるために知っておきたい東海地方の地震火山活動」,東海財務局,名古屋市,2020.11.11

山崎 登,埼玉新聞社・損保協会「ザ・防災フォーラム」出演,2020年1月20日.

山崎 登,新潟日報社・損保協会「地震防災オンラインシンポジウム」出演,2020年11月3日.

山崎 登,日本新聞協会全国大会で講演「住民の避難に結びつく情報」,2021年10月21日.

5.2 マスメディア・新聞等への掲載

藤井基貴,毎日新聞朝刊 15面,ぼうさい甲子園優秀賞 知的障害者向け動画 静岡大学教育学部藤井基貴研究室,2022年1月28日.

藤井基貴,静岡新聞朝刊 4面,水防災教育 静大と連携,2021年9月2日.

藤井基貴,静岡新聞朝刊 1面,静岡大 防災指導法に力 状況判断 主体性生む,2021年2月5日.

藤井基貴,毎日新聞朝刊 16面,ぼうさい大賞 新たな教材や授業開発,2021年1月29日.

藤井基貴,毎日新聞朝刊 21面,ぼうさい甲子園 静岡大研究室に大賞,2020年12月25日.

藤井基貴,静岡新聞朝刊 22面,防災と保育 指導法学ぶ,2020年9月19日.

藤井基貴,静岡新聞朝刊 7面,コロナ禍の避難 何が必要? 児童向け教材 静大生考案,2020年7月26日.

藤井基貴,朝日新聞朝刊 22面,コロナと災害重なったら… 児童、パズルで学ぶ,2020年7月18日.

二川雅登,フジサンケイビジネスアイ,土砂災害・防災関連技術として、紹介される 2021年8月24日

二川雅登,財団法人 産学連携推進協会に土砂災害・防災関連技術として、紹介される 2021年8月24日

原田賢治,災害 向き合い方探る 地球環境史ミュージアム 研究者らシンポ,静岡新聞朝刊 P23 県内総合,2022.3.31.

原田賢治,被災地で進む「緑の防潮堤」 津波を抑えることはできるのか?生育と防災効果を探る#これから私は, Yahoo!ニュース, オリジナル特集, 2021.3.24.

原田賢治,防潮堤どうする 議論再び 伊豆地域 県が新たな協議会,朝日新聞朝刊 P21 静岡, 2020.6.1.

原田賢治,津波被害軽減へ防災計画策定:対策、整備で「多重防御」:松崎町,静岡新聞朝刊 P15 東部版, 2020.5.31.

原田賢治, 防災まちづくり推進へ 基本方針5項目を策定 西伊豆町, 静岡新聞 朝刊 P19 東部版, 2020.4.4.

本間基寛, 日本農業共済新聞, ズバリ直言, 2020年4月22日.

本間基寛, 日本農業共済新聞, ズバリ直言, 2020年6月24日.

本間基寛, 日本経済新聞, エssenシャル企業の掟 オープン文化が活力に, 2020年8月18日.

本間基寛, 日本農業共済新聞, ズバリ直言, 2020年8月26日.

本間基寛, 日本農業共済新聞, ズバリ直言, 2020年10月28日.

本間基寛, 朝日小学生新聞, 線状降水帯 豪雨災害の危険も, 2021年5月31日.

本間基寛, 朝日小学生新聞, 記録的大雨なぜ? 気圧配置の影響で前線が同じ場所に, 2021年8月18日.

本間基寛, 中日新聞, 備える3.11から第192回気象情報と避難行動, 2021年10月4日.

本間基寛, 西日本新聞, あんしん安全 地区ごとに異なる「危険な雨量」, 2021年11月10日.

本間基寛, 西日本新聞, あんしん安全 「避難スイッチ」を決め、地域で共有, 2021年11月24日.

池田恵子, 静岡新聞(朝刊・西部版), 災害時の避難所 課題紹介 御前崎の市民団体が講演会運営に女性の視点重要, 2021年11月9日.

池田恵子, 「むすぶつなぐ」(静岡県社会福祉協議会)2021年6・7月号, 静岡県「地域共生大賞」意義と今後の役割, 2021年6月.

池田恵子, 熊本日日新聞, 池田恵子・静岡大教授に聞く 防災への女性参画促す工夫を, 2021年4月11日.

池田恵子, 「むすぶつなぐ」(静岡県社会福祉協議会)2021年4月号, 東日本大震災から10年 今、静岡の人たちに知ってほしいこと, 2021年4月1日.

池田恵子, 朝日新聞デジタル, 下着取りかえず3週間 防災復興にひそむ男女格差, 2021年3月27日.

池田恵子, 朝日新聞(夕刊), 3.11を振り返る 災害に強い社会へ 女性の声反映を, 2021年3月24日.

池田恵子, FMよこはま, 災害時の暴力問題, 2021年3月11日.

池田恵子, 週刊女性PRIME, 避難所での性暴力, 2021年3月10日.

池田恵子, 朝日新聞(朝刊), Think Gender 多様な声を 震災後の模索 防災会議 女性増の自治体も, 2021年3月8日.

池田恵子, 日本経済新聞(朝刊), 震災から10年、女性リーダーと復興 被災地に多様性と変化を, 2021年3月8日.

池田恵子, 読売新聞(朝刊・群馬地域版), 群馬県が自治会向けに作成した「防災ノート」へのコメント, 2021年2月23日.

池田恵子, 静岡新聞(朝刊), 女性も担う地域防災 「政策形成プロジェクト」 ネット開催,
2021年2月9日.

池田恵子, 佐賀新聞 LiVE, 避難所運営に女性の視点を 防災リーダー養成講座 男女共同
参画の重要性学ぶ, 2021年2月9日.

池田恵子, 日刊県民福井 Web, 住民に合う避難所運営を 自主防災組織など研修会, 2021
年1月26日.

池田恵子, 静岡新聞(夕刊), 県内防災 女性の視点生かすには 男性中心の組織が壁に,
2020年11月27日.

池田恵子, テレビ静岡 NEWS, 学術会議の任命問題巡る発言, 2020年10月12日.

池田恵子, 中日新聞(朝刊), 学術会議任命拒否 県内会員ら問題視, 2020年10月11日.

池田恵子, 中日新聞(朝刊), 学習講座「災害への備えー男女双方の視点を活かす」, 2020年
9月4日.

池田恵子, 毎日新聞(朝刊), 講座・教室◇災害への備え～男女双方の視点を活かすには～,
2020年9月4日.

池田恵子, 西日本新聞ニュース web, 避難所の性被害対策、どうする？ 男女区分けに「3
密」の壁, 2020年9月4日.

池田恵子, 週刊アエラ, 社会的差別が生む悲劇 高齢者を氾濫域に迫いやる背景 災害,
2020年7月27日.

石川有三, 韓国ソウル放送局 ((Seoul Broadcasting System) の番組「そこが知りたい」の
なかで日本の富士山噴火の可能性についてを取り上げた取材でリサーチャー兼通訳: 姜
権伊(カン クニ)さんの取材を受けた。放送番組は以下の URL で視聴できる。2022年6
月7日

(<https://programs.sbs.co.kr/culture/unansweredquestions/vod/55075/22000447531>)

岩崎一孝, CBCラジオ, 「北野誠のズバリサタデー」 ■内容「地名と自然災害の関係」,
2020年7月18日 朝9時45分～

岩田孝仁, 静岡新聞「時評」感染症対応の危機管理 自らの意思で命守る, 2020/4/22

岩田孝仁, 静岡新聞「時評」コロナ禍の新生活スタイル 東京一極集中から脱却 2020/6/25

岩田孝仁, 静岡新聞「時評」コロナ禍の防災対策 家庭内でセルフ訓練, 2020/8/26

岩田孝仁, 静岡新聞「時評」リニア新幹線と南アルプスの地質 情報共有し議論幅広く,
2020/10/22

岩田孝仁, 静岡新聞「時評」高齢者施設の災害対応 地域のつながり大切, 2020/12/23

岩田孝仁, 静岡新聞「時評」新型コロナまん延1年 「正しく恐れる」説明を, 2021/4/29

岩田孝仁, 静岡新聞「時評」フェーズフリーを防災に 日常と非常時 差小さく, 2021/7/7

岩田孝仁, 静岡新聞「時評」きょうは防災の日 あなたは何をしますか, 2021/9/1

岩田孝仁, 静岡新聞「時評」災害時版ケアプラン作成 誰一人取り残さない, 2021/10/28

岩田孝仁, 静岡新聞「時評」防災 デジタル変革で進化 ただ、最後は人の意思, 2021/12/23

岩田孝仁、静岡新聞「時評」法令の不遑及 防災に立ちほだかる壁、2022/3/2

岩田孝仁、静岡新聞、三陸・日高沖の巨大地震想 5道県36庁舎が浸水、2020.4.12

岩田孝仁、読売新聞、【防災ニッポン】風水害 備える 2家族間の連絡 複数手段で、
2020.4.16

岩田孝仁、静岡新聞、徹底した行動自粛を、2020.4.17

岩田孝仁、毎日新聞、緊急事態宣言 県が外出自粛要請、2020.4.18

岩田孝仁、東京新聞、[新型コロナ]避難所対策課題山積み、台風19号被害の県東部自治体、
2020.6.13

岩田孝仁、静岡新聞、県病院協に60万円 静大防災総合センター寄付、2020.6.20

岩田孝仁、中日新聞、避難所コロナ対策に苦心 台風19号で被害 県東部市町、2020.6.21

岩田孝仁、読売新聞、[防災ニッポン] 「勧告」待たず早めに避難 日中のうちに／車か徒歩か判断、2020.7.9

岩田孝仁、毎日新聞、識者「自ら早めに避難を」 犠牲者7割 川沿い地区、2020.7.12

岩田孝仁、中日新聞、県内累計100人超 感染経路 家族33人、首都圏31人、2020.7.18

岩田孝仁、中日新聞、同意なしでも店名公表 県、クラスターで基準整備へ、2020.7.18

岩田孝仁、静岡新聞、静岡新聞社の本 「静岡の大規模自然災害の科学」、2020.7.26

岩田孝仁、静岡新聞、新型コロナ 7月以降 県内感染過半数20-40代、2020.8.9

岩田孝仁、電気新聞、自然災害、どう向き合う 限界を超える事態想定を、2020.7.22

岩田孝仁、静岡新聞、総合防災訓練 自治体で差 県 感染対策で中止 ・市町 縮小して実施、2020.8.27

岩田孝仁、静岡新聞、大自在 一人防災訓練、2020.9.1

岩田孝仁、日刊工業新聞、静岡から見る防災・減災対策、2020.9.1

岩田孝仁、静岡新聞、令和2年防災功労者内閣総理大臣表彰、2020.9.4

岩田孝仁、静岡新聞、官邸で防災功労総理大臣表彰 岩田氏（静岡大特任教授）功績たたえる、2020.9.5

岩田孝仁、毎日新聞、<こんな時どうするQ&A>台風や豪雨で避難 コロナ下で命を守るためのチェックポイントは、2020.9.13

岩田孝仁、毎日新聞、コロナ禍で災害 命を守るためには 避難場所 日ごろから確認を、
2020.9.16

岩田孝仁、静岡新聞、「災害への想像力強化を」磐田 岩田特任教授(静岡大)が講演、
2020.9.29

岩田孝仁、静岡新聞、全国の学生結び オンラインシンポ 24日静岡大の防災団体 初企画、2020.10.11

岩田孝仁、静岡新聞、東日本大震災10年 まず揺れ対策 意識徹底して、2021.1.1

岩田孝仁、読売新聞、[防災ニッポン] 津波・逃げる田 徒歩が基本 安易に戻るな、渋滞を回避、2021.1.22

岩田孝仁、静岡新聞、防災「想像力働かせて」 島田 静岡大・岩田特任教授が講演、2021.1.25
岩田孝仁、神戸新聞 NEXT、コロナ下での複合災害に備え 神戸で対策考えるフォーラム、2021.1.27
岩田孝仁、静岡新聞、「静岡の大規模自然災害の科学」、2021.2.7
岩田孝仁、朝日新聞、阪神大震災 26 年 国際防災・人道支援フォーラム 2021 被害・対策・想像力いかせ、2021.2.11
岩田孝仁、静岡新聞、県職ら情報収集 宮城、福島 震度 6 強 事前配備態勢に、2021.2.14
岩田孝仁、読売新聞、東日本大震災 10 年 ① 静岡の備え、2021.3.4
岩田孝仁、静岡新聞、東日本大震災 10 年 県民、大震災 関心薄れる「発生時想定し対策を」全国平均より低く、2021.3.9
岩田孝仁、産経新聞、「『融雪型』は一気に広がる」 富士山噴火マップで岩田孝仁・内閣府火山防災エキスパート、2021.3.26
岩田孝仁、静岡新聞、検証 川勝県政 12 年 危機管理 対コロナ 権限に限界も、2021.5.21
岩田孝仁、読売新聞、富士山溶岩流で「大動脈」分断？ 災害予測地図 17 年ぶり改定、2021.5.24
岩田孝仁、静岡新聞、茂木清夫さん死去 信念貫く地震研究者 本県防災とも関わり、2021.6.12
岩田孝仁、静岡新聞、急傾斜地 防災に課題、2021.7.4
岩田孝仁、中日新聞、警戒区域 指示待たず避難を、2021.7.4
岩田孝仁、静岡新聞、緊急報告 熱海 土石流 1 豪雨避難 困難さ露呈、2021.7.5
岩田孝仁、中日新聞、熱海 不明者の生存連絡相次ぐ 氏名公表で救助効率化、2021.7.7
岩田孝仁、静岡新聞、識者論評 極めて特異な災害、2021.7.10
岩田孝仁、静岡新聞、「静岡の大規模自然災害の科学」、2021.8.15
岩田孝仁、中日新聞、県内「防災の日」 自今年も訓練中止 不安 専門家「コロナ下 分散型で実施を」、2021.9.2
岩田孝仁、静岡新聞、防災訓練の重要性 協調 震災 10 年「東北スタディツアー」県内高校生 静岡で報告、2021.9.26
岩田孝仁、中日新聞、首都圏直下で震度 5 強 静岡県内も備えを、2021.10.8
岩田孝仁、静岡新聞、マルチモーダルハブシティ清水を目指して～中部横断道と清水立体～シンポジウム、2021.11.4
岩田孝仁、静岡新聞、点検 地域防災 訓練から見えたもの 下 コロナ禍の避難所運営 第 6 波懸念 対応に濃淡、2021.12.8
岩田孝仁、静岡新聞、理学部・人文社会科学部 100 周年 静大同窓会が冊子 コロナや災害論考、2022.1.7
岩田孝仁、読売新聞、防災ニッポン トンガ噴火 日本沿岸に津波 避難の準備 平時から、2021.1.18

岩田孝仁、中日新聞、大分、宮崎 震度5強 今後の変化 観察必要、」2022.1.23

岩田孝仁、静岡新聞、南海トラフ 気象庁が運用 臨時情報 周知徹底を、2022.2.7

岩田孝仁、静岡新聞、熱海市 議事録を一部未作成 土石流本部 発生から 13 回分、
2022.2.10

岩田孝仁、静岡新聞、県立大 自然災害研究強化 地震以外も幅広く発信、2022.2.21

岩田孝仁、毎日新聞、[東日本大震災 11年] 津波災害警戒区域指定、6市町のみ 横浜も
川崎も「不要」 有識者「中長期的な視点が重要」、2022.2.20

岩田孝仁、中日新聞、防潮堤 地域判断で差 ④多様化する備え、2022.3.9

岩田孝仁、静岡新聞、宮城、福島 震度6強 県内専門家が警鐘「揺れへの対策再徹底を」、
2022.3.18

岩田孝仁、SBS テレビ ORANGE、【防災最前線】 静岡の自然災害 専門家が最新研究
を一冊に、2020.4.1

岩田孝仁、静岡朝日テレビ とびっきり！しずおか 土曜版、県内避難所の3密対策、
2020.5.23

岩田孝仁、NHK総合 たっぷり静岡、避難所の密 どう防ぐか 市町の試行錯誤、
2020.5.29

岩田孝仁、NHK総合 たっぷり静岡、たっぷり防災 今こそ考えるべき防災、2020.6.1

岩田孝仁、テレビ静岡 ただいま！テレビ、身を寄せ合う避難所 感染症が課題に、2020.6.4

岩田孝仁、テレビ静岡 ただいま！テレビ、大雨・台風の季節到来 “避難所” の「三密」
対策はどこまで、2020.6.19

岩田孝仁、静岡朝日テレビ とびっきり！しずおか 土曜版、令和2年7月豪雨 記録的
な大雨 土砂災害に警戒「水害のリスク」への備えは?、2020.7.11

岩田孝仁、SBS ラジオ IPPO、集中豪雨への対応はどうか、2020.7.16

岩田孝仁、NHK総合 たっぷり静岡、防災ボイス 海のレジャーで津波情報が出た
ら、2020.8.24

岩田孝仁、SBS ラジオ ラジオ防災特番、(特) ラジオ防災スペシャル〜With コロナ時代
の複合災害への備え〜、2020.8.30

岩田孝仁、NHK総合 たっぷり静岡、防災ボイス 南海トラフ地震臨時情報を知る、
2020.9.1

岩田孝仁、NHK総合 たっぷり静岡、防災ボイス 南海トラフ地震臨時情報を知る、
2020.9.2

岩田孝仁、静岡朝日テレビ とびっきり！しずおか、コロナ禍の中でこそ 家庭の備え 見
直しを、2020.9.2

岩田孝仁、NHK総合 たっぷり静岡、防災ボイス 静岡では甚大な被害が想定、2020.9.9

岩田孝仁、NHK総合 たっぷり静岡、防災ボイス 命を守る 耐震診断・補強、2020.11.20

岩田孝仁、静岡朝日テレビ とびっきり！しずおか、阪神・淡路大震災から26年 突きつ

けられた課題とは、2021.1.15

岩田孝仁、NHK総合 たっぷり静岡、防災ボイス 通電火災を起こさない、2021.1.15

岩田孝仁、NHK総合 たっぷり静岡、防災ボイス 外出中に地震が起きたら、2021.1.22

岩田孝仁、SBS テレビ ORANGE、村が全滅 火山灰の脅威 小山町 「宝永噴火」の新たな痕跡、2021.1.26

岩田孝仁、SBS ラジオ IPPO、宮城・福島での地震 特徴・気を付けるべき点は、2021.2.15

岩田孝仁、静岡第一テレビ news every.しずおか、東北で震度6強 県内で震度4 なぜ？ 県内で大停電 必要な備えは、2021.2.15

岩田孝仁、テレビ静岡 ただいま！テレビ、東北で震度6強 県内で必要な対策は、2021.2.16

岩田孝仁、NHK総合 たっぷり静岡、防災ボイス 静岡では甚大な被害が想定、2021.3.1

岩田孝仁、NHK総合 たっぷり静岡、防災ボイス 災害史を防災に生かす、2021.3.4

岩田孝仁、NHK 静岡 静岡スペシャル、東日本大震災10年 命を守る静岡県民の”決断”、2021.3.5

岩田孝仁、テレビ静岡 テレビ静岡防災特別番組、静岡の未来につなぐ教訓 東日本大震災10年、2021.3.12

岩田孝仁、SBS ラジオ (特) SBS ラジオスペシャル、ギフト～津波から命を守る訓練、2021.3.14

岩田孝仁、NHK総合 たっぷり静岡、防災ボイス 南海トラフ臨時情報を知る、2021.3.16

岩田孝仁、NHK総合 たっぷり静岡、防災ボイス 災害史を防災に生かす、2021.3.29

岩田孝仁、NHK総合 たっぷり静岡、防災ボイス 命を守る 耐震診断・補強、2021.3.30

岩田孝仁、テレビ静岡 ただいま！テレビ、みんなのぼうさい 伊豆東海岸で地震12回 過去に甚大被害も、2021.4.23

岩田孝仁、エフエム御殿場 GOGO 防災よびかけ隊、避難手段としての車中泊について、2021.3～5

岩田孝仁、エフエム御殿場 GOGO 防災よびかけ隊、避難手段としての車中泊で必要なものの、2021.6～8

岩田孝仁、静岡第一テレビ every.しずおか、熱海市土石流の現場から生中継&専門家が解説、2021.7.4

岩田孝仁、SBS ラジオ IPPO、熱海の土石流について、2021.7.5

岩田孝仁、テレビ静岡 ただいま！テレビ、熱海・土石流 住民避難のタイミングは、2021.7.5

岩田孝仁、静岡第一テレビ news every.しずおか、熱海市土石流の最新情報、2021.7.6

岩田孝仁、静岡第一テレビ news every.しずおか、熱海市土石流の最新情報、2021.7.7

岩田孝仁、静岡第一テレビ news every.しずおか、搜索続く 土石流発生から6日目、2021.7.8

岩田孝仁、NHK総合 たっぷり静岡、専門家はどう見る 土石流災害、2021.7.9
岩田孝仁、静岡第一テレビ news every.しずおか、熱海市 土石流被害から7日目 最新情報、2021.7.9
岩田孝仁、NHK静岡 静岡県のニュース、熱海 土石流から1週間、2021.7.10
岩田孝仁、テレビ静岡 テレビ静岡防災特別番組、土石流災害 1週間 熱海はいま、2021.7.10
岩田孝仁、静岡第一テレビ news every.しずおか、熱海・土石流 住民が一時帰宅へ、2021.7.12
岩田孝仁、SBS テレビ ORANGE、現場で何が 検証 事前避難は可能だったのか、2021.7.16
岩田孝仁、SBS テレビ ORANGE、熱海土石流から1カ月、2021.8.2
岩田孝仁、SBS ラジオ (特) ラジオ防災スペシャル、With コロナ時代、想像力と防災対策、2021.9.5
岩田孝仁、静岡朝日テレビ とびっきり!しずおか、地震 東京で10年ぶりの震度5強 専門家が語る 静岡への教訓、2021.10.8
岩田孝仁、テレビ静岡 ただいま!テレビ、震度5強 県内にも注意点、2021.10.8
岩田孝仁、静岡第一テレビ news every.しずおか、関東で震度5強 深夜の地震 備えは…、2021.10.8
岩田孝仁、静岡第一テレビ 地震・防災チェック、地震対策 いま一度 チェックを!、2021.10.9
岩田孝仁、NHK総合 たっぷり静岡 防災ボイス、通電火災を起こさない、2021.10.19
岩田孝仁、テレビ静岡 ただいま!テレビ、直ちに噴火の兆候なし リスク確認と備えを、2021.10.20
岩田孝仁、NHK総合 たっぷり静岡、防災ボイス 命を守る 耐震診断・補強、2021.11.15
岩田孝仁、テレビ静岡 ただいま!テレビ、山梨・和歌山で震度5弱 専門家「巨大地震の兆候ない」、2021.12.3
岩田孝仁、静岡朝日テレビ とびっきり!しずおか、地震 相次いだ「5弱」で県内も揺れ富士山・南トラ影響なしも「備えを」、2021.12.3
岩田孝仁、静岡第一テレビ ストレイトニュース、静岡県内に津波注意報 御前崎で70センチなど津波を観測、2022.1.16
岩田孝仁、静岡第一テレビ news every.しずおか、深夜に出された津波注意報 専門家「避難路の再確認を」、2022.1.17
岩田孝仁、SBS テレビ ORANGE、阪神大震災27年 コロナ禍で訓練あり方は、2022.1.17
岩田孝仁、静岡第一テレビ 地震・防災チェック、深夜に出された津波注意報 専門家「避難路の再確認を」、2022.1.22
岩田孝仁、SBS ラジオ IPPO、深夜の時間帯の避難について、2022.2.3

岩田孝仁、テレビ静岡 ただいま！テレビ、避難所運営の主役は「住民」「やさしい」避難所めざし自治会が運営訓練 静岡市、2022.2.8

岩田孝仁、SBS テレビ ORANGE、発表寸前だった「南海トラフ地震臨時情報」とは、2022.2.10

岩田孝仁、NHK総合 たっぷり静岡、チェック！防災 コロナ禍でも防災訓練を！、2022.3.4

岩田孝仁、NHK総合 たっぷり静岡、防災ボイス 静岡では甚大な被害が想定、2022.3.7

岩田孝仁、NHK総合 たっぷり静岡、震災 11 年 南海トラフへ備える「わたしの避難計画」、2022.3.8

岩田孝仁、静岡第一テレビ news every.しずおか、「想像力発揮」が防災に対する意識向上に！ 静岡市で防災に関する講演会が開かれる、2022.3.14

岩田孝仁、静岡第一テレビ news every.しずおか、東北の地震で県内最大震度4 今すべき備えとは…、2022.3.17

岩田孝仁、静岡朝日テレビ とびっきり！しずおか、緊迫 宮城・福島で6強 県内でも震度4、2022.3.17

岩田孝仁、静岡第一テレビ 地震・防災チェック、東北で最大震度 6 強 必要な”備え”とは、2022.3.19

岩田孝仁、静岡朝日テレビ とびっきり！しずおか 土曜版、富士市で地震後に大規模停電、2022.3.19

岩田孝仁、NHK総合 たっぷり静岡、防災ボイス 自宅内で地震が起きたら、2022.3.29

狩野謙一、県境断層，追加調査を 破碎帯河床評価の可能性，南ア地質学者・狩野静大客員教授が視的リニア大井川水問題．静岡新聞，2020，07，03.

狩野謙一、<インタビュー特集> 南アルプスの地質，追加調査を 狩野謙一氏/静岡大防災総合センター客員教授 静岡新聞，2020，08，21

笠原順三、フジテレビ めざましテレビどようび 「最近の地震活動について」，2020 年 4 月 25 日.

笠原順三、フジテレビ めざましテレビ「最近の千葉周辺の地震活動について」，2020 年 5 月 6 日.

笠原順三、フジテレビ 直撃 Live グッディに出演「千葉県周辺の地震活動」，2020 年 5 月 6 日.

笠原順三、フジテレビ Live News it でコメント「千葉県周辺の地震活動」，2020 年 5 月 6 日.

笠原順三、フジテレビ めざましテレビ 最近の地震活動」，2020 年 5 月 20 日.

笠原順三、TBS 朝ちゃん 「飛騨の地震」，2020 年 5 月 20 日.

笠原順三、フジテレビ とくだね 「最近の地震」，2020 年 5 月 20 日.

笠原順三、TBS 「N スタ」 「最近の地震活動」，2020 年 5 月 20 日.

笠原順三,TBS 「あさチャン！」 「最近の地震」, 2020年6月3日.

笠原順三,TBS「あさチャン！」 「最近の関東周辺の地震活動について」,2020年6月10日.

笠原順三,フジテレビ 情報プレゼンター とくダネ!「千葉県沖の M6.1.の地震とその影響」, 2020年6月25日.

笠原順三,フジテレビ Live News It! 「千葉県沖の M6.1.の地震とその影響」, 2020年6月25日.

笠原順三,フジテレビ めざましテレビ 「千葉県沖の M6.1.の地震とその影響」, 2020年6月26日.

笠原順三,TBS 朝ちゃん 06:00-08:00「千葉県沖の M6.1.の地震とその影響」, 2020年6月26日.

笠原順三,フジテレビ めざましテレビどようび 「最近の地震活動について」, 2020年4月25日.

笠原順三,フジテレビ「情報プレゼンターとくダネ!」「トルコに地震について解説」, 2020年11月2日.

笠原順三,フジテレビ「Live News イット」「トルコの地震について解説」

笠原順三,フジテレビ 「とくダネ」 2020年11月22日夜の茨城県沖 M5.7の地震について, 2020年11月23日.

笠原順三,TBS あさチャン「青森沖の地震について」コメント, 2020年11月21日.

笠原順三,フジテレビ「情報プレゼンターとくダネ!」「青森沖の地震についてコメント」

笠原順三,フジテレビ めざましテレビ「地震発生確率が上昇」に Zoom でコメント, 2021年1月18日.

笠原順三,フジテレビ Mr.サンデー 福島地震について説明, 2021年2月14日.

笠原順三,フジテレビ めざましテレビ 「福島地震について」 コメント, 2021年2月15日.

笠原順三,フジテレビ とくダネ 「福島地震について」 出演解説

笠原順三,フジテレビ バイキング More 「福島地震について」 コメント

笠原順三,フジテレビ バイキング MORE 「宮城で震度5強」出演コメント, 2021/3/22.

笠原順三,フジテレビ めざまし8 「九州地震」コメント, 2021/4/12.

笠原順三,フジテレビ めざまし8 「メガマウス」コメント, 2021/6/17.

笠原順三,フジテレビ Live News イット コメント, 2021/9/9.

笠原順三,フジテレビ めざまし8 「石川 5弱地震」 コメント, 2021/9/17.

笠原順三,フジテレビ めざましテレビ 「ニュース、関東地震、震度5強」出演, 2021/10/8.

笠原順三,フジテレビ めざまし8 「地震」コメント

笠原順三,フジテレビ バイキング MORE 出演, 2021/10/8.

笠原順三,フジテレビ めざまし8 「地震」出演

笠原順三,テレビ朝日アベマヒルズ 「地震」コメント
笠原順三,フジテレビ めざまし8 「地震」出演, 2021/10/11.
笠原順三,フジテレビ めざまし8 「阿蘇山噴火」コメント, 2021/10/21.
笠原順三,フジテレビ めざまし8 「沖縄地震」コメント, 2021/11/1.
笠原順三,フジテレビ めざまし8 「都内地震」出演, 2021/11/22.
笠原順三,フジテレビ バイキングMORE 「深度5弱が続発」コメント, 2021/12/03.
笠原順三,フジテレビ めざまし8 「相次ぐ地震」出演
笠原順三,TBS まるっと!サタデー 「地震」コメント, 2021/12/4.
笠原順三,フジテレビ めざまし8 「相次ぐ地震」出演, 2021/12/6.
笠原順三,TBS The Time 「地震」コメント
笠原順三,TBS The Time [茨城県の地震における首都直下地震への影響について]コメント, 2021/12/13.
笠原順三,フジテレビ めざましテレビ 「ニュース地震関連」出演, 2021/12/13.
笠原順三,フジテレビ めざまし8 「地震」コメント, 2021/12/13.
笠原順三,フジテレビ めざましどようび 「宮崎で震度5強」コメント, 2022/1/22.
笠原順三,フジテレビ めざまし8 「福島沖で起きた地震」コメント, 2022/3/16.
笠原順三,フジテレビ バイキングMORE 「東北で地震」コメント
笠原順三,フジテレビ めざまし8 「福島沖の地震」出演, 2022/3/17.
笠原順三,フジテレビ めざましテレビ「福島で震度6強」出演
笠原順三,テレビ朝日 アベマヒルズ 「福島の地震」出演
笠原順三,フジテレビ めざましどようび 「東北で相次ぐ地震」コメント, 2022/3/19.
笠原順三,フジテレビ めざまし8 「地震」コメント, 2022/3/27.
笠原順三,講談社 Friday 6/26号「首都圏をおそう巨大地震発生へのカウントダウン」,
2020年6月12日発売.
笠原順三,フライデー 「巨大地震が日本列島を襲う」取材, 2021年5月21日号.
風間聡,支流と合流 蛇行部が増水, 山形新聞, 2020.8.2.
風間聡,報道ステーション, テレビ朝日, 2020.7.29.
風間聡,みどりのこえ, No.60, 長野県環境保全研究所, 2020.3.15.
木村浩之,読売新聞, 静岡大読売講座 地層に眠るメタン活用 「Zoom」で木村教授講演,
2020年11月22日.
木村浩之,読売新聞, 静岡大・読売講座 温泉地 メタンで発電, 2020年12月5日.
木村浩之,月刊エネルギーフォーラム, 川根温泉 温泉とともに湧出するガスを活用 コ
ージェネでホテルなどにエネ供給, 2021年2月1日.
木村浩之,電気新聞, 横河電機 メタン化技術事業化へ 微生物で効率的に, 2021年8月
23日.
木村浩之,静岡新聞, 掛川、菊川の新ゴミ処理施設 検討委に専門家6人, 2022年3月5

日.

木村浩之, 静岡新聞, 産廃に慎重意見 掛川と菊川の廃棄物処理施設 検討委初会合, 2022年3月22日.

木村浩之, 中日新聞, 新ごみ処理施設 方向性議論 掛川で検討委初会合 問題提起も, 2022年3月22日.

北村晃寿, 静岡新聞・朝刊 26p, 毎日新聞・朝刊 19p, 読売新聞・朝刊 23p. 熱海盛り土 小田原工業団地造成土か 2021年11月6日

北村晃寿, 静岡新聞・朝刊 28p 静岡平野 土中の含有元素分析. 2021年11月5日

北村晃寿, 静岡新聞・朝刊 23p 熱海土石流4カ月 盛り土「小田原」出どころか. 2021年11月4日

北村晃寿, 静岡新聞・朝刊 30p 崩落原因究明へ土石採取. 2021年9月4日

北村晃寿, 静岡新聞・朝刊 20p 硫黄濃度 環境上問題ない 熱海土石流 静岡大教授 分析公表. 2021年7月25日

北村晃寿, 朝日新聞・朝刊 25p 水含む盛り土と地形 要因か 静岡大・北村教授 土石流を調査. 2021年7月17日

北村晃寿, 読売新聞・朝刊 13p 熱海土石流 盛り土 水分で威力増 通常より高い割合. 2021年7月16日

北村晃寿, 静岡新聞・朝刊 26p 土石流に多くの水分. 2021年7月16日

北村晃寿, 中日新聞・朝刊 26p 土石流 高い含水率 30%超 高速で流下か. 2021年7月16日

北村晃寿, 毎日新聞・朝刊 30p 土石流盛り土水分過多. 2021年7月16日

北村晃寿, 静岡新聞・朝刊 1p 熱海土石流 崩落面に産廃露出か 残存盛り土には亀裂. 2021年7月13日

北村晃寿, 中日新聞・朝刊 24p 盛り土 不安現実に 火山岩 経年で崩れやすく 現地の土砂調査. 2021年7月5日

北村晃寿, 読売新聞・朝刊 24p 静岡大読売講座 地震と津波 地質学で解説 オンラインで北村教授. 2020年11月1日

北村晃寿, 日本経済新聞・朝刊 12p 海底地すべりで大津波発生. 2020年9月7日

北村晃寿, 岩手新聞・朝刊 19p 海底地滑りで被害増大 静岡大などチーム調査 駿河湾津波, 5千年で4回. 2020年9月7日

北村晃寿, 河北新聞・朝刊 4p 津波5000年で4回襲来 駿河湾 海底地すべりで被害増も. 2020年9月1日

北村晃寿, 中日新聞・朝刊 25p 海底地すべり被害増大 駿河湾 過去5000年で津波4回. 2020年9月1日

北村晃寿, 中日新聞・夕刊 1p 焼津沖 5000年で南海トラフ4回 海底地滑りで 津波被害拡大 静岡大など調査. 2020年8月31日

北村晃寿, 静岡新聞・夕刊 2p 永長東海地震で海底地滑りか 静大調査「津波、数秒で襲来も」。2020年8月31日

北村晃寿, 北海道新聞・夕刊 6p 海底地滑り津波被害増大 静岡大など調査 駿河湾1000年以降2回。2020年8月31日

北村晃寿, 読売新聞・夕刊 11p コロナ災害研究停滞 現地調査難しく。2020年7月22日

小山真人, 2020年4月18日, 朝日新聞静岡版 富士山(2) 宝永噴火 火山灰が積もり小山形成。

小山真人, 2020年4月23日, 静岡新聞 時評 新型コロナ「3密」回避 リスクの伝え方に問題。

小山真人, 2020年4月26日, 静岡新聞 解説・主張 富士山ハザードマップ 中間報告 影響範囲拡大 地域全体 今から対策を。

小山真人, 2020年7月1日, 静岡新聞 時評 チバニアンと静岡大 偉業生んだ二人の学者。

小山真人, 2020年8月27日, 静岡新聞 時評 静岡大学 東部に人材育成拠点 よみがえる「三余塾」。

小山真人, 2020年9月8日, 中日新聞 浜松・遠州版 浜名湖の歩み 生中継し探る オンラインジオツアー 児童と質疑 開催手応え。

小山真人, 2020年9月29日, 河北新報 原発漂流 エリートパニック(中) 国民軽視 情報遠ざける。

小山真人, 2020年10月28日, 静岡新聞 時評 ブラタモリ浜松こぼれ話 地域つくる人の出会い。

小山真人, 2020年12月23日, 伊豆新聞 2年生対象に大学教授らが講話 下田高で出張講義。

小山真人, 2020年12月24日, 静岡新聞 時評 社会変えた浜松での出会い 思い描いた未来を実現。

小山真人, 2021年3月3日, 静岡新聞 時評 高柳健次郎と金原明善 先駆者が生んだ先駆者。

小山真人, 2021年3月26日, 朝日新聞静岡版 遠州考 第136回 エピローグ 未来への道筋。

小山真人, 2021年3月26日, 中日新聞 富士山噴火マップを改定 駿河湾まで溶岩流想定 清水区、沼津市、清水町を追加。

小山真人, 2021年3月27日, 静岡新聞 富士山ハザードマップ 噴火のデパート 最新知見で分析 被災地域延伸 避難計画に活用へ。

小山真人, 2021年3月27日, 産経新聞 富士山溶岩流想定 国家的対策を 12市町、驚きと不安。

小山真人, 2021年3月28日, 静岡新聞 富士山 噴火への備え ハザードマップ改定(下) 噴出物対策 見直し急務 想定火口範囲拡大 住宅地に噴石も。

小山真人,2021年4月9日,東京新聞 富士山 富士山ハザードマップ改定 溶岩流と到達恐れ「想定外」 噴火5日後 避難に課題 最新の知見反映 細い谷間通じ遠くまで.

小山真人,2021年4月19日,静岡新聞 富士山 「噴火位置が重要」 ハザードマップ検討委の小山氏、改定ポイントを解説.

小山真人,2021年4月22日,静岡新聞 伊豆大島近海、11回地震発生 気象庁が注意呼び掛け.

小山真人,2021年5月12日,静岡新聞 時評 富士山ハザードマップ改定版 17年間の研究成果 結集.

小山真人,2021年6月5日,静岡新聞 富士山噴火警戒レベル基準公表 地元自治体歓迎、判定根拠「明確」に ■判断の信頼性、限界分かる 静岡大防災総合センター教授 小山真人氏(火山学).

小山真人,2021年7月8日,静岡新聞 時評 富士山ハザードマップの効用 あくまでも避難の目安.

小山真人,2021年7月8日,THE PAGE 崩れたのは人為的に埋めた部分だけ 熱海土石流 静岡大教授・現地調査 .

小山真人,2021年7月9日,毎日新聞 静岡・熱海土石流 不安定な盛り土、2万立方メートル残る 専門家推計.

小山真人,2021年7月9日,毎日新聞 「持ち込まれた土砂だ」 雨量、地形も悪条件重なる 熱海土石流.

小山真人,2021年7月9日,しんぶん赤旗 埋土・盛り土が崩落 熱海土石流 火山学者、再流出警告.

小山真人,2021年7月10日,毎日新聞 熱海土石流 雨の排水 機能不全か.

小山真人,2021年7月10日,南日本新聞 社説 [熱海土石流] 安全優先し救助活動を.

小山真人,2021年7月10日,中日新聞 熱海土石流1週間 時速30キロ?盛り土崩落.

小山真人,2021年7月11日,読売新聞 「どこを捜せばいいんだ」 深い泥・険しい地形・重機使えず…熱海土石流[スキヤナー].

小山真人,2021年8月26日,News Digest 【詳報】「想定外の超弩級プリニー式噴火」 福徳岡ノ場、専門家語る(衛星写真あり).

小山真人,2021年9月2日,静岡新聞 時評 熱海土石流 関係機関の対応 リスク管理 情報共有を.

小山真人,2021年9月4日,News Digest 徳岡ノ場の新島 一部消滅も「火山活動は依然盛ん」と専門家.

小山真人,2021年10月6日,News Digest 【続報】「福徳岡ノ場」 火山活動衰えか 「島小さく」と専門家.

小山真人,2021年10月17日,中日新聞 原発事故とコロナ、政府対応に共通点.

小山真人,2021年10月30日,静岡新聞 伊東・大室山内部 宇宙線で透視 世界初 火山

を全方向解析 マグマの動きを可視化 静大・小山教授ら.

小山真人,2021年11月3日, 静岡新聞 時評 伊豆大室山の内部構造 宇宙線での透視に成功.

小山真人,2021年11月21日, 中日新聞 軽石、愛知や三重でも警戒 専門家「伊勢湾近海に漂流あり得る」.

小山真人,2021年12月3日, 静岡新聞 南伊豆で軽石漂着 確認 漁船など航行 支障なし.

小山真人,2022年1月6日, 静岡新聞 時評 福岡ノ場噴火の軽石 春以降の大量漂着懸念.

小山真人,2022年1月16日, 伊豆新聞 伊豆の低山を歩く ジオてくの楽しみ 狩野城跡 青埴神社 月見山 中世山城の遺構残る 近くの山に噴火口跡?.

小山真人,2022年1月17日, 静岡新聞 小山真人静岡大教授談話「噴火収まるまで津波警戒を」 トンガ沖海底火山.

小山真人,2022年1月19日, 朝日新聞 トンガ噴火、冷夏など気候影響は限定的か 二酸化硫黄の放出少なく.

小山真人,2022年1月26日, 毎日新聞 トンガ噴火は気候を変えるのか 「20世紀最大」の事例と比べると….

小山真人,2022年1月31日, 中日新聞 空海も見た? 堆積層 浜松・館山寺のチャート海岸.

小山真人,2022年2月1日, 静岡新聞 トンガ沖・火山噴火で見解 マグマと海水作用、異例規模か 静大・小山教授「適切な分類難しい」.

小山真人,2022年2月27日, しんぶん赤旗日曜版 書評：噴火した！荒牧重雄著 研究や現場の年代別証言.

小山真人,2022年3月3日, 静岡新聞 時評 伊豆東部火山群の海底噴火 津波対策見直し 真剣に.

小山真人,2022年3月24日, 読売新聞 夕刊 みんなのカガク 火山内部を立体画像化 素粒子「ミューオン」観測で.

小山真人,2022年3月29日, 伊豆新聞 伊豆半島ジオ協を統合 美伊豆 1日から新体制 ジオパーク経済効果高く.

小山真人,2022年3月29日, 静岡新聞 統合の関連議案承認 ジオ推進協と美しい伊豆.

小山真人,2020年4月1日 SBS テレビ イブアイしずおか 防災最前線 静岡の自然災害 専門家が最新研究を一冊に.

小山真人,2020年5月5日 TBS テレビ マツコの知らない世界 風間俊介が再び熱弁! 東京ディズニーリゾートの世界!.

小山真人,2020年5月23日 NHK総合 プラタモリ 「富士山スペシャル」.

小山真人,2020年5月27日 SBS テレビ ORANGE 防災最前線 火砕流が市街地へ…

富士山が噴火したら？.

小山真人,2021年3月26日 NHK総合 たっぷり静岡 富士山ハザードマップ改定.

小山真人,2021年3月29日 静岡第一テレビ ニュースエブリィ静岡 富士山ハザードマップ改定.

小山真人,2021年4月12日 SBSテレビ ORANGE 富士山は噴火するの？.

小山真人,2021年5月 NHK総合 たっぷり静岡 防災ボイス ハザードマップで知る噴火の危険を知る.

小山真人,2021年5月 NHK総合 たっぷり静岡 防災ボイス 噴火警戒レベルを避難に生かす.

小山真人,2021年7月13日 SBSテレビ ORANGE 熱海土石流続報.

小山真人,2021年7月19日 静岡第一テレビ ニュースエブリィ静岡 専門家が指摘する土石流の"特異性".

小山真人,2021年8月29日 NHK総合 サイエンスZERO 「富士山 噴火の歴史を読み解け」.

小山真人,2021年10月29日 TBSテレビ Nスタ 「福徳岡ノ場”超ド級の噴火”」.

小山真人,2021年10月29日 テレビ静岡 ただいま！テレビ 防災コーナー 海に漂う大量軽石 静岡・関東に到達したら影響は 火山専門家に聞く.

小山真人,2021年11月5日 文化放送ラジオ 『斉藤一美ニュースワイドSAKIDORI』 福徳岡ノ場火山起源の浮遊軽石.

小山真人,2021年11月5日 テレビ静岡 ただいま！テレビ 防災コーナー いま噴火の可能性は 富士山と伊豆東部火山群 阿蘇山の水蒸気噴火とマグマ噴火は違う？.

小山真人,2021年11月12日 静岡第一テレビ ニュースエブリィ静岡 福徳岡ノ場軽石関連ニュース.

小山真人,2022年1月17日 静岡第一テレビ ニュースエブリィ静岡 トンガ周辺の大規模噴火 南海トラフへの影響は？.

小山真人,2022年1月18日 SBSラジオ Up-to-date News トンガ沖海底火山噴火 今後の展開は？.

小山真人,2022年1月21日 テレビ静岡 ただいま！テレビ 防災コーナー 伊豆にも？ 火山津波.

小山真人,2022年3月11日 SBSテレビ ORANGE 富士山どこから噴火？.

小山真人,2022年3月30日 NHK総合 たっぷり静岡 富士山噴火想定 新避難計画の中間報告で避難必要者は7倍に.

三井雄太, 日本経済新聞, 地表の変化から地震考察, 2021/6/8.

三井雄太, 静岡新聞, 科学者の本棚「巨大地震の科学と防災」, 2021/4/5.

三井雄太, 朝日新聞, 巨大地震と噴火 関係ある？ 乏しいデータかき集め防災に, 2020/7/4.

宮原正明, 大谷栄治, スジョイゴーシュ, Science Portal, 謎の鉱物ブリッジマナイト 隕石から探すマンツルの鉱物と地球史, 2022.05.30.

森下祐一, 静岡新聞 朝刊 P4 県内政治 [大井川とリニア] 生物多様性部会 平均値試算を問題視, 2022.3.25 (金)

森下祐一, 中日新聞 朝刊 P12 県内 [考えるリニア着工] 生物多様性 より適切な保全策を 県専門部会 委員から注文相次ぐ, 2022.3.25 (金)

森下祐一, 毎日新聞 朝刊 P25 静岡 [リニアの行方] 県専門部会・JR 資料に 「個々の沢に注目」 評価, 2022.3.25 (金)

森下祐一, 静岡新聞 朝刊 P4 県内政治 大井川とリニア 国交省専門家会議 第 13 回議事概要, 2022.3.11 (金)

森下祐一, 静岡朝日テレビ とびっきり! しずおか 議論 国の「中間報告」受け課題など共有 大井川の水問題で県・流域市町, 2022.1.20 (木)

森下祐一, 18:10~19:00 NHK総合 たっぷり静岡 リニア中間報告受けて 県 利水者らと意見交換, 2022.1.20 (木)

森下祐一, 静岡新聞 朝刊 P4 県内政治 [大井川とリニア]利水関係協議会 県庁で 20 日開催, 2022.1.14 (金)

森下祐一, 静岡新聞 朝刊 P4 県内政治 [大井川とリニア] 国交省中間報告 反映されない意見 他にも, 2022.1.6 (木)

森下祐一, 静岡新聞 朝刊 P1 [大井川とリニア]国交省の中間報告 会議内の議論 複数反映せず, 2021.12.30 (木)

森下祐一, 静岡新聞 朝刊 P1 県「流量予測認識に相違」 見解発表 JRの「理解」 解釈にくぎ, 2021.12.22 (水)

森下祐一, 静岡新聞 朝刊 P26 社会 [大井川とリニア] 知事 中間報告で「前進」国交省会議, 2021.12.21(火)

森下祐一, 静岡新聞 朝刊 P1 第 8 章 大井川とリニア▪36 流域の理解は得られるか 着工是非 誰がどう判断 ⑤完 科学的議論に限界, 2021.12.19 (日)

森下祐一, 静岡新聞 朝刊 P1 第 8 章 大井川とリニア▪35 流域の理解は得られるか 肝心の議論不十分の声 ④指導役の国交省会議, 2021.12.17(金)

森下祐一, 静岡新聞 朝刊 P4 県内政治 [大井川とリニア] 国交省専門家会議 第 12 回議事概要 森下祐一氏 中間報告客観的事実を, 2021.12.14 (火)

森下祐一, 毎日新聞 朝刊 P19 静岡 [リニアの行方] 住民説明会を開きたい JR「地元理解」へ始動, 2021.9.28 (火)

森下祐一, 毎日新聞 朝刊 P26 静岡 [リニアの行方] 県有識者会議 座長方針 中間報告を次回策定, 2021.9.27 (月)

森下祐一, 静岡朝日テレビ (Yahoo!ニュース) 静岡県副知事「かなり驚いた」…リニアめぐる国の会議の中間報告案に「地下水への影響は極めて小さい」, 2021.9.22 (水)

森下祐一，静岡新聞 朝刊 P4 県内政治[大井川とリニア] 国交省専門家会議 第11回
議事概要 流域全体の評価必要, 2021.8.21 (土)

森下祐一，静岡新聞 朝刊 P4 県内政治 大井川とリニア 国交省専門家会議 第10回
議事概要 影響を見過ごす可能性, 2021.7.2 (金)

森下祐一，静岡新聞 朝刊 P4 県内政治 [大井川とリニア] 国交省専門家会議 第9回
議事概要 重要な部分 拾い上げて, 2021.4.22 (木)

森下祐一，中日新聞 朝刊 P30 社会 [考えるリニア着工]静岡市の方法で解析 JR なお
「流量影響小さい」, 2021.4.18 (日)

森下祐一，静岡新聞 朝刊 P1 [大井川とリニア] 少雨時予測せず「流量維持」 国交省
会議中間報告案 県「正確性欠く」, 2021.4.18 (日)

森下祐一，静岡新聞 朝刊 P26 社会 [大井川とリニア] 突発湧水 1回で13万トン J
R、青函トンネル参考, 2021.4.18 (日)

森下祐一，静岡新聞 朝刊 P1 [大井川とリニア] 国交省 議事録を改変 座長発言 説
明せず大幅に, 2021.4.7 (水)

森下祐一，静岡新聞 朝刊 P29 社会, [大井川とリニア] 国交省専門家会議 議論ま
とめへ JRデータ不足 足かせ, 2021.4.2 (金)

森下祐一，静岡新聞 朝刊 P1 [大井川とリニア] 「環境影響JR検討不十分」 県有
識者会議 流量予測を先に, 2021.3.30 (火)

森下祐一，東洋経済 ONLINE 静岡リニア「水全量戻し」にこだわる知事の打算,
2021.3.29 (月)

森下祐一，中日新聞 朝刊 P14 県内 [考えるリニア着工]水資源への影響「解決遠い」
国交省・有識者会議 委員ら注文, 2021.3.23 (火)

森下祐一，静岡新聞 朝刊 P1 [大井川とリニア] 検証・国交省専門家会議 まとめ巡
り混乱を露呈, 2021.3.22 (月)

森下祐一，静岡新聞 朝刊 P4 県内政治 [大井川とリニア] 国交省専門家会議 第8回
議事概要 渇水期の検討 最重要, 2021.3.19(金)

森下祐一，静岡新聞 朝刊 P4 県内政治 [大井川とリニア] 座長の流域説明 疑問視
県理事「会議 JRを指導する目的」, 2021.3.10 (水)

森下祐一，静岡新聞 朝刊 P1 [大井川とリニア] 中下流域も減水可能性 国交省専門
家会議, 2021.3.1 (月)

森下祐一，静岡新聞 朝刊 P24 社会 [大井川とリニア] 影響への対処 一定評価,
2021.3.1 (月)

森下祐一，中日新聞 朝刊 P1[考えるリニア着工]「県外流出分の水戻す」有識者会議 議
論まとめに異論も, 2021.3.1 (月)

森下祐一，中日新聞 朝刊 P10 県内 [考えるリニア着工]「リスク管理に有効」有識
者会議 リスクと対策, 2021.3.1 (月)

森下祐一，静岡新聞 朝刊 P24 社会 [大井川とリニア] 湧水量 J R 説明に矛盾，
2021.2.16 (火)

森下祐一，中日新聞 朝刊 P14 県内 [考えるリニア着工] | 段階踏んだ会議進行を，
2021.2.16 (火)

森下祐一，毎日新聞 朝刊 P23 静岡 [リニアの行方] 「J R 解析、精度に限界」 県専
門部会 湧水流出回避に課題，2021.2.16 (火)

森下祐一，16:45～19:00 テレビ静岡 ただいま！テレビ 知事や委員 市民からも「座
長コメントに」怒りの声，2021.2.16 (火)

森下祐一，静岡新聞 夕刊 P3 社会 [大井川とリニア] 国交省会議の座長談話 県専
門部会「正当性に疑問」，2021.2.15 (月)

森下祐一，18:10～19:00 NHK総合 たっぷり静岡 リニア 国の専門家会議総括受
け 県”湧水の県外回避など議論を”，2021.2.15 (月)

森下祐一，中日新聞 朝刊 P28 社会 [考えるリニア着工] 県「流量維持 撤回を」
座長コメント巡り見解，2021.2.10 (水)

森下祐一，静岡新聞 朝刊 P4 県内政治 トンネル湧水県外流出 「流量維持と認め
ず」，2021.2.9 (火)

森下祐一，静岡新聞 朝刊 P1 [大井川とリニア] 「影響なし断言できず」 トンネル湧水
県外流出 国交省専門家会議，2021.2.8 (月)

森下祐一，静岡新聞 朝刊 P23 社会 [大井川とリニア] 「渇水期の流量予測を」 国交
省専門家会議 委員の指摘相次ぐ，2021.2.8 (月)

森下祐一，中日新聞 朝刊 P8 県内 [考えるリニア着工] 流量維持に疑問の声 有識者
会議「断層を過小評価」，2021.2.8 (月)

森下祐一，静岡朝日テレビ (Yahoo!ニュース) JR 東海「大井川の水は維持される」に…
静岡県反発「納得できない」，2021.2.8 (月)

森下祐一，静岡新聞 朝刊 P4 県内政治 [大井川とリニア] 地質の詳細な把握必要，
2021.1.19(火)

森下祐一，静岡新聞 朝刊 P4 県内政治 [大井川とリニア] 流量予測データ不足課題，
2021.1.16(土)

森下祐一，静岡新聞 朝刊 P21 [特集]大井川とリニア 国交省専門家会議を解説，
2021.1.1 (金)

森下祐一，中日新聞 朝刊 P12 県内 [考えるリニア着工] リスク議論後回し 国交省
有識者会議 県、不信感募らせ，2020.12.10 (木)

森下祐一，静岡新聞 朝刊 P4 県内政治 [大井川とリニア] 国交省専門家会議 第 6
回議事概要，2020.12.4 (金)

森下祐一，静岡新聞 朝刊 P4 県内政治 [大井川とリニア] 大量湧水止める工法 限
界，2020.11.28 (土)

森下祐一, 静岡新聞 朝刊 P4 県内政治 田代ダム「当てにせずに」 水量確保で委員が「くぎ」, 2020.11.28 (土)

森下祐一, 静岡放送 SBS (Yahoo!ニュース) リニア工事めぐり静岡県が地元の利水者らと情報共有, 2020.11.28(土)

森下祐一, 中日新聞 朝刊 P12 県内 [考えるリニア着工] 河川流量維持 議論本格化へ 国交省 有識者会議, 2020.10.29(木)

森下祐一, 静岡新聞 朝刊 P4 県内総合 [大井川とリニア] 中下流域の地下水 前提付きで トンネル掘削 影響「極小」?, 2020.10.29 (木)

森下祐一, 静岡朝日テレビ (Yahoo!ニュース) リニア有識者会議で 「中下流域の地下水に影響軽微」と静岡県, 2020.10.28(水)

森下祐一, 静岡新聞 朝刊 P4 県内政治 [大井川とリニア] 国交省専門家会議第5回 議事概要 切断図は誤解招く表現, 2020.9.18(金)

森下祐一, News Picks web 【解説】知らないではすまされない、リニアの「水資源問題」 <https://newspicks.com/news/5260925/body/>, 2020.9.30(水)

森下祐一, 中日新聞 朝刊 P10 県内 [考えるリニア着工]「水収支解析」議題上からず 国交省の有識者会議, 2020.8.27 (木)

森下祐一, 18:15~19:00 静岡朝日テレビ とびっきり!しずおか リニア 「中下流域問題なし」地下水の影響を議論, 2020.8.26 (水)

森下祐一, 静岡新聞 朝刊 P1 [大井川とリニア] JRがボーリング調査 新資料 「大井川直下」は示さず 国交省専門家会議, 2020.8.26(水)

森下祐一, テレビ静岡 NEWS (Yahoo!ニュース) リニア・国の有識者会議 JRの“流量予測”を県が批判「信頼性は?」, 2020.8.26 (水)

森下祐一, 静岡新聞 朝刊 P1 [大井川とリニア] 検証 国交省専門家会議 「影響軽微」は地下水?表流水?, 2020.8.13(木)

森下祐一, 静岡新聞 朝刊 P4 県内政治 [大井川とリニア] 国交省専門家会議 第4回議事概要 新しい解析、データ提示を, 2020.8.7 (金)

森下祐一, 静岡新聞 朝刊 P4 県内政治 [大井川とリニア] 国の会議データ不足 運営問題視、改善提案へ, 2020.8.6(木)

森下祐一, 東洋経済 ONLINE リニア「JR 東海 vs 静岡」、わずかに和解の兆し?, 2020.8.3(月)

森下祐一, 毎日新聞 朝刊 P27 静岡 リニア県専門部会 JR流量予測「精度低い」地下水位変化評価「不適切」, 2020.8.1 (土)

森下祐一, 静岡新聞 朝刊 P4 県内政治 [大井川とリニア] 県有識者会議 JRと国交省に不満噴出 「検討不十分」「議論公開を」, 2020.8.1(土)

森下祐一, 中日新聞 朝刊 P14 県内 [考えるリニア着工] 地下水位試算 根拠ない/生態系への影響 高山地帯にも 有識者会議、各委員発言, 2020.8.1 (土)

森下祐一，毎日新聞 朝刊 P27 静岡 リニア県専門部会 JR流量予測「精度低い」
地下水位変化評価「不適切」，2020.8.1（土）

森下祐一，中日新聞 朝刊 P14 県内 [考えるリニア着工] 地下水位試算 根拠ない
／生態系への影響 高山地帯にも 有識者会議、各委員発言，2020.8.1（土）

森下祐一，静岡新聞 夕刊 P1 [大井川とリニア]「工事影響 方向性これから」 国会
議の内容報告，2020.7.31(金)

森下祐一，18：10～19：00 NHK総合 たっぷり静岡 リニア 県の専門家会議 生態
系への影響懸念，2020.7.31(金)

森下祐一，18：15～18：57 SBSテレビ ORANGE 県の委員「データ不十分」 リニ
ア 国の議論と温度差，2020.7.31(金)

森下祐一，静岡朝日テレビ (Yahoo!ニュース) web 「JR 東海のデータは不十分」 静
岡県専門部会で指摘相次ぐ リニア問題で，2020.7.31(金)

森下祐一，静岡新聞 朝刊 P4 県内政治 国交省会議の議論 検証へ有識者会議 31
日に開催，2020.7.23(木)

森下祐一，静岡新聞 朝刊 P1 [大井川とリニア] 現時点での方向性「乱暴」 知事、
国交省会議を批判，2020.7.22(水)

森下祐一，朝日新聞 朝刊 P23 静岡 水資源の議論山場 自民党に知事説明 リニア
めぐり 22日に，2020.7.20（月）

森下祐一，静岡新聞 朝刊 P1 [大井川とリニア] 座長「下流影響軽微で一致」 国交省
専門家会議 本県側委員は異論，2020.7.17（金）

森下祐一，中日新聞 朝刊 P10 県内 [考えるリニア着工] 中下流域の地下水議論
第4回有識者会議 JR、新資料提示，2020.7.17（金）

森下祐一，静岡放送 (SBS) (Yahoo!ニュース) web リニア問題で流城市町 一枚岩で
国交省の説明を【解説付き】(静岡県)，2020.7.17(金)

森下祐一，18:15～19:00 静岡第一テレビ news every.しずおか リニア問題 水の専
門家が議論 中下流域の影響 コントロールの範囲，2020.7.16(木)

森下祐一，テレビ静岡 NEWS (Yahoo! ニュース) web リニア 注目の有識者会議 地
下水の影響は？，2020.7.16(木)

森下祐一，静岡朝日テレビ (Yahoo!ニュース) web 水問題を議論 1カ月半ぶりに国の
有識者会議 リニア問題で，2020.7.16(木)

森下祐一，静岡新聞 朝刊 P4 県内政治 【大井川とリニア】 国交省専門家会議 第
3回議事概要，2020.6.20(土)

森下祐一，毎日新聞 朝刊 P19 静岡 リニア問題 JR が影響回避案 大井川流量減
薬液注入、湧水制御，2020.6.4（木）

森下祐一，静岡新聞 朝刊 P24 社会 [大井川とリニア] 国交省専門家会議 データ
不足 JRに指摘，2020.6.3(水)

森下祐一, 中日新聞 朝刊 P24 社会 [考えるリニア着工] 有識者会議委員の主な
発言, 2020.6.3 (水)

森下祐一, 18:15~18:57 SBS テレビ ORANGE リニア有識者会議「住民が分かる
説明を」, 2020.6.3(水)

森下祐一, 静岡朝日テレビ (Yahoo!ニュース) リニア協議が難航する最大の原因「大井川
の水問題」本格的に議論始まる 静岡県, 2020.6.3 (水)

森下祐一, 静岡新聞 朝刊 P4 県内政治 [大井川とリニア] 国交省専門家会議 第2
回議事概要, 2020.5.29 (金)

森下祐一, 18:15~18:57 SBS テレビ ORANGE リニア新幹線工事 大井川の水め
ぐる議論の行方, 2020.5.29(金)

森下祐一, 静岡新聞 朝刊 P4 県内政治 [大井川とリニア] 国交省専門家会議 第1
回議事概要 「生データ記載がない」, 2020.5.27 (水)

森下祐一, 18:15~19:00 静岡第一テレビ news every.しずおか リニア新幹線 トッ
プ会談実現は…川勝知事「前向きに検討する」, 2020.5.27(水)

森下祐一, 18:15~18:57 SBS テレビ ORANGE JR 東海社長が発言撤回 知事「実
に誠実」, 2020.5.27(水)

森下祐一, 中日新聞 朝刊 P26 社会 「考えるリニア着工」 有識者会議 JR に注文
相次ぐ, 2020.5.16 (土)

森下祐一, 18:15~18:57 SBS テレビ ORANGE リニア発言の注意受け JR 東海
社長「真摯に解決」, 2020.5.15 (金)

森下祐一, 毎日新聞 朝刊 P19 静岡 [リニア有識者会議] 初会合で違い鮮明,
2020.4.29 (水)

森下祐一, 静岡新聞 朝刊 P1 [大井川とリニア] 国交省専門家会議が初会合 JR、
従来主張繰り返す, 2020.4.28(火)

森下祐一, 毎日新聞 朝刊 P19 静岡 有識者会議が初会合 リニア問題 知事、中立
性を注視, 2020.4.28 (火)

森下祐一, 中日新聞 朝刊 P26 社会 [考えるリニア着工] JR 社長 委員の共感得ら
れず, 2020.4.28 (火)

森下祐一, 18:15~19:00 静岡第一テレビ news every.しずおか リニア問題 初の有
識者会議 県「JR 東海 被害者意識だ」, 2020.4.28(火)

森下祐一, 18:10~19:00 NHK総合 たっぷり静岡 リニア 専門家会議 川の水量
など議論へ, 2020.4.28(火)

森下祐一, 静岡新聞 朝刊 P4 県内政治 [大井川とリニア] 専門家会議 27 日初会合
利水団体の参加 認めず 国交省, 2020.4.25(土)

森下祐一, 中日新聞 朝刊 P24 社会 【考えるリニア着工】 県提案2候補 国交省却
下 有識者会議、知事「再考を」, 2020.4.17(金)

森下祐一，毎日新聞 朝刊 P19 静岡 【リニア問題】 有識者会議委員に7氏 国交省 県推薦2氏採用せず，2020.4.17(金)

森下祐一，朝日新聞 朝刊 P19 静岡 リニア有識者会議 県推薦受け入れず 国交省 県反対の候補は撤回，2020.4.17(金)

森下祐一，静岡新聞 夕刊 P1 【大井川とリニア】 県推薦委員は選定せず 国交省専門家会議 今月下旬に第1回，2020.4.16(木)

村越真「コロナで増加！低い山での遭難」2021.5.10NHK 朝イチ『解放感抜群！新緑の山を安全に楽しむ』.

村越真「静岡大読売講座 第1回 身近なリスク適切に対応 村越教授 南極観測隊員を例に紹介」. 2021.6.5 (土) 読売新聞朝刊

村越真「静岡大学が公開講座 遊びと安全 両立学ぶ」. 2021.6.10(木) 静岡新聞朝刊

中川和之，ラジオ日本「岩瀬恵子のスマートNEWS」防災教育と災害伝承の日、災害・防災・平時のときのメディアの動きは？,2022年3月11日

中川和之,中日新聞<備える> 特別編 防災・減災への新聞社の取り組み・役割,2021年12月6日

中川和之，ラジオ日本「岩瀬恵子のスマートNEWS」関東大震災から98年、今年の夏の豪雨」,2021年9月3日

中川和之,ラジオ日本「岩瀬恵子のスマートNEWS」東日本大震災から10年、福島第一原発周辺のいま,2021年3月3日

大谷栄治，宮原正明，日本経済新聞「広島大・東北大など、隕石から地球のマントルを構成する超高压鉱物「ブリッジマナイト」を発見」2021.09.28.

佐藤比呂志:東大地震研 津軽半島の地殻調査，NHK 青森放送局，2020年6月30日.

佐藤比呂志:東大地震研 津軽半島の地殻調査，青森放送，2020年6月30日.

佐藤比呂志:東奥日報_津軽平野で断層探る 東大地震研が防災に生かす，東奥日報，2020年7月1日.

佐藤比呂志:巨大地震対策で研究成果を共有，NHK 北海道，2020年10月22日.

佐藤比呂志:津波想定し復興計画を 専門家 巨大地震の備え講演，北海道新聞，2020年10月22日.

佐藤比呂志：“日本海側の津波は到達早い”，NHK 富山，2020年11月4日.

佐藤比呂志:富山で地震・津波 その備えは，日テレ NEWS24 (北日本放送)，2020年11月4日.

佐藤比呂志:地震被害軽減には「家具固定」と「耐震補強」 専門家が強調，チューリップテレビ，2020年11月4日.

佐藤比呂志:日本海側の地震 事前の備え大切 防災フォーラム，北日本新聞，2020年11月4日.

佐藤比呂志:地震・津波防災 専門家ら講演 県庁で研究会，朝日新聞，2021年1月28日.

佐藤比呂志:「3.11 前の東北に類似」「継続的な沈降」「内陸地震の頻発」, 十勝毎日新聞社, 2021年3月10日.

佐藤比呂志:「3.11 前の東北に類似」東大教授【北海道】, 十勝毎日新聞社, 2021年3月10日.

佐藤比呂志:南海トラフ地震の「現実的シナリオ」、巨大地震のあと誘発地震が数年後まで多発, ダイヤモンド・オンライン, 2021年3月11日.

佐藤比呂志:日本海側 地震直後に津波到達する「海陸断層」が多数存在, NHK ニュースウォッチ9, 2021年3月12日.

佐藤比呂志:日本海側の津波リスク 過去に広範囲で繰り返し到達の痕跡, NHK おはよう日本, 2021年3月13日.

佐藤比呂志:日本海側の津波履歴 明らかに, NHK 北海道のニュース, 2021年3月13日.

佐藤比呂志:新たに見いだされた津軽平野西縁断層, NHK 青森, 2021年6月3日.

佐藤 健・定池祐季:新聞(全国紙)・産経新聞, 「津波来る」深夜の避難 あの日の記憶 宮城・福島震度6強, 2021.3.17.

佐藤 健:テレビ(宮城県内版)・仙台放送 Live News it! , 「今、災害が起きたら」, 2020.4.17.

佐藤 健:テレビ(宮城県内版)・東北放送, 「児童が水害の避難場所を学習」, 2021.7.15.

佐藤 健:テレビ(宮城県内版)・東北放送, 「大川小学校の津波裁判教訓に 防災アドバイザー派遣」, 2021.7.8.

佐藤 健:テレビ(全国版)・NHK NEWS おはよう日本, 「誰もが安心できる避難所へ 東日本大震災女性たちの願い」, 2021.3.2.

佐藤 健:ラジオ(地方版)・NHK 仙台第1 ゴジだっちゃ!, 「『防災研究最前線』町内会の防災力とは」, 2020.4.14.

佐藤 健:新聞(地方紙)・河北新報, 「学校防災 地域と連携」, 2022.1.21.

佐藤 健:新聞(地方紙)・河北新報, 「学校防災とは」, 2021.7.30.

佐藤 健:新聞(地方紙)・河北新報, 「学校防災の在り方を考えよう」, 2021.7.29.

佐藤 健:新聞(地方紙)・河北新報, 「県の学校防災アドバイザー 大谷地小が活用 安全確立へ」, 2021.7.15.

佐藤 健:新聞(地方紙)・河北新報, 「県民への説明分かりやすく 行政評価委、県に要求」, 2020.8.5.

佐藤 健:新聞(地方紙)・河北新報, 「石巻市学校防災推進会議 命を守る決意新たに 対応能力向上にも注力」, 2021.11.4.

佐藤 健:新聞(地方紙)・河北新報, 「石巻市学校防災推進会議 命を守る決意新たに「提言」具現化へ」, 2020.5.20.

佐藤 健:新聞(地方紙)・河北新報, 「石巻市復興・防災マップコンクール 最高賞に北上小4年」, 2022.1.20.

佐藤 健:新聞(地方紙)・河北新報, 「多賀城で防災担い手養成研修会」, 2021.12.30.

佐藤 健：新聞（地方紙）・河北新報，「多様な地域防災 取り組み一冊に」，2021.5.24.

佐藤 健：新聞（地方紙）・河北新報，「大谷地小6年生 専門家招き防災学習」，2021.12.9.

佐藤 健：新聞（地方紙）・山陰中央新報，「地域防災リーダー養成を」，2020.3.11.

佐藤 健：新聞（地方紙）・筑波大学新聞，「東日本大震災から10年 特集筑波大はいま 基礎研究と防災教育で貢献を」，2021.2.1.

武村雅之、ケーブルTV KATCH、東海の肖像、想定外に備えて 過去災害に見るリスクの正体、2021年10月22日

武村雅之、CBCテレビ チャント！、災と Seeing^⑦関東大震災と名古屋、2021年12月3日

武村雅之、NHK ラジオ第一、N ラジ トピック、『関東大震災の記録映画ネット公開 当時の映像から教訓をさぐる』、2021年9月17日

武村雅之、メディアスエフエム、くらしと防災チャンネル、地震学者に聞く！歴史に学ぶ防災、2021年11月18日

武村雅之、メディアスエフエム、くらしと防災チャンネル、帝都復興計画から学ぶ防災の心、2022年3月11日

武村雅之、読売新聞（愛知版）、戦後76年 戦中の地震真相探る、中島飛行機史実見直し、2021年8月17日

武村雅之、朝日新聞 DIJITAL、列車に迫る土石流の脅威、大雨だけでなく突然の地震でも、98年前の悲劇 トンネルで助かった客車も、2021年8月21日

武村雅之、建設通信新聞、9月1日は防災の日自然の脅威に、経済優先の開発計画に警鐘、2021年9月1日

武村雅之、朝日新聞夕刊、関東大震災98年 きょう防災の日、復興の歴史 今こそ知って、2021年9月1日

武村雅之、朝日新聞、土砂災害鉄道の安全は、熱海では高架下を・・・各社、対策を見直し、2021年9月3日

武村雅之、中日新聞、災と Seeing、避難者の受け入れ「共助」の証し、2021年12月6日

牛山素行、台風19号の政府検証報告書 牛山素行教授に聞く 避難 日頃からよく考えて、信濃毎日新聞、2020年4月1日

牛山素行、■アングル2020 災害犠牲者 情報公表を 迅速救助や検証に必要な 県は原則「家族の同意」、高知新聞、2020年4月4日

牛山素行、どこへ どう逃げる？ 水害時の避難、NHK テレビ「あさいち」、2020年4月22日

牛山素行、「緊急地震速報 記録的短期間大雨情報が相次ぐ。新型コロナウイルスが広がる 中 これからの自然災害への備えは？、TBS ラジオ「荻上チキ・Session-22」、2020年5月7日

牛山素行、(災害大国 いのちを守る) 豪雨 早めの行動がカギ、朝日新聞、2020年5月25日

日

牛山素行,匿名増 ネットに萎縮? 被災者情報公表 自治体 拡散に苦慮 識者「家族同意の根拠曖昧」,西日本新聞,2020年5月25日

牛山素行,時評=コロナ禍 災害対応 避難所以外の選択肢も,静岡新聞,2020年6月3日

牛山素行,避難所不足 感染対策で 多摩川浸水域の住民 受け入れ可能は2割程度,NHKテレビ「ニュース7」,2020年6月3日

牛山素行,コロナ禍の避難 ”8割近くが避難所に入れない” ,NHK テレビ「ニュースウォッチ9」,2020年6月3日

牛山素行,みんなで備えよう!新型コロナウイルスの不安が続くなかでの災害対策,NHK テレビ「あさイチ」,2020年6月4日

牛山素行,「感染症を防ぎ避難するには」,NHK ラジオ 和歌山 ラジオ防災講座,2020年6月5日

牛山素行,3密避け車中泊 大丈夫? コロナ下の避難所 不安 移動中に被災 エコノミー症候群 安易な選択に警鐘,西日本新聞,2020年6月8日

牛山素行,[特集] 新型コロナ 梅雨・台風 災害起きやすい時期に一車の利用注意を 相次ぐ移動中の車被災 エコノミー症候群の発症も,信濃毎日新聞,2020年6月24日

牛山素行,九州北部で大雨 コロナ禍での避難方法は…,TBS NEWS23,2020年6月25日

牛山素行,コロナ下の災害避難行動 安易な車利用 控えて 車避難 洪水時に流される恐れ 車中泊 エコノミー症候群懸念,愛媛新聞,2020年6月28日

牛山素行,(災害大国 いのちを守る) 浸水想定指定 予算・人員の壁 河川絞り込む基準「国が指針を」【西部】 ,朝日新聞,2020年6月29日

牛山素行,災害時 車での避難にリスク (特集) ,京都新聞,2020年6月30日

牛山素行,<新型コロナ危機>災害時の車利用 車中泊 危険と隣り合わせ,神戸新聞,2020年6月30日

牛山素行,車の冠水被害に注意! 昨秋の房総豪雨で犠牲者も 専門家「移動短く早め対応」,千葉日報,2020年7月6日

牛山素行,九州大雨関係,静岡朝日テレビ「とびっきりしずおか」,2020年7月6日

牛山素行,九州大雨関係,テレビ静岡,2020年7月6日

牛山素行,「九州で大雨. 災害の危険性高まる」,TBS ラジオ「荻上チキ・Session-22」,2020年7月6日

牛山素行,徹底解説!大雨にどう備えるか,NHK テレビ「あさイチ」,2020年7月6日

牛山素行,九州豪雨 相次ぐ水害” 起こりやすい場所” とは,TBS NEWS23,2020年7月7日

日

牛山素行,ズームアップ/新型コロナ下の災害/車中泊 ちょっと待った/大雨 移動中の被災次々/怖いエコノミー症候群,河北新報,2020年7月8日

牛山素行,九州水害関係,NHK ラジオ「マイあさ!」,2020年7月8日

牛山素行,「#九州豪雨災害 岐阜・#飛騨川が氾濫～警戒続く現地 そして今後の対策とは?」,TBS ラジオ「荻上チキ・Session-22」,2020年7月8日

牛山素行, #防災最前線 命を守るには…専門家「半数は土砂災害」,SBS 静岡放送「ORANGE」,2020年7月8日

牛山素行,避難所水没 村外へ 熊本・球磨村 「地元離れ 家が心配」,読売新聞,2020年7月9日

牛山素行,「暴れ川」どこに逃げれば… 対策進んでも氾濫 高台は土砂警戒 九州の豪雨,朝日新聞,2020年7月10日

牛山素行,コロナ下 災害時の車利用/車中泊 危険と隣り合わせ/相次ぐ移動中の被災,長崎新聞,2020年7月11日

牛山素行,犠牲者8割超 氏名公表 九州豪雨で自治体 安否確認 捜索に有益,岩手日報,2020年7月14日

牛山素行,九州豪雨 死者8割超の氏名公表 自治体は同意前提 公益性を重視,秋田魁新報,2020年7月14日

牛山素行,九州豪雨/犠牲者8割超 氏名公表/昨年・台風19号 遺族意向で3割/積極姿勢 識者評価/「安否確認 役立つ」,河北新報,2020年7月14日

牛山素行,九州豪雨/死者の氏名 8割超公表 昨年の台風19号は7割非公表 「積極的な姿勢」識者評価,東奥日報,2020年7月14日

牛山素行,7月豪雨/死者8割超の氏名公表/自治体対応/積極姿勢を識者評価,下野新聞,2020年7月14日

牛山素行,核心 犠牲者氏名 積極公表8割超 九州豪雨 昨年台風と対照的 識者 「安否確認に役立つ」,東京新聞,2020年7月14日

牛山素行,九州豪雨 死者8割超の氏名公表 自治体が積極姿勢 台風19号では約3割—新聞協会が改善要望 「安否確認に役立つ」識者評価,信濃毎日新聞,2020年7月14日

牛山素行,核心 犠牲者氏名 公表8割超 昨年台風19号では非公表7割 識者 「捜索安否確認に有益」,中日新聞,2020年7月14日

牛山素行,豪雨死者 8割超の氏名公表 昨年の台風19号は7割非公表 識者「犠牲身近に受け止めて」,神戸新聞,2020年7月14日

牛山素行,読み解く=災害死者を「数」にしない 豪雨で犠牲 氏名8割超公表 熊本 福岡 大分「知らせる意義」,西日本新聞,2020年7月14日

牛山素行,犠牲者名公表 対応に差 県 遺族同意ある場合のみ 公益性「今回はない」 新指針運用 熊本豪雨,熊本日新聞,2020年7月14日

牛山素行,九州豪雨/死者の氏名 8割超公表/識者 積極姿勢を評価,長崎新聞,2020年7月14日

牛山素行,九州の豪雨死者 8割超の氏名公表 「安否確認効率化に有益」,佐賀新聞,2020年7月14日

牛山素行,九州豪雨 死者8割超 氏名公表 識者評価 「安否確認に有益」,山陽新聞,2020年7月14日

牛山素行,九州豪雨 死者8割超の氏名公表 識者「安否確認にも有益」,四国新聞,2020年7月14日

牛山素行,「三宅民夫の真剣勝負! 「水害から命を守るために」 ▽NHK けさのニュース,NHK ラジオ,2020年7月15日

牛山素行,新型コロナ 車避難・車中泊,茨城新聞,2020年7月20日

牛山素行,この先も豪雨や台風の季節 何に注意し どう情報を集めるべきか,NHK ラジオ「Nらじ」,2020年7月21日

牛山素行,[新型コロナ] 感染心配でも… 災害時の車利用 高リスク,中国新聞,2020年7月25日

牛山素行,あす東北を中心に「災害級の大雨」のおそれ,TBS ラジオ「Session22」,2020年7月27日

牛山素行,時評=避難しない自由 個別の判断 尊重したい,静岡新聞,2020年7月30日

牛山素行,東広島市 7月豪雨 避難発令 基準の6時間後 「夜中は危険」と躊躇 人員不足 他業務で忙殺 情報一元化も課題 住民は自衛手段の必要も,東京新聞,2020年8月2日

牛山素行,九州豪雨 死者8割 危険区域居住 土砂警戒や浸水想定,読売新聞,2020年8月4日

牛山素行,想定と重なる浸水被害 九州豪雨から1カ月 地域の危険性周知課題,岩手日報,2020年8月4日

牛山素行,浸水想定と被害 ほぼ一致 九州豪雨・球磨川流域 地域の危険性周知に課題,静岡新聞,2020年8月4日

牛山素行,地理院公開 浸水域 想定とほぼ一致 豪雨被害の球磨川流域,四国新聞,2020年8月4日

牛山素行,災害関連死情報公表 公益性 行政が判断を 飯山市 遺族に説明し発信,信濃毎日新聞,2020年8月8日

牛山素行,避難指示一本化 来年にも 内閣府 勧告廃止を決定,岩手日報,2020年8月22日

牛山素行,「避難指示」一本化決定 牛山素行教授に聞く 「避難準備」活用も重要,信濃毎日新聞,2020年8月22日

牛山素行,命守る呼び掛け 明快に 仕組み見直し 戸惑いも 「避難指示」一本化,静岡新聞,2020年8月22日

牛山素行,災害避難 指示に一本化 内閣府 来年から「勧告」廃止 逃げ遅れ防止図る,西日本新聞,2020年8月22日

牛山素行,不動産取引 水害リスク示す 義務化開始で県内業者準備 識者「ハザードマッ

ブ過信 禁物」,静岡新聞,2020年8月22日

牛山素行,「台風シーズン目前 見直そう!避難行動」,NHKテレビ「あさイチ」,2020年8月24日

牛山素行,「生かせハザードマップ」,NHKラジオ「マイあさ!」,2020年9月1日

牛山素行,猛雨命守るために(1)／勧告と指示／一本化 効果は未知数,神奈川新聞,2020年9月3日

牛山素行,台風10号に備える,NHKラジオ「マイあさ!」,2020年9月4日

牛山素行,台風シーズン到来,静岡朝日テレビ「とびっきり!しずおか土曜版」,2020年9月5日

牛山素行,豪雨洪水ハザードマップ 県内11市町が未作成 「1000年に1度レベル」の雨量想定 台風シーズン「早期完成を」,静岡新聞,2020年9月6日

牛山素行,「前に進む 常総水害5年」(1)不明者の氏名 公表を(連載)＝茨城,読売新聞,2020年9月7日

牛山素行,戦後最大級・台風10号の県内への影響は…?最新情報,静岡朝日テレビ「とびっきり!しずおか」,2020年9月7日

牛山素行,台風10号関係,日本テレビ「Oha!4 NEWS LIVE」,2020年9月7日

牛山素行,異例の避難 514か所で定員に 事前の備えより重要に,NHKテレビ「ニュースウォッチ9」,2020年9月7日

牛山素行,「スキャナー」20万人収容 避難所満員 台風10号,読売新聞,2020年9月8日

牛山素行,台風 新型コロナで受け入れ減 定員に達する避難所相次ぐ,NHKテレビ「おはよう日本」,2020年9月8日

牛山素行,原則公開の自治体も 「社会的な公益性」が理由 災害犠牲者の氏名公表 県「遺族同意が前提」,熊本日日新聞,2020年9月11日

牛山素行,「目」でなく「面」に注意 台風の勢力は「中心位置」にとらわれない,AERA,2020年9月20日

牛山素行,台風シーズン 用水路危険 年間80人犠牲に 「気の緩み」で転落 見回り避けて,日本農業新聞,2020年9月28日

牛山素行,気象庁が伝えたかった「危機感」 「特別警報級」は大げさだったのか?,SBS静岡放送「ORANGE」,2020年9月29日

牛山素行,時評＝台風接近時の高潮発生 人的被害なくとも注意,静岡新聞,2020年9月30日

牛山素行,「2階でも助からない」7人が住宅ごと流され死亡 流失リスクある住宅 全国に,NHKテレビ「ニュース7」,2020年10月4日

牛山素行,浸水5m超 ”「垂直避難」ではなく「立ち退き避難」を” ,NHKテレビ「おはよう日本」,2020年10月5日

牛山素行, [特集] 台風19号1年 牛山素行教授に聞く 「多様な避難の在り方」重要,信濃毎日新聞,2020年10月11日

牛山素行,災害時 死者・不明者の氏名 「知事に公表権限」提言案 知事会方針転換,読売新聞,2020年10月23日

牛山素行,線状降水帯 観測網を強化 「集中豪雨」多発で気象庁,読売新聞,2020年11月19日

牛山素行,時評=風水害被災現場を見る 多様な視点から記録,静岡新聞,2020年11月26日

牛山素行,警戒レベル5 名称変更 避難情報「緊急安全確保」に 災害迫った段階で発令へ,朝日新聞,2020年12月25日

牛山素行,いのちを守る・防災しずおか=災害碑 地図登録進まず 県内 わずか3市10基 記号で周知 教訓伝承,静岡新聞,2021年1月10日

牛山素行, # 防災最前線 今年から変わります! 防災・気象情報,SBS 静岡放送「ORANGE」,2021年1月12日

牛山素行,時評=外出予定を見合わせる 災害時 被害軽減に有効,静岡新聞,2021年2月3日

牛山素行,連載/震災10年・あおもり 明日へつなぐ 第1部 命と暮らしを守る 4/ 情報公開 基準なく都道府県で差 出方うかがう市町村,東奥日報,2021年2月17日

牛山素行,<東日本大震災10年>2500人 今も見つからず,秋田魁新報,2021年3月6日

牛山素行,ニュースBOX=2500人 見つからないまま 東日本大震災10年 津波や原発 阻んだ捜索,静岡新聞,2021年3月6日

牛山素行,[2011. 3. 11 東日本大震災10年] 2500人捜索続く,沖縄タイムス,2021年3月6日

牛山素行,<東日本大震災10年>いまだ不明2500人超/日中の津波 悪条件重なる/がれき 火災 原発事故,琉球新報,2021年3月6日

牛山素行,【復興日本】東日本大震災10年 第3部 未来へ(1),産経新聞,2021年3月7日

牛山素行,特集 東日本大震災10年 捜索続く不明者2500人/がれき 放射性物質が妨げ/身元特定 2020年は3人のみ,長崎新聞,2021年3月7日

牛山素行,<東日本大震災10年>全国2500人 捜し続け*身元特定も難航*昨年は3人,北海道新聞,2021年3月7日

牛山素行,★忘れない 東日本大震災10年 遺族アンケート★ あの日の私 今の私 一 防災編一,岩手日報,2021年3月8日

牛山素行,東日本大震災10年 3. 11からの日々=不明2526人 帰り待つ家族 津波 原発事故で捜索困難 東北・関東大地震,熊本日新聞,2021年3月8日

牛山素行,連載/東日本大震災10年/行方不明者の捜索 2500人 今も見つからず,

東奥日報,2021年3月9日
牛山素行,東日本大震災10年 搜索続く不明者 2500人今も見つからず 時間帯や津波「絞り込み難しく」/身元特定 多様な手法 相談会も,山陽新聞,2021年3月9日
牛山素行,「コロナ禍の防災避難」,NHKテレビ「あさいち」,2021年3月9日
牛山素行,東日本大震災10年 不明者2500人 搜索今も,京都新聞,2021年3月10日
牛山素行,刻む 3. 11から/今も2500人不明,神奈川新聞,2021年3月10日
牛山素行,東日本大震災10年=2500人超 今なお不明 津波被害 搜索より難しく,西日本新聞,2021年3月11日
牛山素行,【防災最前線】どう変わる?市や町の避難情報,SBS 静岡放送「ORANGE」,2021年3月30日
牛山素行,時評 線状降水帯情報の新設に思う まず「危険度分布」活用,静岡新聞,2021年4月1日
牛山素行,2500人の行方 今も不明 時間経過 搜索難しく,岩手日報,2021年4月1日
牛山素行,「線状降水帯」発生で新たな情報発表 安全確保を呼びかけへ,NHK テレビ「ニュース7」,2021年4月19日
牛山素行,線状降水帯の発信強化 注意情報6月から/来年 半日前に予報 気象庁,日本経済新聞,2021年4月20日
牛山素行,豪雨災害が多発「線状降水帯」 6月から注意情報 広島,RCC 中国放送,2021年4月20日
牛山素行,「避難勧告」廃止し「避難指示」に一本化 専門家“活用するためリスク把握を”,NHKテレビ 12時台ニュース他,2021年4月28日
牛山素行,改正災害対策基本法成立 避難「指示」に一本化 「勧告」廃止 5月運用,秋田魁新報,2021年4月29日
牛山素行,災害避難「指示」一本化成立 近づく梅雨一周知間に合うか 自治体危機感 新型コロナで集会も開けず,信濃毎日新聞,2021年4月29日
牛山素行,梅雨目前 自治体に危機感 住民への周知 課題に(インサイド),京都新聞,2021年4月29日
牛山素行,避難情報見直し 迫る梅雨 周知に危機感 コロナ下 住民集会困難,神戸新聞,2021年4月29日
牛山素行,梅雨目前 周知に焦り 避難情報見直し 自治体 住民の混乱不安視,愛媛新聞,2021年4月29日
牛山素行,大雨警戒レベル「避難指示」へ一本化 今月20日から「避難勧告」を廃止,RCC 中国放送,2021年5月12日
牛山素行,災害対策基本法が改正。「避難勧告」が廃止され「避難指示」に一本化,毎日放送ラジオ「ネットワーク1・17」,2021年5月16日
牛山素行,「線状降水帯 注意情報の新設」と「避難情報 の変更」,TBS ラジオ「荻上チキ・

Session-22」,2021年5月18日

牛山素行,避難情報に関するガイドライン改定関係,テレビ信州,2021年5月19日

牛山素行,避難情報に関するガイドライン改定関係,静岡朝日テレビ,2021年5月19日

牛山素行,避難情報に関するガイドライン改定関係,岩手放送,2021年5月19日

牛山素行,避難情報に関するガイドライン改定関係,テレビ朝日「ニュースステーション」,2021年5月19日

牛山素行,これからの本格的な梅雨にむけ私たちが出来ることは? 専門家は,静岡第一テレビ,2021年5月22日

牛山素行,これからの本格的な梅雨にむけ私たちが出来ることは? 専門家は,日本テレビ,2021年5月22日

牛山素行,県防災セミナー: 災害への心構え 画面越しで学ぶ 県防災セミナー /岡山,毎日新聞,2021年5月23日

牛山素行,三宅民夫のマイあさ! 7時台 深よみ。「水害 情報をどう見る? いつ避難?」,NHK ラジオ,2021年5月24日

牛山素行,水害時の避難方法紹介 長野でセミナー 静岡大牛山教授講演,中日新聞,2021年5月30日

牛山素行,データ×防災 ~命を守らなきゃスペシャル~,NHK テレビ(九州沖縄),2021年6月4日

牛山素行,[防災ニッポン] 豪雨 避難方法あらかじめ確認,読売新聞,2021年6月5日

牛山素行,三六災害60年 避難所 来たのは5人だけ 高森町「一本化」後県内初の避難指示,信濃毎日新聞,2021年6月7日

牛山素行,時評 避難情報ガイドライン 頻繁な改定より普及を,静岡新聞,2021年6月10日

牛山素行,水害・熱中症・水の事故 夏の"まさか"から命を守る,NHK テレビ「あさイチ」,2021年6月14日

牛山素行,被害データが語る「避難行動中」のリスク,NHK テレビ「おはよう日本」,2021年6月14日

牛山素行,線状降水帯の情報について,静岡朝日テレビ「とびっきりしずおか」,2021年6月17日

牛山素行,三宅民夫のマイあさ! 7時台 深よみ。「水害で死なないために」8時台「ハザードマップの見方」,NHK ラジオ,2021年6月25日

牛山素行,沖縄で #線状降水帯。気象庁「#顕著な大雨に関する情報」初めて発表,TBS ラジオ「荻上チキ・Session」,2021年6月29日

牛山素行,大雨避難情報 集団接種 どちらを優先? 下田市 東伊豆町 判断 苦慮 専門家「正解なく首長が決断を」-新型コロナ,静岡新聞,2021年7月2日

牛山素行,豪雨災害は今(下) 避難指示 自治体に重責,日本経済新聞,2021年7月2日

牛山素行,避難情報と線状降水帯の情報関係,SBS 静岡放送「ORANGE」,2021年7月2日
牛山素行,大雨関係,静岡朝日テレビ「とびっきり!しずおか」,2021年7月2日
牛山素行,熱海土砂災害関係,静岡朝日テレビ「とびっきり!しずおか」,2021年7月3日
牛山素行,熱海土砂災害関係,テレビ朝日サタデーステーション,2021年7月3日
牛山素行,(時時刻刻)土石流いつ「予測は困難」 火山灰堆積 高リスク区域 長雨「斜面崩れやすく」,朝日新聞,2021年7月4日
牛山素行,続く雨 列島厳戒 熱海「100年に1度」,読売新聞,2021年7月4日
牛山素行,クローズアップ:土石流20人不明 静岡・熱海市 避難指示なく 現場 危険箇所が点在,毎日新聞,2021年7月4日
牛山素行,熱海土石流 市街地でも起こる 牛山素行静岡大防災総合センター教授,産経新聞,2021年7月4日
牛山素行,<フォーカス>熱海土石流*急峻地形 雨雲発達促す*高リスク地 全国に*専門家*「事前に避難準備を」,北海道新聞,2021年7月4日
牛山素行,生活圏の危険 事前把握を 熱海土石流 静岡大・牛山教授(元県立大准教授)に聞く 岩手も人ごとではない,岩手日報,2021年7月4日
牛山素行,熱海の土石流 牛山素行教授に聞く 現場 特殊な場所ではない,信濃毎日新聞,2021年7月4日
牛山素行,熱海土石流 約20人不明 2人死亡 民家多数流失 記録的大雨 警戒続く,静岡新聞,2021年7月4日
牛山素行,熱海で土石流 雨雲 山間地で急発達 土砂災害警戒区域に大雨,神戸新聞,2021年7月4日
牛山素行,政府が初の対策本部 特定災害 省庁で情報共有 熱海土石流,中国新聞,2021年7月4日
牛山素行,読み解く=梅雨末期 また大災害 熱海で土石流 急傾斜地 高リスク 県の警戒区域 住宅移転進まず,西日本新聞,2021年7月4日
牛山素行,坂道一気 住宅のむ/不明者の捜索進まず,沖縄タイムス,2021年7月4日
牛山素行,熱海・伊豆山で土石流 20人以上のみ込まれる 2人死亡19人安否不明,スポーツ報知,2021年7月4日
牛山素行,熱海土石流20人不明/首相「命守る行動を」/熱海市 避難指示発令せず/重い自治体負担 検証必要/特殊な場所でない,宮崎日日新聞,2021年7月4日
牛山素行,識者談話 熱海土石流 繰り返す危険も/市街地でも発生,山陽新聞,2021年7月4日
牛山素行,熱海土砂災害報道特別番組,静岡朝日テレビ,2021年7月4日
牛山素行,熱海土砂災害関係,AbemaTV,2021年7月4日
牛山素行,熱海土砂災害関係,テレビ朝日スーパーJチャンネル,2021年7月4日
牛山素行,熱海・土石流 「長雨蓄積型」の雨 “激しい雨” 観測されないまま記録的雨量

に,NHK テレビ ニュース 7 ほか,2021 年 7 月 4 日

牛山素行,「避難指示」難しい判断 「勧告」なくなり空振りの恐れも 熱海市発令見送り
被害 「まず住民に災害リスクを」,中日新聞,2021 年 7 月 5 日

牛山素行,熱海・土石流 ドローン画像で見る住宅被害の実態 “低い部分の建物が大きな
被害”,NHK テレビ ニュース 7 ほか,2021 年 7 月 5 日

牛山素行,13 人救助も安否不明者 多数,テレビ朝日 グッド!モーニング,2021 年 7 月 5 日

牛山素行,熱海で土石流 2 人死亡 2km にわたり山から海へ,フジテレビ めざましテレ
ビ,2021 年 7 月 5 日

牛山素行,都市部に潜む危険 全国の市街地に土砂災害リスク,テレビ東京 ワールドビジネ
スサテライト,2021 年 7 月 5 日

牛山素行,熱海土砂災害関係,TBS ラジオ「荻上チキ・Session」,2021 年 7 月 5 日

牛山素行,熱海土砂災害関係,静岡朝日テレビ「とびっきり!しずおか」,2021 年 7 月 5 日

牛山素行,熱海土石流 所在不明者公表で混乱 静岡県 災害時 統一基準なし,読売新
聞,2021 年 7 月 6 日

牛山素行,熱海土砂災害関係,静岡朝日テレビ「とびっきり!しずおか」,2021 年 7 月 6 日

牛山素行,◎不明者氏名「原則公表を」=搜索を迅速化 識者指摘—熱海土石流,時事通
信,2021 年 7 月 7 日

牛山素行,特集 約 670 人が死傷 平成最悪の豪雨災害 西日本豪雨から 3 年 災害から命を守
る,朝日放送,2021 年 7 月 7 日

牛山素行,「安否不明者の搜索が続く熱海市の大規模土石流。今改めて考える土砂災害の危
険と避難の課題」,TBS ラジオ「荻上チキ・Session」,2021 年 7 月 7 日

牛山素行,熱海土砂災害関係,静岡朝日テレビ「とびっきり!しずおか」,2021 年 7 月 7 日

牛山素行,「大雨から命を守る 何に注意して どう備えるべきか」,NHK ラジオ,2021 年 7
月 7 日

牛山素行,避難指示 割れた判断*熱海土石流 長く降り続いた雨*周辺自治体「迷った」,
北海道新聞,2021 年 7 月 8 日

牛山素行,避難指示 判断難しく 熱海の土石流 自治体対応分かれる,岩手日報,2021 年 7
月 8 日

牛山素行,熱海土石流 避難指示 発令に難しさ 自治体の対応分かれる ,秋田魁新
報,2021 年 7 月 8 日

牛山素行,避難指示 対応割れる/熱海土石流 周辺自治体/「少ない」雨量 判断困難,河
北新報,2021 年 7 月 8 日

牛山素行,熱海 土石流 避難指示 判断難しく 豪雨なし 対応割れる 危機呼び掛けに
限界も,東奥日報,2021 年 7 月 8 日

牛山素行,熱海土石流/避難指示 判断に難しさ/自治体ごと対応分かれる,下野新聞,2021
年 7 月 8 日

牛山素行,熱海土石流「だらだらと長雨」 避難指示 難しい判断 行政 対応割れる,信濃毎日新聞,2021年7月8日

牛山素行,インサイド 避難指示 判断に難しさ 熱海土石流発生 「だらだら降る雨」 自治体で対応分かれる,京都新聞,2021年7月8日

牛山素行,熱海土石流 自治体対応 「避難指示」分かれた判断 熱海市 集中豪雨なく発令見送り 東伊豆町 「空振り」恐れず早め決断,神戸新聞,2021年7月8日

牛山素行,避難指示 難しい判断 警戒情報発令中 熱海市は見送る 自治体で分かれた対応,中国新聞,2021年7月8日

牛山素行,熱海土石流 避難指示 判断に難しさ 周辺自治体 対応分かれる,徳島新聞,2021年7月8日

牛山素行,熱海土石流 避難指示 悩む自治体 「集中豪雨」なく迷う 住民 実感乏しく避難わずか,西日本新聞,2021年7月8日

牛山素行,避難指示 判断に難しさ 熱海土石流 周辺自治体 対応分かれる,佐賀新聞,2021年7月8日

牛山素行,熱海土石流 避難指示 判断に難しさ 周辺自治体 割れた対応,山陽新聞,2021年7月8日

牛山素行,熱海土石流/避難指示 判断に難しさ/周辺自治体 対応分かれる,神奈川新聞,2021年7月8日

牛山素行,熱海土砂災害関係,静岡朝日テレビ「とびっきり!しずおか」,2021年7月8日

牛山素行,判断は 熱海市に「避難指示」出ず,日本テレビ news every,2021年7月9日

牛山素行,熱海土砂災害関係,静岡朝日テレビ「とびっきり!しずおか」,2021年7月9日

牛山素行,「避難指示」一本化が逆効果か 熱海市 発令せず被害甚大,産経新聞,2021年7月10日

牛山素行,熱海土砂災害関係,静岡朝日テレビ「とびっきり!しずおか土曜版」,2021年7月10日

牛山素行,熱海・土石流1週間 1. 5キロ下流でも建物完全破壊 専門家「急傾斜で破壊力維持」,NHKテレビ ニュース,2021年7月10日

牛山素行,熱海土砂災害関係,静岡朝日テレビ「とびっきり!サンデー」,2021年7月11日

牛山素行,熱海土砂災害関係,静岡朝日テレビ「とびっきり!しずおか」,2021年7月12日

牛山素行,熱海土砂災害関係,静岡朝日テレビ「とびっきり!しずおか」,2021年7月13日

牛山素行,熱海土砂災害関係,BS日テレ「深層NEWS」,2021年7月13日

牛山素行,熱海土砂災害関係,静岡朝日テレビ「とびっきり!しずおか」,2021年7月14日

牛山素行,熱海土砂災害関係,静岡朝日テレビ「とびっきり!しずおか」,2021年7月15日

牛山素行,熱海土砂災害関係,静岡朝日テレビ「とびっきり!しずおか」,2021年7月16日

牛山素行,熱海土砂災害関係,静岡朝日テレビ「とびっきり!しずおか土曜版」,2021年7月17日

牛山素行,出なかった避難指示～豪雨の避難をどう判断する,毎日放送ラジオ「ネットワーク1・17」,2021年7月18日

牛山素行,熱海土砂災害関係,静岡朝日テレビ「とびっきり!サンデー」,2021年7月18日

牛山素行,熱海土砂災害関係,静岡朝日テレビ「とびっきり!しずおか」,2021年7月19日

牛山素行,熱海土砂災害関係,静岡第一テレビ「news every.しずおか」,2021年7月19日

牛山素行,軽視できぬ長時間雨量ー熱海土石流,静岡新聞,2021年8月3日

牛山素行,熱海土砂災害関係,静岡朝日テレビ「とびっきり!しずおか」,2021年8月3日

牛山素行,災害時の所在不明者 氏名公表手順 悩む自治体 熱海土石流,読売新聞,2021年8月12日

牛山素行,前線停滞で大雨 24時間雨量200ミリ予想の地域も,NHK テレビ ニュース,2021年8月12日

牛山素行,雲仙土砂崩れ 消防団「何とか救出を」 腰まで泥 懸命の捜索,読売新聞,2021年8月14日

牛山素行,大雨時にどう安全を確保するか 避難の判断や場所について専門家から具体的な注意点,NHK テレビ ニュース,2021年8月14日

牛山素行,大雨関係,TBS ラジオ「荻上チキ・Session」,2021年8月16日

牛山素行,焦点=岡谷の土石流発生後発令 避難指示 教訓生かせず 市「タイミング総合判断」 経緯検証 基準づくり検討へ,信濃毎日新聞,2021年8月17日

牛山素行,命守った「早めの避難」 広島土砂崩れ 人的被害確認されず 今後の災害も心掛けて,中国新聞,2021年8月17日

牛山素行,土石流通報30分後に避難指示 雨量や時間「総合的勘案」 岡谷市が経緯報告 発令タイミングなど検証へ,中日新聞,2021年8月18日

牛山素行,被災経験、早めに避難 長引く雨で行動遅れも,日本経済新聞,2021年8月19日

牛山素行,記録的大雨 広範囲で連日最大級の警戒 経験生かし事前避難 自治体 行動促す難しさも露呈,秋田魁新報,2021年8月19日

牛山素行,被災経験 事前避難促す/記録的大雨/台風より危機意識に低さも,河北新報,2021年8月19日

牛山素行,連日の記録的大雨/避難誘導 困難浮き彫り/経験生かし危機回避も,下野新聞,2021年8月19日

牛山素行,被災経験 事前避難促す 佐賀県武雄市 広島市 全国大雨「緊急安全確保」乱発に懸念も ,熊本日日新聞,2021年8月19日

牛山素行,事前避難で危機回避も,長崎新聞,2021年8月19日

牛山素行,全国大雨/住民避難 意識に差/経験生かし事前避難/指示軽視? 自宅待機,宮崎日日新聞,2021年8月19日

牛山素行,記録的大雨 教訓生かし事前避難 動かぬ人も多く 行動促す工夫必要,山陽新聞,2021年8月19日

牛山素行,記録的大雨 避難促す難しさ直面 経験生かし事前行動も,四国新聞,2021年8月19日

牛山素行,各地で記録的大雨/経験生かし危機回避/長雨 行動促す難しさも,神奈川新聞,2021年8月19日

牛山素行,<胆振東部地震3年>災害死者名公表 家族同意時のみ*道*個人情報保護を重視,北海道新聞,2021年8月31日

牛山素行,「逃げ遅れた」と思ったらどこに逃げたらいい?,NHKテレビ「あさいち」,2021年9月6日

牛山素行,《連載:常総水害6年・語り継ぐ》(上) 不明者公表,茨城新聞,2021年9月14日

牛山素行,新「避難指示」響いたか 期間長く 住民に慣れ? 九州大雨1カ月 少ない避難所利用 実態把握課題,西日本新聞,2021年9月14日

牛山素行,悲劇断つために一検証・岡谷土石流(下) =砂防ダム整備や地域の防災意識 15年前の教訓 胸に刻み,信濃毎日新聞,2021年9月17日

牛山素行,台風14号 静岡県に接近中 大雨や強風に警戒を,静岡朝日テレビ「とびっきり!しずおか土曜版」,2021年9月18日

牛山素行,(災害大国)身近に潜む 土砂のリスク,朝日新聞,2021年9月27日

牛山素行,変わる防災情報 続く被害 課題は「習熟」(特集),京都新聞,2021年10月5日

牛山素行,時評 警戒レベル5「緊急安全確保」 意味に応じた運用を,静岡新聞,2021年10月6日

牛山素行,(台風19号から2年)橋頼みの生活 リスクいまま 矢祭・高地原地区 /福島県,朝日新聞,2021年10月10日

牛山素行,<くらしと防災>92*災害情報収集 ネットを活用*ライブカメラ映像 状況一目で,北海道新聞,2021年10月23日

牛山素行,近畿整備局豊岡河川 兵庫県豊岡市/豪雨災害から考える/防災・減災へ学習会,建設通信新聞,2021年11月8日

牛山素行,2021年土石流災害 岡谷市 検証・対応へ専門家意見聞く 8月の大雨災害受け,信濃毎日新聞,2021年11月10日

牛山素行,地区ごとに異なる「危険な雨量」 地中の雨水量など7指標から気象専門家ら分析 一つでも過去最大値上回れば人的被害も 避難計画作り提唱,西日本新聞,2021年11月10日

牛山素行,静岡県の災害時安否不明者の氏名公表基準,NHK テレビ「たっぷり静岡」,2021年11月12日

牛山素行,地球に生きる 変わる防災情報 分かりやすさ 避難促す,愛媛新聞,2021年11月19日

牛山素行,「避難スイッチ」を決め地域で共有 地区の土壌雨量指数や水位の上昇…住民自

ら行動起こす基準に 西日本豪雨で被害 京都府福知山市で取り組み,西日本新聞,2021年11月24日

牛山素行,洪水の危険認識6割 津波に比べ低く 静岡市沿岸部 「リスク理解重要」,静岡新聞,2021年11月27日

牛山素行,時評 災害時の死者・行方不明者名公表 平時に冷静な議論を,静岡新聞,2021年12月2日

牛山素行,今年の静岡総まとめ(熱海市土石流災害),静岡朝日テレビ「とびっきり!しずおか」,2021年12月23日

牛山素行,減災新聞 第535号/防災気象情報見直しへ/避難促進 シンプルに/有識者 交え検討開始,神奈川新聞,2022年1月30日

牛山素行,時評 災害情報の「空振り」 丁寧な議論を重ねて,静岡新聞,2022年2月9日

牛山素行,巨大津波 警戒強まる 東日本大震災11年 遺族アンケート,岩手日報,2022年3月9日

牛山素行,特集「#東日本大震災 からあす11年。改めて考える #防災 と #まちづくり」,TBS ラジオ「荻上チキ・Session」,2022年3月10日

山崎 登,文化放送「防災アワースペシャル」出演,2020年9月1日.

山崎 登,文化放送「防災アワー」月間ゲスト2021年12月.

吉田明夫,静岡新聞,提言減災:“ガイダンス”の有用性,2020年7月26日.

吉田明夫,静岡新聞,提言減災:風土の大切さと防災,2020年11月22日.

吉田明夫,静岡新聞,提言減災:自然への畏敬 忘れずに,2021年3月28日.

吉田明夫,静岡新聞,提言減災:茂木先生の研究の意義,2021年7月11日.

吉田明夫,静岡新聞,提言減災:災害を防ぐ視点の転換,2021年12月26日.

5.3 公的な委員会等

藤井基貴,SDGs Quest みらい甲子園実行委員長,2021年9月.

藤井基貴,公益財団法人日本卓球協会スポーツ医・科学委員会・委員,2021年4月 - 2022年3月.

藤井基貴,公益財団法人日本卓球協会スポーツ医・科学委員会・委員,2019年4月 - 2021年3月.

藤井基貴,文部科学省・中央教育審議会・専門委員,2019年3月 - 2021年2月.

藤岡換太郎 海上保安庁海底地形名委員、2020年4.1~2021年3.31

藤岡換太郎 海上保安庁海底地形名委員、2021年4.1~2022年3.31

二川雅登,第37回「センサ・マイクロマシンと応用シンポジウム」論文委員会 副主査(2020年4月~2021年1月)

二川雅登,第38回「センサ・マイクロマシンと応用シンポジウム」論文委員会 委員(2021年2月~2021年12月)

二川雅登,第39回「センサ・マイクロマシンと応用シンポジウム」論文委員会 委員(2022年1月19日～2022年12月31日)

二川雅登,令和3年度電気学会E部門総合研究会実行委員会 副幹事(2021年2月1日～2021年9月30日)

二川雅登,令和3年度電気学会E部門総合研究会実行委員会・論文委員会 副幹事(2021年2月1日～2021年9月30日)

二川雅登,令和4年度電気学会E部門総合研究会実行委員会 幹事(2021年10月26日～2022年8月30日)

原田賢治,静岡県交通基盤部,静岡県社会資本総合整備計画等評価アドバイザー,
2022/1/27-2023/5/31.

原田賢治,静岡県交通基盤部,美しい“ふじのくに”インフラビジョン推進会議,委員,
2021/6/1-2023/5/31.

原田賢治,静岡市,静岡市水防協議会,委員,2020/4/7-2022/3/31.

原田賢治,静岡県,静岡県防災・原子力学術会議津波対策分科会,委員,2020/4/1-2022/3/31.

原田賢治,国土交通省中部地方整備局静岡河川事務所,駿河海岸保全検討委員会,委員,
2020/4/1-2022/3/31.

原田賢治,静岡県,静岡県海岸保全基本計画検討委員会,委員,2020/3/1-2021/3/31.

原田賢治,静岡県,静岡県津波防災地域づくり推進連絡会,アドバイザー,
2020/2/10-2021/3/31.

原田賢治,静岡県交通基盤部,美しい“ふじのくに”インフラビジョン推進会議,委員,
2020/2/1-2021/3/31.

原田賢治,松崎町,松崎町津波防災地域づくり推進協議会,会長,2019/10/7-2021/3/31.

原田賢治,西伊豆町,西伊豆町津波防災地域づくり推進協議会,会長,2019/10/7-2021/10/6.

本間基寛,公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 調査研究委員会委員,2020年
4月1日～現在.

本間基寛,公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 ロジスティクス分野における
SDGs 推進検討WG委員,2021年9月7日～2022年3月31日.

池田恵子,静岡県社会福祉協議会 地域づくり推進委員会,委員長(2018年9月 - 2020年8
月).

池田恵子,外務省女性・平和・安全保障に関する行動計画評価委員会,委員(2018年7月 -
2021年3月).

池田恵子,静岡県情報公開審査委員会,委員(2017年10月 - 2021年3月).

池田恵子,掛川市防災会議・掛川市公民保護協議会,委員,委員(2020年6月 - 2022年3月).

池田恵子,国立女性教育会館男女共同参画の視点による災害対応研修企画委員会,委員
(2020年9月 - 2022年12月).

石川宏之,静岡県住宅政策懇話会委員,2021年6月～2022年3月

石川宏之,静岡市都市再生整備計画事業評価委員,2021年10月～2022年3月
石川宏之,富士市建築審査会委員,2020年4月～2024年3月
石川宏之,八戸市埋蔵文化センター是川縄文館運営協議会副会長,2013年2月～2024年3月
岩田孝仁,内閣府 火山防災エキスパート,2009～
岩田孝仁,内閣府 防災スペシャリスト企画検討会委員 2013～
岩田孝仁,内閣府 防災スペシャリスト研修コーディネーター 2016～
岩田孝仁,人と防災未来センター 事業評価委員会委員 2014～2020
岩田孝仁,静岡県災害ボランティア活動ファンド運営委員会 委員長 2015.06～
岩田孝仁,静岡県ボランティア協会 南海トラフ巨大地震等に備えた災害ボランティアネットワーク委員会 委員長 2015.06～
岩田孝仁,内閣府 政府業務継続に関する評価等有識者会議委員 2016.07～
岩田孝仁,文部科学省 次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト総合協議会委員 2016.09～
岩田孝仁,静岡県 静岡県防災会議 専門委員 2018.03～
岩田孝仁,静岡県 静岡県防災会議専門部会 部会長 2018.03～
岩田孝仁,島田市 都市計画マスタープラン等アドバイザー会議 委員 2018.07～2022.3
岩田孝仁,科学技術振興機構 SDGsの達成に向けた協創的研究開発プログラム プログラムアドバイザー 2019.07～
岩田孝仁,国土交通省中部地方整備局 天竜川水系流域委員会 委員 2020.03～
岩田孝仁,文部科学省 「防災対策に資する南海トラフ地震調査研究プロジェクト」に関する公募選定に係る審査 委員 2020.04
岩田孝仁,山梨県 山梨県電力供給体制強靱化戦略の策定に向けたアドバイザー 2020.05～2020.10
岩田孝仁,経済産業省 地質情報における新たな整備計画策定に関するタスクフォース委員 2020.08～2020.10
岩田孝仁,名古屋大学 「屏風山・恵那山断層帯における重点的な調査観測」外部評価委員会 委員 2020.09～
岩田孝仁,国土交通省 静岡県災害時交通マネジメント検討会 会長 2020.09～
岩田孝仁,静岡県・神奈川県 神奈川と静岡の県境をまたぐ道路(伊豆湘南道路)に関する委員会 委員 2020.12～
岩田孝仁,公益財団法人 ひょうご震災記念 21世紀研究機構 人と防災未来センター 上級研究員 2021.4.1～
風間聡,最上川水系流域委員会委員長
風間聡,内閣官房水循環政策本部水循環アドバイザー
風間聡,気候変動適応における広域アクションプラン策定事業東北地域アドバイザー

風間聡,日本ユネスコ国内委員会科学小委員会調査委員
木村浩之,静岡県環境審議会 委員, 2020年4月~2022年3月.
木村浩之,静岡県環境審議会温泉部会 副部会長, 2020年4月~2022年3月.
木村浩之,静岡県環境審議会自然公園部会 委員, 2020年4月~2022年3月.
木村浩之,島田市環境審議会 副会長, 2020年4月~2022年3月.
木村浩之,島田市川根温泉2号源泉井掘削調査業務 相談役, 2020年4月~2022年3月.
木村浩之,牧之原市環境審議会 委員, 2020年4月~2022年3月.
木村浩之,静岡市水素エネルギー利活用促進委員会 委員, 2020年4月~2022年3月.
木村浩之,掛川市・菊川市新廃棄物処理施設整備検討委員会 委員, 2022年3月~2023年3月.
木村浩之,東京大学大気海洋研究所共同研究運営委員会学際連携研究部会 委員, 2020年4月~2022年3月.
小林 淳:箱根山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会(委員),2017年12月~2022年3月.
小杉素子,静岡県環境衛生科学研究所「気候変動が柑橘類栽培に及ぼす影響」検討委員会委員,2020.09~2021.03.
小山真人,2000年4月~2021年3月 伊東市史編さん委員会編集委員.
小山真人,2018年7月~2021年3月 富士山ハザードマップ(改定版)検討委員会委員(副委員長).
小山真人,2011年4月~2022年3月 伊豆半島ジオパーク推進協議会顧問.
小山真人,2018年1月~2022年3月 箱根山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会委員.
小山真人,2021年3月~2022年3月 蜷塚遺跡保存活用計画検討会委員.
小山真人,2021年5月~2022年3月 名勝伊豆西南海岸保存活用計画策定委員会委員(副委員長).
小山真人,2009年10月~ 中部圏開発整備地方協議会委員.
小山真人,2012年3月~ 伊豆東部火山群防災協議会委員.
小山真人,2012年5月~ 静岡県防災・原子力学会議 地震・火山対策分科会委員.
小山真人,2012年6月~ 富士山火山防災対策協議会委員.
小山真人,2014年2月~ 静岡県史編さん特別調査委員.
小山真人,2018年7月~ 富士山火山防災対策協議会作業部会委員.
小山真人,2020年2月~ 富士宮市史編さん委員会委員.
小山真人,2021年9月~ 富士山火山広域避難計画検討委員会委員(副委員長).
小山真人,2022年1月~ 災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画(第2次)に関する外部評価委員会委員.
前田恭伸:静岡市社会福祉協議会 苦情解決委員会委員, 2018年10月~現在

前田恭伸：静岡市社会福祉協議会 リスクマネジメント委員会委員，2019年4月～現在
前田恭伸：静岡県社会体育施設指定管理者評価委員会委員，2019年4月～現在
前田恭伸：静岡県立三ヶ日青年の家指定管理者候補者選定委員会委員，2021年4月～2021年9月
前田恭伸：浜松市建築紛争調停委員会委員，2019年4月～2022年3月
増田俊明，静岡県総合政策審議会 委員，令和2～3年度。
三井雄太，科学技術・学術政策研究所 専門調査員，2020/4～2021/3。
森下祐一，静岡県中央新幹線環境保全連絡会議委員 地質構造・水資源部会専門部会長
2018年～
森下祐一，静岡県環境影響評価審査会 副会長
森下祐一，国土交通省鉄道局リニア中央新幹線静岡工区 有識者会議委員 2020年～2020年
森下祐一，石油天然ガス・金属鉱物資源機構湿式製錬技術開発委員会委員 2011年～
森下祐一，日本学術振興会 R026 先端計測技術の将来設計委員会委員 2020年～
村越真，国立登山研修所専門調査委員、平成18年度～現在
中川和之，国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構評価委員会農業研究業務IV評価委員会委員，2021～継続中
中川和之，幸田町安全テラスセンターアドバイザー，2021～継続中
中川和之，地震調査研究推進本部政策委員会広報検討部会委員，2020～継続中
中川和之，現在総合科学技術・イノベーション会議 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）「国家レジリエンス（防災・減災）の強化」 戦略コーディネーター，2018～継続中
中川和之，内閣府 TEAM 防災ジャパン アドバイザー，2018～継続中
中川和之，南海トラフ巨大地震等に備えた災害ボランティアネットワーク委員会委員，2017～継続中
中川和之，文部科学省「国立研究開発法人審議会」 委員・会長代理、防災科学技術研究所部会部会長，2015～継続中
中川和之，宮城県「みやぎ景観アドバイザー」，2013～継続中
中川和之，京都府「危機管理アドバイザー」，2009～継続中
中川和之，気象庁「気象業務の評価に関する懇談会」 委員，2007～継続中
中川和之，国立研究開発法人建築研究所国際地震工学センター「国際地震工学研修・普及会議」 委員，2007～継続中
中川和之，内閣府「防災教育チャレンジプラン」 実行委員会委員，2007～継続中
中西利典，文部科学省「奈良盆地東縁断層帯における重点的な調査観測」に協力，2021年4月～2022年3月
中西利典，熱海市土石流災害技術アドバイザー，静岡県，2021年10月～
楠城一嘉，認定NPO法人富士山測候所を活用する会理事，2021年7月-(継続中)
楠城一嘉，北上しらゆり大使，2020年7月-(継続中)。

大谷栄治, 日本学術会議 24 期連携会員, 2017.10~2020.9.
大谷栄治, 日本学術会議 25 期連携会員, 2020.10~2023.9.
大谷栄治, 日本学術会議 24 期地球惑星科学委員会地球惑星圏分科会副委員長, 2017.10~2020.9.
大谷栄治, 日本学術会議 25 期地球惑星科学委員会地球惑星圏分科会委員, 2020.10~2023.9
大谷栄治, 同分科会, 学術データ共有小委員会委員, 2020.10~2023.9.
大谷栄治, 日本学術会議「持続可能な発展のための国際基礎科学年 2022」(IYBSSD2022) 連絡会議委員, 2021.11.22~.
大谷栄治, 日本学術会議 24 期地球惑星科学委員会企画分科会委員, 2017.10~2020.9.
大谷栄治, 日本学術会議 24 期地球惑星科学委員会国際連携分科会 IMA 小委員会委員長, 2017.10~2020.9.
大谷栄治, 日本学術会議 25 期地球惑星科学委員会国際連携分科会 IMA 小委員会委員, 2020.10~2023.9.
大谷栄治, 日本学術会議 24 期地球惑星科学委員会人材育成分科会委員 2017.10~2020.9.
大谷栄治, 日本学術会議 25 期地球惑星科学委員会人材育成分科会委員 2020.10~2023.9.
大谷栄治, 国際鉱物学連合 (IMA) 日本委員会代表委員 2010.10~2020.9.
大谷栄治, 仙台天文台ブレインサポーター (アドバイザー) 2018.4~2022.3
大谷栄治, 宇宙科学研究所はやぶさ II キュレーション専門委員会委員 2018.4~2022.3.
大谷栄治, 宇宙科学研究所はやぶさ II 定常運用終了審査会委員 2022.2.22.
大谷栄治, 台湾中央研究特別院客座教授 2018.3.1- 2020.2.29, 2020.2.30-2022.2.28
大谷栄治, ドイツ連邦共和国バイロイト大学特別客員教授 2016.2.17~2021.2.16
佐藤比呂志, 地震調査研究推進本部 地震調査委員会長期評価部会 活断層分科会, 委員, 2010.5-現在.
佐藤 健: 防災教育チャレンジプラン実行委員会, 委員 (2015.6~継続中)
佐藤 健: 石巻市学校防災推進会議 委員長 (2013.5~継続中)
佐藤 健: NPO 法人防災白熱アカデミー, 理事 (2012.9~継続中)
佐藤 健: 宮城県行政評価委員会, 委員 (2017.4~継続中)
佐藤 健: 宮城県行政評価委員会政策評価部会, 部会長 (2018.4~継続中)
佐藤 健: 宮城県地域連携型学校防災体制等構築推進事業, 学校防災アドバイザー (2021.4~継続中)
佐藤 健: 宮城県学校防災マニュアル見直しのためのガイドライン作成委員会, 委員 (2021.6~2022.3)
佐藤 健: 宮城県多賀城高等学校スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会, 委員長 (2018~継続中)
佐藤 健: 大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター, 共同研究員 (2012~継続中)
佐藤 健: 仙台市婦人防火クラブ活性化検討会, 委員長 (2021.7~2022.3)

佐藤 健：宮城県学校安全フォーラム実行委員会，委員（2021.6～継続中）

佐藤 健：宮城県令和 3 年度「学校安全総合支援事業」推進委員会，委員（2021.7～継続中）

佐藤 健：文部科学省学校施設等の防災・減災対策の推進に関する調査研究協力者会議，委員（2021.12～継続中）

佐藤 健：青森県八戸合同庁舎整備に係る基本計画の策定，学識経験者（2022.3～継続中）

佐藤 健：仙台市第 16 回災害に強いコミュニティのための市民フォーラム実行委員会，委員（2021.10～2022.3）

佐藤 健：宮城県令和 3 年度みやぎ安全教育総合推進ネットワーク会議幹事会，委員（2022.1～継続中）

佐藤 健：仙台市福祉整備審議会，委員（2020.9～継続中）

佐藤 健：仙台市役所本庁舎建替基本計画検討委員会 副委員長，2018.12～2020.3）

佐藤 健：宮城県国土強靱化地域計画 アドバイザー（2020.8～2021.3）

武村雅之、地震動予測地図高度化ワーキンググループ、専門委員、文部科学省、2005.3 より

武村雅之、原子力規格委員会耐震設計分科会地震・地震動検討会、副主査、（一社）日本電気協会、2012 年度より

武村雅之、南海トラフ～琉球海溝の地震・津波に係る研究会、委員、（財）地震予知総合研究振興会、2013.10.18 より

武村雅之、名古屋産業科学研究所、非常勤所員、（公財）名古屋産業科学研究所、2012 年度より

牛山素行、岩手河川国道事務所 災害情報協議会 委員(アドバイザー)、2005 年 7 月～

牛山素行、国土交通省中部地方整備局 東海・東南海・南海地震対策中部圏戦略会議 委員、2011 年 10 月～

牛山素行、内閣府 防災スペシャリスト養成研修企画検討会 委員、2013 年 10 月～

牛山素行、内閣府 防災研修コーディネーター ,2014 年 12 月～

牛山素行、陸前高田市 陸前高田市防災会議 委員、2016 年 2 月～

牛山素行、国土交通省 水害・土砂災害に関する防災用語改善検討会 委員、2020 年 5 月～2021 年 3 月

牛山素行、内閣府 令和元年度台風第 19 号等を踏まえた避難情報及び広域避難等に関するサブワーキンググループ 委員、2020 年 5 月～2021 年 3 月

牛山素行、(一財)国土技術研究センター 河川研究会 委員、2020 年 6 月～2021 年 3 月

牛山素行、総務省消防庁 地方公共団体の危機管理に関する懇談会 委員、2020 年 8 月～

牛山素行、気象庁 防災気象情報の伝え方に関する検討会 委員、2020 年 11 月～2021 年 3 月

牛山素行、気象庁 洪水及び土砂災害の予報のあり方に関する検討会 委員、2020 年 12 月～

2021年6月

牛山素行,長野県岡谷市 避難情報の発令等に係る検証アドバイザー会議 アドバイザー,
2021年10月~2021年12月

牛山素行,気象庁 「防災気象情報に関する検討会」委員 ,2022年1月~

渡辺俊樹, 科学技術・学術審議会学術分科会, 共同利用・共同研究拠点及び国際共同利用・
共同研究拠点に関する作業部会専門委員会, 専門委員, 2021年5月~現在.

渡辺俊樹, 東京大学地震研究所, 地震・火山噴火予知研究協議会, 一号委員, 2017年4月
~現在.

渡辺俊樹, 東京大学地震研究所・京都大学防災研究所拠点間連携共同研究委員会, 委員,
2017年4月~2021年3月.

渡辺俊樹, 石油天然ガス・金属鉱物資源機構石油・天然ガス技術評価部会, 委員, 2018年4
月~現在.

渡辺俊樹, (公財)地震予知総合研究振興会東濃地震科学研究所地殻活動研究委員会, 委員,
2006年4月~2021年3月.

渡辺俊樹, (一財)地球システム総合研究所, 評議員, 2017年4月~現在.

山崎 登,東京都「東京都 第24期火災予防審議会」(2019年7月から)

山崎 登,東京都「耐震化推進都民会議」委員

山崎 登,気象庁・文部科学省「気候変動に関する懇談会」委員

山崎 登,内閣府「令和元年台風19号等を踏まえた避難情報及び広域避難に関するサブワ
ーキンググループ」委員 (2020年5月から12月)

山崎 登,復興庁「復興推進委員会」委員 (2021年3月から)

吉田明夫,箱根山火山防災協議会専門委員, 2016年~2021年3月.

吉田明夫,東京地学協会, 研究及び国際研究集会助成対象者選考委員会委員, 2017年~現在.

5.4 学会活動

秋元菜摘, 日本地理学会, GIS 学術士認定委員会, 2019.03-2021.03

Natsumi, A., Urban Geography Commission (International Geographical Union),
Committee for early career scholars, 2019.08-(continued)

二川雅登,電気学会 バイオ・マイクロシステム (BMS) 技術委員会 幹事補佐 (2015年9
月~2022年3月)

二川雅登,電気学会 論文委員 (2012年4月~現在)

二川雅登,電気学会 E 部門誌編集委員会 (2019年10月~現在)

二川雅登,電気学会 ケミカルセンサ技術委員会 1号委員

二川雅登,電気学会 ケミカルセンサ技術委員会 幹事

二川雅登,日本鉄鋼協会 高温プロセス部会/計測・制御・システム工学部会, 委員 (2022
年1月~現在)

二川雅登, 一般財団法人 総合研究奨励会, 未来のくらしと水の科学研究会, 運営委員
(2021年9月～現在)

原田賢治, 土木学会地震工学委員会, 地震工学論文集論文編集委員会, 幹事長, 2021/4/1-
2023/3/31.

原田賢治, 土木学会地震工学委員会, 運営幹事会, 委員兼幹事, 2021/4/1-2023/3/31.

原田賢治, 土木学会地震工学委員会, 委員兼幹事, 2021/4/1-2023/3/31.

原田賢治, 土木学会海岸工学委員会, 津波作用に関する研究レビューおよび活用研究小委
員会, 幹事長, 2018/7-2020/6

林能成, 公益社団法人日本地震学会, 代議員(2006-)

林能成, 歴史地震研究会, 行事委員長(2021-)

本間基寛, 日本自然災害学会, 企画委員会委員, 2015年4月1日～現在.

本間基寛, 日本自然災害学会 学術講演会部会, 2017年7月1日～現在.

本間基寛, 日本災害情報学会 学会誌編集委員, 2019年10月1日～現在.

池田恵子, 国際ジェンダー学会, 理事(会計担当)(2021年9月-2023年9月).

生田領野, 日本地震学会広報委員, 2014年4月～

石橋秀巳, 日本鉱物科学会 広報委員, 2020年9月-2022年9月

石橋秀巳, 日本火山学会 「火山」編集委員, 2020年7月-2022年7月

石川有三, (公)日本地震学会 広報委員会委員 2018年～2022年 (5期)

石川有三, 日本情報地質学会 評議員 (2000年～2022年)

岩田孝仁, 日本災害情報学会 理事・予算委員長(2015.10～2021.09)・副会長(2021.10～).

岩田孝仁, 日本災害復興学会 理事, 2014.06～.

岩田孝仁, 地域安全学会 参与, 2016.06～.

狩野謙一: 東京地学協会, 総務委員, 2021～

風間聡, 土木学会地球環境委員会副委員長

風間聡, 土木学会論文集 B 分冊合同編集小委員会委員長

風間聡, 土木学会東北支部幹事長

木村浩之, 日本微生物生態学会 第19期評議員, 2020年1月～2022年12月.

木村浩之, *Microbes and Environments*, Associate Editor, 2020年4月～2022年12月.

木村浩之, 日本微生物生態学会誌 編集委員, 2020年1月～2021年12月.

北村晃寿, 日本第四紀学会副会長 2021年8月～.

北村晃寿, 日本古生物学会評議員・常務委員 *Paleontological Research* Editor in Chief
2019年6月～.

北村晃寿, 日本第四紀学会評議員・「第四紀研究」編集委員長 2017年8月 - 2021年7月.

小林 淳: 日本火山学会 特集号「噴火史研究と火山観測を統合した新たな火山像の確立」
(編集委員), 2021年～.

小林 淳: 防災科学技術研究所 火山研究運営委員会データ利活用推進タスクフォース降灰

チーム (委員) , 2021 年～.

小杉素子,日本リスク学会誌編集委員,2014.11～現在.

小山真人,維持会員:日本火山学会(2021年10月～大会委員).

小山真人,一般会員:日本地震学会,日本災害情報学会,日本地球惑星科学連合,東京地学協会, International Association of Volcanology and Chemistry of the Earth's Interior (国際火山学・地球内部化学会), American Geophysical Union (アメリカ地球物理学連合), 歴史地震研究会.

前田恭伸, 環境情報科学センター審議員, 2017年6月～現在

前田恭伸, 日本リスク研究学会表彰委員会委員長, 2018年6月～2020年6月

Maeda, Y., Executive Committee, Society for Risk Analysis, Asia, 2020年3月～現在

前田恭伸, 日本リスク学会国際委員会, 2020年6月～現在

前田恭伸, 環境情報科学センター賞選考委員会, 2021年7月～現在

Maeda, Y., International Committee, SRA Asia 2022 conference, 2021年11月～現在

三井雄太, 日本地球惑星科学連合 2022年大会・2023年大会プログラム委員, 2021/9-2023/5.

三井雄太, 日本測地学会 測地学会誌編集委員, 2021/6-2024/5.

三井雄太, 日本測地学会 EPS 運営委員, 2021/4-2023/3.

三井雄太, 日本測地学会 評議員, 2020/6-2022/5.

三井雄太, 日本地震学会 代議員, 2020/4-2022/3.

森下祐一, 資源地質学会 監事, 2020年～2022年

森下祐一, Resource Geology 編集委員, 1994年～

村越真、日本地図学会 (2005- 評議員)

村越真、日本野外教育学会 (2014～評議員)

村越真、登山医学会 (2017～評議員)

中川和之,日本ジオパーク学術支援連合委員,2021～継続中

中川和之,日本地震学会ジオパーク支援委員会委員,2017～継続中

中川和之,日本地震学会理事,2014～継続中

中川和之,日本地震学会地震学を社会に伝える連絡会議委員,2014～継続中

中川和之,日本地震学会普及行事委員会委員,2003～継続中

中川和之,日本地震学会広報委員会「ないふるマーリングリスト」世話人,1999～継続中

中川和之,日本災害情報学会広報委員会副委員長,2013～継続中

中西利典, 東海自然誌編集委員, 2020年9月～

楠城一嘉, 日本地震学会大会 企画委員会委員, 2021年4月-2023年3月.

大谷栄治, 日本地球惑星科学連合, 固体地球セクションプレジデント, 2018.5~2020.7.

大谷栄治, 日本地球惑星科学連合 PEPS ジャーナル編集委員, 2018.5~2020.7.

大谷栄治, 日本地球惑星科学連合 PEPS ジャーナル総編集長, 2020.9~2022.8.

大谷栄治, 日本地球惑星科学連合固体地球科学セクションボード委員, 2020.8~2023.7.

大谷栄治, 日本鉱物科学会 JMPS ジャーナル編集委員, 2018.8~2022.9.

大谷栄治, アメリカ地球物理学連合 (AGU) 鉱物岩石物理学フォーカスグループ執行委員
2005.12~2021.12.

大谷栄治, アメリカ地球物理学連合 (AGU) 鉱物岩石物理学フォーカスグループ執行委員
会フェロー選考小委員会委員 2005.12~2021.12.

大谷栄治, SFMC (フランス鉱物結晶学会) 優秀賞選考委員会委員, 2021.4~2023.3.

Sato, H.: International Lithosphere Program, Member of advisory committee, 2019.1-現在

佐藤比呂志: 地球惑星科学委員会 IUGS 分科会 ILP 小委員会, 委員長, 2011.4-2021.3.

佐藤比呂志: 地球惑星科学委員会 IUGS 分科会 ILP 小委員会, 委員, 2021.4-現在

佐藤比呂志: 東京地学協会, アドバイザー, 2019.10-現在

佐藤 健: 日本安全教育学会・常任理事, 2017~継続中

佐藤 健: 日本建築学会東北支部災害調査連絡会・委員長, 2017~継続中

佐藤 健: 日本建築学会東北支部第 41 回東北建築賞研究奨励賞選考委員会・委員, 2020

佐藤 健: 日本建築学会東北支部第 42 回東北建築賞研究奨励賞選考委員会・委員, 2021

佐藤 健: 日本自然災害学会・評議員, 2020.4~継続中

武村雅之、代議員会、委員、(公社) 日本地震学会、
武村雅之、強震動委員会、委員、(公社) 日本地震学会、2012 年度より
武村雅之、広報委員会、委員、(公社) 日本地震学会、2012 年度より
武村雅之、原子力土木委員会、委員、(公社) 土木学会、2013.9 より
武村雅之、事業企画委員会震災予防講演会部会、委員、(公社) 日本地震工学会、2013 年度
より

田阪 美樹, 地球惑星科学連合大会運営委員会(展示担当), 2020/10 から 2022/5 まで

牛山素行, 日本自然災害学会 編集委員会 委員, 2005 年 5 月~

牛山素行, 日本自然災害学会 災害情報委員会 委員, 2008 年 4 月~

牛山素行, 日本自然災害学会 理事, 2014 年 4 月~

牛山素行, 日本災害情報学会 理事, 2016 年~

牛山素行, 日本災害情報学会 学会誌編集委員会 委員, 2019 年 10 月~

牛山素行, 日本地理学会 代議員, 2020 年 1 月~

渡辺俊樹, (公社) 物理探査学会, 理事, 2012 年 6 月~現在.

渡辺俊樹, (公社) 物理探査学会, 副会長, 2018 年 6 月~2020 年 5 月.

渡辺俊樹, (公社) 物理探査学会, 表彰委員長, 2018 年 6 月~2020 年 5 月.

渡辺俊樹, (公社) 物理探査学会, 会長, 2020 年 6 月~現在.

渡辺俊樹, (公社) 日本地震学会, 代議員, 2018 年 5 月~現在.

渡辺俊樹, 日本地球惑星科学連合, 学協会長会議, 議長, 2020 年 7 月~2021 年 6 月.

渡辺俊樹，日本地球惑星科学連合，日本地球惑星科学連合 2021 年大会，大会委員長，2020
年 7 月～2021 年 6 月.

防災総合センター年報 第7号

2022年9月発行

著者・発行者

静岡大学防災総合センター

〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836

電話：054-238-4502

URL：<https://www.cnh.shizuoka.ac.jp/>

